ふくしま心のケアセンター
活動記録誌

2014(平成26)年度

第３号

一般社団法人福島県精神保健福祉協会
ふくしま心のケアセンター
Fukushima Center for Disaster Mental Health
http://kokoro-fukushima.org/

巻頭言

一般社団法人福島県精神保健福祉協会
会長　矢部　博興
（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座主任教授）

精神疾患の患者数は、すでに平成 20 年には 323 万人と、４大疾病（糖尿病、がん、脳卒中、心臓病）の中で最も多い糖尿病の 237 万人をかなり上回ったことから、ようやく日本もメンタルヘルスを医療の中心に考えるようになってきたのは御存知の通りです。メンタルヘルスケアの現状を、国の方針から振り返りますと、12 年前の平成 16 年に「入院医療から地域医療」への精神保健医療福祉施策が開始され、５年前の平成 23 年に厚生労働省の省令改正により「５疾病･５事業および在宅医療」として精神疾患と在宅医療が加えられ、３年前の平成 25 年からは実際に国の医療計画に組み込まれました。これにより、メンタルヘルスケアも全体が地域にシフトするはずでした。しかしながら、医療も保健福祉もそれに向かうには、肝心の地域のメンタルヘルスケアの体制は整っていなかったように思われます。

以上の国の体制の変化のさなかに、東日本大震災と福島第一原発事故が発生した訳です。それから早いもので５年近くが経過しました。１年半前の平成 26 年９月に、県民健康調査の関係者、世界保健機関（WHO）、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）、国際放射線防護委員会（ICRP）、国際原子力機関（IAEA）などが、福島に一堂に会して国際専門家会議「放射線と健康リスクを超えて～復興とレジリエンスに向けて～」が開催されました。安倍総理にも直接手渡された提言書は、昨年の巻頭言でも詳しくご紹介させて頂きましたが、要約すると「今後は放射能被曝そのものよりもメンタルヘルスに問題が集約されるであろう」ということが報告されておりました。その報告が述べたとおりに、震災と原発事故後の心の傷跡は未だに深く、岩手県、宮城県と比較しても、福島県ではいわゆる震災関連死が突出しており、心理社会的問題が深刻化してきております。

相双地区における全精神病院閉鎖という震災の破壊的影響に対応すべく、心のケアチームの全戸訪問から始まった「NPO 法人なごみ」のメンタルヘルスアウトリーチの活動は心のケアセンターの活動の基本となり、「ふくしま心のケアセンター」の基幹センターが平成 24 年２月１日に発足し、同年４月１日には、相馬方部は「NPO 法人なごみ」に委託の形で他に、相双（「なごみ」に委託）、いわき、県北、県中、県南、会津の６方部、南相馬駐在、県庁駐在、双葉町の避難先の埼玉県加須市の加須駐在の３駐在が、相次いで設立されました。その後の需要に応じる形で、駐在は役目を終え、県中方部と県南方部は合併して、現在の基幹センターと５方部に集約されたのでした。

国が進めるメンタルヘルスケアの地域指向の施策の中で、もともと地域密着型の心のケアセンターの活動は益々重要なものになって参りました。特に、「なごみ」は、

国が進める地域指向のアウトリーチメンタルヘルスの象徴的な存在になりました。平成 25 年 10 月から赴任された災害こころの医学講座の前田正治教授には心のケアセンターの副所長にもご就任いただき、昼田源四郎所長、仲沼安夫副所長、内山清一副所長と共に、心のケアセンターの活性化にこの２年間、日夜取り組んで頂いたことで、心のケアセンターは、目覚ましく充実して参りました。しかし、前述したように、問題の深刻化と地域の要望は日に日に高まり、センター職員自体の心身の疲弊も看過できないものとなっております。つまり、自治体職員に加えて支援者支援の問題も切実です。

今後は、支援者支援を充実させて、心のケアセンター自身の機能強化を図りつつ、要請に応えるという難しいセンター運営が迫られております。それだけ、心のケアセンターが必要とされていることの表れでもあります。当センター職員が一丸となって、この歴史的な活動を一層充実させて参りましょう。

「東日本大震災の復興と大規模災害への備え」

福島県県北保健福祉事務所
所長　遠藤　幸男

東日本大震災から５年目が経過しているが、現在も依然として約 19.5 万人（平成 27 年９月現在、復興庁）の方々が避難生活を続けている。そのうち本県では県内外に約 10.6 万人と全国の約半数であることは現実である。

東日本大震災は、被害が甚大であり、被災地域が広範にわたるなど極めて大規模で未曾有の災害であった。さらに、福島は、地震及び津波による被害のみならず、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故による災害も受けた。それに伴い被災地域の住民は先が見えない不安等を抱えて、長期化した避難生活を送り、東日本大震災の復興に向けての取り組みが現在もなお進行中であることを再認識する必要がある。

今後、仮設住宅及び借り上げ住宅から災害公営住宅への移転等が本格化し、避難者の居住・生活地域の分散化が推進するとともに、住宅再建の完了まで時間が必要であり、震災前の住み慣れた故郷へ帰還しようとしても戻れない方々も少なくはない状況でもある。

そこで、震災の復興に向けて、地域コミュニティづくりにより、一人一人を大切にし、人と人・地域と人との絆づくり、安全で安心して暮らしやすく災害に強い健康なまちづくりを構築していく必要がある。

東日本大震災における心のケア対策については、避難者に対して相談、個別訪問、集団的交流会の開催等により、PDCA サイクルを回しながら、多職種専門チームを有するふくしま心のケアセンター（基幹センター、５方部センター）中心に、福島県精神保健福祉センター、福島県精神保健福祉協会、医療機関、福島県保健福祉部障がい福祉課、保健福祉事務所等の関連機関が相互連携を図り、一体的かつきめ細かく継続している。特に現場へのアウトリーチに重点を置くこと、生活全般の支援活動を行い、被災者が求めていることに対応すること、被災地域の特性を把握し、互助機能を尊重、利用すること、被災者の心の安定には家族・友人との会話、快適な衣食住の確保、災害や復興に関する的確な情報提供などが重要であると考えられる。

今回の震災を通して、福島県における様々な問題が長期化する中で、避難者に対する支援業務者の疲弊が次第に顕在化している。支援者は職責に加え、今後も職務を回避できない等、相当にストレスフルな業務が続いている。とくに支援者自身もまた被災者であることが多いのが福島の特徴であると考えられる。バーンアウトや代理受傷といった災害支援者特有の問題が生じており、住民支援とは違う枠組みでのケアシステムが必要である。したがって、長期化している被災者の支援者である保健師等のストレスの現状を打開するためには現場の保健師等に関する情報を共有

し、国や自治体による支援として保健師等が気軽に利用できるストレスケアシステムを確立する必要があると考えられる。

住民を取り巻く多層的ストレスを考えると、そのケアのシステムもまた多層的である必要がある。医療機関レベル、行政レベル、民間レベル、すなわち、疾患レベル、見守りレベル、声かけ・傾聴レベル、一般被災者レベル、それぞれのレベルでのケアとその連携が必要である。また、原子力災害は福島県内の医療機関における医師、看護師等の人材確保にも深刻な影響を及ぼしつつある。

今後、南海トラフ巨大地震、首都直下型地震等の大規模地震に備えて、災害時クラウドを活用するシステムを早急に構築する必要がある。多くの利用者による情報の共有、リアルタイムでの情報更新、衛星電話・移動端末等の連携、カルテ情報の院外保存によるバックアップ、平常時から地域医療連携で活用可能、患者の移動でも参照可能、公衆衛生 DMAT 版チームの災害時健康危機管理支援チーム DHEAT(仮称) 及び災害派遣精神医療チーム DPAT 等の登録・派遣、被災者の健康管理情報の共有化､災害時健康支援システムなどとして活用していく必要がある。

今後、国、都道府県、保健所レベルで、災害時の受援体制を含めたインシデントコマンドシステム・危機時指揮システム ICS 及び Action Card を作成していく必要がある。これは 1970 年代に従来の作業では鎮火できない森林火災が懸案となっていた米国において、作成したものを改良し、現在では災害対策の基本システムとして事実上の世界標準となっている。

したがって、東日本大震災を教訓に、大規模災害に備えておく必要がある。

文献

遠藤幸男(分担事業者). 東日本大震災復興期における保健所の被災者への支援のあり方に関する研究報告書.平成24年度地域保健総合推進事業.平成25年３月.

遠藤幸男（研究代表者）.大規模地震に対する地域保健基盤整備実践研究報告書.平成25年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）.平成26年３月.

遠藤幸男.避難所・仮設住宅などでの健康被害状況とその対応.福島原発事故の健康状況2015.p35-39.vol.35.No.5 2015 .5.ライフ・サイエンス

「東日本大震災から４年、郡山市における保健活動を振り返って」

郡 山 市 保 健 所
所長　阿部　孝一

郡山市では、平成 23 年３月 11 日の東日本大震災により、死者１名、住宅の全壊が 2,433 件、半壊が 21,325 件、一部損壊が 33,772 件の被害が発生しました。

市役所本庁舎が屋上展望室の倒壊と貯水槽の損壊により使用が困難になったため、市役所傍の開成山野球場に対策本部を設置するとともに、郡山医師会の協力を得て開成山野球場内に 24 時間体制の救護所を開設しました。

避難所は、３月 12 日の時点で、公民館や学校等 105 か所 (最大時には 125 か所) に開設、その中で障害者福祉センターを福祉避難所として介護を要する方の支援を行いました。

避難所での生活は、誰でも心身ともに疲弊しますが、特に精神疾患を有する方々の避難所生活は問題が生じやすく、担当職員が支援の難しさを感じていた時に心のケアチームによる支援は大変有益で、心強く感じました。

被災者の心のケアには、郡山医師会メンタルヘルス委員会の「心のケアチーム」による避難所の巡回相談、福島県こころのケア対策事業による精神科医・精神保健福祉士等の心のケアチームの派遣、福島県精神科診療所協会から精神科医の派遣により、避難者の不眠やいらいら、生活の不安、薬がない等の相談に対応をいただきました。

また、臨床心理士や精神保健福祉士の協力を得て、避難所でのアルコールによる問題行動への対応にも取り組みました。

更に、心のケアに関するパンフレットの全戸配布や市民及び支援者向けの講演会を実施しました。

相双地区からの避難者や困難事例については、ふくしま心のケアセンターと連携して訪問や電話等による支援を行いました。

震災直後から保健師等による避難所の巡回健康相談を重点的に実施しました。巡回にあたっては、郡山医師会やボランティア看護師、退職保健師、協会けんぽ、助産師会、運動指導者の協力に加え、姉妹都市の鳥取、久留米市から看護師、精神保健福祉士の派遣をいただきました。

保健所では、平日夜間、土日の電話や来所による健康相談を行いました。

今回の災害は、震災に加え原発事故が重なったことにより、被災直後には人的支援や物資の支援が届かず、特にガソリンの不足は、安否確認等の訪問活動に大変支障をきたしました。

震災から４年が経過しましたが、今後も継続して放射線に対する不安による活動性の低下や心理的影響に対する支援を行う必要があります。

保健行政の立場から様々な活動に取り組んでまいりましたが、活動を振り返ると

地域の「ネットワークづくり」の重要性を感じます。

　今後もふくしま心のケアセンターをはじめ関係機関と連携し、平常時も災害時にも円滑に活動できる「ネットワーク」の構築を進め、行政と関係機関、地区住民とが協働して活動できるように取り組んでいきたいと考えていますので、今後共御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「ふくしま心のケアセンターへの期待」

国立精神神経医療研究センター
成人精神保健研究部長
災害時こころの情報支援センター長
金　吉晴

東日本大震災・津波被害は、自然災害というだけではなく、福島県においては未曾有の原子力発電所事故をもたらし、この原稿の執筆時点でまだ多くの避難民が故郷に帰ることのできない生活を強いられ、また目に見えない放射線の不安にさらされている。と同時に、震災後４年半を経て、家族を守り、職場や地域に貢献する人々のこころ強い活動が見られていることも事実である。ふくしま心のケアセンターは、そうした県民の期待に応えて地域に密接に関わりながら、困難な活動を継続してきた。まずその努力に心から敬意を表したい。

筆者はペルー大使公邸人質占拠事件で現地に派遣されて以来、和歌山カレー事件、池田小学校事件、キルギス人質事件、JCO 臨界事故、中越大震災、中越沖地震、能登半島震災などに関わってきたが、いずれの場合も被災者、被害者に心のケアを届けるということは大変なことであり、現地の関係者の苦労は並大抵のものではなかった。その中でも今回の福島においては、原発事故のもたらす地域への不安が大きく、また住民の政府当局への不信も強かったことから、住民との関係づくりと信頼の獲得については、格別のご努力がなされたものと思う。私ども災害時心の情報支援センターとしても、ふくしま心のケアセンターの昼田所長を始めとする方々とは折に触れて連絡を取っており、また活動のデータも頂いているが、各方部に分かれた、地域に密着した活動の確かな前進を感じている。

面接での相談、電話相談、サロン活動、健康調査など、多くの重要な調査が着実に進展しており、特に相談件数の多さは、当センターがいかに住民から頼りにされているかの証でもある。スタッフの多くは、自らも被災をしていたり、あるいは県外から慣れない場所に赴いて情熱を持って活動に参加された人々であると聞いている。現場に密着した活動を行っている各方部のこうした多くのスタッフと、それを束ねている基幹センターの方々のご努力が、住民を支えるというサービスという形で実を結んでいるようである。

私たちにしばしば寄せられる質問のひとつに、心のケアとはそもそも何なのか、ということがある。WHO 版の PFA（心の応急処置：サイコロジカル・ファースト・エイド）では、相手の状態、自分の立ち位置を「見る」こと、相手の（時には言葉にならない）声に寄り添って耳を傾けて「聴く」こと、そして自分だけで完結せずに他の支援者に「つなぐ」ことが重視されている。要するに心のケアとは、人とのつながりであり、自然に、自由に、安心して人とつながることが災害の後ではとりわけ重要である。支援者に求められるのは、相手を傷つけたり、追い詰めたりせず

に、温かく包みこみながら関わっていくスキルであろう。

もうひとつ、私たちがよく受ける質問は、災害の体験がトラウマになっている時に、それとどのように関わったら良いのか、というものである。忘れた方が良いのか、忘れてはいけないのか、どちらだろうか。結論を言うと、できるだけ落ち着いた気持ちを失わないようにしながら、自分の身に起こった出来事を少しずつ辿り直していくことが良い。途中でつらくなったときにはゆっくりと息を吐き、時には書いてみることも有効である。コツは、30 分以上かけて、毎日続けて思い出すことである。短い時間だと、不安が高まったところで終わってしまうので、なかなかその後の落ち着きが得られない。一人で行うことが難しいことも多いので、信頼できる専門の医療・保健・心理の関係者を相手に話すことができれば、それが最も望ましい。知らないうちに自分でこうした作業をしている被災者も多いのだが、言い換えれば、忘れようと無理をしなくても良い、ということである。

震災から５年近い時間が経ったとはいえ、被災者、住民の心のケアのニーズはまだ高い。県外に避難した人々のケアという重大な課題もある。ふくしま心のケアセンターの皆様のますますのご活躍に期待するとともに、私たちもできるかぎりのご支援を申し上げたいと思う。

目　　次

巻頭言

一般社団法人福島県精神保健福祉協会
会 長　矢部　博興
（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座主任教授）

「東日本大震災の復興と大規模災害への備え」

福島県県北保健福祉事務所
所 長　遠藤　幸男

「東日本大震災から４年、郡山市における保健活動を振り返って」

郡 山 市 保 健 所
所 長　阿部　孝一

「ふくしま心のケアセンターへの期待」

国立精神神経医療研究センター
成人精神保健研究部長
災害時こころの情報支援センター長
金　吉晴

1　2014年度活動報告

①ふくしま心のケアセンター活動報告 …… 1

②県北方部センター活動報告 …… 5

③県中方部センター活動報告 …… 10

④県南方部センター活動報告 …… 17

⑤会津方部センター活動報告 …… 21

⑥相馬方部センター活動報告 …… 27

⑦いわき方部センター活動報告 …… 35

⑧加須市駐在活動報告 …… 43

2　ふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤル「ふくここライン」…… 47

3　ふくしま心のケアセンター相談等の件数及びその分析…… 51

4　ふくしま心のケアセンター３年間の活動経過…… 95

5　ふくしま心のケアセンターの3年間の連携 …… 117

6　2014年度県外避難者の心のケア事業「心とからだの健康相談」の報告 …… 133

7　寄稿…… 137

8　職員の感想（振り返って思うこと）…… 173
9　活動資料 …… 181
編集後記

1　2014年度活動報告

①ふくしま心のケアセンター活動報告

【基幹センター　昼田源四郎、仲沼安夫、内山清一、高橋悦男
半澤利一、落合美香、宮原俊也（臨床心理士）
松島輝明（精神保健福祉士）
相山未希子、菅野由美、平山真実（事務）】

はじめに

2014 年（平成 26 年）度の活動については、必要な被災者に対する支援が定着し、支援者支援に対しても積極的に対応するようになってきている。

１．活動状況

当センターの活動は訪問中心である。相談支援人数は 6,164 名と前年度と比較し 598 名増加している。サロン参加者数は 7,799 名であり、前年度より 2,835 名減少している。

相談の背景として健康上の問題、居住環境の変化、家族･家庭問題、人間関係、失業･就労問題の順に多い。

相談における症状も身体症状（高血圧、四肢の震え、腰痛、関節痛など）、気分・情動に関する症状（抑うつ気分、意欲減退、イライラなど）、睡眠の問題（入眠困難、中途覚醒など）、不安症状（パニック、全般性不安、対人不安、予期不安など）の訴えが依然として続いている。

基幹センターの活動としては、方部センターのバックアップとして職員研修会の開催（16 回）、研修会企画の協力（７回）、顧問の派遣（12 回）、ホームページ作成及び電話相談（ふくここライン）を行った。

なお、2014 年度から研修部門を設置し、職員を含めた地域精神保健福祉関係者に対して計画的な研修を実施し、資質の向上を図った。

また、アルコール問題へ対応するために重点事業として「地域アルコール対応力強化事業」に取り組んだ。(注 1)

方部別の活動に目を向けると、県北方部の特徴として、福島市内に避難している住民に対し福島市社会福祉協議会と協力し実施した「ホッとサロンてとて」と浪江町社会福祉協議会主催茶話会への協力があげられる。

県中方部は、活動も多岐にわたり、訪問活動から、サロン活動（ひとやすみの会･ひだまりの会・茶話カフェろここ・みんなこらんしょ広場など）、支援者支援、親子ふれあい教室、広報誌の発行と幅広く活動している。

県南方部は、2014 年４月に白河駅前に事務所を構え、来所相談に力を入れた。2014 年度の特徴的な活動は語らいの場（サロン）の運営及び被災者自助グループの育成である。さらにハローワーク白河と協力し、「健康チェック＆ほっとひといき相談室」の開催と避難先から戻ってきた親子支援ままカフェを開催した。

会津方部は、「ぐっちー café」（支援者支援）、「そうそう絆サロン」（避難者健康相談会）、「ちょいのびしターイム」（大熊町支援者支援事業）、「大熊町ふら～っとルーム」、「楢葉町ふら～っとルーム」等の市町村支援に力を入れた。

相馬方部は、浜通りの北部を中心に活動している。被災者支援については全体の44.2%を占め当センターの活動をリードしている。集団活動も「いつもここで一休みの会」「ちょっとここで一息の会」、「いち・にの・さ～んぽ」、「かしまで集まっ会」として活動し充実している。

いわき方部の特徴は、被災したいわき市民はもとより、原発事故で被災した浜通りの住民がいわき市での生活を求めて避難しており、個別訪問、自治体の職員のケアを中心に活動している。

南相馬市駐在は、２名でスタートした。活動内容は、相馬方部の活動に繰り入れられたが、前年度と同様に南相馬市の被災者支援が主である。

加須市駐在は１名で埼玉県内に避難している双葉町民の相談支援を主に行っているが、相談支援人数159名と前年度と比較し11名増加している。これは双葉町及び双葉町社会福祉協議会と密接な連携が保たれているためと考えられる。
また、双葉町以外の住民（いわき市、楢葉町）に対しても支援を行っている。

以上、各方部の活動を簡単に紹介した。詳しくは方部毎の活動報告に詳しく記載されているので、それを参考にして頂きたい。

２．2014年（平成26年）度の活動

１）普及啓発資料の作成・配付

種　　類	テーマ	規格；作成部数	
パンフレット	うつ病・自殺予防パンフレット	1,600	
	うつ病・うつ状態について	1,000	
	からだとこころの状態にすこし目を向けてみませんか？	215,000	
	緊急事態から「脳・こころ・身体」が回復するしくみ	1,000	
	被災者相談ダイヤル（増刷）	Ａ４判：600	
	認知症を支える家族へ	500	県中
機関紙発行	ふくここ（5月、7月、9月、11月、1月、3月）	各月70～100	県中

２）ホームページの運営

センター活動の紹介、啓発用パンフの掲載、研修会等周知等、被災者や支援者に役立つ情報の発信に努めた。セッション（訪問者）数は14,178件（38.8件/日）。

３）個別支援活動

6,164名支援（ふくしま心のケアセンター相談等の件数及びその分析参照）。

４）サロン活動

753回開催し、7,799名参加。特に相馬方部センター・県北方部センター・県中方部センターあわせて542カ所と（相馬227、県北160、県中155）で開催し、全体の72.0%を占めている。（ふくしま心のケアセンター相談等の件数及びその

分析参照）

５）電話相談

ふくしま心のケアセンター全体で768件である。

基幹センターで行っている「ふくしま心のケアセンター「被災者相談ダイヤル：愛称ふくここライン」の相談件数は156件で１月平均13件にのぼっている（ふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤル「ふくここライン」参照）。

６）普及啓発

被災者に対しての講演会等の活動を50回開催し、1,849名参加した。

７）支援者支援

避難元市町村の職員や生活支援相談員等を対象とした研修会や、個別相談会を実施した。

①関係機関の教育研修　　141回 3,012名
②市町村への業務支援　　823回 9,414名
③関係機関との打ち合わせ　147回 2,101名

８）運営委員会

年２回開催し、委員から貴重な意見をいただいた。

９）方部連絡調整会議

全体的な関係機関の連携を図るために方部センターで年１回開催した。延べ177名出席した。

10）職員定例研修

各種研修７回とイベントを21回、顧問に方部巡回を中心とした研修を17回実施した。（活動資料参照）

11）マスコミを通したＰＲ

新聞、ラジオ、テレビ、雑誌等からの取材に23回対応し、当センター活動への理解を深めて頂いた。

12）心のケア相談会の開催

県中、いわき方部センターで15回、64名に対して実施した。

13）その他

論文を２回、各種雑誌に４回寄稿した。

３． 今後の課題

復興庁、福島県、市町村が共同で実施した「2014 年度原子力被災自治体における住民意向調査」(注２) の結果によれば、災害公営住宅への入居意向のある世帯は 11.0 ～ 24.8% と低く、入居を希望しない世帯が 46.3 ～ 61.6% と割合が高い。また、避難解除後戻らないと決めている人の割合が帰還困難区域ほど高い。

今後の活動については被災者の自立を支えながら、ニーズに沿った援助が必要である。災害公営住宅の入居にともない孤立させないような取り組みが求められる。

2015 年（平成 27 年）4 月に発表された「福島県避難者意向調査」(注３) の調査結果によると、心身の不調を訴える人がいる家族は、昨年度に引き続き 7 割弱になり、「よく眠れない」、「何事も以前より楽しめなくなった」、「疲れやすくなった」など、依然として多くの県民は多種多様のストレス要因を抱え、多彩なストレス症状を引き起こしている。

被災された方個人が感じる喪失感、悲嘆はひとつとして同じではない。それだけにひとりひとりの状況に応じて、気持ちにより添った丁寧な対応が一層求められている。

また、避難生活が長期化する中で、自身も被災者である自治体職員や生活支援相談員など支援者の疲弊感は強まっており、心身両面の健康を損なうことのないよう、サポート体制づくりが喫緊の課題となっている。

参考資料・参考文献

(注1) ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業（アルコールプロジェクト）
平成26年度　報告書
http://kokolo-fukushima.org/wp/wp-content/uploads/2015/05/alcoholproject_h26.pdf（2015.9.30アクセス）

(注2) 平成 26 年度原子力被災自治体における住民意向調査結果：
平成27年3月（復興庁･福島県･市町村）

(注3) 平成 26 年度福島県避難者意向調査　調査結果：
平成27年4月27日（福島県避難者支援課）

②県北方部センター活動報告

【塩田義人（精神保健福祉士）
杉本裕子、二階堂紀子（看護師）
海老原直子（保健師）
羽田雄祐（臨床心理士）】

1. 福島県県北地区の概要

福島県県北地区は４市３町１村（８市町村）からなり、人口は約 49 万７千人（2010 年国勢調査）と県人口の 24.5％を占めている。立地としては、福島県中通り北部に位置し、宮城県、山形県との県境でもある。東西を山脈に囲まれた福島盆地が主な居住区となっている。そのため、夏は高温多湿、冬は降雪があるという寒暖の差の激しい地域である。被災者の多くが浜通りから避難しているが、上記の通り周囲を山に囲まれた盆地である県北地区は温暖で雪も少ない浜通りと気候の面でも大きく異なる。夏の仮設住宅における熱中症対策や、冬の雪かきといった元々必要のなかった作業をこなすだけでも被災者の負担は大きい。

東日本大震災後、県北地域へ避難した人数は 2015 年 10 月時点で約 15,000 名[注1)]。最も多いのが浪江町で約 6,500 名と浪江町から県内へ避難した人数のおよそ半分。次いで多いのが飯舘村の総人口の 84％に相当する約 5,000 名、その後は南相馬市約 1400 名、川俣町約 1,000 名、富岡町約 700 人と続く。県北地区の避難者の状況として特徴的であるのが、原発事故により避難を余儀なくされている飯舘村と川俣町の存在であり、その避難先はほぼ避難元に隣接した地域となっている。「いつでも行ける場所であるのに住むことができない」という状況が住民へどれほどの精神的負担を強いているのかは察するに余りある状況であろう。

2. 活動実績

1）個別支援

2014 年度の県北方部センター（以下、当方部センター）における個別相談件数は 512 件である。相談方法の内訳は訪問相談が 435 件、電話相談 46 件、集団活動内相談 13 件、それ以外の場所での相談 10 件、当方部センターへの来所相談は８件である。相談者は、これまでの継続のケース、各市町村からの新規ケース、各社会福祉協議会からの依頼によるケース、浪江町住民健診支援からピックアップしたケース、当センター「ふくここライン」からのケースなどがある。

当方部センターは福島県県北保健福祉事務所内から福島市内へ８月 11 日に事務所を移設した。相談者の状況によって相談場所の選択が可能となり、来所相談の利用者も増えている状況にある。

長期化する避難生活において、被災した方々が抱えている問題はますます多様化、複雑化している。居住環境の変化や健康上の問題、人間関係、家族関係からの悩み、就学、金銭、就労問題など一人一人の状況をふまえ、丁寧に寄り添い、個別性を重視した支援を目指し活動しているが、それには関係機関との協力・連

携が不可欠であり、他機関との信頼・協力関係を更に構築、維持しながら、共に支えていくことが大切だと感じる。

困難な状況にある相談者からの話の中で、「こんな状況だからこそ出会えた人もいる」、「人がこんなにも優しいということを感じることができた」、「一人ではないと思うと力が湧いてくる」という話が出ることがある。こうした言葉に我々も力をもらい、活動の原動力となっていることに感謝したい。

①富岡町借り上げ住宅個別支援（健康調査）

富岡町から県北地域の借上げ住宅に避難している方の中で、世帯状況の変更のあった世帯(死別や結婚等)、昨年度の世帯調査後に県北管内へ移動してきた世帯、前年度の世帯調査で現状の把握ができなかった世帯に対して富岡町、福島県県北保健福祉事務所、福島市社会福祉協議会と連携し健康調査を実施。

２）集団支援

①仮設住宅茶話会調理実習

仮設住宅の自治会長から、「食」は皆興味があるとの話を受け、当方部センターが主催となり、福島県栄養士会の協力のもと開催したサロン。参加住民と調理実習を行ない、栄養士による講話を挟みつつ、会食しながら雑談を行なうという流れで実施。毎回 10 数名の参加者があり、積極的に作業を行なっている姿が印象的である。

栄養士の講話では「栄養バランスについて」、「骨粗しょう症予防」、「便秘・下痢・風邪予防」、「免疫力」などをテーマに、普段の生活に活かせる話があった。参加者の反応は概ね良好であり、どの話においてもメモを取りながら真剣に聞いていた。調理ということもあってか、女性の参加者が多いが、試食の段階になり男性も集会所に集まり、避難生活のこと、仮設住宅での暮らし、今後の不安などを話していた。女性参加者も同様の話に加え、「毎日の献立にこの茶話会で作ったメニューを加えよう」、「アレンジしてもできそうだ」など、主婦ならではの話も聞かれた。いずれにしても、長期化する仮設住宅での生活で、少しでもより良く、楽しく希望を持って健康でいようとする意欲が垣間見ることができた。

②浪江町健康相談会

県北管内にある浪江町の仮設住宅 14 か所において月に 1 度の頻度で実施。仮設住宅集会所にスペースを設け、浪江町の保健師もしくは看護師とともに血圧測定及び相談に応じた。相談内容は、健康に関することだけでなく、家族関係、介護問題、ストレスについてなど多岐にわたる。加えて、話すことによって「気持ちが整理された」、「気が紛れた」、「楽になった」という言葉が聞かれる事が多かった。

仮設住宅という狭い世界では、隣人との付き合いや近所の目が気になるという

話が多く聞かれた。また、被災前とは異なり、狭い室内で家族と顔を合わせることにより新たなストレスを抱えているといった話も聞かれた。「家にばかりいるとストレス溜まるから、なるべく外に出るようにしている」、「昔は畑をやっていたけど、ここでは何もやる気がしないし、一日が長い」、「日々の目標がなにもなくて辛い」など、仮設住宅での生活についての不満は、内容は変わっていくことはあっても、無くなることはない。このような状況の中、住民の話をじっくり聴けるこの会を重要と考え、気持ちに寄り添った支援を続けていく必要性を感じた。

③福島市社会福祉協議会「ほっとサロン　てとて」「リフレッシュツアー」

「てとて」は月に２回開催。福島市内への避難者が集まれる場になっており、毎回 70 ～ 80 名ほどの参加があった。主な活動としては軽体操等の健康教室、絵手紙、僧侶ボランティアによる写仏やマジック、音楽教室など毎回趣向を凝らしたもので、参加者の多様なニーズに応えつつもバラエティに富んだ内容となっている。また、メインの活動の前後に参加者同士の雑談時間や記念写真を撮る時間を設けており、コミュニケーションの時間も多く確保している。そのため、メインの活動を目的に来ている参加者も多い反面、70 名以上の参加者がいることにより、自分と同じ避難元市町村からの参加者が出席しているという安心感や、サロンの後の仲間との交流を楽しみに来ている意見も多かった。

「また、年間数回、サロンとは別にリフレッシュツアーという形で福島県内の観光地へ日帰りで旅行も行なっている。当方部センターは、普段とは違う環境のもとでふと吐き出している思いや、悩みなどを共感的に傾聴し、身体面についてのアドバイスも行なった。

本事業は、開放感あふれる活動の中で参加者との関係を深める機会となっていた。

表：集団支援実施実績

	場所	参加回数	参加人数
仮設住宅茶話会	県北地域仮設 住宅２か所	4 回	49 名
浪江町健康相談会	県北地域仮設 住宅集会所（14 か所）	39 回	336 名
福島市社会福祉協議会 「ほっとサロンてとて」 「リフレッシュツアー」	福島市保健センター	24 回	1,760 名 個別相談 68 名
	県内各所	2 回	110 名

3）支援者支援

①健康診断支援（浪江町）

本年度から新たな支援として、町が実施する健康診断への支援も行なった。町が実施する総合健診は町民の健康状態はもとより、その生活ぶりや普段の訪問で会えない方の状況を把握するのに非常に重要な役割を担っている。その健診の中で当方部センターとしては問診と個別相談の部分で参加、支援を行なった。福島県立医科大学が主で行なっているよろず相談等へのつなぎとしての役割と、専門員による対応が望ましいとされた方に対しての個別相談を請け負った。

②社会福祉協議会サロン（福島市　浪江町）

・［ほっとサロンてとて］
［浪江町社会福祉協議会サロン］

サロンの内容は集団支援の項にも記載したとおりである。普段のサロン活動において当方部センターは、ブースを設置し、血圧測定をしつつ、参加者の生活面･身体面における訴えを傾聴しながら、アドバイスや指導を行なった。

当方部センターはサロンのスタッフとしての支援と個別相談的な支援と両方を行なっているが、継続的、個別的な対応が必要な参加者に対しては、サロンの活動を通して接触・介入を試みたり、終了後のミーティングで共有したり、同行訪問へ繋げる役割を担った。

③福島県県北保健福祉事務所主催の家族教室

・［アルコール家族教室］
・［ひきこもり家族教室］

当方部センターが活動する中で、アルコールとひきこもりの問題に直面しているケースは多い。このような経緯もあり上記二つの家族教室への支援を実施した。また、実際に関わっているケースを同教室へ紹介し継続支援へとつながったケースもあった。

	場所	参加回数	参加人数
浪江町社会福祉協議会サロン	浪江町仮設住宅（2か所）	16回	203名
アルコール家族教室	福島県県北保健福祉事務所	12回	95名
ひきこもり家族教室	福島県県北保健福祉事務所	5回	46名

4）普及啓発

研修会等への講師派遣、福島市主催「健康フェスタ 2014」への参加、ニュースレター発行、ホームページ更新を通して、当方部センターの活動内容の周知や健康維持・増進、自殺予防に関する普及啓発を行なった。

講師派遣の内容としては、福島県消防学校消防職員初任教育における講義「ストレスとその対処法について」、福島県県北保健福祉事務所アルコール家族教室における講話「アサーション～家族とのスムーズなやりとりを目指して～」、「アルコール問題を抱える家族のコミュニケーションスキル」、神奈川若手会主催の研修会における講話「東日本大震災を経験して」、「福島の今、そしてこれから」を行なった。

3. 今後の展望と課題

東日本大震災から４年が経過し、避難生活の長期化による疲弊や家族との離別、原発事故に起因する放射線不安や住まいの課題は依然残存している。

また、避難市町村の帰還宣言に伴う今後の居住地の選定、暮らしの場でのその人らしい生活の確保などの課題が山積している。そして、直接的に復興業務に携わる自治体職員の疲弊も懸念されている。

2014 年度は避難住民への個別支援や集団支援、また関係機関との連携や心のケアについての普及啓発活動を継続した１年であった。継続的な活動により、避難元市町村はもとより、避難先市町村との更なる連携の強化が図れた。

今後の展望として、今まで構築したネットワークを活用しつつ、また更なる連携の強化を図り、今後の流動的に変化する課題に対して柔軟に対応できるよう活動を継続したいと考える。

注 1）

町民の避難状況 . 浪江町 HP.
http://www.town.namie.fukushima.jp/site/shinsai/11122.html,（参照 2015　10/23）

平成 27 年 10 月 1 日現在の村民の避難状況 . 飯舘村 HP.
http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=8445,　（参照 2015 10/23）

南相馬市民の避難の状況の詳細 . 南相馬市 HP
https://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/10,853,58,html,（参照 2015 10/22）

町外避難者数一覧 . 川俣町 HP
http://www.town.kawamata.lg.jp/site/sinsai-saigai/hinannsakihinansyasuuitirann.html,（参照 2015 10/23）

県内外の避難先別人数 . 富岡町 HP.
http://www.tomioka-town.jp/living/cat25/2015/06/002374.html,（参照 2015 10/23）

③県中方部センター活動報告

【渡部育子（保健師）
後藤弓子、相良サク子、渡部恵美子、渡部千景（看護師）
安藤純子、松田聡一郎、松島輝明（精神保健福祉士）
岩沢裕樹、山下和彦（臨床心理士）
田崎美和、菅野寿洋（作業療法士）
菅原睦子（社会福祉士）】

はじめに

2014年４月１日、県中方部センター（以下、当方部センター）は、郡山市西ノ内に事務所を移転し３年目のスタートを切った。看護師、保健師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、社会福祉士13名の多職種によるチームアプローチにより、職種横断的な活動と職種の専門性を活かす活動の両立を目指し、避難住民及び支援者のからだ・こころ・生活を支えるための活動を行ってきた。

避難住民及び支援者が将来への希望を持ち、健康な暮らしができるよう、こころのセルフコントロールを高める支援を行うことを重点目標として活動をしたこの１年を振り返り、報告する。

１．県中方部センターの活動について

当方部センターが目指す役割は、災害によって翻弄された避難住民及び支援者が自助努力を通じて人生の主導権を再獲得していく過程に、「心の専門家」として関わることである。

先が見えない日々が続いても、毎日の暮らしの中にほっとひと息できる「小さな幸せ」の時間を増やすこと、「しなやかな心でしなやかに生きるために」前向きになることを決して焦らず、これからも今までと同じように生活していくことの大切さを、避難住民及び支援者のみならず市民全体に伝える活動を始めたことは特筆すべきことであった。

上記の「小さな幸せ」および「しなやかな心でしなやかに生きるために」の具体的内容はそれぞれ当方部センターにて隔月発行している広報誌にて広く啓発を行ったので、詳細についてはふくしま心のケアセンター（以下、当センター）ホームページ（http://kokoro-fukushima.org）内の『事業・活動内容』から、「県中・県南方部センターの活動」の項目を参照されたい。

当方部センター開設以来、脈々と受け継がれてきた『ひとりひとりの気持ちに寄り添い丁寧な対応を心がける』支援を、今後もつねに念頭におきながら活動を継続していきたい。

２．個別支援

当方部センターの2014年度の全個別相談件数は1,281件（健康調査を除く）で、前年度比34.1％増であった。内訳としては、訪問相談1,004件（78%）、来所相談202件（16%）、電話相談60件（５％）、集団活動の中での相談などが15件（１%）となっている。

相談場所別としては、相談拠点502件（39%）、仮設住宅262件（21%）、民間賃貸借上住宅258件（20%）、自宅180件（14%）であった。

上記の中で、前年度までの相談の内訳と比較し変化があったものとしては、来所相談の増加と、相談拠点での相談である。来所相談の増加に関しては、これまではアウトリーチ活動を中心に対象への支援を行い、相談の多くは自宅や仮設住宅・借り上げ住宅への訪問支援を主としてきたが、「家族の居る場所で話せない」「生活スペース外で相談したい」などの理由で、居宅への訪問支援を拒否される事例などもあった。そのため、来所相談を行うことでより充実した支援が行えると判断された場合に限り受け入れるとして、マニュアルを作成し当方部センター内で相談支援を行うようになった。来所相談が出来るようになったことで、対象者のニーズを受け入れ易い形をとることができるようになったと考える。

また、相談拠点での相談の増加に関しては、避難町村職員への個別支援の他に、2014年度より福島県で実施している、県外避難者に対するホールボディカウンター検査の中での心の健康相談を行ったことがあげられる。13道府県にわたり県外避難者の個別相談を行い、その1ヶ月後に電話にて事後支援を行った。

県外避難者の状況としては、いつ戻れるか分からない先行きの不透明さや、家族間での意見の不一致などで精神的な不調を来している事例もみられ、避難先での相談機関についての情報提供などを行ったが、その後の支援のあり方について今後も考えていく必要性が感じられた。

ふくしま心のケアセンターの活動は３年目になり、県中地域の自治体や避難市町村などの関係機関と連携が構築され、対象者への支援についてより深めることができてきている。主には、月に１度行っている各市町村とのケース報告（月例報告）の場であるが、他には、当方部センター内で行っている事例検討会に、2014年度より事例に応じて対象者の自治体保健師に参加して頂き、これまでの対象者への関わりを振り返るとともに、今後の支援についての方針を一緒に考える機会となった。その他、保健師や社会福祉協議会（以下、社協）職員と同行訪問を行い、ケースの支援に当たってきた。

相談背景としては、避難の長期化に伴い対象者の抱える問題も深刻化しており、健康上の問題や居住環境の変化の問題などの他にも、今後の居住についての不安を抱えた事例や、あいまいな喪失を抱えた事例なども多くなっている。今後もなお、対象者のおかれる環境は変化していくため、一人一人に寄り添いながら個々のニーズにあった支援を行っていく必要があると思われる。

３．集団支援について

2014年度も引き続き、各集団活動において協力支援を行った。被災された方々の生活状況の変化に伴い、一年間のなかで終了となった事業、新たに実施される事業があった。

１）サロン活動支援

仮設住民を対象にしたサロンは、双葉町が月１回、喜久田・富田・日和田の各仮設住宅集会所で開催。富岡町社協が２ヶ月に１回、富田仮設集会所で開催。借り上げ住宅住民を対象にしたサロン「ひとやすみの会」は、富岡町が月１回郡山市内の町公民館で開催。葛尾村が精神疾患を抱えた住民を対象に月１回、「ひだまりの会」を中妻仮設集会所で開催。郡山市社協が、浪江町、双葉町、楢葉町、大熊町、富岡町、川内村、広野町、葛尾村からの避難をされている住民を対象に郡山市総合福祉センターにて月２回「茶話カフェろここ」を、福島県県中保健福祉事務所が郡山市内の公民館にて「みんなこらんしょ広場」を開催。当方部センターがそれぞれに事業協力をおこなった。

各サロンでは、健康体操、講話、レクリエーション、リラクセーション、茶話会等が実施され、からだを動かしたり、声を出して歌をうたったり、故郷での思い出話などを語りあう場となった。2014年度で終了となったサロンの中では、参加者が避難当初からの経過を振り返り「サロンがなかったら病気になっていたかもしれない」と語っていたことが大変印象的であった。

避難生活が長期化する中、訪問活動の関わりだけでは支援が行き届かない現状は続いており、集まれる場所と機会となるサロン活動は今後も必要性が高いと考えられる。一方で、住居の移転など被災者の移行期に伴い、参加者の減少に伴うサロンの終了、新たな集団活動等の必要性などの課題がみえてきている。

２）親子ふれあい教室支援

昨年度同様、葛尾村・須賀川市・平田村・三春町で月１回開催された。各市町村と「特定非営利活動法人ハートフルハート未来を育む会」の主催で開催され、当方部センターが事業協力をおこなった。

親子ふれあい教室は親子遊びと母親同士の交流の場となっており、専門スタッフによる子どもの成長状況の確認、臨床心理士による母親の不安や悩みの相談等を継続的におこなっている。親子遊びでは、母親に存分に甘えたり、のびのびと遊ぶお子さんの姿が印象的であった。また、母親同士のピアミーティングでは、子育ての悩みを共有することで母親の表情が和らいでいくのが印象的であった。福島県において、放射線不安による親子のストレス度は下げ止まりの状況にあるといわれており、乳幼児期の子どもの心身の発達に大きな影響があると考えられるので、特に母子の愛情がより深まるための支援は今後も必要であると考える。

４．支援者支援

福島県の復興を支える支援者の精神的・身体的なストレスは依然として大きい。そのストレスの原因として、支援者自身が被災・避難している状況、通常業務に加えて震災関連業務に従事している状況、さらに職員不足等が挙げられる。福島県の復興には、支援者が健康で継続的に支援をしていくことが重要であると考え、当方部センターでは支援者への支援として以下の事業を実施した。

１）支援者向け研修会

2015年３月３日に郡山市音楽・文化交流館ミューカルがくと館にて「復興支援者のための研修会」を福島県県中保健福祉事務所など各関係機関からの多大なるご支援をいただいて実施することができた。

本研修会は、震災後５年目に向けてこれまでの業務を振り返り、業務の役割や課題を整理すること、また支援者にスキルアップや情報交換の機会を提供することを目的として開催し、31名の方々が参加された。内容は、第１部の分科会と第2部の全体ミーティングの２部構成とした。

第１部はコミュニケーションスキルや心身のリラクゼーションをテーマとし⑴「わたしが変われば、あなたも変わる？」、⑵「めざせ睡眠上手！心身を軽くする眠りのコツ」、⑶「仕事に役立つコミュニケーション法」、⑷「今日はココロとカラダの快方日和」の４分科会に分かれて行った。

第２部は、各分科会の発表によるシェアリングと２つのスライド上映「あいまいな喪失」「支援活動をする上で嬉しかったこと、元気の素」を行った。

アンケートの結果、「支援者側のちょっとした一言で相手がうけいれてくれる事がわかった」「自分や同僚のコミュニケーション方法について振り返る良い機会だった」「支援者側も健康で、心に余裕を持たなければいけないと改めて気づかされました」などの回答があり、研修会は目的に沿った一定の評価を得ることができた。

被災者の状況は、時間の経過と共により複雑化、多様化している。その状況にあわせて支援者が対応しなければならない幅も広くなり、スキルアップの必要性が高まっている時期と言える。このような背景から、支援者のニーズも多様化しており、今後は分科会を充実させていくことが課題であると考えている。

２）個別面談の実施

2014年度は５つの団体に所属する支援者の方々、合計275名を対象としてメンタルヘルスに関するスクリーニングを主な目的とした個別の面談を実施し、その中から継続的なフォローが必要と判断された方に対しては継続面談を実施した。

個別面談の中では、具体的には以下のようなことを行った。

①K6やPHQ-9、SQD、M.I.N.I、といった各種尺度を用いた心理・精神的な健康度に関するアセスメント

②睡眠状況や飲酒量の変化、主観的な健康度といった身体的な健康度に関するアセスメント

③面談対象者が抱えている仕事の負担感やストレスなどに関し、傾聴を通したストレスの軽減

④セルフケアやストレスコーピング、ソーシャルサポートの状況などを確認し、面談対象者が持っている『強み』への焦点づけとエンパワメント

こうした活動を通して、メンタルヘルスの問題に関しての早期発見・早期対応を意識したことは言うまでもないことではあるが、ご本人の持たれている強み（ストレングス）を引き出し、伸ばしていくことも常に心がけながら行った。こうしたエンパワメントは、今は援助を必要としている立場の方々が、将来的には自主的・能動的で自立した活動ができるようになるための姿勢や体制づくりを支援することであると考えている。

また、これらの支援者支援活動は当センター開設当初から継続的に実施してきているが、時間の経過とともにみられるメンタルヘルスの変化を意識しながら、その時々で何をすべきか、何が必要かを常に考えて、より良い支援を行っていくことも当センターの役割であると考えている。

５．普及啓発

2014年度に当方部センターにて行ってきた普及啓発活動は、大別すると以下

の３点が挙げられる。
①広報誌の発行
②市民講座等の開催、協力
③心身の健康等に関する啓発資材の作成
以下、順に紹介する。

１）広報誌の発行

当方部センターでは機関誌として「ふくここ」を隔月発行してきた。2012年９月の第１号発行から2015年３月までで16号の発行実績があり、関係機関の方からは「楽しみにして読ませてもらっています」との声も聞かれている。

広報誌発行に際しては、当方部センターの活動に関する紹介も目的ではあるが、地域住民を対象としたメンタルヘルス等の啓発も大きな目的の一つとしている。そこで内容としては、震災後の福島に必要と当方部センタースタッフが考えている概念や考え方などに基づき、ポジティブ心理学を参考にした「小さな幸せ」をテーマにしたものや、震災後の状況をふまえた「あいまいな喪失」に関する内容などを掲載してきた。

現在は自治体職員や医療機関等の各関係機関を通しての配布を中心とし、そのほかには当センターのホームページからのダウンロードという形態での配布を行っている。しかし地域住民へのさらなる啓発をめざすという発行目的を鑑み、より広範囲にわたる配布方法を検討することも、今後の課題としている。

２）市民講座等の開催、協力

当方部センターでは2014年度は２度にわたり、一般住民を対象とした公開講座を企画し、それぞれ福島県や郡山市などの共催を得ながら開催してきた。１回目は2014年９月に自殺予防週間に合わせ『自殺予防セミナー「心の健康講座」』を、そして２回目には2014年11月に『認知症を支える家族のための生活術』を開催した。

『自殺予防セミナー「心の健康講座」』では、住民の心の健康の底上げをめざし、講師としてカラーセラピストの荻原佳代子氏を招き、研修会を行った。また『認知症を支える家族のための生活術』では精神科医の森川すいめい氏を招いて認知症に関する基礎知識を学んだほか、参加者との事例検討等を行った。

当センターで主催した事業のほかには、郡山市や須賀川市などの自治体による事業に協力し、自殺予防のためのゲートキーパー養成研修の講師のほか、メンタルヘルスやリラクセーションなどに関する研修の講師等も行った。

３）心身の健康等に関する啓発資材の作成

上記の各事業内容と関連し、2014年は「認知症」および「あいまいな喪失」の啓発資材に関しては2015年以降も内容をさらにブラッシュアップし、震災後

の福島の現状により即したものを作成し、より多くの方へと届けられるよう検討中である。

４）最後に

当方部センターではこうした活動を通して草の根レベルから、地域における心の健康の維持・向上が少しでも図られることを目指し、今後も活動を企画および実施していきたいと考えている。

６．今後の展望

１）1年を振り返る

県中方部センターは開設から３年が経過し、市町村等関係機関と連携しながら個別、集団支援を行い、その充実が実感できた１年であった。

住民の帰還に関する不安の声や、戻らないと決めた住民の声に耳を傾け、一人一人の選択に寄り添う支援も継続してきた。

また、福島県立医科大学県民健康管理センターとの連携を通して、ハイリスク者支援も増加し、スーパーバイザーと相談しながら対応することも大切になってきている。

2014年度に計画してきた事業に加え、県外避難者の心と身体の健康相談に従事し、県外避難者の悩みや、暮らしを聞くことができた。この経験は「ふくしま」で起きたことを再度県外避難者から見た視点で考える貴重な体験と学習であった。

事務所内では、自殺対策マニュアル、暴言暴力対応マニュアルの作成など、チーム内でスキルアップを図ることができた。

年度後半には、各自治体に出向きケアセンターに対する要望を聞くなど、より身近で信頼され、相談を受けやすい組織として成長を続けていくための活動も行った。

２）終わりに

毎日の新聞報道では、復興に向けた事業の進捗状況や、帰還に向けた取り組みが加速してきている。

今後も帰還を巡り、住民や関係職員のこころが揺れ動く事態が起きてくることが予想されるため、ケアセンターとしては今まで培ってきた関係を基盤にして、新たな課題に柔軟に対応することが求められる。

2015年度は、今までの３年間に積み上げてきた経験と知識を集結して、強みであるチームワークを生かした活動を行いたい。

④県南方部センター活動報告

【武藤久美子、服部徳子（保健師）
菅野寿洋（作業療法士）
吉田麻里香、宮澤賢次（精神保健福祉士）】

１．概要

県南方部センター（以下、当方部センター）は福島県県南保健福祉事務所が管轄する白河市、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、西郷村、泉崎村、中島村、鮫川村を支援の対象としている。相双地域からの避難者はこの地域のいたる所で生活を続けている。この地域に避難元である双葉郡の役場機能を置く市町村がないことも、この地域の特徴である。

３年が経過し、県南全域では帰還や転居等により、避難者は減少傾向にある。しかし、避難生活によりそれまでの生活を大きく変えられた被災者にとっては、長引く避難生活のためにそれぞれの先への見通しが立たず、不安やストレスを相談するあてもない状態への苦悩が潜在しているものと考えられる。

当方部センターは、2014年度重点目標を「今までアクセスできなかった要支援者への関わりを強化する」、「生活再建に向けた支援を行う」という２点を掲げ活動を行った。

当方部センター事務所を福島県県南保健福祉事務所からJR白河駅前に移転し、来所相談にも力を注ぐこととなった。

備考
浜通り地域（双葉郡、南相馬市等）から県南地域への避難者（2015年４月現在）：1,285名
県南各市町村住民で応急仮設住宅等にて生活している避難者（2015年６月現在）：683名

２．個別支援

１）個別訪問

従来からの当方部センター単独による訪問だけではなく、避難先社会福祉協議会生活支援相談員と連携した支援や、同行による訪問が特色である。

２）来所相談

2014年４月に福島県県南保健福祉事務所から、JR白河駅前に事務所を開設したことにより99名の相談があった。さらに訪問支援では対応できなかった方に対応できるようになった。

地域の支援者にとっても、日ごろの業務の悩みなどをもって気軽に立ち寄り相談できる場ができた。

３）関係機関へ出向いての個別相談

ハローワーク白河と共同事業（「集団支援」に記載）を行ったほか､矢吹町「心の相談室」に専門員（臨床心理士等）を派遣（月１回）した。

その他、福島県県南保健福祉事務所生活保護課の生活保護受給者の就労支援において、精神的側面からの支援を担当した。

４）集団活動の中での個別相談

サロンでは集団を相手にする中でも、個々の健康状態の変化、心のサインを意識して個別相談につなげた。

（サロンの支援：2012 年度より回数で３回、参加者数で 202 名増加）

３．集団支援

１）サロン活動・自助グループへの支援

①「さすけね会」（双葉町白河サロン）

当方部センターが企画、進行を担当した双葉町白河サロンで、５月から２月の第３水曜日（計９回）に実施し、94 名が参加した。

それまでの「話そう会」から発展させ、話すばかりでなく、楽しい時間になるよう工夫したり、参加者が様々な体験や物事に対して、ポジティブに捉える事ができるようになることを目的とし、「センタリング」、「フェザータッチ」「アートでつながるエクササイズ」、「良いこと探し」、「地図づくり」、「おもしろ川柳づくり」、「故郷４番の歌詞をつくろう」、「双葉かるたづくり」、「福笑い」を行った。

②双葉町白河サロン

郭内応急仮設住宅集会所にて双葉町、双葉町社会福祉協議会が担当するサロンを支援した（計 25 回　467 名）。

③ままカフェ@しらかわ

ふくしま子ども支援センターが主催する、避難先から福島に戻られた母子を対象にしたサロンに専門員を派遣し協力した（計３回　82 名）。

④富岡さくらの会

自助グループ立ち上げを支援した（計１回　15 名）。

⑤しらかわコスモス会

浪江町住民が立ち上げた自助グループを支援した（計１回　15 名）。

⑥矢吹町なごみの会

矢吹町が支援する自助グループを支援した（計９回　152 名）。

⑦ひまわりサロン

矢吹町社協が支援する自助グループを支援した（計１回　９名）。

⑧「男遊クラブ」

相双地域から避難している男性限定のサロンとして１月に開催した（計２回 20 名）。2015 年４月からは県中・県南方部センター主催で本格始動する。

備考
集団活動：2012 年度 104 回、2013 年度 64 回、2014 年度 67 回
参加者数：2012 年度 1,372 名、2013 年度 741 名、2014 年度 943 名

２）ハローワーク白河との共同事業「健康チェック＆はまなかみんなのサロン」

５月～２月までの各月計 10 回実施し、34 名が参加した。20 ～ 30 代の男性が多く参加し、健康チェックを受けた方の８割が個別面談を利用した。

サロンは、浜通りから避難し、求職活動をしている方々の心身の健康度のアセスメント及びメンタルヘルス問題への対応として始まったが、その後、一般求職者へと対象者が広がっていったため、2014 年８月から「健康チェック&ほっとひといき相談室」と改名することとなった。

４．支援者支援

１）支援者をつなぐ・つなげる勉強会

県南地域の社会福祉協議会生活支援相談員、双葉町役場職員を対象に、月１回実施した。目的、実施内容は以下のとおりである。

〈目的〉

ⅰ．支援者のスキル向上のため、県南方部センターが研修の機会を提供する。
ⅱ．支援者が対象者の状態や状況に合わせた支援が行えるようになる。
ⅲ．被災者を支援する関係者同士の情報交換や交流の場となる。

〈実施内容〉

開催日	内容	参加者
5月 20 日	「ポジティブ支援のためのリフレーミング講座」	双葉町保健師　４名
6月　5日	「ポジティブ支援のためのリフレーミング講座」	白河市・双葉町社会福祉協議会 ３名
7月 25 日	「もう一度トラウマについて学ぼう」	白河市・西郷村・矢吹町・双葉町社会福祉協議会　　７名
8月 28 日	「心の健康を守る話の聴き方と基礎知識」	県・須賀川市・白河市・西郷村・矢吹町・双葉町社会福祉協議会 11 名
10 月 17 日	「ナゾ解き！ケース検討会」 アドバイザー　当センター昼田所長	白河市・矢吹町社会福祉協議会 ４名
1月 30 日	「ナゾ解き！ケース検討会パート２」	白河市・矢吹町・双葉町社会福祉協議会　５名

２）支援者個別支援

「個別支援」という特別な機会や時間を設けるのではなく、日ごろの共同の事業や活動、上記の勉強会、研修会を意識的に活用し、支援の悩み等を傾聴し、活

動への助言を行うなど支援者支援を試みた。その結果、支援について学び気づく事ができる機会となり、県南地域に携わる支援者と当方部センターが共に歩む支援を行うきっかけづくりとなることができた。

５. 関係機関との連携

１）事例検討会

以下の関係機関との事例検討会を行った。

ⅰ. 福島県県南保健福祉事務所
ⅱ. 市町村（矢吹町・双葉町）
ⅲ. 社会福祉協議会（白河市・矢吹町・双葉町・西郷村）
ⅳ. ハローワーク白河

２）自殺予防対策事業（ゲートキーパー養成事業）他

塙町、塙町社会福祉協議会関係者のゲートキーパー養成講座を担当した。

６. 今後の展望と課題

この地域に役場機能を置く市町村がないこともあり、避難先社会福祉協議会生活支援相談員や、既存の県南地域の社会資源と連携した活動に特徴がある。

今後は避難元市町村を越えた支援のコーディネートが地域のニーズとなっていくと考えられる。

2015 年 4 月から県中方部センターと統合することとなり、活動内容を整理し、今後も県南地域の被災者を継続して支援していきたい。

⑤会津方部センター活動報告

【 宮澤賢次（精神保健福祉士）
児島百合子（社会福祉士）
内川礼子、小汲律（看護師）
齋藤千鶴（保健師）】

１． 概要

１）会津地域の状況

東日本大震災から４年が経過するなか、2015 年５月末の会津地域への避難者は 3,097 名となっており、震災直後の 2011 年５月 24 日現在の 9,559 名から比較すると３分の１弱に減少している。中通りやいわき方部への転居が徐々に加速している傾向もみられる反面、仮設住宅や借り上げ住宅等での避難生活を余儀なくされている現状もある。

被災市町村のなかでは、避難指示解除の動きも出ている一方、避難生活が長期化することで今後の生活に不安を抱く住民の方々も多く、このような状況のなか被災町村と連携しながら支援活動を行ってきた内容について報告する。

２）会津方部センターの活動

会津方部センターでは、保健師１名、看護師２名、精神保健福祉士１名、社会福祉士１名の５名体制で活動を行っている。役場機能がある大熊町、楢葉町を中心にその他の市町村とも避難者についての情報や依頼を受け個別支援、集団活動への支援、支援者支援を行っている。

活動の拠点となるセンター事務所を、相談できるスペースを確保するため 2015 年３月に現在の場所に移転した。

２． 活動報告

１）個別支援（住民支援）

①訪問

被災町村から依頼を受けたケースについて継続して訪問を行っている。

会津方部センターが単独で実施したものもあるが、ケースの状況や町が同時に介入したほうが、支援の効果があると判断した方については、各町保健師と同行する形をとり支援を行った。

また、ケースによっては、障がい者支援事業所カムカムの職員と同行訪問し、対応の検討を行い、より個別の状況に合わせた支援活動に努めている。

②住民健診への支援

【大熊町】

会津地域に避難している住民の健診を 2014 年 10 月 20 日～ 22 日まで実施するのに併せ、町で心の健康づくりアンケート調査も行い、結果から支援が必要な

ケースについては町保健師と同行訪問し継続して支援を行っている。

【浪江町】

会津地域に避難している住民の健診を 2014 年 10 月 3 日に実施し、心の健康調査も行った。調査からハイリスクとなった住民に対して、同会場で「よろず相談」へ繋いで対応している。

２）集団支援

①そうそう絆サロン健康相談会

相双地域等から会津地域へ避難されている住民を対象に、健康相談を実施することで、心身とも健康な生活を維持できることを目的として、福島県会津保健福祉事務所が行っているが、相談会のなかでは、避難されている方々に今後も健康で生活していけるよう助言を行なった。

②仮設住宅での健康相談会

大熊町では、会津若松市内の仮設住宅 11 箇所において年 4 回、入居住民を対象とした健康相談会を開催しているが、血圧測定、心に関するワンポイント的な話をして、健康の維持、増進ができるよう支援を行なった。

また、仮設から転居する住民も出てきているなか、独居・高齢者世帯等においては、町保健師とともに訪問したり、声かけしたりして状況の把握に努めた。

③サロンならは

楢葉町社会福祉協議会が月２回主催するサロンに参加し、参加者の話を聞いたり、血圧測定等健康相談を行った。避難生活が長期化すること、会津から移動する動きなど、置かれている状況に不安等のストレスを感じている方も多く、ゆっくり話を聞くことに重きをおいて関わった。

④男めし

一人暮らしの男性の食生活向上と栄養改善を目標として毎月１回、楢葉町の仮設で、男性入居者を対象に楢葉町が実施するが、健康相談、調理・会食をしていくなかで話を聞いたり、助言したりしながら関われる時間の中で対象者への傾聴に努めている。

⑤「ふら～っとルーム」の開設

震災後からの避難生活が長期化し、また先の見通しが立たないなか、復興公営住宅の建設に伴い今後の居住場所を選択する時期に来ている現状など、避難住民を取り巻く環境の変化などもあり、今後に向けた不安や悩みを抱えている。慢性化するストレスの発散場所として、また孤立化しないための支援を行うため 2014 年度に立ち上げた。気軽にふらっと立ち寄ってもらう意味も込めて「ふら～っとルーム」とした。

【大熊町】

町集会所の「ゆっくりすっぺ」を会場に、2014 年６月から週１回実施した。また、城前仮設住宅集会所を会場に、大熊町・双葉町の入居住民を対象に月１回実施した。いずれの会場でも今後の生活に対する不安が話され、日常生活においてのス

トレスを抱えている現状に対し、丁寧に傾聴することに努めた。

【楢葉町】

2014 年６月から仮設内にある「グループホームならは」で実施していたが、場所的に不便ということで、ふれあい交流館に途中変更し月１回継続して開催した。

仮設住民や支援者が立ち寄り語らいの場となった。

【コミュニティ結での活動】

避難住民等会津地域に暮らす住民の孤立感をなくし、他者と交流できる場が必要と考え、会津若松市内のコミュニティ結を会場にして 2014 年７月から、偶数月にはイベントに併せた健康相談会を開催し、奇数月には「ふら～っとルーム」を開設し、住民の心の健康の維持に努めた。

内容としては、ゆるゆるストレッチ、タッピングタッチなど行い、地域住民と避難者の交流の場としても活用した。

	会　　場	参加者	講　師
大熊町	ゆっくりすっぺ	31 名	会津方部センター職員
	城前仮設住宅集会場	27 名	
楢葉町	宮里仮設内グループホーム	40 名	会津方部センター職員
コミュニティ結	交流ステーション コミュニティ結	18 名	会津方部センター職員

⑥映画上映会への協力

男性住民の交流が少なく、サロン等への参加も少ない現状から、映画鑑賞を通して避難先での繋がりを確認しあうなど孤立化防止のための支援として、大熊町仮設住宅２箇所の集会所において上映会の開催に協力した。

３）支援者支援

①ぐっちー café

震災以降住民と共に避難し､避難生活も長期化しているなか､支援者として日々住民相談に対応している町職員の息抜きの場やリラックスできる場を提供して、気分転換やストレス解消を図ることを目的に、職場から一時的に離れリセットできる場所として 2014 年７月に開設した。

会場は、大熊町役場会津若松出張所内のほっとルームを使用し、原則毎週水曜日の 12 時から 13 時までの１時間を開設時間として、昼食の休憩時間に自席から離れ過ごせる場所・時間を作ることで、気分転換ができていた。さらに他部署の職員とも交流ができることのメリットもあり弁当持参で来る方も多かった。

各課で開設の声かけ

お茶を飲みながら談笑

②「ちょいのびしタイム」（リフレッシュ講座）

支援者のストレス解消・気分転換を目的として、自分でも取り入れ気軽に実践できる手法として実施した。

【大熊町】

町職員、社会福祉協議会職員を対象に、ヨガを取り入れたストレッチを計４回実施したほか、男性を対象としたメンズクラブを１回開催した。

30 分程度のストレッチ後、お茶を飲みながら休憩し談話。リラックスできたとの声が参加者から多く聞かれた。

【楢葉町】

会津美里出張所、サポートセンター職員を対象として、１回目に「簡単ゆるゆるストレッチ」、２回目は「ほんわかタッチケア」、３回目で「あたまとからだぬくぬく体操」を各１回ずつ行った。各回 30 分から１時間以内で終了できる内容とした。

講師は、福島県相談支援専門職チーム会津地区から作業療法士会の協力と、心のケアセンター職員が担当した。「リラックスできた」という感想が多く聞かれたが、除雪で肩・腰痛に対してストレッチする時間を設けてほしいとの要望も出された。

	内　　容		参加者	講　師
大熊町	①ヨガを取り入れたストレッチ	4回	26 名	心のケアセンター職員
	②メンズクラブ（男性職員対象）	1回	9 名	
楢葉町	①簡単ゆるゆるストレッチ	2回	14 名	作業療法士会 心のケアセンター職員
	②ほんわかタッチケア	2回	14 名	
	③あたまとからだぬくぬく体操	2回	14 名	

講師の作業療法士による指導でストレッチ

タッチケアの前の準備体操

③研修会の開催

訪問しているケースの対応を考えるなか、研修会についての要望があり実施した。

事例を通して、どのように支援していくかを行政、生活支援相談員等関わっている職員を中心としてシリーズで研修会を開催した。

楢葉町アルコール研修会

日　時	内　　容	参加者	講　　師
2014 年 9 月 12 日	講義「アルコールの問題を抱えた人との関わりについて」	11 名	心のケアセンター職員
12 月 12 日	事例検討 ミニ講座	9 名	心のケアセンター職員 みやぎ心のケアセンター職員
2015 年 3 月 20 日	前回検討ケースの報告 実践事例の紹介と意見交換	15 名	心のケアセンター職員 みやぎ心のケアセンター職員

４）今後の展望と課題

震災後４年が経過し、被災市町村にも様々な動きが出ており仮設住宅・借り上げ住宅から災害公営住宅への入居に伴うコミュニティの再構築へ向けた対応、会津から他方部へ移動する動きなど、避難住民を取り巻く環境も変化している。そのようななか取り残され感や孤立感等抱える住民に対して対応していくことが必要である。

また、支援者である自治体職員等も長期化する避難生活のなか疲弊しており、引き続き支援していくことが必要と考えられる。いずれにおいても、地域の保健医療福祉などの各関係機関と連携をとりながら、また、被災市町村の動きを共有しながら活動を進めていきたいと考える。

⑥相馬方部センター（相馬広域こころのケアセンターなごみ）活動報告

【米倉一磨、廣田信幸（看護師）
西内実菜、吉田由樹、清山真琴（作業療法士）
伏見香代、河村木綿子（保健師）
立谷洋（社会福祉士）
佐藤里美（保育士）】

はじめに

相馬方部センター：実施主体・相馬広域こころのケアセンターなごみ（以下、当方部センター）が実施している「ふくしま心のケアセンター事業」は、2012年４月に福島県精神保健福祉協会（2015年より一般社団法人福島県精神保健福祉協会）から「特定非営利活動法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」へ委託された。現在、この事業は、当方部センターの相馬事務所、南相馬事務所の２カ所を拠点としている。2012年の開設当初より福島県立医科大学心のケアチームの活動を引き継ぎ、切れ目のない活動を心掛けてきた。

2014年４月１日からは、ふくしま心のケアセンター南相馬駐在の業務を引き継ぎ、南相馬事務所を開設した。相馬事務所では2014年４月、訪問看護ステーションなごみを開設し、治療に結びついている精神疾患を有する一部の利用者を訪問看護ステーションの対象とした。さらに相馬事務所では、地域の困難ケースの受理、訪問、地域住民への啓発活動、医学生・看護学生等の実習の受け入れなどを行った。南相馬事務所は、南相馬駐在から引き継いだケースの相談・支援、保健センターの母子に関する事業への支援、双葉郡等の市町村への支援や、市内相談機関や支援団体との連携を深めてきた。

４年目を迎えた被災地では、長期の避難生活や家族の離散、復興の格差、長期避難による身体症状の悪化、アルコール関連問題、高齢化に伴う問題などが複雑化・深刻化している。さらに、原発事故による避難によってコミュニティが分断されただけではなく、放射線不安や避難生活のストレスを持つ家族が子どもに及ぼす心身の成長発達に与える影響は大きい。帰還か移住かの選択の見通しが立たないことは、避難者の将来や生活設計の具体化を阻んでいる。このように当方部センターは、復興が進む一方でより複雑化する地域の課題に直面している。

１．相馬方部センターの活動

１）地域住民への訪問、来所相談

2014年度の相談訪問件数は、2,726件（元住所別　新地町270件、相馬市829件、南相馬市1,424件、飯館村135件）であった。2013年度は訪問件数1,546件（新地町173件、相馬市825件、南相馬市291件、飯舘村206件）と比較すると、南相馬市の相談訪問件数が倍以上となっている。

相双地域では、震災後３年目となり、自己再建による仮設住宅からの退去も増加している。相馬市では、2013年度初めから災害公営住宅及び高齢者向けの災

害公営住宅が次々と完成した。新地町においては、災害公営住宅と被災高齢者共同住宅が完成して集団移転地の造成も進んでいった。新しい環境に不安を抱えながらも、転居先のコミュニティの中で新たな関係性を築き、適応していく住民もいる中、転居前あるいは転居後に、「知り合いがいない」、「一人では友人に会いにも行けない」、「日中一人になってしまう」など、不安の訴えや抑うつ症状を呈し支援が必要な住民もいた。

相馬井戸端長屋（高齢者共同住宅）の中では、居住者同士が昼食を共にするなど顔を合わせる時間があり、訪問看護や訪問リハビリテーションの利用によって支援者の出入りもある。見守る目は多くなるが、単調になりやすい生活環境や避難による環境の変化によって認知症症状が悪化しやすい傾向にあり、高齢者への認知症の予防活動も行っていく必要がある。

南相馬市では、2015 年度には鹿島区・原町区に災害公営住宅が完成し、住民の仮設住宅からの退去が始まったが、相馬市・新地町、その他の地域と比較しても南相馬市の仮設住宅の居住率は依然高い状態である（2015 年 2 月 28 日現在の入居率、新地町 43.2%、相馬市 46.6%、南相馬市 84.0%）。

若年層の生活再建が進む一方、仮設住宅や災害公営住宅の高齢化は相双地域全体の課題である。また、先に述べた要介護や認知症の高齢者への支援、アルコール関連問題への対応、震災によって顕在化した若い世代の引きこもりや不登校、就労、母子や虐待の相談などがあり、今後ますます柔軟な対応が求められている。

２．集団支援

１）ちょっとここで一休みの会（相馬市）、ちょっとここで一息の会（新地町）

2014 年度は、新地町 5 カ所（58 回、213 名）、相馬市 5 カ所（227 回、1,268 名）のサロンを実施した。新地町、相馬市で開催した一回当たりの平均参加人数は、5.5 名である。2013 年度は、新地町、相馬市の参加者数が 400 回 3,179 名（一回当たりの平均参加人数は 6.9 名）であった。参加者の減少は仮設住宅からの退去が進んだ結果であるが、災害公営住宅の建設がようやく目に見えてきたことの表れである。今後はサロンも含め、転居先の定着支援を目的とした支援が必要となることが予測される。（なお、本項目における集計は当方部センターでの集計に基づく）

２）南相馬市主催の「かしまに集まっ会」支援

「かしまに集まっ会」は双葉郡からの避難者を対象としたサロン活動であり、それへの支援を行っている。双葉郡の住民は、避難先市町村が開催する教室やサロンに参加することには抵抗があるため、このような同郷の集うサロンの存在する意味は大きい。今年度は、昨年度に比べ住民がレクリエーションや季節の行事などを楽しむこともできるように変化している様子が見られた。しかし、はじめて参加する住民の中には、避難の辛さを強く訴える方もいた。

３）浪江町住民主催の「なみえ相双会」及び浪江町主催の「ちょっといっぷくの会」

「なみえ相双会」とは、相馬市・南相馬市の借り上げ住宅の住民の自治会が開催するサロンであり、当方部センターでは月１回、血圧測定や健康状態の観察、体操やレクレーション等の支援を行った。参加者は借り上げ住宅の住民が中心であり、仮設住宅の住民と比べると様々な支援を受ける機会は少なく、定期的なサロンの開催が安心感につながっていた。また、南相馬市に浪江町住民の方が居住している仮設住宅があり､本年度よりそこで行われる集会所のサロン活動｢ちょっといっぷくの会」の支援を行っている。定期的なサロンの開催は実施されておらず体操の支援や季節の行事は、住民から好評を得た。

４）自由参加型サロン「いち・にの・さ～んぽ」支援（南相馬市主催）

昨年に続いて南相馬市内の８カ所の生涯学習センターや保健センターで開催されたサロンを支援した。活動は３年目を迎えたが、ボランティアの「健康運動普及サポーター、元気モリモリ！もりあげ隊！」の方々が主体的に行うように移行の時期となった。このような動きは、地域のコミュニティ作りの再建に大きな力となっている。当日は、「元気度アンケート」でのリスクの高い住民への相談を行い、必要な住民には後日、来所相談を勧奨した。

５）わかちあいの会（南相馬市主催）

南相馬市主催の遺族対象のわかちあいの会に支援を行った。東日本大震災からは数年経っているが、避難の経過の中で家族を亡くしている方など、新たな震災関連死での喪失感を抱えている方の相談があった。

６）南相馬市内仮設住宅サロンでの健康教育

南相馬市内全 36 カ所の仮設住宅で、住民のメンタルヘルスの健康講話を行った。９月は自殺予防月間であり、身近なテーマから心の健康を考えてもらうように、「睡眠」をテーマに行った。また、ゲートキーパーの啓発グッズを配り、広くメンタルヘルスの周知に努めた。

３．支援者支援

１）消防署職員へのこころの健診

前年同様、全職員を対象に１～２ヶ月間、精神状態を含んだ全般的な健康度を把握するための尺度（ＧＨＱ -12）やＰＴＳＤに関する尺度（ＩＥＳ - Ｒ）、労働者の疲労蓄積度チェックリスト､飲酒習慣スクリーニングテスト（ＡＵＤＩＴ）の４種類を用いて調査を行った。尺度に基づいて抽出されたハイリスク者は睡眠の問題や身体症状、精神的な疲労を抱えており、希望者やハイリスク者に対して受診勧奨またはカウンセリング等を勧めた。

２）子どもの事業の支援者支援（市町村の開催する事業への支援）

①南相馬市母子事業への支援

市町村への事業協力とその他の他団体への支援を行った。市町村へは南相馬市の母子事業、なかよし広場、リトミック教室、キッチンママ、ぽにたん広場、す

こやか教室、３Ｂ親子体操、幼稚園や保育園巡回、乳幼児健診への支援（４ヶ月、10ヶ月、１歳６ヵ月、３歳児検診）へ主に保育士、作業療法士を派遣した。

たとえば、なかよし広場は原町・鹿島保健センターで月２回開催される親子遊びと育児相談の場である。室内にボールプールやブロック等のおもちゃが設置され子どもが安心して遊べるほか、保護者が育児の悩みや不安を気軽に相談できる場もあり、多くの未就学児の親子が利用している。また、全体の集まりの時間では季節の歌を唄ったり、親子での手遊びをしたり、家でもできる遊びを紹介している。

ここでは子どもの遊びの支援、母親の子育ての悩み、子どもへのかかわり方などについて相談を受けた。未就学の子ども達が多く、年齢の異なった子ども同士のかかわりがあるため、母親が他の子どもの成長を喜び、子ども同士が自然とかかわりが持てるなど交流を通して心身の成長を見守る場になっている。

また、このような事業の中から、不安や体調不良を訴える母親の為に臨床心理士による相談会を月１回開催した。虐待やＤＶを疑われるケースや発達障がいについての相談、避難から帰ってきて感じている不安等、様々な相談を受けている。

②相馬市大野台第６仮設(飯舘村民)「子育てサロン」

子どもがいる世帯は数世帯しかなかったが、住民の多くは相馬市の資源を利用することに迷いがあったり、交通手段がないなど、母親同士の交流の機会が乏しいなどの理由で孤立感があった。そうした住民からの要望を飯舘村の保健師が聞き取り、村からの要請で仮設住宅にて子育てサロンを月に１回開催した。年度内は計４回実施し、35 名の参加があった。

３）ハローワーク等の就労問題に関心が高い機関との事例検討会および勉強会

ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、就職応援センター、福島広域雇用促進支援協議会といった、地域の就労支援に取り組む関係機関が集まって、持ち回りで情報交換や事例検討を行った。震災後の相双地区は有効求人倍率が 2.5 倍（2014 年７月現在、全国 1.10 倍、福島県 1.43 倍、相双地区 2.42 倍）であるにも関わらず、需要と供給がかみ合わず、人材不足で厳しい職場環境となっている。さらに震災後のストレスや体調等から、本人が希望しても就労になかなか繋がらないケースも見られる。適切な支援と連携によって、本人の希望が叶うよう支援を行っている。

４）新地町健康づくり推進員会での健康講演会

健康づくり推進員を対象に、アルコール依存症予防についての啓発を行った。アルコール依存症は疾患であり、治療対象になり得ること、身近な人の気づきが大切であることを伝えた。また飲酒習慣スクリーニングテスト（ＡＵＤＩＴ）を実際に記入してもらい、１日の適切なアルコール摂取量を酒瓶や缶を用いて示した。

５）アルコール依存症についての研修会

南相馬市被災者健康支援連絡会の場で、アルコール依存症についての研修を

行った。被災者の中にはアルコールでの健康被害や生活上の困難を抱えている方もおり、支援者にとっては非常に関心が高い内容であった。アルコール依存症という疾患に関する基礎的な知識を伝えるとともに、「お酒から回復するぞ！」すごろくを作成し、ロールプレイを交えながら対象者や家族の心理について伝えた。

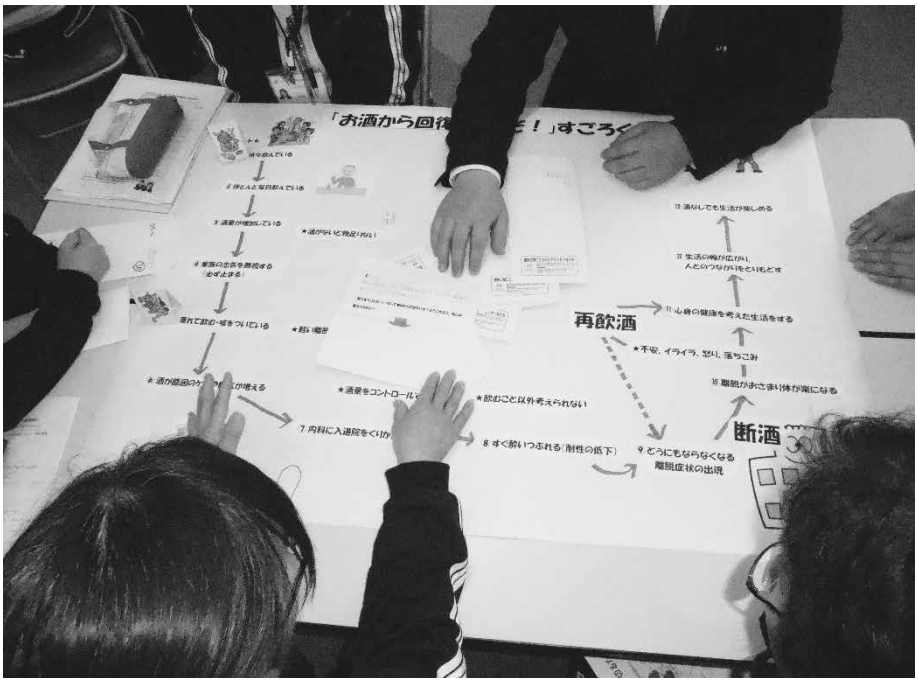


写真１　依存症から回復するためのすごろく

４．その他の事業

１）他団体との共催事業

「ＮＰＯ法人ＩＣＡ文化事業協会」と計４回、南相馬市、浪江町の帰還困難地域の仮設住宅で花植え運動を支援した。心身の健康状態の把握及び園芸活動を通して健康状態の変化についてＰＲＩＭＥ－ＭＤ、及びＰＨＱ－９日本語版を用いて調査した。その結果、健康上の不安、居住環境の変化の訴えが多く、睡眠等に影響をきたしていることが明らかになった。その他、「ＮＰＯ法人つながっぺ南相馬」から依頼を受けて、仮設住宅住民の高齢者を対象にした介護予防についての健康教育を実施した。また、米国のテロ被害者の遺族で組織された「9.11家族会」と震災避難者との交流会を開催した。

２）講演会、研修会の開催

①一般向けおよび支援者へ講演会、研修会

一般向けの講演会としてメンタルクリニックなごみの精神科医、蟻塚亮二氏を招き「震災トラウマとＰＴＳＤ講演会」を行い、35 名が参加した。

アルコール関連問題については、大阪医療センターの精神科医、野田哲郎氏を招き２月７日講演会を開催した。

また、昨年同様、精神障がい者家族教室をつばさ会から委託を受け、オフィス

夢風舎より精神保健福祉士の土屋徹氏を講師として招き、鹿島交流センターで行った。

支援者向けの講演会としては、熊本県の桜が丘病院の精神科医、小林幹穂氏を招き、７月、９月、11 月の計３回、相馬市はまなす館で高齢者のメンタルヘルスに関する研修会を開催した。

②メディアカンファレンス

当方部センターの広報の為に、報道関係者向けのメディアカンファレンスを行った。相双地区での現状を伝え、継続して関わってきた津波被害の遺族、ＮＰＯ法人の事業所の所長を招き発表してもらった（写真２）。

写真２　報道関係者を対象としたメディアカンファレンス

３）広報活動

①健康福祉まつり相談コーナーの設置（相馬市・南相馬市）

相馬市・南相馬市の両市の健康福祉まつりにおいて、睡眠や心の健康相談コーナーとアロマトリートメント・アロマサッシュ（香袋）製作・子ども向けの工作・おもちゃすくい・ぬりえを行いケアセンターのＰＲ活動を行った。多くの住民や保健福祉関係者と顔を合わせる機会となり好評を得た。

②ホームページ等を活用した啓発活動

ホームページ、フェイスブック、リーフレット、ＮＰＯの会報等を通じてふくしま心のケアセンター及び相馬方部センターの活動について周知した。

③アルコールキャンペーン

南相馬市内３カ所の商業施設前で、アルコール啓発キャンペーンを行った。飲

酒量の増える年末年始の時期に、南相馬市社会福祉協議会、南相馬警察署、南相馬市、福島県相双保健福祉事務所と一緒に、飲酒運転や多量飲酒について注意喚起のためのパンフレットを配布した。

4）医学生・看護学生の研修・実習の受け入れ

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、地域家庭医療学講座、福島県立医科大学看護学部、米国マウントサイナイ大学、相馬看護専門学校、筑波大学、南相馬市立病院初期研修医、公立相馬総合病院初期研修医、獨協医科大学医学部、福島県立矢吹病院職員等を受け入れた。

5）関係団体との連携

福島県相双保健福祉事務所との会議の他、新地町仮設住宅入居者等支援関係者情報交換会、相馬市飯館村仮設住宅支援スタッフ定例会、相馬市災害弱者支援及びＰＴＳＤ対策情報交換会、南相馬市仮設住宅の支援者会議、障がい者支援を行う事業所の地域ミーティング、相馬フォロアーチーム(スクールカウンセラー)との情報交換会を行っている。

6）ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業(アルコール･プロジェクト)

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された事業で、いわき地区、相双地区で2014年より組織化され実施された。詳細は当センターホームページを参照されたい。

7）講師を招いた事例検討会

職員を対象に、会津医療センターの精神科医、井上新平氏をスーパーバイザーに迎え、月に１回、計10回の事例検討会を行った。これまでの支援経過を振り返り、本人やその家族との関わり方、今後の課題やアプローチについて指導を頂いた。

5．今後の展望と課題

相双地区では、2016年の春に南相馬市小高区の避難解除が予定されている。小高区の避難解除や帰還の問題は、生活の不安や家族の離散や統合の課題など、新たな問題や先延ばしにしてきた課題への直面化をもたらすと考えられる。また、帰還後の見守り支援体制も大きな課題である。当方部センターは、帰還後にどのような状況となるのかが不透明な中で、一足先に帰還した広野町や川内村、楢葉町の支援の情報を他の方部センターと共有しながら、帰還に向けてどのような支援や準備をする必要があるのかを模索している。

被災者支援は中長期支援に移行し、被災直後の課題に対応するだけでなく、地域のコミュニティ作りも課題となっている。東日本大震災ならびに原発事故による影響は今なお続き､特に以下の方々は大きな影響を受けている。例えば高齢者、子ども、引きこもりや不登校、障がい者、ひとり親家庭、遺児・孤児、被災遺族や自死遺族、アルコール関連問題やギャンブル依存症問題などを抱えた方などがあげられる。地域における課題は多く、こうした方々をサポートする社会資源は

少ない。限られた社会資源の中で、いかに支援していくかを改めて考えていかなければいけない時期にきていると考えられる。

これらの課題や問題意識を行政や関係機関と共有していくことで、新しい社会資源の可能性や既存のサービスの活用につなげ、地域全体の課題への対応力を高めていく必要がある。

参考文献

ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業（アルコールプロジェクト）
平成 26 年度　報告書
http://kokoro-fukushima.org/wp/wp-content/uploads/2015/05/alcoholproject_h26.pdf（2015. 9. 30 アクセス）

⑦いわき方部センター活動報告

【石塚幸作、植田由紀子、袰岩弘起（臨床心理士）
鈴木恵美子、東條仁美、山内美智子（看護師）
西山志乃、真鍋博（精神保健福祉士）
谷口博己、本田順一（社会福祉士）
泉真実子（事務員）】

１．概要

１）いわき地域の状況

東日本大震災・原発事故から４年が経過した。今なおいわき地域の仮設住宅や借り上げ住宅には、双葉郡８町村と南相馬市より約 24,000 名注1)、いわき市内より約 3,800 名注1) の住民が避難生活を余儀なくされているのが現状である。

一方で、様々な分野に復興の具体的な進展があった。インフラの分野では、９月に国道６号線が３年６か月ぶりに全面開通、続いて 2015 年３月に常磐道が全面開通となり、いわき地区と相馬地区の移動時間が大幅に短縮された。原発事故による避難町村の動きとしては、楢葉町が 2015 年度内の帰町を発表し、６月から一部の役場機能を町内に復帰させた。住宅面は、地震や津波で家屋が倒壊した被災者向けの災害公営住宅（いわき市内 1,513 戸建設計画）が豊間・薄磯・四倉などで完成し、10 月より入居が始まり、原発事故による被災者向けの復興公営住宅（いわき市内 1,768 戸計画）が下神白・湯長谷などで完成し、2015 年２月より入居が始まった。

２）いわき方部センター（以下、当方部センター）の活動

2014 年度は、専門員９名（看護師２名、臨床心理士３名、精神保健福祉士２名、社会福祉士２名）、事務員１名の計 10 名の職員体制で活動を開始し、2015 年１月より新規採用の看護師１名を加え 11 名体制となった。

当方部センターは、2013 年度から業務依頼のルートを福島県相双保健福祉事務所いわき出張所（以下、いわき出張所）経由に加え、市町村から直接依頼を受けるルートを設けた。昨年度は関係機関との関係性の構築を中心に活動してきたが、今年度は市町村などが主催する連携会議（保健福祉関連）への参加や、医療・福祉分野などとの連携を中心とするソーシャルワーク活動によって、関係機関との関係性が深まり、業務依頼が徐々に増えてきた。

２．活動報告

１）個別支援

2014 年度の個別支援の合計件数は 805 件である。内訳は、健康調査が 67 件、個別訪問が 326 件、電話相談や来所相談が 258 件、健診時のよろず相談が５件、相談拠点に出向いての面談等が 133 件、ホールボディカウンター検査時の相談会における面談等が 16 件である。件数の昨年度比は、健康調査が 60.1％減、個

別訪問が 182.1％増であり、状況確認を目的とした訪問活動からメンタルヘルスに不調をきたしている住民のケアを目的とした訪問活動へニーズがシフトしてきたと言える。ホールボディカウンター検査の相談会とは、県外に避難している住民向けのホールボディカウンター検査時に心とからだの相談ブースを設け、来場された住民の個別面談を実施するもので、今年度から福島県の依頼で始まった事業のひとつである。

継続的に相談対応している実数（90 名）を元に、属性の分析をする。男女別は、男性が 33 名（36.7％）、女性が 57 名（63.3％）であり、男女比は約４：６で女性が多い。年代別は、９歳以下が３名（3.3％）、10 代が６名（6.6％）、20 代が６名（6.6％）、30 代が 16 名（17.8％）、40 代が 11 名（12.3％）、50 代が 16 名（17.8％）、60 代が 11 名（12.3％）、70 歳以上が 16 名（17.8％）、不明が５名（5.5％）である。性別と年代別で最も多かったのは、50 代の女性が 12 名（13.3％）であり、30 代と 70 歳以上の女性が各 10 名（11.1％）、60 代の男性が７名（7.9％）と続く。

相談方法は、訪問が 76 名（84.4％）、電話相談が７名（7.8％）、来所相談が７名（7.8％）である。

相談場所は、借上げ住宅が 39 名（43.3％）、自宅が 29 名（32.2％）、仮設住宅が 18 名（20％）である。昨年度は、借上げ住宅が 76.6％であり大半を占めていたが、今年度は 3.9％だった自宅が 32.2％に増えている。これは、支援の対象者が借上げ住宅を出て自宅やマンションを購入するケースが増えているためと考えられる。今年度から復興公営住宅や災害公営住宅の入居が始まっているが、今のところ対象者の中に入居者はいない。

相談契機は、市町村からの依頼が 60 名（66.8％）、いわき出張所が 22 名（24.1％）、それ以外が７名（8.8％）である。

相談背景は、家族･家庭問題が 30 名（33.3％）、健康問題が 23 名（25.6％）、失業･就労問題が 13 名（14.5％）、住環境の変化に関する問題が９名（10％）などである。昨年度一番多かった住環境の変化に関する問題は４番目だった。借上げ住宅や仮設住宅での生活環境に慣れてきて家族内の問題や健康問題など他の要因へシフトしている。

症状別では、不安が 26 名（28.9％）、不眠が 20 名（22.2％）、抑うつが 19 名（21.1％）、イライラが 15 名（16.7％）などであり、昨年度とほぼ同じ割合であった。性別や年齢層などを鑑みると、中高年の女性が、子ども・配偶者・高齢の両親などの世話をしながら健康問題を抱えて生活している姿が浮かび上がる。

２）集団支援

①サロン活動

様々な団体や自治体などが主催するサロン活動のバリエーションは豊富に充実してきていた。発災後３年目というのは、気持ちの張り詰めた時期を過ぎ、心身面に変化を生じやすい時期でもある。そうした懸念から、当方部センターでは睡

眠・ストレス・リラクゼーションなどのテーマで「心の健康講話」を行った。内容は堅苦しい講義形式ばかりではなく、紙芝居・クイズ・寸劇などを取り入れて参加者と対話しながら気軽に楽しめるように工夫した。

今年度から始まった新しいサロン活動として、いわき市平地区保健福祉センターが主催する豊間・薄磯災害公営住宅におけるリラクゼーション教室がある。当方部センターの役割は、参加された住民のストレスチェック（Ｋ６というチェック項目を使用）、ストレスや睡眠などの健康講話、呼吸法や筋弛緩法などのリラクゼーション法の紹介である。

②子育て世帯の支援

子どものすこやかな発達を支えることは、どのような状況においても地域の重要な役割である。しかし、災害に見舞われたことでコミュニティが分断されていたり、特に地域ごとの避難を余儀なくされている状況においては、これは容易ではない。当方部センターでは子育て世帯の支援を重要な支援と位置づけ、主に３つの事業に取り組んだ。

【相双地域あそびの教室】

いわき出張所が主催している事業で、当方部センターからは臨床心理士を派遣した。双葉郡町村と南相馬市の子どもを対象にしており、遊びを通じて子どもの様子をみて、対応の仕方を共に考えたり、子どもと保護者が一緒に課題遊びをするなどの活動である。

避難によって、身近に相談できる相手がいない保護者も多く、このような集まりを通じて、保護者の不安軽減にも役立ち、またその子どもの発達を支えることに繋がる重要な取り組みである。

【浪江町かもめっ子クラブ】

浪江町の依頼によりＮＰＯ法人ハートフルハート未来を育む会が主催する事業で、当方部センターからは臨床心理士、看護師、精神保健福祉士、社会福祉士などを派遣した。対象は、おおよそ３歳以下の乳幼児と保護者である。

構成は、前半は親子遊びで、後半は保護者同士の語らいの場の二本立てである。親子遊びは、スキンシップが中心の遊びと、普段外遊びがあまり出来ていない子どもたちの運動不足の解消やストレスの発散ができるような遊びを保育士の指導のもとで行う。保護者同士の語らいの場は、子どもたちは保育士らが託児を担い、母子分離した保護者の輪の中に、臨床心理士らがファシリテーターとして参加する。子育てに追われて自分の気持を話す時間を持てない方も多く、そのうえストレスがかかる避難生活では心労が大きい。ここでは、保護者同士の気持ちの吐露、子育てや日常生活などの情報交換ができる時間を重要視しつつ、同じ避難者であるという意識によって普段話しにくい避難生活や放射線に対する不安などが安心して語られている。

【双葉町ママサロン】

いわき市内に避難している子どもと保護者の交流および情報交換を目的とし、

双葉町の依頼により支援している活動である。避難生活のため身近に相談できる相手がいない不安や、育児に対する不安などを傾聴し、保護者同士の交流やいわき市内にある子どもの遊び場などの情報を提供している。

３）支援者支援

現場の支援者は、支援者であると同時に被災者である方が多く様々な負担を抱えやすい。また、他県からの派遣などで被災地へ来ている支援者や震災後初めて対人援助職に就いた支援者も多く、環境の変化や仕事量の増加などからストレスを抱えやすい状況にある。当方部センターにとって、支援者をサポートする活動は、重要な役割と位置づけてきた。

訪問活動や事業などのサポートの他、支援者の相談対応を行った。職員のスキルアップ研修会では、勉強会方式で講義を行ったり、困ったケースの事例検討などの活動を行った。各組織、支援者の状況やニーズに応じて柔軟に対応するために、支援に入る前に十分なニーズの把握やコーディネートが必要だった。

①富岡町社会福祉協議会スキルアップ研修会

富岡町社会福祉協議会スキルアップ研修会へ講師を派遣した。主催はいわき出張所で対象は生活支援相談員である。内容は、傾聴や共感などの面接技術や支援者の守秘義務などの基礎的なものから、事例検討や具体的な場面設定をしたロールプレイなど実践的なものとした。

研修会後のアンケートによれば、「役立った」とする回答が 90％（９名）、次年度の研修会に「参加したい」、「どちらでもない」が合わせて 90％（９名）となり、一定の評価を得られたと言える。

②健康診断支援

震災後の避難により、被災自治体にとって住民が県内外に拡散している状況にあるため、自治体で行う総合健診は住民が集まる重要な機会でもある。住民の健康が心配される中、当方部センターとしても積極的な支援を行った。

大熊町、双葉町、浪江町の健康診断では、看護師を派遣し問診票のチェックや町の保健師のサポートを行った。

楢葉町の総合健康診断よろず相談では、「こころの健康度についてのアンケート」に基づきメンタルヘルスや健康面の心配がある住民の相談を受けるブースを設け、相談員として臨床心理士を派遣した。

③相談対応

支援者は仕事上、住民を支援する役割を担っているが、実生活では被災者でもある。支援者であり被災者でもある二重のストレスがかかっている状態であり、個別面談を通じてメンタルヘルスのチェックや必要に応じて継続的なケアに繋げる活動を３団体で計 11 回、138 人を対象に行った。

④事例検討会

今年度の当方部センターでは、市町村が抱える困難事例に対して外部講師やケ

アセンターの顧問による事例検討会を５回実施した。ＤＶの事例では武蔵野大学教授、小西聖子氏、アルコールの事例では肥前精神医療センター精神科医の武藤岳夫氏より助言を頂いている。

４）普及啓発

メンタルヘルスに関する普及啓発は当センターの大きな活動目標のひとつである。被災にまつわる現実的な問題の対処に懸命でメンタルヘルスに目を向ける余裕がなかったり、抵抗があるなどまだまだ普及啓発の課題は山積している。

①研修会の開催

今年度は当方部センターとして初めて一般住民向け研修会を実施した。広く市民に向けて「メンタルヘルス」、「心身の健康」について啓発するための企画として福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターと協働して開催した。

表１　研修会の詳細

対象者	活動内容
一般住民向け	2014 年 10 月 25 日 ふくしま心のケアセンター公開講座「笑いと健康」 講師：福島県立医科大学医学部疫学講座 教授　大平哲也氏
専門職向け	2014 年８月４日 「もしかしてＤＶ？ＤＶの基本の理解と私たちにできる事」 講師：武蔵野大学人間科学部大学院人間学専攻 教授　小西聖子氏
	2014 年 11 月６日、７日 「ＳＰＲ (Skills for Psychological Recovery) 研修会」 講師：兵庫県こころのケアセンター　研究主幹　臨床心理士 ＰＦＡ／ＳＰＲ認定トレーナー　大澤智子氏
専門職向け ：共催	2014 年７月４日 「援助職のためのストレスケア」 講師：甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授　瀬籐乃理子氏 共催依頼元：ちるさぽ☆ＦＵＫＵＳＨＩＭＡ

②講師派遣・シンポジスト派遣・学会発表など

当方部センターではストレスとの付き合い方やメンタルヘルスに関する講演の依頼を受けている。中でも、いわき市の依頼により「市役所出前講座」への講師派遣が多い。「市役所出前講座」とは、いわき市民の自発的な生涯学習を支援するため、いわき市がかかわっている仕事を学習メニューとして取り揃え、市職員が講師を「出前」する講座である注2)。

表２　講師派遣の詳細

依頼元	講演内容
いわき市障がい者職親会	2014 年 7 月 16 日 「福島県といわき～いわき市内の就労関係機関との連携の在り方～」
就労移行支援事業所つばさ	2014 年 8 月 20 日 「アサーション～より良い人間関係へ～」
けやきの会	2014 年 11 月 30 日 「認知行動療法について」
いわき市	出前講座「ストレスとの上手な付き合い方」 ① 2014 年　5 月　8 日（スペースけやき） ② 2014 年　6 月12 日（好間公民館女性セミナー） ③ 2014 年　8 月　6 日（東北電力　いわき技術センター） ④ 2014 年11 月　4 日（ハートフルなこそ）
	「精神疾患の基礎知識」 ① 2014 年　5 月22 日（平地域包括支援センター） ② 2014 年10 月21 日（いわき市内ヘルパー対象）
	2014 年 10 月 1 日 「職場のメンタルヘルス」（給食担当職員向け研修会）
広野町	2014 年 6 月 25 日 「訪問について」（食生活改善推進委員会）
双葉町	2014 年 7 月 2 日 「対人援助職向けのストレスに対するセルフケア」（職員研修） 2014 年 8 月 26 日「話の聴き方のコツ」（職員研修）
浪江町	2014 年 10 月 7 日「浪江町民生委員研修会」
福島県相双保健福祉事務所いわき出張所	2014 年 11 月 20 日「コミュニケーションスキルについて」 （福島県地域保健福祉職員新任研修フォローアップ研修会）
	計　15 回

表3　シンポジスト派遣・学会発表の詳細

区分		講演内容
シンポジスト派遣	宮城県アディクション関連問題研究会	2014年4月10日 「福島のアディクションについて」
	東北アルコール関連問題ＡＳＷ研修会実行委員会	2014年5月17日、18日 「震災から4年目を迎えて～それぞれの地域から見えてきたもの～」
	福島県立医科大学（ＩＡＥＡ）	2014年5月21日 ＩＡＥＡカンファレンスプレゼン発表
	日本思春期学会	2014年8月31日 第33回日本思春期学会総会・学術集会 「ジェンダーとセルフ・スティグマ～福島でおもうこと～」
	厚生労働科学研究	2014年10月18日 「大規模災害復興期の支援者のメンタルヘルスと支援」 （厚生労働科学研究費：松岡班　第2回公開シンポジウム）
	未来会議 in いわき	2014年11月8日 第3回未来会議「ふくしま心のケアセンターいわき方部センターの活動概要報告」
	福島県精神保健福祉協会	2014年11月21日 第14回心うつくしまふくしまフォーラム 「たゆまなき復興のために　～新たに見えてきた課題～」
	厚生労働科学研究	2014年12月18日 「被災地における精神障害等の状況把握と介入効果の検証及び介入手法の向上に資する研究」班会議
	愛知県	2014年12月19日 「原子力災害時に住民等への対応に当たる者に対しての心のケアやリスクコミュニケーションに関する講演」
学会発表	シンポジスト	2014年5月17日、18日 第13回日本トラウマティックストレス学会 「被災地におけるアウトリーチ・サービス～その前にあるもの、先にあるもの～」
	ポスター発表	2014年5月17日、18日 第13回日本トラウマティックストレス学会 「福島県沿岸部自治体職員に対するメンタルヘルス調査結果」
		計11回

３．今後の課題と展望

今後の課題と課題からみえる2015年度の活動目標を記す。

１）今後の課題

①コミュニティの変化

発災後、約４年を経てなお避難住民の移動、役場の移転も見込まれる。今後は復興住宅への入居等も徐々に進む見込みであるが、それぞれに新たなコミュニティの構築が必要となる。それに伴い、新たな支援者が活動を開始するなど、常に変化に対する柔軟な対応が必要である。

②メンタルヘルスの問題を予防する活動

特にアルコール関連問題、自死に関しては、過去の震災からも発災後３年以降の増加が懸念されており、一般住民、支援者への予防啓発活動が重要である。

２）来年度に向けた目標

・帰町や復興住宅への住民の移動など、今後さらにコミュニティの変化が見込まれる。コミュニティの変化、被災住民のニーズの変化をとらえ、柔軟かつ早急に対応する。

・コミュニティの変化に伴い新たなネットワーク構築も必要となるため、関係機関との連携と体制を強化する。

・今後ますますメンタルヘルスの問題（アルコールや自死など）や避難生活の長期化により生活習慣病等の増加も予想される。そのため、一般住民、支援者等に対して予防啓発活動を実施する。

【引用参考文献】

注１）いわき市ホームページ東日本大震災関連情報より
http://www.city.iwaki.fukushima.jp/info/002661.html

注２）いわき市ホームページくらしの情報より
http://www.city.iwaki.fukushima.jp/bunka/shogaigakushu/005494.html

⑧加須市駐在活動報告

【渡邊正道（精神保健福祉士）】

１．概要

加須市（双葉町埼玉支所）駐在は精神保健福祉士の１名体制で活動を行ったが、地域のニーズに応じ、駐在としての活動は 2014 年度で終了となった。

2012 年度は、臨床心理士と岡山県旭川荘から職員派遣の２名体制で、主に、双葉町健康福祉課からの指示による双葉町民への借り上げ訪問（加須市・埼玉県内・茨城県つくば市）、調査紙の郵送と面接による健康調査を行い、必要時は訪問や電話にて継続的支援を行った。

2013 年度は、臨床心理士１名、精神保健福祉士１名の２名体制で活動を行い、継続して関わっているケース支援と、双葉町民を含めた「埼玉県に避難している福島県民」へ支援を行うこととし、双葉町以外の避難元自治体から依頼を受けて個別支援活動を行った。また、多くの方が「保健・予防」活動の体験をすることを目標とした、加須市駐在が主催の集団認知行動療法のエッセンスを用いた集団活動を行った。

加えて 2013 年度は、双葉町の動きとして「役場機能の本体が福島県いわき市へ移転」、「双葉町埼玉支所が加須市騎西総合支所内へ移転」、「旧騎西高校の避難所の閉鎖」といった動きもあり、その動きに合わせた業務も双葉町の指示を受けて行った。

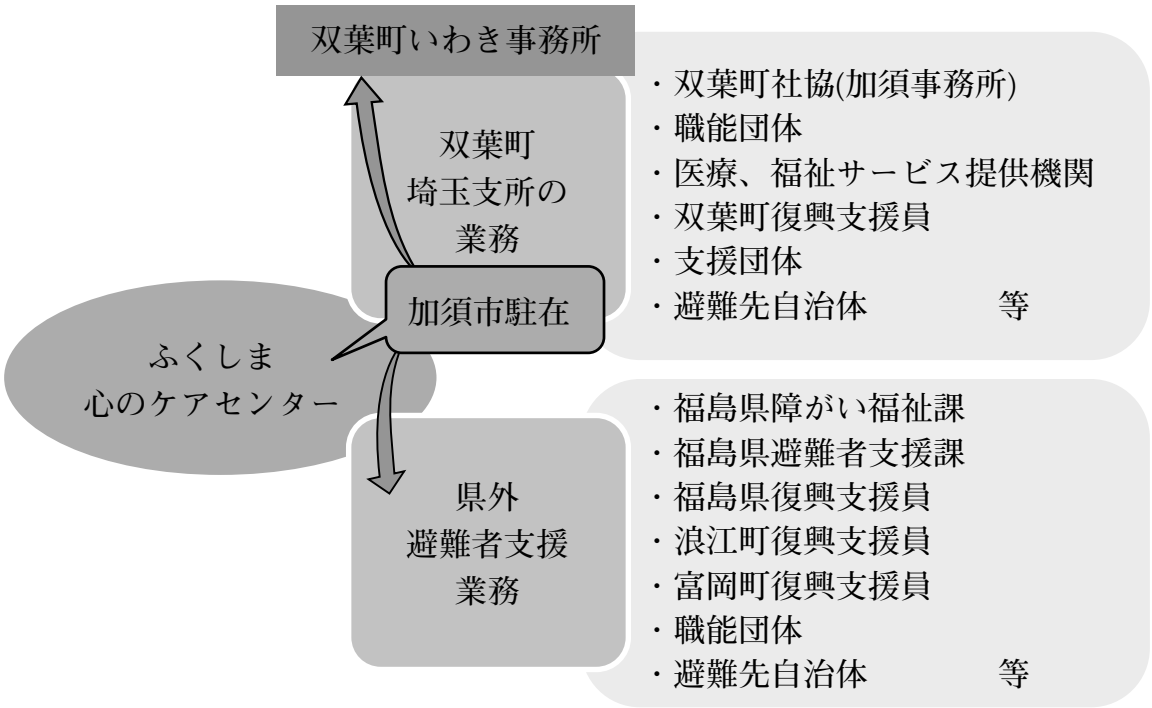
2014 年度は、加須市駐在としての支援の終了を見越し、直接的な支援活動は行わず、市町村や関係団体の活動に合わせて、同行訪問やケア会議の参加、その他の支援活動を行った。

2015 年 4 月現在、埼玉県に避難している福島県民はおよそ 5,500 人になっている。

２．活動実績

2014 年度の活動は、主に「双葉町埼玉支所を拠点とした支援」と「県外避難者支援」の２つの立ち位置で活動を行い、業務に応じて各関係機関と連携した。

連携については、【ケアセンターと関係機関の図】の様に、相談と介入等の依頼によって連携機関が異なっている。



【ケアセンターと関係機関の図】

1）個別支援

個別支援は、双葉町埼玉支所や双葉町社会福祉協議会加須事務所、埼玉県内で先行して被災者支援を行っている団体からの相談や依頼を受けて行った。なお、2014年度で活動が終了であるため、原則として他機関との連携を取りながら支援を行った。

①双葉町職員（保健師等）、双葉町社協職員（包括・生活支援相談員等）と同行訪問、面接への同席

双葉町の指示を受け、生活状況の確認や相談対応の為、同行訪問、本人や家族と保健師の面接への同席、電話対応等を合わせて116件行った。中でも、リスクが高い、生活支援が必要と判断された場合には、継続支援へ移行し、町の保健師と一緒に同行訪問等の支援を行った。

②県外避難者支援を先行して行っている団体との同行訪問

支援団体からの相談や依頼を受け、必要に応じて同行訪問を行った。なお、継続が必要と判断される事例については、避難先社会資源の導入を視野に入れた支援を行った。

③まとめ

2014年度は、現状の立場から「アセスメント」と「今後の支援の見立て作り」が個別支援においての主な役割であり、具体的には受診勧奨、社会資源の活用、見守りの体制作り、生活支援を関係機関と連携して行った。

必要とされる支援と状況（行き届かない、支援への不信感等）は様々であり、「震災対応の支援と既存の地域精神保健の併用」を一つ一つのケースに合わせて検討し、時には避難先の社会資源と共に、役割を明確にしながらの対応が必要であった。

環境が動的であるため、今後も状況に合わせた対応の検討は必要であると考える。

２）集団支援

集団支援についても個別支援同様に、双葉町埼玉支所や双葉町社会福祉協議会加須事務所、埼玉県内で先行して被災者支援を行っている団体の集団活動に参加し、必要に応じて相談対応を行った。

①双葉町、双葉町社協が開催の集団活動に参加

主に社協開催のサロンやイベントに参加し、運営の手伝いや必要に応じて相談対応（18件）を行った。

②県外避難者支援を先行して行っている団体が開催の集団活動に参加

「相談窓口」として、県外避難者支援を先行して行っている支援団体が主催の広域のサロンに参加した（１件）。

③まとめ

集団活動時は「相談窓口」としての役割が主な役割であったが、窓口としての対応はほとんど無かった。

ただ集団活動に参加することは、個別支援をしている方や家族と関わる機会にもなり、日々の業務にもつながった。また、集団活動の効果をあげるといった役割も担うことがあった。

集団活動に参加していない、あるいは参加出来ない方も多くおられるので、震災対応の支援と既存の地域精神保健を併用しながらの活動が必要であると考える。

３）支援者支援

①双葉町

駐在としての性質上、業務そのものが支援者支援である。

双葉町と双葉町社協職員との同行訪問、集団活動の支援等に加え、ケースの支援状況の報告会議（月２回の定例会）に参加し、支援や関わりについて一緒に考える時間を共有し、必要時の相談対応を行った。

②県外避難者支援

2014年度は、ほとんどの業務が支援者支援であった。

支援者団体が先行して行っている訪問事例についての事例検討と相談対応、支援者育成として疾患やコミュニケーションスキル等のテーマでグループワークを定例で行った。

③まとめ

駐在として埼玉支所内に席を置かせて頂いたこと、定例会で定期的に関係者が

会う機会があることで、お互いの負担が少ない状況の中、小まめな情報共有と、支援を一緒に考えることが出来たと思う。

また、会議以外の場面で話し合いが出来ることで、円滑な個別支援にもつながっていた。

「身近で素早い相談対応」の支援を行い、悩む時間と業務そのものの時間を減らすことが出来たことが駐在の支援者支援であり、それが被災者支援にもつながったのではないかと考える。

３．関係機関との連携について

前項の【ケアセンターと関係機関の図】のように双葉町埼玉支所と関係機関と連携して活動を行った。また、2014年度の立場上、支援者支援が主な活動であり、関係機関との連携が無ければ加須市駐在活動は出来なかったと言える。

また、３年間の活動においても、双葉町や福島県だけでなく、加須市、埼玉県加須保健所、支援団体、医療機関との連携があったことで、活動をさせて頂くことが出来ていた。

４．今後の展望と課題

2014年度で加須市駐在は終了であるが、心のケアの視点から言えばまだまだ課題があり、今後も新たな課題とその対応に合わせた支援が必要であると考えられる。

上記の状況で活動終了が決まっていたが、住民の方々や連携を取って頂いた関係機関と方々のおかげで、加須市駐在の業務は成り立ち、震災対応の支援と既存の地域精神保健の併用の視点を持ちながら、柔軟に活動することが出来ていた。

末筆ながら、心のケアの支援をする立場でありながら、様々な点でケアして頂いた時間の方が多く感じた加須市駐在の活動だった。

県民の皆様、双葉町をはじめ関係市町村、機関の皆様ご健勝とご多幸をお祈りすると同時に、厚くお礼を申し上げます。

２　ふくしま心のケアセンター
被災者相談ダイヤル
「ふくここライン」

ふくしま心のケアセンター被災者相談ダイヤル「ふくここライン」

【基幹センター：落合美香（臨床心理士）】

はじめに

被災者相談ダイヤル、愛称「ふくここライン」（以下、まとめて「ふくここライン」とする）は、当センター基幹センター内に専用回線を設置し、2012（平成24）年11月19日に電話相談を開始した。「ふくここライン」は、土日祝日、年末年始を除く月～金曜日の9:00～12:00、13:00～17:00に、精神保健福祉士、臨床心理士などの基幹センター専門員が交代で電話相談を受けている。

ここでは、2014年度（2014年4月から2015年3月まで）に「ふくここライン」で受けた電話相談の実績について報告する。

1. 相談件数

2014年度に「ふくここライン」で受けた電話相談の件数は156件であった。相談者の性別は、男性40件（26％）女性116件（74％）で、どの月も女性からの相談が多かった。2012年度に「ふくここライン」が設置されて以降、年間相談件数は増加を続けており、被災者のおかれた状況の厳しさは続いているものと推測される（図１･図２）。なお､毎年２月の相談件数が他の月と比較して増加しているのは、2012年度は市町村等にPRした結果、また、2013－2014年度は県民健康調査票に「ふくここライン」の案内を同封し、周知した影響である。

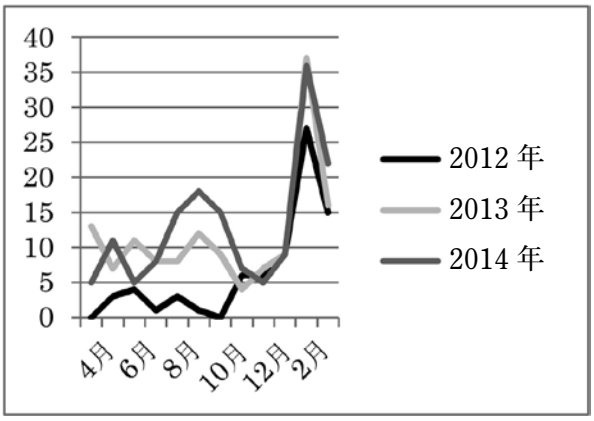


図1　月別相談件数

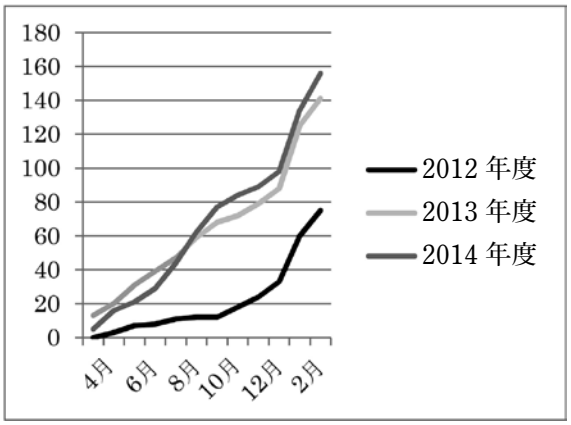


図2　相談件数（積算）

2. 震災・原発事故との関連

次に、相談の内容と震災･原発事故との関連について見ていく。相談の中で震災･原発事故に関連すると明らかに判断できたものは104件（67％）である。これは「ふ

くここライン」を開始して以来年々低下している。しかし、震災との関連を明確に否定した上での相談は少ないため、相談者の関心が被災したこと・避難したことから、現在の生活環境の中での具体的な悩みに変わりつつあり、電話相談の中では震災との関連が不明確な話題が増えているものと推察される。

３．相談時間

１回の電話相談にかかる相談時間は､10 分以内（25％）が約 1/4 を占めている（図3)。相談時間が 10 分以内のものには、県民健康調査に関する問い合わせ、甲状腺癌や賠償等の相談窓口の照会、医療機関受診の迷いや医療機関紹介の依頼、うつ病や認知症などの精神疾患に関する相談などがみられた。

一方で、30 分以上（計 23％）の相談では、避難先や新しい住居での現在の生活に関する問題､家族･夫婦関係や家庭内の問題､賠償金等に関連した人間関係の問題、精神疾患や精神症状に関すること、行政に対する不満などがあった。相談時間は時に２時間以上にわたることもある。相談の中から、避難先には体験や感情を共有できる相手がいない、生活環境の変化や金銭的な問題で家族内や隣人、同僚といった身近な人との人間関係が悪化し､孤独感や孤立感を強めている被災者の姿が伺えた。

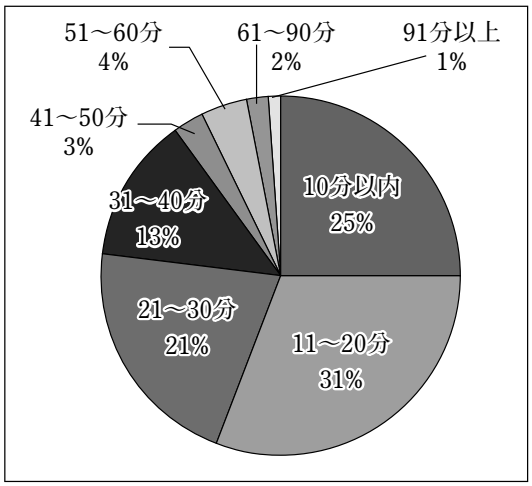


図3　相談時間

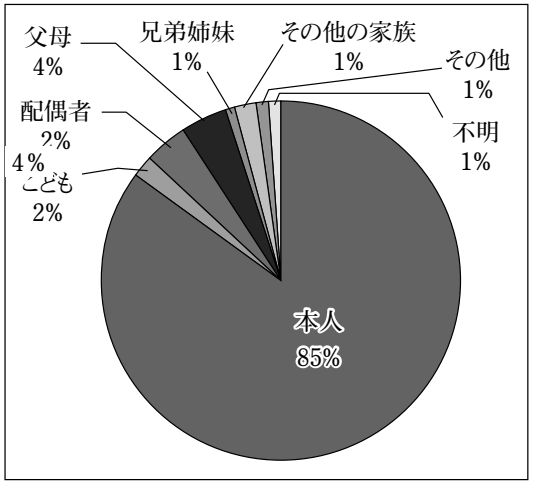


図4　相談対象者

４．相談対象者

電話をかけた相談者が、実際には誰の相談をしているか（以下「相談対象者」とする）を見ると、相談者本人が電話をする割合が 85％と最も多かった（図４)。それに続き、配偶者（４％)、父母（４％）と、相談対象者と近い関係にある家族からの相談がほとんどを占めている。

５．相談対象者の居住地

相談対象者の多くが避難元住所（震災･原発事故発生時の住所）と現住所が異なっている（図５）。「ふくここライン」の相談対象者は、とりわけ相双地域に避難元住所があった方を中心に、多くが今もなお県内外に避難している現状が伺える。

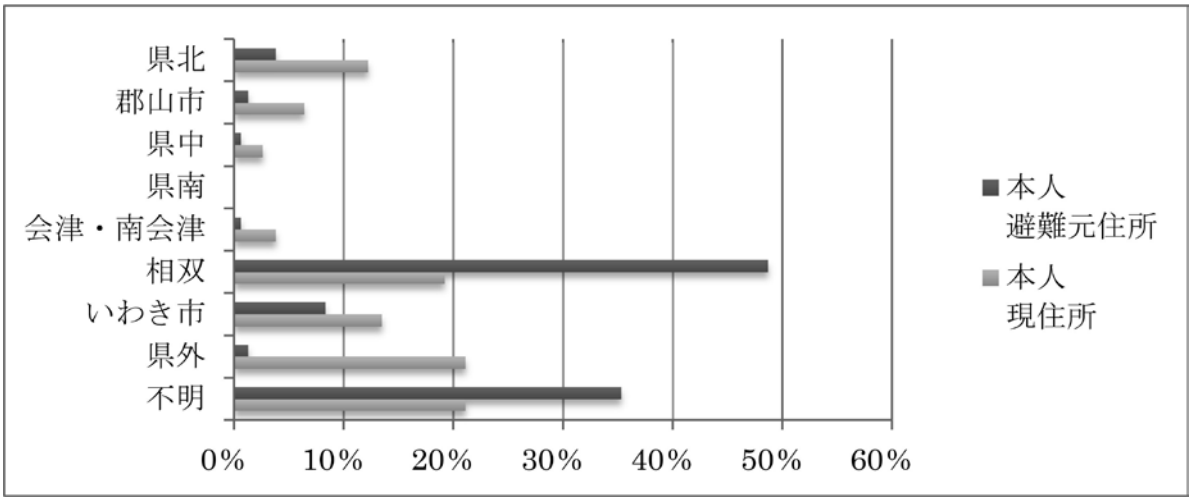


図5　相談者の居住地

６．相談内容

「体の不調に関すること」が全体の約 1/4 を占めており、長期化する避難生活で心身の不調や不眠に悩む避難者が多いことが伺える（図６）。また､漠然とした「将来不安・生活不安」（８％）や「震災・原発被害に関する喪失・ストレス」（８％）は時間の経過と共に漸減傾向にあるが､「避難生活に関すること」（13％）は変わらず、避難者が避難先でさまざまな困難に直面していることが伺える。

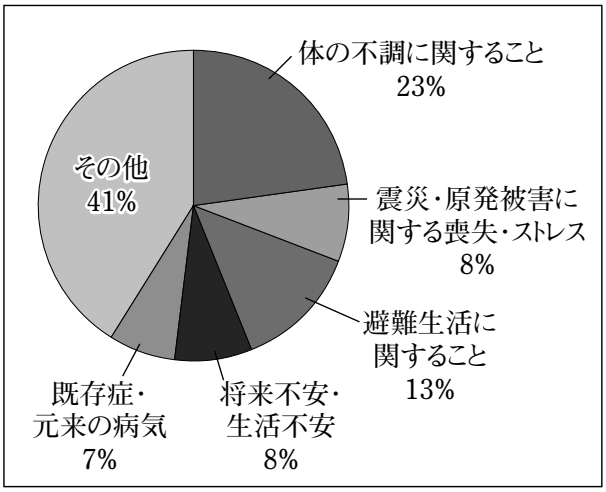


図6　相談内容

７．連携

「ふくここライン」では、相談に対して主に傾聴で対応しているが、相談員がお話を伺っている中で直接支援が必要と判断した場合は、受診勧奨、他機関相談窓口紹介、あるいは当センター方部センターの案内等を行っている。紹介先の他機関には、避難元・避難先自治体、県内外の精神保健福祉センター、県内外の保健所・保健福祉事務所、社会福祉協議会、法テラス、女性のための相談支援センター、家庭裁判所、放射線医学県民健康管理センター、他県の心のケアセンターなどがある。2014 年度に、「ふくここライン」から当センター方部センターに繋いだケースは 3 件あった。

おわりに

震災から 3 年以上が過ぎてもなお、2 割以上が県外からの相談者である。「ふくここライン」が、福島県で活動している電話相談窓口として、また、被災者が安心して話せる場としての役割を果たしていると感じている。電話支援の限界はあるが、今後も「ふくここライン」が県内外の被災者の心のケアの一助となるよう活動していきたい。

３　ふくしま心のケアセンター
相談等の件数及びその分析

ふくしま心のケアセンター相談等の件数及びその分析

【基幹センター：昼田源四郎、内山清一、高橋悦男】

1. 被災状況（図1～2）

相談者の被災状況全体をみると、自宅からの強制的退去3,177名（45.4%）が最も多かった。次いで多かったのは、家屋の倒壊685名（9.8%）による避難だった。

中でも相馬方部センターでの支援実績によると、巨大津波による被害も大きく、家族の死亡･行方不明が224名（6.8%）、家屋の倒壊による避難が555名（16.8%）、さらに被ばくを避けるための自宅からの強制的退去が725名（21.9%）と多かった。

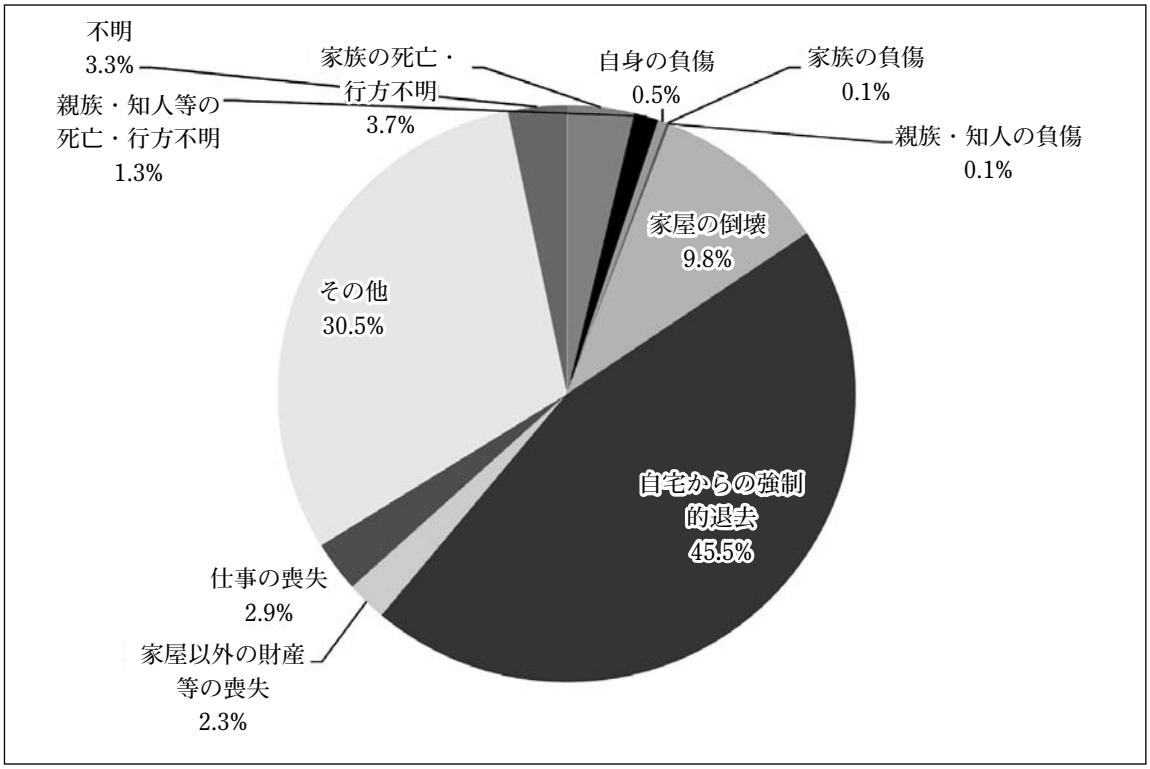


図1　被災状況（全体）

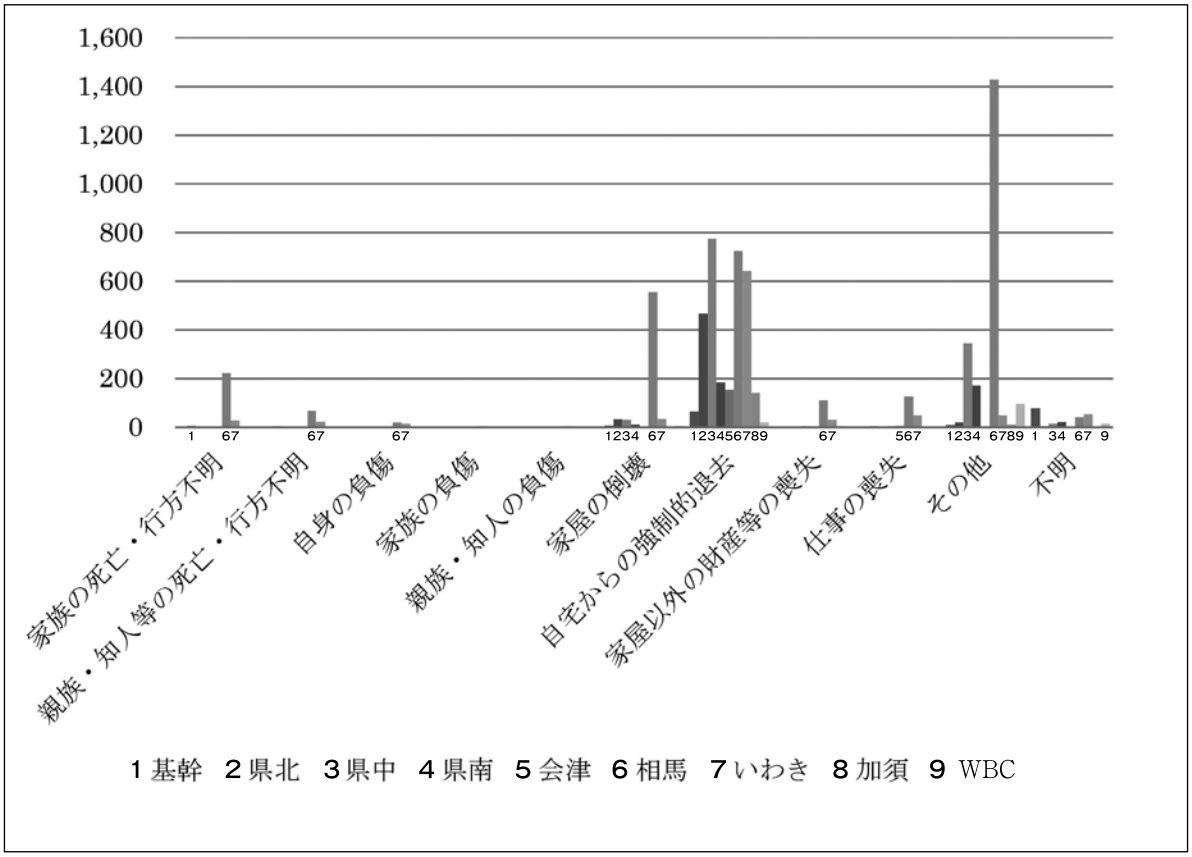


図2　被災状況(方部別)

２．被災者支援

１）相談支援（表１～３、図３）

当センターが2014年度（平成26年）に実施した相談支援活動の対象人数は、毎月441名～728名（月平均：514名）だった。その中でも、訪問による支援が70.4%を占めているのが、アウトリーチ活動を中心とする当センターの特徴といえる。

方部別に年間相談支援人数をみると、相馬方部センターが2,726名（全方部の44.2%）と最も多く、次いで県中方部センターが1,167名（18.9%）となる。これら２方部で、センター全体での相談支援人数の63.1%を占めている。

(相談支援人数＝訪問・来所による相談・電話相談・集団活動での相談＋その他の相談)

表1　2014年度：心のケアセンター相談支援人数・集団活動

報告月	相談支援人数									計	サロン活動	
	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	県外避難者への支援		開催回数	参加人数
4月	5	36	87	25	14	200	53	21	22	463	45	605
5月	11	28	63	23	30	228	47	13	10	453	55	585
6月	5	41	91	41	23	259	70	28	36	594	70	732
7月	8	40	103	35	12	263	60	22	3	546	69	632
8月	15	45	65	31	10	251	47	11	34	509	64	580
9月	18	43	246	32	11	238	124	5	11	728	76	831
10月	16	55	109	20	12	245	59	25	11	552	67	893
11月	7	47	82	23	8	220	65	10	6	468	72	633
12月	6	51	85	45	7	228	55	5	6	488	57	542
1月	9	49	88	43	9	181	53	9	0	441	61	567
2月	36	37	71	54	13	188	65	3	0	467	65	610
3月	22	40	77	18	7	225	59	7	0	455	52	589
計	158	512	1,167	390	156	2,726	757	159	139	6,164	753	7,799

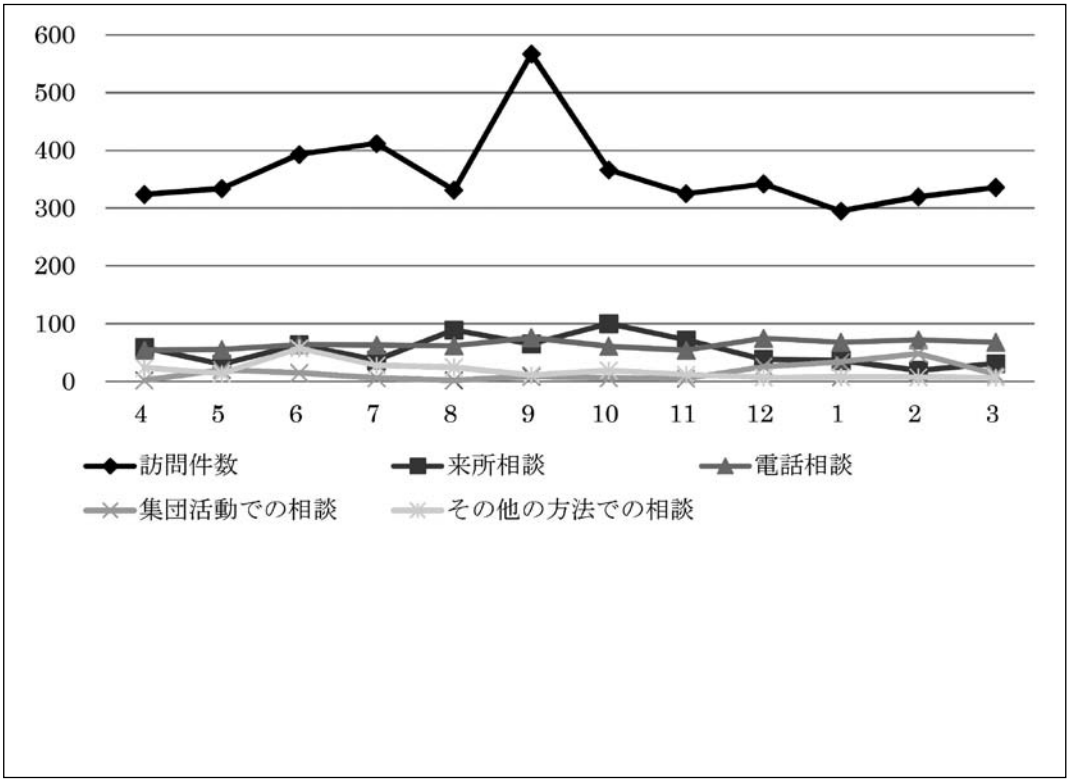


図3　相談支援人数月別）

相談支援人数を、方部別に2014年度（表１）と2013年度（表２）で比較すると、相馬方部で前年度比で1,180名（31.7％）の増加で、南相馬市駐在の廃止による減を相殺しても299名の増加である。会津方部を除き各方部とも相談支援人数は増加している。

表２　2013年度：心のケアセンター相談支援人数・集団活動

報告月	相談支援 人数									計	サロン活動	
	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	南相馬	加須		開催回数	参加人数
４月	13	41	78	19	73	129	2	79	19	453	94	985
５月	7	51	87	41	90	163	14	100	21	574	103	1,097
６月	11	30	84	38	80	133	16	78	17	487	109	1,047
７月	8	32	72	35	88	139	37	84	7	502	90	1,073
８月	8	36	65	37	80	117	41	55	6	445	86	963
９月	12	36	84	18	73	107	31	45	5	411	94	1,029
１０月	9	44	91	17	62	145	45	68	25	506	77	868
１１月	4	51	93	30	49	112	36	56	19	450	65	712
１２月	7	61	91	13	59	102	24	85	9	451	65	696
１月	9	39	87	27	76	130	18	44	2	432	64	627
２月	37	28	55	22	56	131	31	49	1	410	63	553
３月	16	26	68	10	40	138	55	75	17	445	68	928
計	141	475	955	307	826	1,546	350	818	148	5,566	978	10,578

２）相談支援の回数および実人数

表３に見るように、相談支援をおこなった実人数は計1,609名で前年と比べて223名の増加となる。

方部別の相談支援実人数では、県中方部センター（560名）と相馬方部センター（370名）などが多い。

対象者１名あたりの年度内の平均支援回数（表４）は、相馬方部センター（7.4回）、県北方部センター（5.8回）、加須市駐在（4.5回）、県南方部センター（4.2）回であり、全方部でみると対象者１名当たり平均3.7回の相談支援をおこなっている。

来所相談の実人数は、県中方部センター（148名）、相馬方部センター（66名）、いわき方部センター（55名）が多い。これは県外におけるホールボディカウンター検査による内部被ばく検査の際に、同時に実施された相談会（以下、ＷＢＣとする）で、計130名への面接を行った回数が加算されているために、合計の面接人数が大きくなっていることが一因である。

表３　方部毎の相談支援実人数

2014年度		方部毎相談支援実人数								計
		基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	
		146	88	560	93	73	370	246	33	1,609
内訳	訪問	0	68	389	31	32	245	151	25	941
	来所	2	4	148	20	7	66	55	3	305
	電話	144	7	10	6	4	33	26	1	231
	集団活動の中での相談	0	3	0	27	26	1	0	3	60
	その他	0	6	13	9	4	25	14	1	72

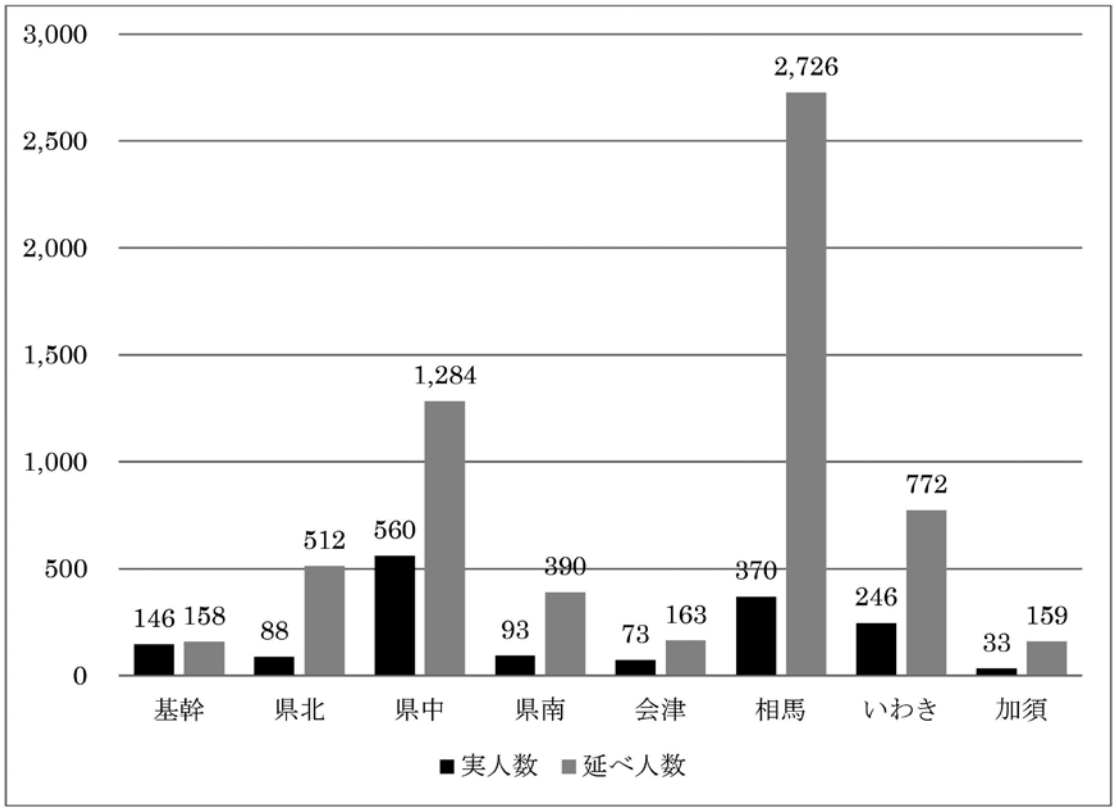


図４　相談支援回数（方部別）

表４　方部別訪問回数

方部別		基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	計
実人数		146	88	560	93	73	370	246	33	1,609
延べ人数		158	512	1,284	390	163	2,726	772	159	6,164
訪問回数	1	134	23	405	32	46	127	172	18	957
	2	11	11	39	18	9	52	15	3	158
	3	1	10	22	8	6	29	10	6	92
	4		4	18	5	6	23	13	1	70
	5		2	16	9	2	16	3	1	49
	6～10		26	45	13	2	50	26	1	163
	11～15		9	10	6	1	31	4	1	62
	16～20			4		1	10	0		15
	21～30		2	1	2		14	1	1	21
	31～		1				18	2	1	22
	合計	146	88	560	93	73	370	246	33	1,609
	平均訪問回数	1.1	5.8	2.3	4.2	2.2	7.4	3.1	4.5	3.7

３）相談場所　（図５～６）

図５に見るように、相談拠点（市町村が設置した相談場所、および各方部に設置した相談室等）への訪問が1,587名（25.7％）と最も多かった。これは前年度（2013年）と比較して、1,308名（20.7％）の増加である。また相馬方部センターの訪問件数は606名（38.2％）と、2013年度との比較で452名増加している。これは相馬方部センターの場所で相談する割合が多くなったことで増加している。次いで県中方部センター396名（25.0％）と前年度と比較して373名増加、県南方部センター286名（18.0％）と前年度と比較して232名増加している。

次に仮設住宅への訪問は、1,426名（23.1％）と前年度と比較して698名、15.1％減少している。内訳は相馬方部センター641名（67.6％）と前年度と比較して163名減少している。県北方部センター325名（22.8％）と前年度と比較して62名増加、県中方部センター263名（18.4％）と前年度と比較して208名減少している。

３番目に自宅への訪問が多く、1,378名（22.4％）と前年度と比較して288名、2.7％増加している。内訳は相馬方部センター932名（67.6％）と前年度と比較して128名増加している。県北方部センター325名（22.8％）と前年度と比較して452名増加している。県中方部センター179名（13.0％）と前年度と比較して46名増加、いわき方部センター147名（10.7％）と前年度と比較して121名増加している。

前年度多かった民間賃貸・借上住宅への訪問が919件（14.9%）と212名の減少している。その他、復興住宅が76名（1.2%）であった。

いずれにせよ訪問場所としては被災者の住居への訪問が3,799件（61.6%）と多かった。

今後、居住制限区域・避難指示解除準備区域の解除による帰還、災害復興公営住宅などの整備が進むと、それに伴い被災者の転居が見込まれるので、仮設住宅の割合は減ると予想される。

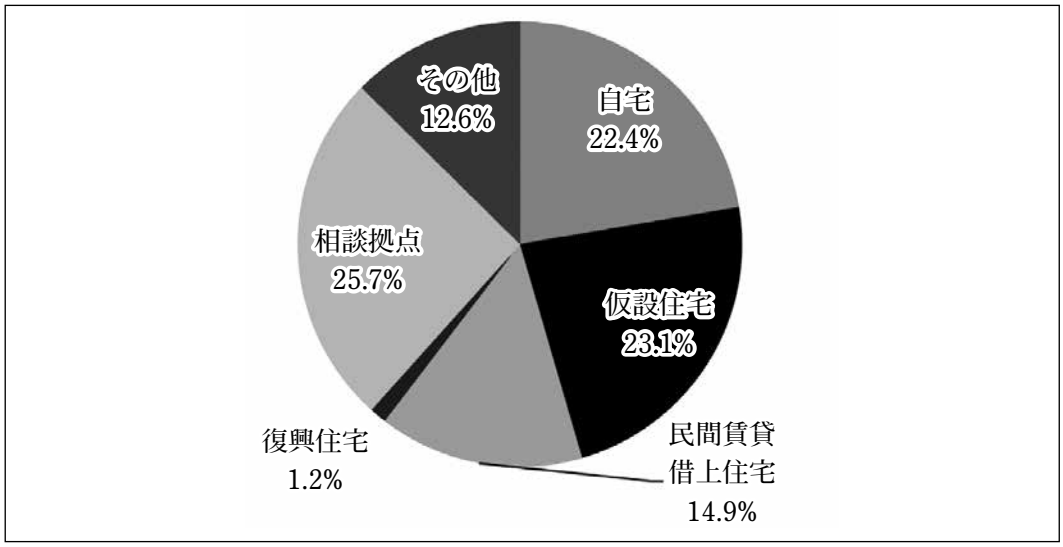


図５　相談場所（全体）

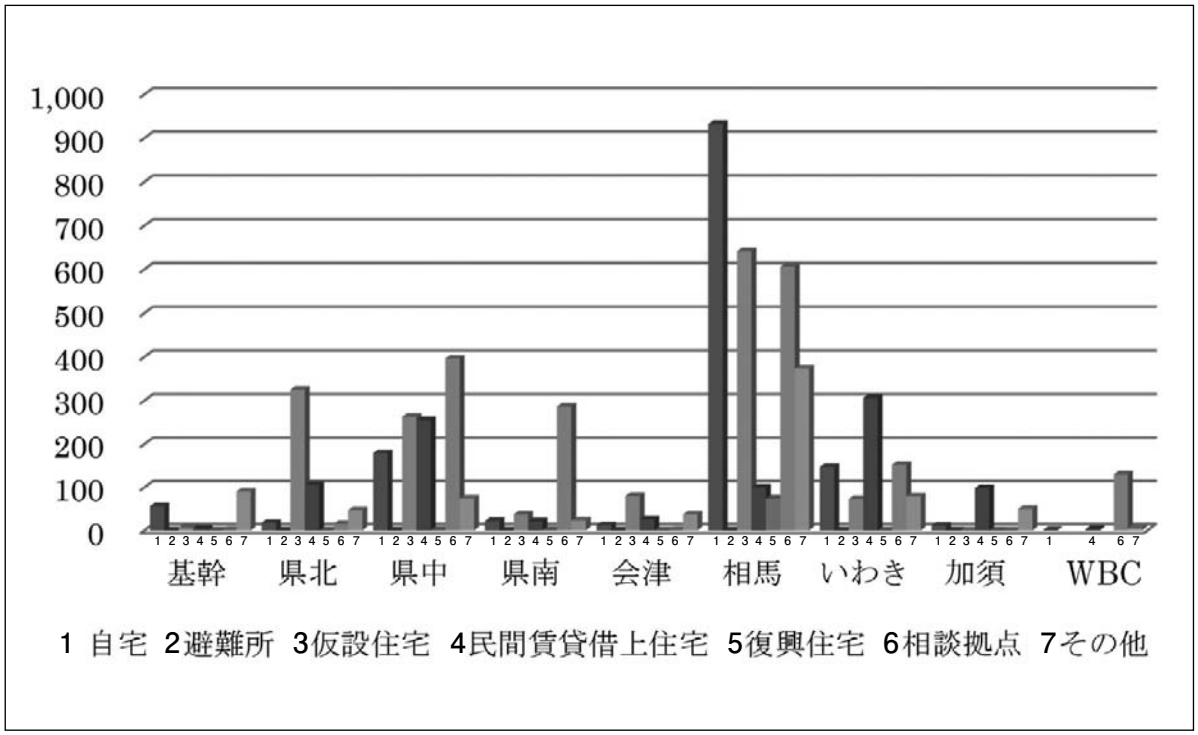


図６　相談場所（方部別）

４）相談対応件数（図７～８）

図７は、相談の月別件数である。新規相談は1,077件（17.5%）で、継続件数は5,087件（82.5%）だった。新規件数は26年９月がピークである。

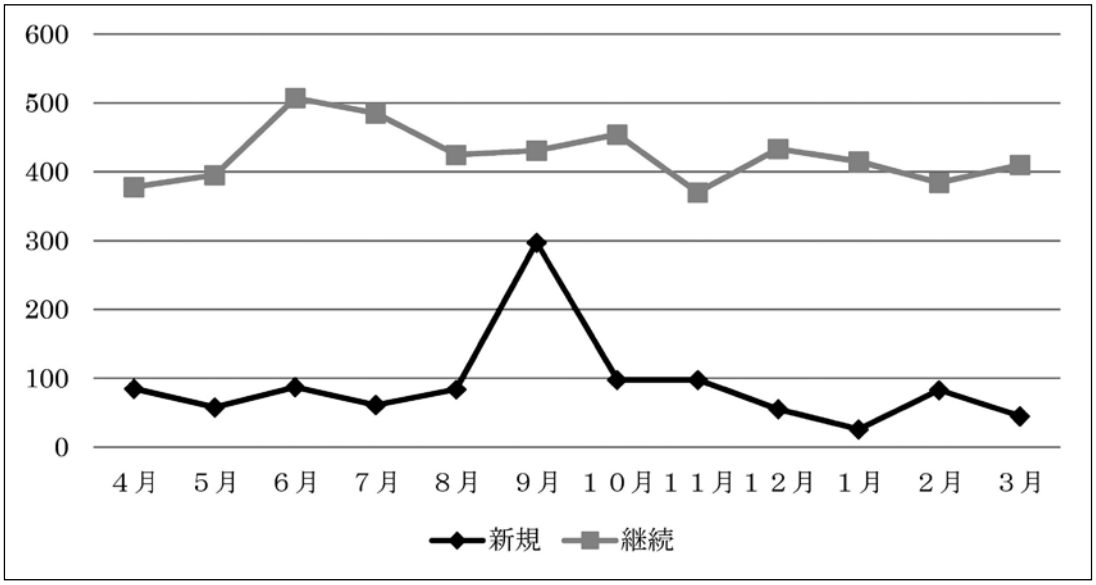


図７　相談の月別件数（計=6,164件）

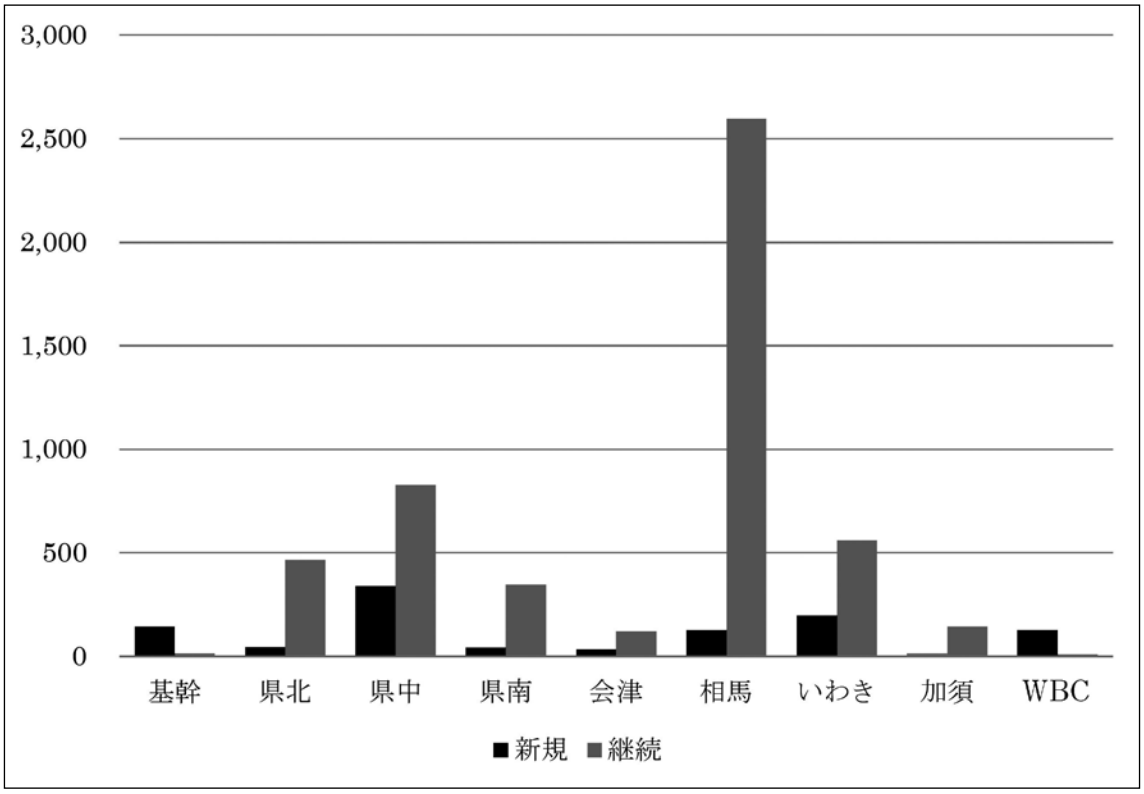


図８　相談経過別（方部別）

５）相談者と本人との関係　（図９～10）

本人が自発的に、あるいは周囲に促されて相談に訪れたのは5,314名（86.2%）で、家族だけが相談に訪れたのは616件（10.0%）だった。方部別にみても本人が相談に訪れた件数が最も多い。

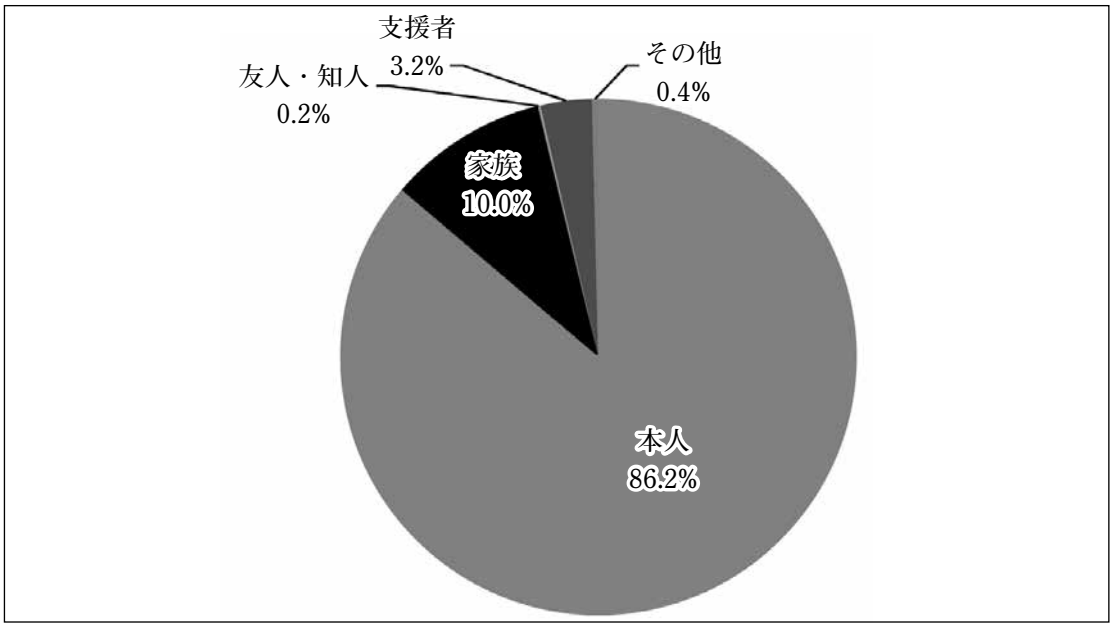


図９　相談者と本人との関係（全体）　件数=6,164

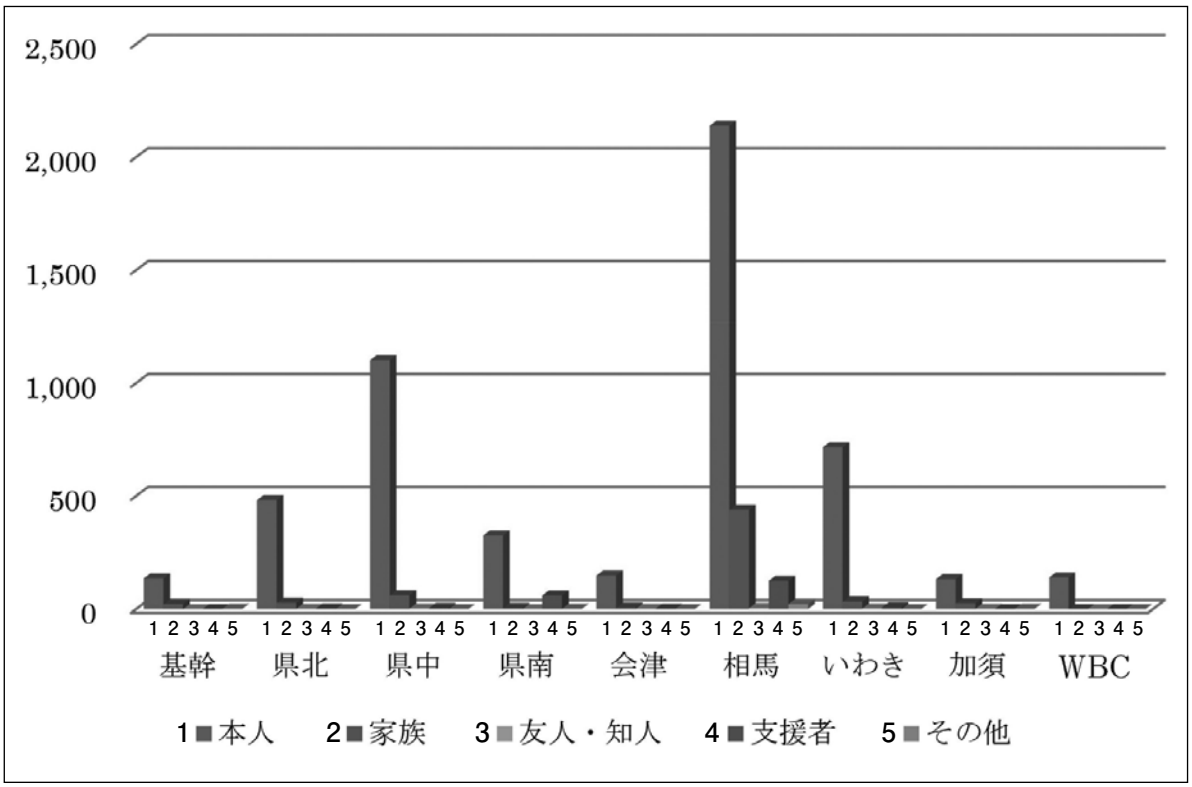


図10　相談者と本人との関係（方部別）

６）性別および年齢別

① 性別（図11～14）

相談者の実人数では、671 名（58.2%）が女性で、男性が936名（41.7%）だった。各方部とも相談者の過半数が女性だった。

延べ人数でも3,503名（56.8%）が女性で、男性が2,658名（43.1%）だった。各方部とも相談者の過半数が女性だったが、加須市駐在のみ男性が76.1%と多かった。

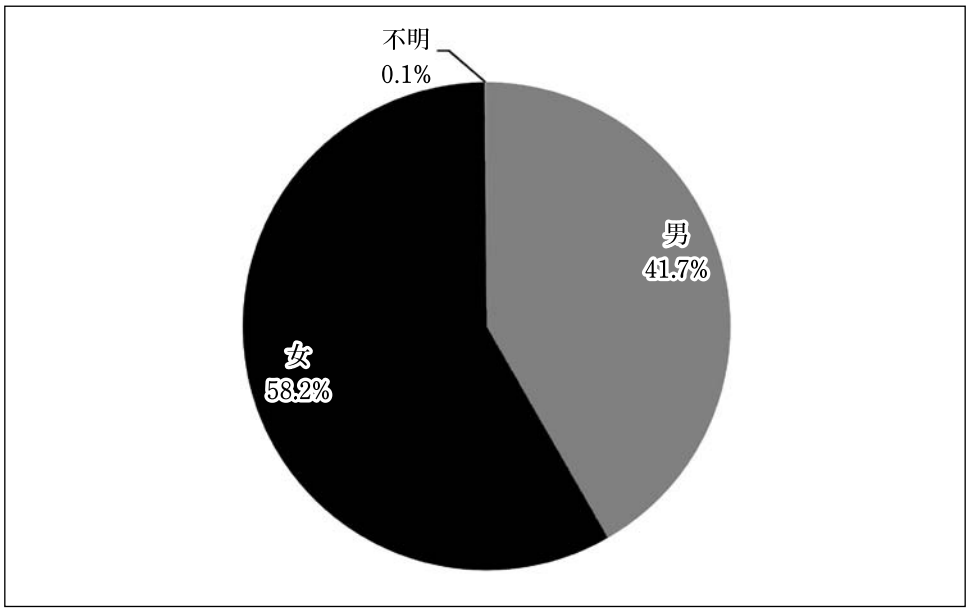


図11　性別～全体（実人数）

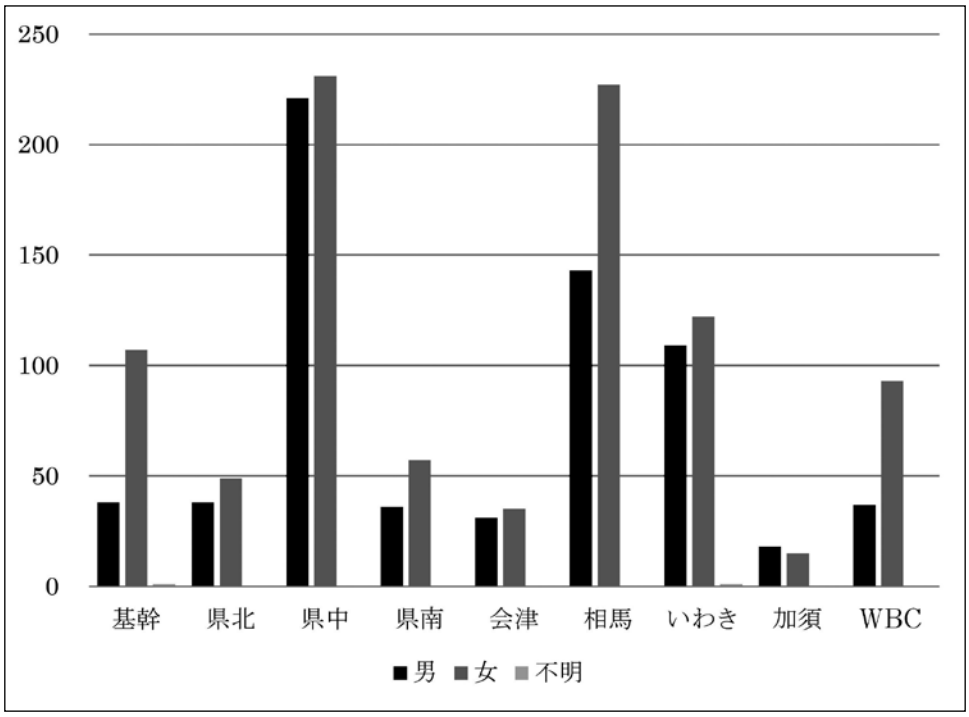


図12　性別～方部別（実人数）

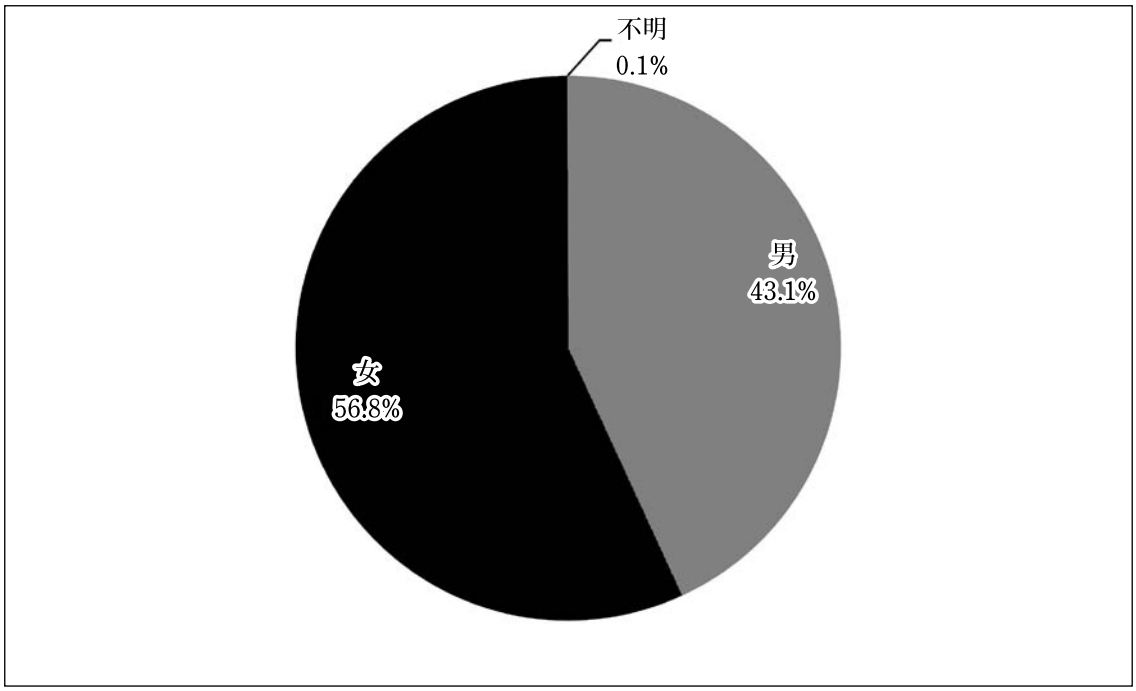


図13　性別～全体（延べ人数）

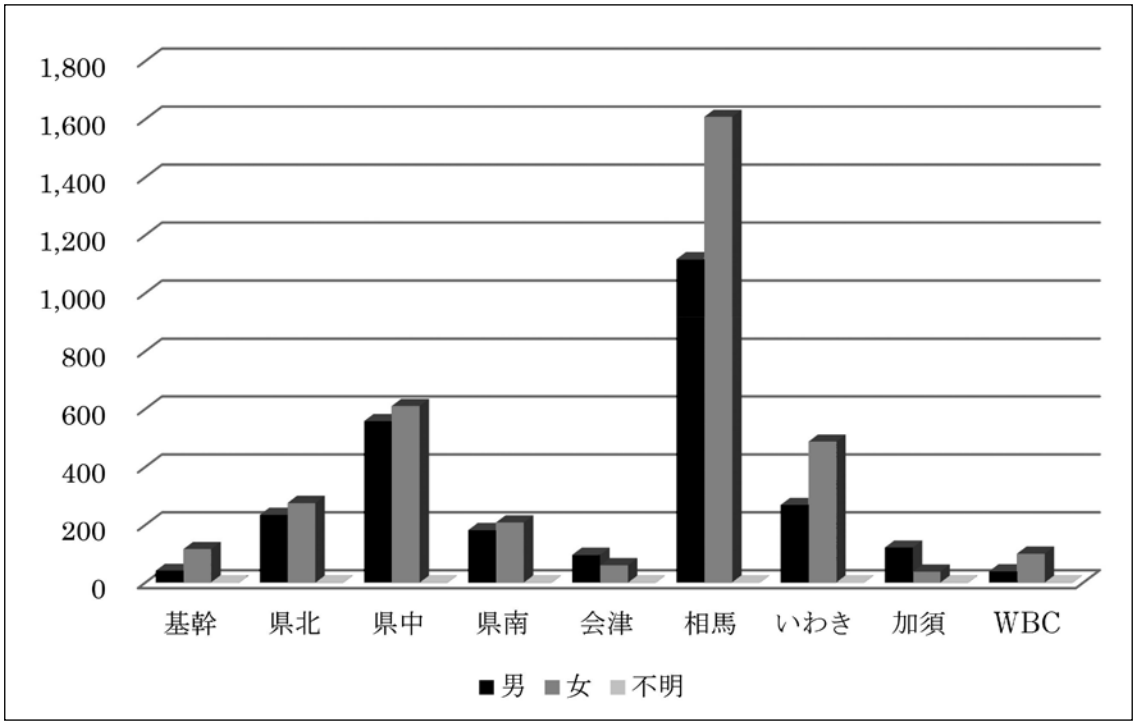


図14　性別～方部別（延べ人数）

② 年齢別（図15～18）

相談者の実人数を年齢別に見ると、思春期～成年期世代からの相談が1,085名（67.4%）と最も多く、次いで高齢者（65歳以上）の相談が344名（21.4％）と多かった。各方部とも相談者の第1位が思春期～成年期世代だったが、基幹センターが年齢不明の相談が多く、加須市駐在が高齢者の相談がやや多かった。

延べ人数でも3,930名（63.8%）が思春期～成年期世代からの相談で、高齢者の相談が1,854名（30.1%）だった。各方部とも相談者の第１位が思春期～成年期の人達からの相談だったが、基幹センターが年齢不明の相談が58.9%、加須市駐在のみ高齢者の相談が59.7%と多かった。

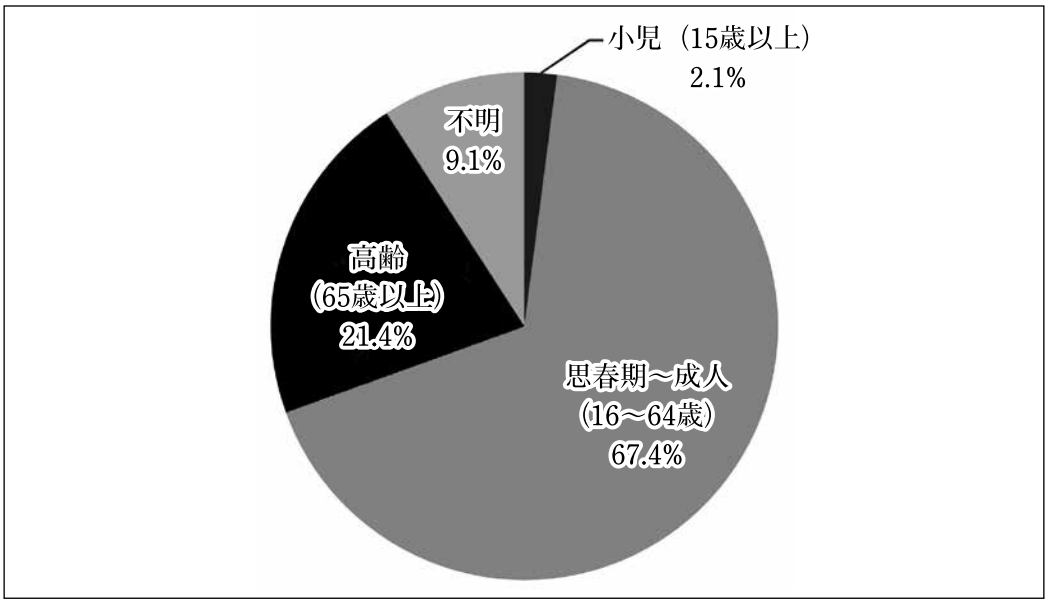


図15　年齢別～全体（実人数）

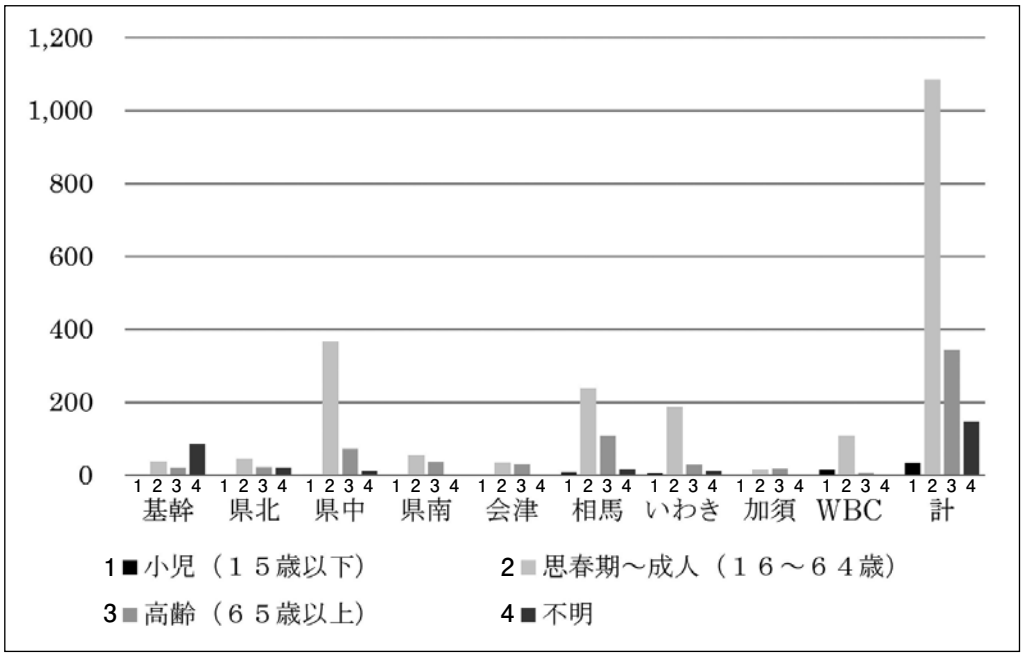


図16　年齢別～方部別（実人数）

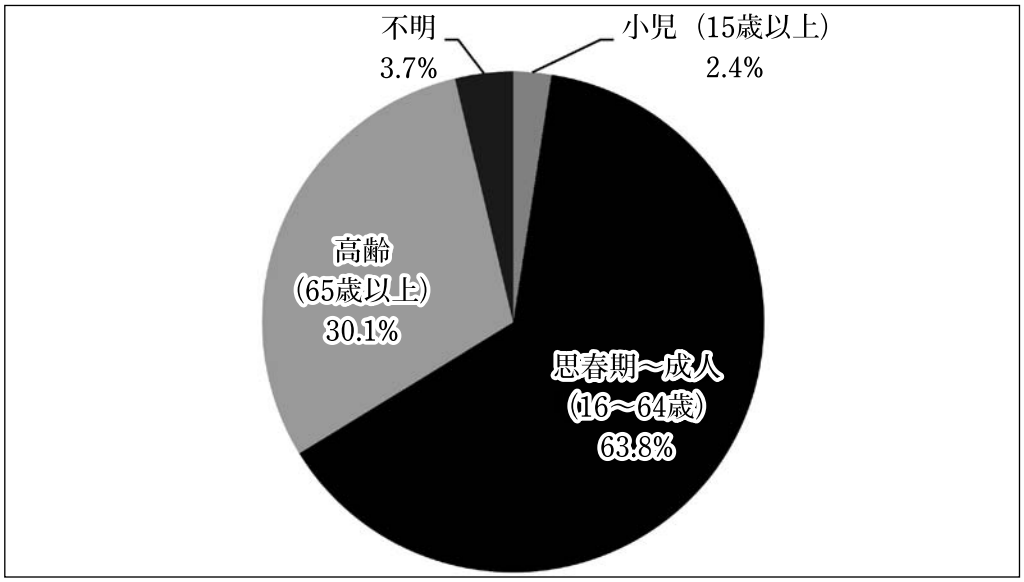


図17　年齢別～全体（延べ人数）

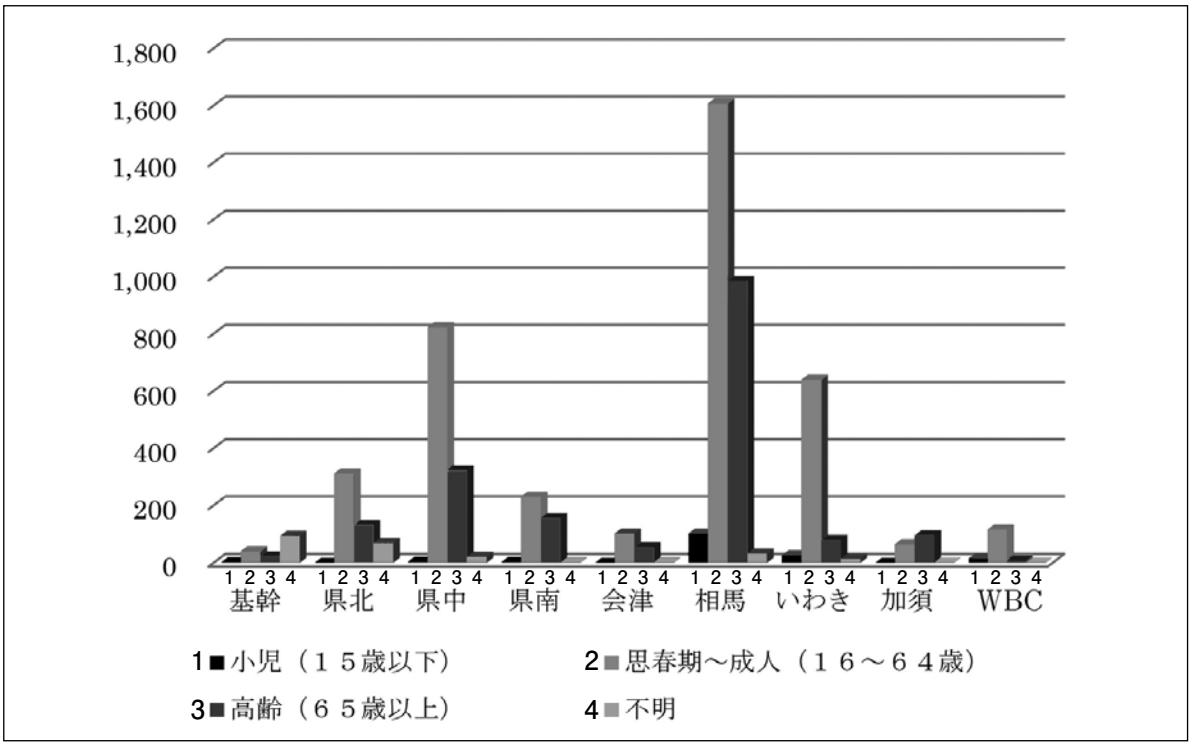


図18　年齢別～方部別（延べ人数）

７）相談の内容　（図19・表５・６・図20）

相談の内容については、専門員が記載した対象者の主訴をまとめた（重複記載あり）。図19に見るように、最も多いのは「身体症状の訴え」で1,826件（20.3%）であり、前年度と比較すると165件ほど増加している。

次に多いのが「気分・情動に関する症状」の訴えで、1,663件（18.5%）だった。前年度と比較すると281件ほど増加しており件数の増加がもっとも多い。

一方、「睡眠の問題」は953件（10.6%）で、前年度と比較すると95件ほど増加している。その他、「不安症状」（9.7%）や「行動上の問題」（6.9%）「幻覚・妄想症状」（6.4%）や「飲酒の問題」（4.5%）などの訴えがあった。

「その他」、「症状なし」が1,461件（16.2%）と多い。

方部別にみると、県北方部・県中方部・会津方部「身体症状」の訴えが第１位である。基幹センター・いわき方部・ＷＢＣでは「気分・情動に関する症状」の訴えが１位で、「症状なし」では県南方部・相馬方部で第１位。「行動上の問題」が加須市駐在で第１位である。実人数（表６）で比較しても、同様の傾向がみられた。

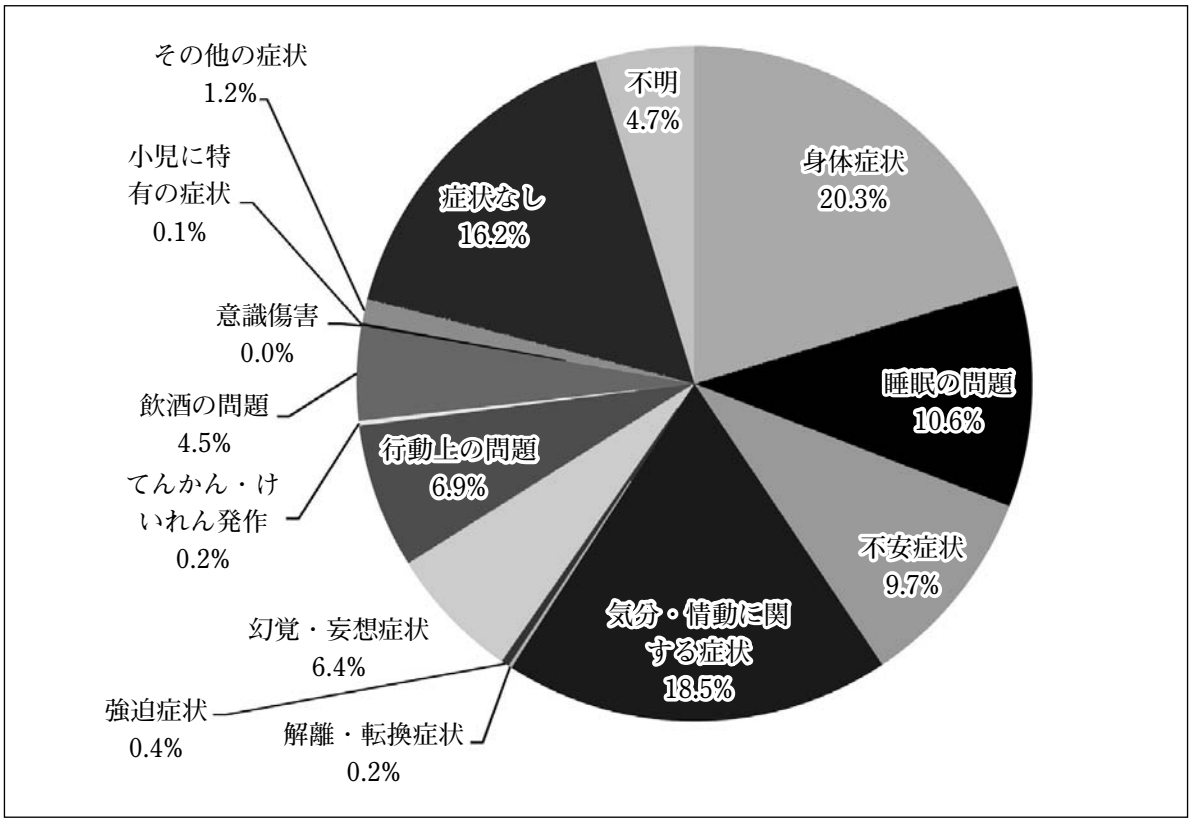


図19　相談の内容～全体（全体=8,993件複数選択）

表５　相談の内容別件数

	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	WBC	計
身体症状	19	165	730	69	69	499	128	73	74	1,826
睡眠の問題	43	53	301	43	37	265	113	21	77	953
不安症状	16	60	83	89	3	285	282	34	22	874
気分・情動に関する症状	78	105	358	68	18	527	360	81	68	1,663
解離・転換症状	0	0	1	2	0	4	7	0	0	14
強迫症状	0	5	6	2	0	3	17	0	1	34
幻覚・妄想症状	9	16	54	18	1	367	25	87	0	577
行動上の問題	8	9	22	13	4	406	60	101	1	624
てんかん・けいれん発作	1	2	9	1	0	6	0	3	0	22
飲酒の問題	4	35	52	11	13	247	37	0	5	404
意識障害	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
小児に特有の症状	2	0	2	5	0	2	0	0	0	11
その他の症状	2	5	32	11	1	43	5	3	2	104
症状なし	23	125	279	178	50	632	144	5	25	1,461
不明	36	47	77	35	11	179	29	11	0	425

表６　相談内容と性別・年齢別実人数

	男	女	不明	小児（15歳以下）	思春期～成人（16～64歳）	高齢（65歳以上）	不明	計
身体症状	200	303	0	6	350	125	22	503
睡眠の問題	137	255	0	10	270	90	22	392
不安症状	66	90	0	2	120	17	17	156
気分・情動に関する症状	189	291	0	1	336	87	56	480
解離・転換症状	1	3	0	0	4	0	0	4
強迫症状	5	4	0	0	9	0	0	9
幻覚・妄想症状	36	28	0	0	42	13	9	64
行動上の問題	49	33	0	3	63	10	6	78
てんかん・けいれん発作	2	1	0	0	2	1	0	3
飲酒の問題	38	12	0	0	31	13	6	50
意識障害	0	0	0	0	0	0	0	0
小児に特有の症状	1	3	1	5	0	0	0	5
その他の症状	8	22	0	1	14	13	2	30
症状なし	216	253	0	10	325	104	30	469
不明	54	108	0	2	96	33	31	162

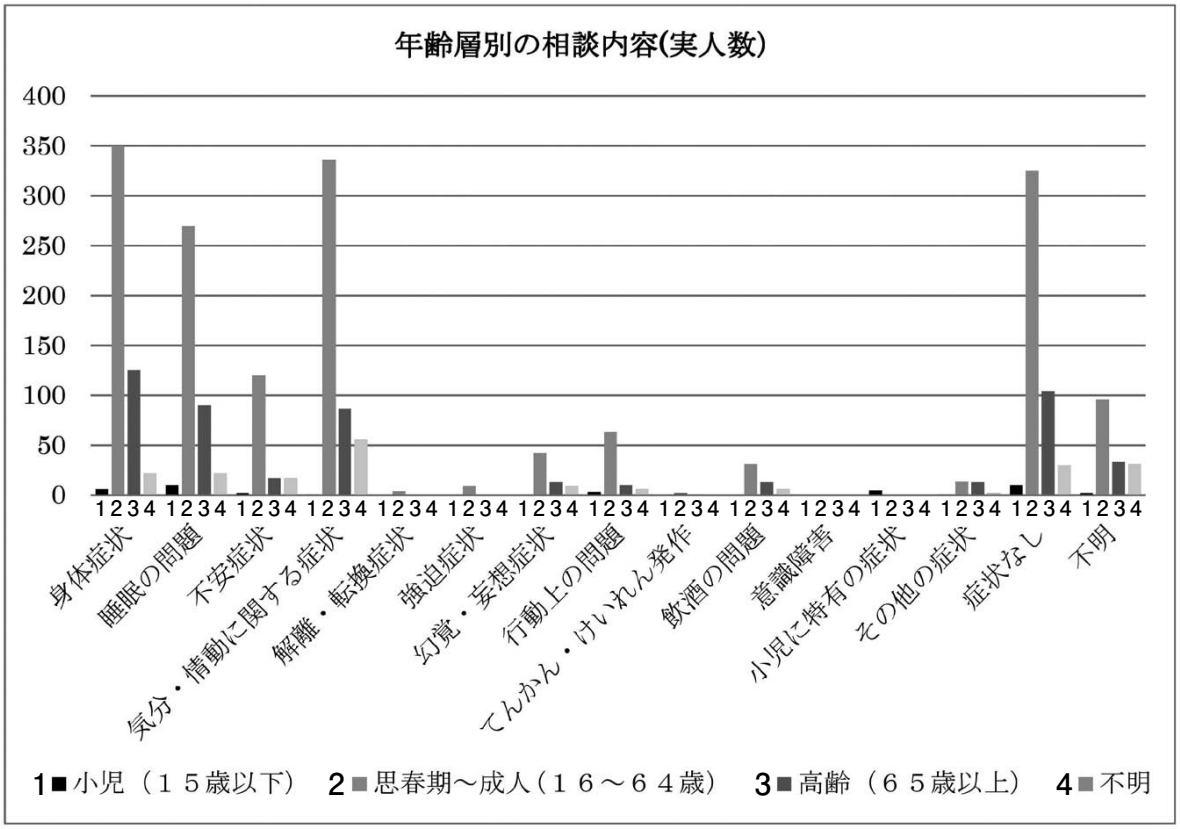


図20　年齢層別の相談内容（実人数）

【相談の内容～小項目（図 21 ～ 27)】

最も多いのは、身体症状 1,821 名であり、内訳として高血圧 149 名 (8.2%)、四肢の震え 147 名 (8.1%)、腰痛 137 名 (7.5%)、関節痛 120 名 (6.6%)、食欲低下 92 名 (5.1%)、頭痛 91 名 (5.0%)、肩こり 89 名 (4.9%)、しびれ 84 名 (4.6%) であり、以下めまい、倦怠等と続く。

次に多いのが気分･情動に関する症状 1,589 名で内訳として抑うつ気分 596 名 (37.5%)、意欲減退 217 名 (13.7%)、イライラ 181 名 (11.4%)、希死念慮 78 名 (4.9%)、焦燥感 77 名 (4.8%)、悲嘆 60 名 (3.8%) であり、以下感情易変性、罪悪感、易怒性と続く。

以下、睡眠の問題 893 名で内訳として入眠困難 363 名 (40.6%)、中途覚醒 256 名 (28.7%)、早朝覚醒 69 名 (7.7%) であり、以下悪夢、過眠と続く。

不安症状 882 名で内訳としてパニック 276 名 (31.2%)、全般性不安 197 名 (22.5%)、対人不安 125 名 (14.2%)、予期不安 106 名 (12.0%) である。

行動上の問題 626 名で内訳として引きこもり 261 名(41.7%)、暴力 36 名(5.8%) であり、以下リストカットと続く。

幻覚･妄想症状 578 名で内訳として妄想 277 名 (47.9%)、幻聴 218 名 (37.7%) であり、以下精神運動興奮である。

飲酒の問題 391 名で内訳として連続飲酒 198 名 (50.6%) であり、以下病的酩酊、離脱症状と続く。

本項目においては「その他」を除いた順位づけを行っている。

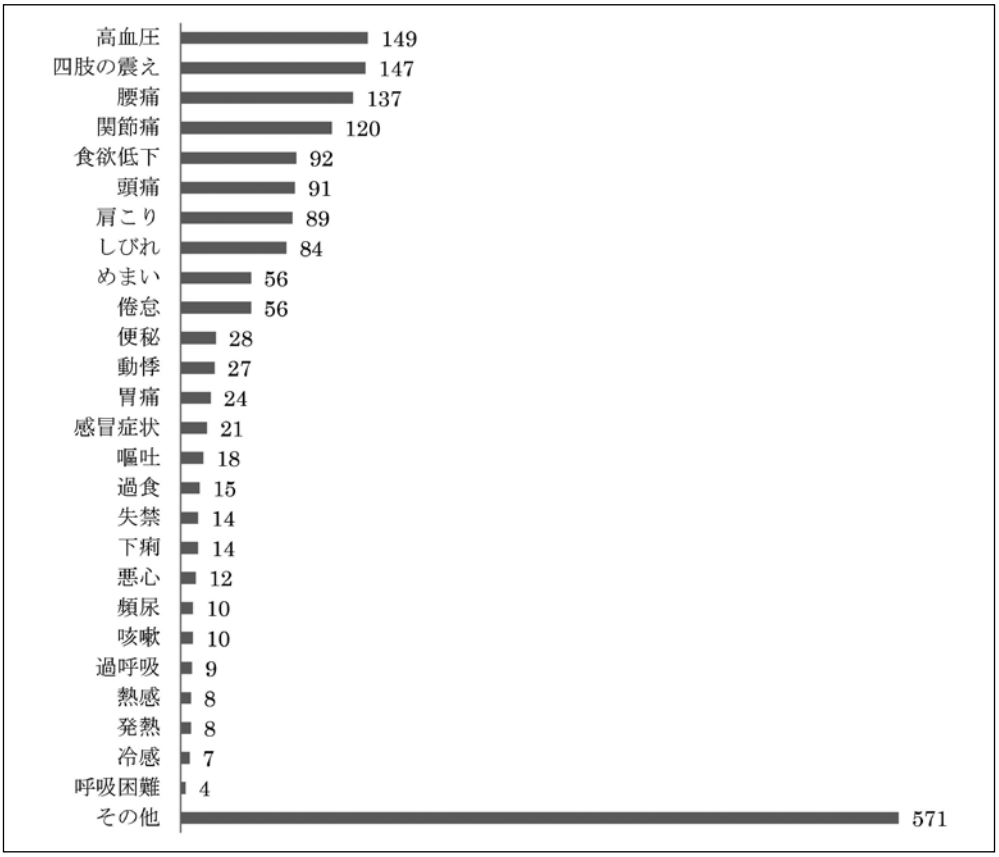


図21　身体症状 n=1,821（複数選択）実人数1,468名

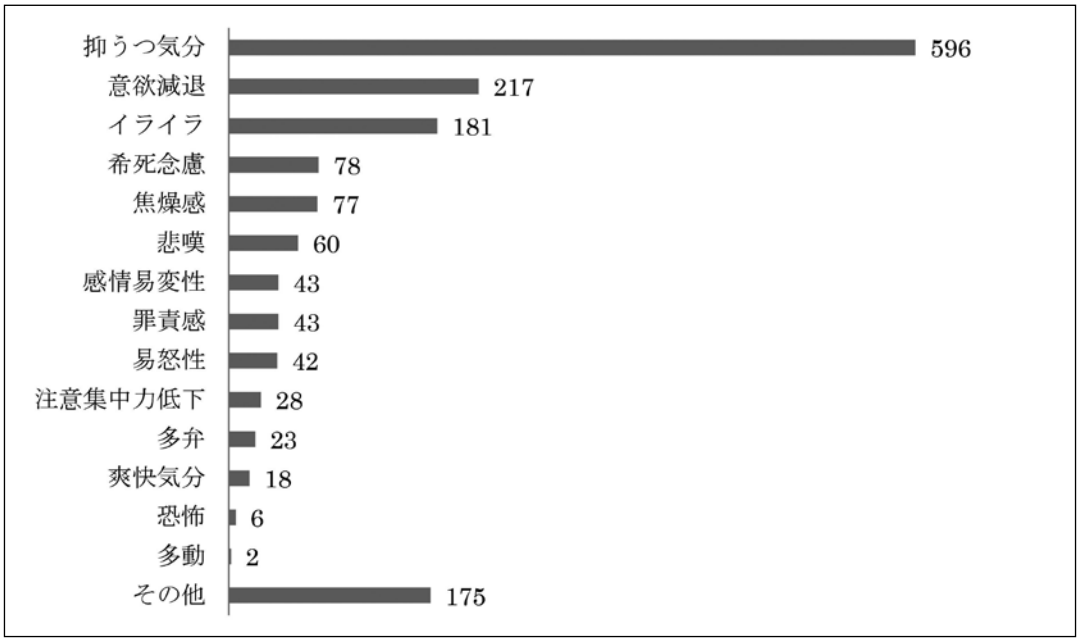


図22　気分・情動に関する症状 n=1,589（複数選択）実人数1,377名

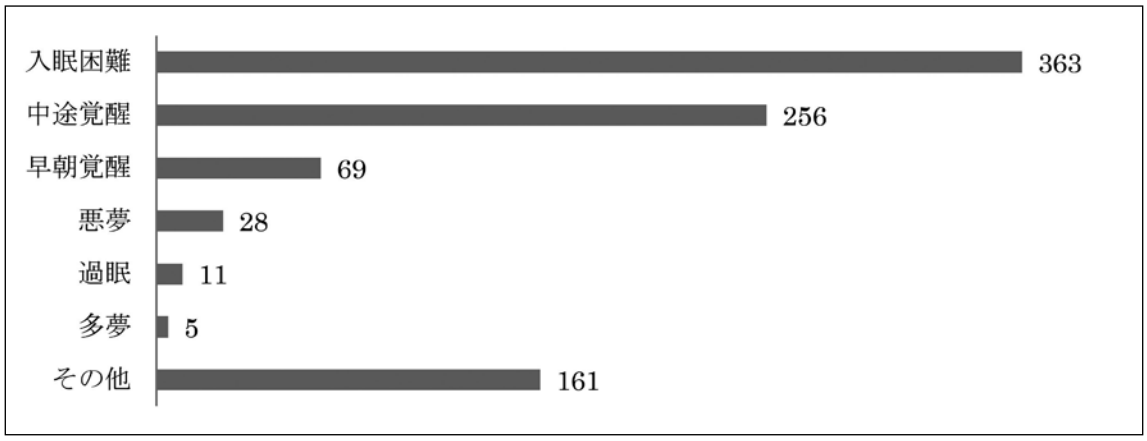


図23　睡眠の問題 n=893（複数選択）実人数809名

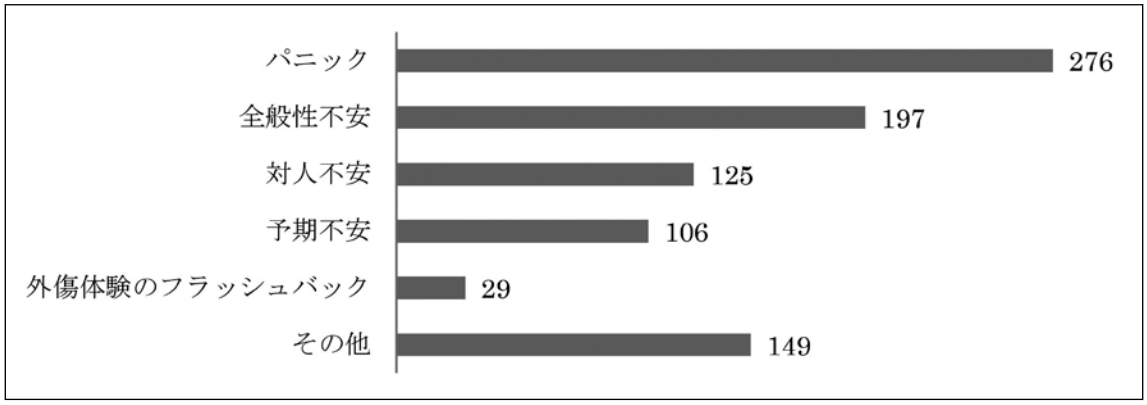


図24　不安症状 n=882（複数選択）実人数814名

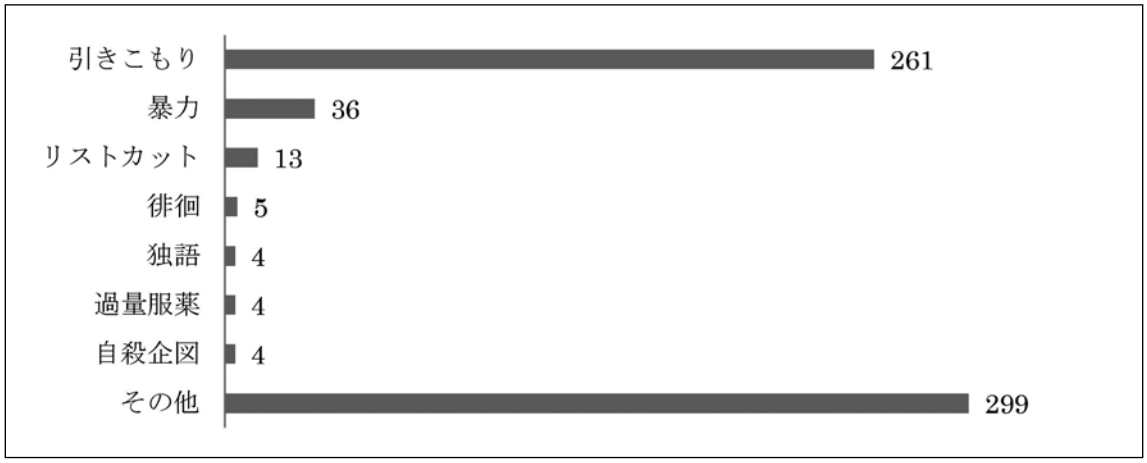


図25　行動上の問題 n=626（複数選択）実人数611名

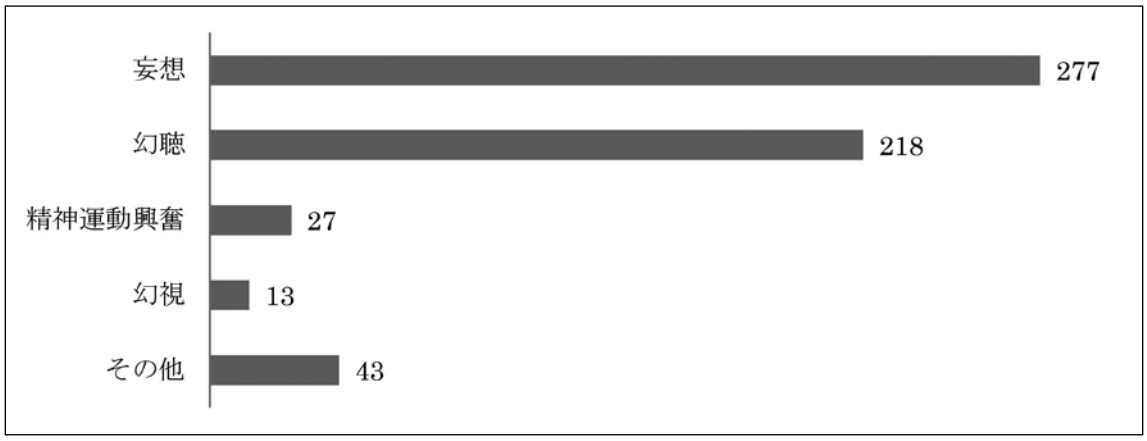


図26　幻覚・妄想症状 n=578（複数選択）実人数483名

図27　飲酒の問題 n=391（複数選択）実人数375名

８）相談の背景　（図28・表７・８・図29）

相談内容の背後にあると推測される、あるいは相談者により言語化された生活上の出来事を「相談の背景」として以下に記す。

相談の背景として最も多かったのは「健康上の問題」で、相談件数の3,949名（30.5%）を占めた。この相談件数は、前年度と比較すると667件の増加となっている。

次いで「居住環境の変化」を背景とする相談が2,581名（20.0%）と多かったが、実数としては前年度より227件ほど減少している。

3番目に多かったのは「家族・家庭問題」を背景とする相談で、1,951名（15.1%）だった。以下、「人間関係」808名（6.2%）、「失業・就労問題」643名（5.0%）、「教育・育児・転校」489名（3.8%）の順だった。

また全相談者の425名（3.3%）が「近親者の喪失」を体験し、368名（2.8%）が「放射能」を背景にあげている。

実人数から相談の背景をみても同様の傾向を示している。

訴えの内容から性差をみると「失業・就労問題」「経済生活再建問題」が男性の割合が多く、その他は女性の割合が多かった。

年齢階層別にみると、生産年齢（思春期～成人）では「居住環境の変化」「健康上の問題」「家族・家庭問題」の順に比率が高く、高齢者では「健康上の問題」が第一位で、次に「居住環境の変化」が続き、前年度と同様の傾向を示している。

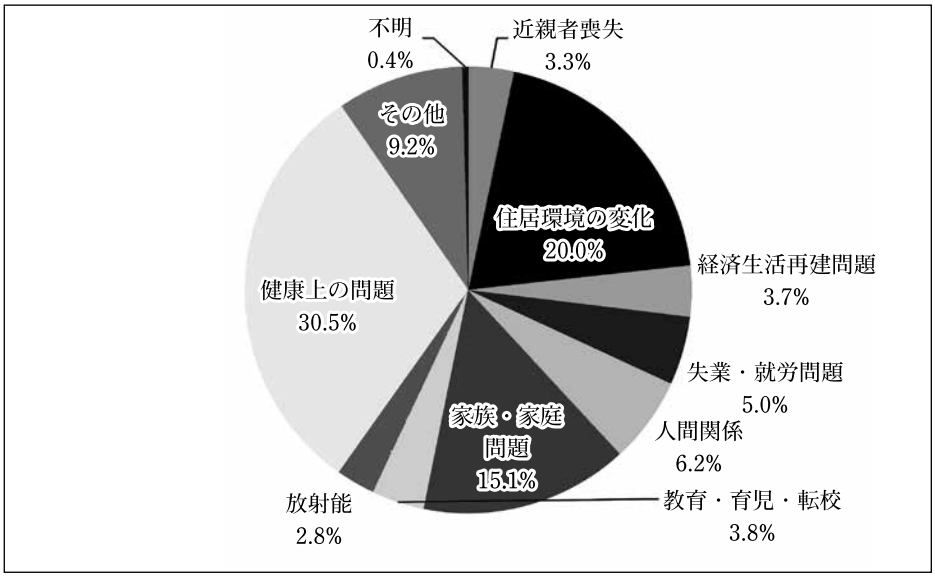


図28　相談の背景別割合（全体）件数=12,935

表７　相談の背景～方部別

相談の背景	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	WBC	計
近親者喪失	1	46	24	2	4	296	43	6	3	425
居住環境の変化	33	371	456	145	108	794	484	115	75	2,581
経済生活再建問題	5	12	81	16	1	189	57	95	19	475
失業･就労問題	7	29	93	76	6	312	98	7	15	643
人間関係	23	26	72	62	12	543	34	25	11	808
家族･家庭問題	47	187	284	79	20	837	432	43	22	1,951
教育･育児･転校	8	11	59	2	9	276	108	0	16	489
放射能	11	11	22	3	1	267	17	0	36	368
健康上の問題	63	322	618	213	134	1,950	432	152	65	3,949
その他	19	80	260	96	5	651	63	7	9	1,190
不明	11	2	13	3	0	14	7	0	6	56

表８　相談の背景：性別・年齢別（実人数）

	男	女	不明	小児（15歳以下）	思春期～成人（16～64歳）	高齢（65歳以上）	不明	計
近親者喪失	41	63	0	1	68	29	6	104
居住環境の変化	241	381	1	16	353	208	46	623
経済生活再建問題	48	40	0	0	65	20	3	88
失業･就労問題	113	81	1	0	181	4	10	195
人間関係	52	113	0	1	110	28	26	165
家族･家庭問題	121	271	0	6	258	78	50	392
教育･育児･転校	12	88	0	16	71	5	8	100
放射能	27	49	0	3	51	13	9	76
健康上の問題	306	408	0	8	422	227	57	714
その他	185	184	1	3	311	33	23	370
不明	15	22	0	4	19	2	12	37

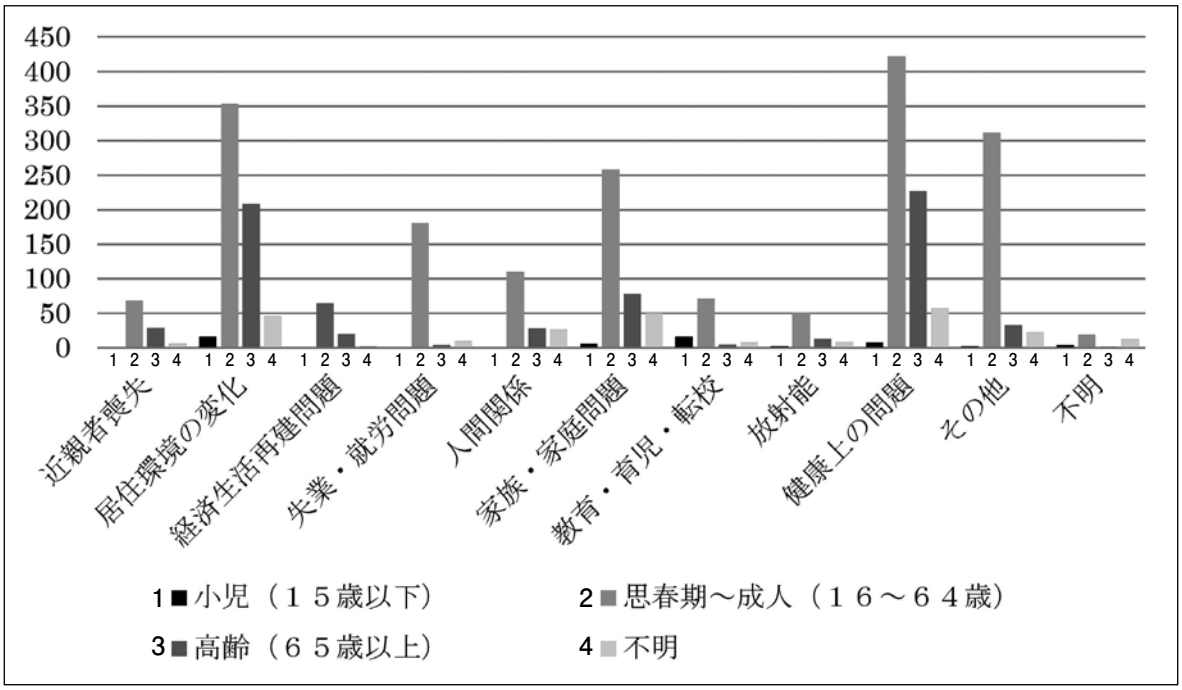


図29　相談の背景：年齢別（実人数）

９）電話相談　（図30）

当センターでは、2012年11月19日に主に県外避難者への相談支援の一環として、基幹センターに被災者相談ダイヤル（愛称「ふくここライン」）を開設した。電話相談の件数は、2013年度で141件、2014年度は156件だった。2014年度の月別電話相談件数をみると、２月～３月が他の月の２倍以上の増加となっている。これは県民健康調査票の送付時に同封された当センターのリーフレットによる影響と考えられる。

各方部センターで受けた電話相談は、いわき方部（264件）、相馬方部（198件）、県中方部センター（52件）、県北方部センター（46件）などで総計772件だった。いわき方部では多数回利用者もおり、前年度より201件増加した。

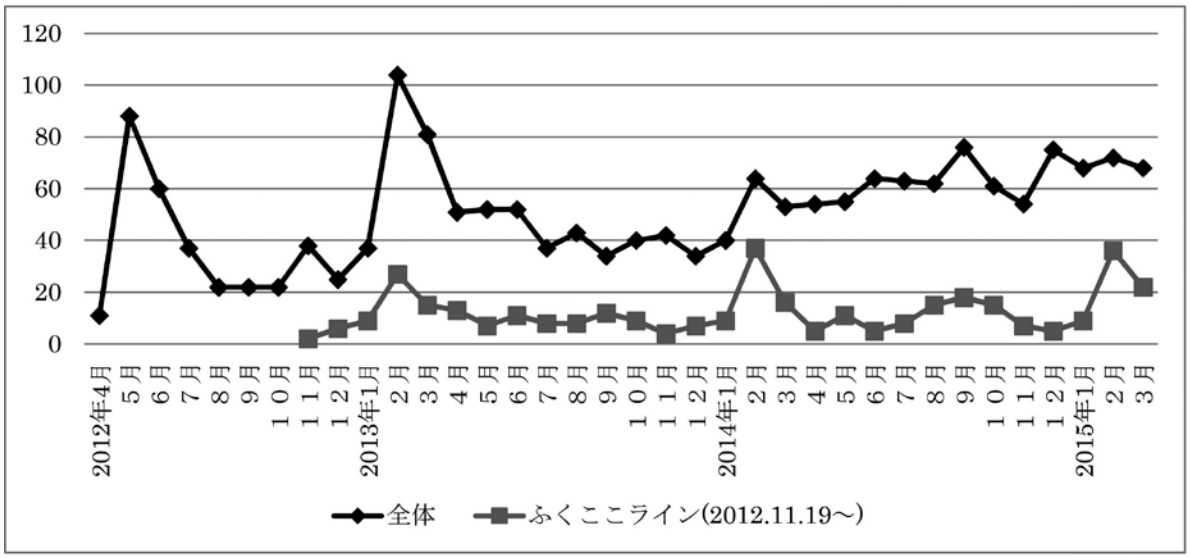


図30　電話相談の月別推移

10）サロン活動　（図31）

仮設住宅等での集団活動、いわゆる「サロン活動」は、避難生活を続けている住民たちが気軽に集まれる場を提供することで孤立を防ぐと共に、避難生活に伴う気分の落ち込みや廃用症候群（生活不活発病）の予防などを目的としている。血圧測定などの体調チェックから始まり、体を動かしたりお喋りをしたりなど、手軽に取り組め、かつ楽しめるメニューが設定されている。

2014年度のサロン活動（図16,17）の開催回数は753回、月平均62.7件で、参加人数は7,799名で月平均650名だった。

前年度比では全方部・駐在を合計した開催回数は229回の減少で、参加人数は2,835名の減少だった。

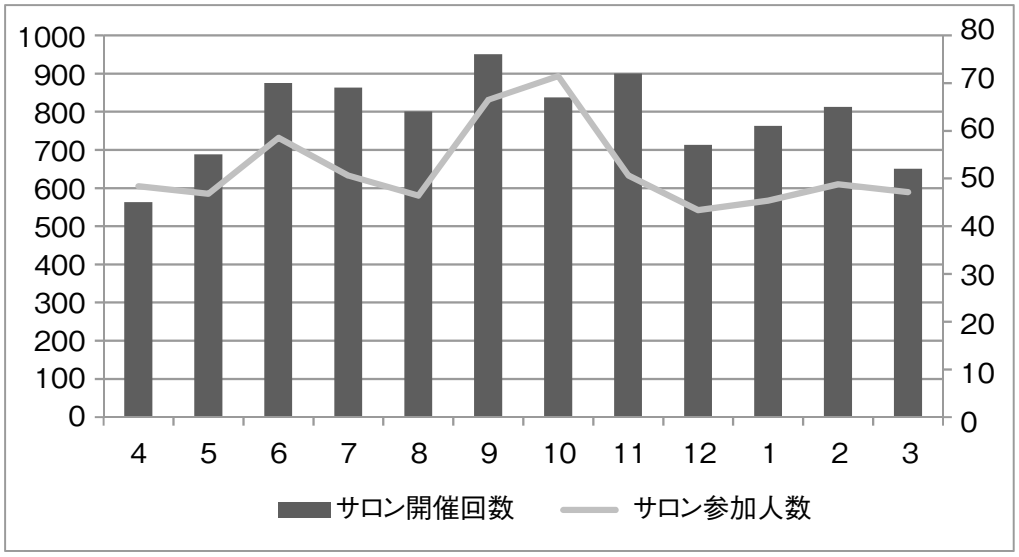


図31　サロン活動（月別）

11）健康調査　（図32）

福島県・被災市町村が実施している「健康調査」への協力（訪問）は全方部と駐在で計160件だった。そのうちいわき方部108件、県北方部48件、その他、県南方部・相馬方部が各２件だった。

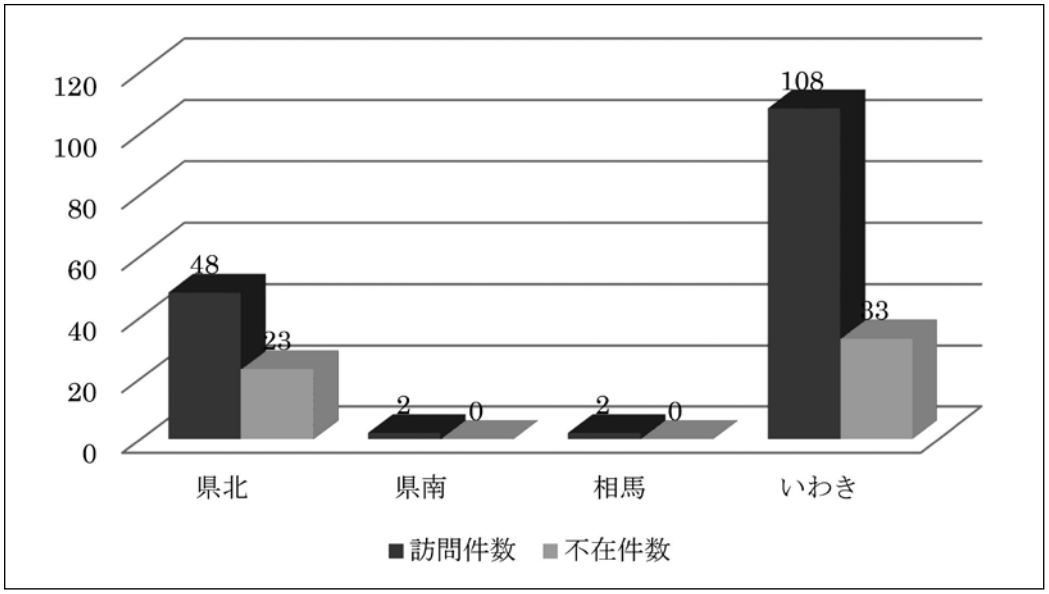


図32　健康調査（方部別）

12）市町村毎の相談支援件数　（表９～10）

表９は市町村毎の相談支援件数で計6,164件、表10は市町村毎の相談支援実人数で計1,609名である。平均すると、１名あたり3.8回ほど相談支援のため訪問したことになる。

市町村毎の相談支援件数では、南相馬市が計1,575件と最も多かった。南相馬市では相馬方部による支援件数が1,424件（90.4%）と多かった。その他、南相馬市民が県内に広く避難していたため、県北方部が62件、県中方部が17件の南相馬市民の支援を行った。

相馬市への訪問などの支援は831件で、そのうち829件（99.8％）を相馬方部が行った。

原発事故現場に近い双葉郡８町村では、実人数704名に対し計2,433件の相談支援を行った（表９、表10）。

方部別に相談実人数をまとめると、県北方部では浪江町57名を中心に計87名、県中方部では三春町158名・富岡町85名・葛尾村64名・双葉町40名など計455名、県南方部では双葉町27名・白河市24名など計93名だった。会津方部では大熊町48名など計66名、相馬方部では南相馬市・相馬市を除いて新地町20名など計370名、いわき方部では双葉町67名・広野町32名・富岡町28名・大熊町20名など計232名、加須市駐在で双葉町30名など計33名、ＷＢＣでは郡山市38名・福島市20名・南相馬市18名だった。

表９　市町村毎の相談支援件数

	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	WBC	計
福島市	6	9	1	0	0	0	0	0	20	36
郡山市	4	0	17	0	0	0	1	0	42	64
いわき市	15	1	0	0	0	0	77	12	14	119
白河市	0	0	19	120	0	0	0	0	0	139
須賀川市	0	0	7	0	0	0	0	0	9	16
相馬市	2	0	0	0	0	829	0	0	0	831
二本松市	0	1	0	0	0	0	1	0	3	5
田村市	2	0	89	0	0	0	0	0	2	93
南相馬市	26	62	17	8	3	1,424	17	0	18	1,575
伊達市	1	7	0	0	0	0	0	0	4	12
本宮市	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
国見町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
川俣町	1	8	0	0	0	0	0	0	1	10
西郷村	0	0	0	31	0	0	0	0	2	33
矢吹町	0	0	0	19	0	0	0	0	1	20
棚倉町	0	0	0	32	0	0	0	0	0	32
矢祭町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
塙町	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
浅川町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
三春町	0	0	208	0	0	0	0	0	0	208
小野町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
広野町	1	0	1	0	3	0	287	0	0	292
楢葉町	6	0	0	0	24	0	21	3	0	54
富岡町	10	4	243	9	5	1	59	0	4	336
川内村	0	0	154	0	7	0	8	0	0	169
大熊町	2	0	103	2	99	3	59	0	5	273
双葉町	3	0	104	133	3	0	106	144	0	493
浪江町	19	384	55	31	12	59	92	0	7	658
葛尾村	0	13	144	0	0	1	0	0	0	158
新地町	1	0	0	0	0	270	0	0	1	272
飯舘村	2	13	0	0	0	135	0	0	2	152
福島県（不明・記入なし）	41	0	0	0	0	2	15	0	0	58
県外	2	9	2	0	0	0	13	0	0	26
不明・記入なし	14	0	1	0	0	1	1	0	1	18
方部センター毎の合計	158	512	1,167	390	156	2,726	757	159	139	6,164

表10　市町村毎の相談支援実人数

	基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	加須	WBC	計
福島市	5	3	0	0	0	0	0	0	20	28
郡山市	4	0	9	0	0	0	1	0	38	52
いわき市	9	1	0	0	0	0	24	2	13	49
白河市	0	0	1	24	0	0	0	0	0	25
須賀川市	0	0	4	0	0	0	0	0	4	8
相馬市	2	0	0	0	0	86	0	0	0	88
二本松市	0	1	0	0	0	0	1	0	3	5
田村市	2	0	17	0	0	0	0	0	1	20
南相馬市	24	14	2	4	1	237	2	0	18	302
伊達市	1	1	0	0	0	0	0	0	4	6
本宮市	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
国見町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
川俣町	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
猪苗代町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西郷村	0	0	0	9	0	0	0	0	1	10
矢吹町	0	0	0	9	0	0	0	0	1	10
棚倉町	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
矢祭町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
塙町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
浅川町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
三春町	0	0	158	0	0	0	0	0	0	158
広野町	1	0	1	0	0	0	32	0	0	34
楢葉町	5	0	0	0	6	0	9	1	0	21
富岡町	10	1	85	4	5	1	28	0	4	138
川内村	0	0	26	0	0	0	2	0	0	28
大熊町	2	0	29	1	48	2	20	0	5	107
双葉町	3	0	40	27	2	0	67	30	0	169
浪江町	18	57	15	9	4	14	16	0	7	140
葛尾村	0	3	64	0	0	0	0	0	0	67
新地町	1	0	0	0	0	20	0	0	1	22
飯舘村	1	3	0	0	0	8	0	0	2	14
福島県（不明・記入なし）	41	0	0	0	0	1	15	0	0	57
県外	2	1	2	0	0	0	14	0	0	19
不明・記入なし	14	0	1	0	0	0	1	0	1	17
方部センター毎の合計	146	87	455	93	66	370	232	33	127	1,609

３． 支援者に関する支援事業　（図33）

福島県においては被災者を支援する立場の支援者の疲弊が著しく、当センター立ち上げの当初から支援者をいかに支援するかが課題だった。この支援者支援事業では、専門職等への講演やワークショップ、心理教育等を1,122回おこなった。これは前年比で421件の増加である。

内訳は、地方公共団体、警察、医療機関等に対するものが969件（86.4%）、学校幼稚園保育園に対するものが20件（1.8%）、一般事業所企業が12件（1.7%）、その他94件である。

2014年度の支援者支援の方部別は、下記の図による。

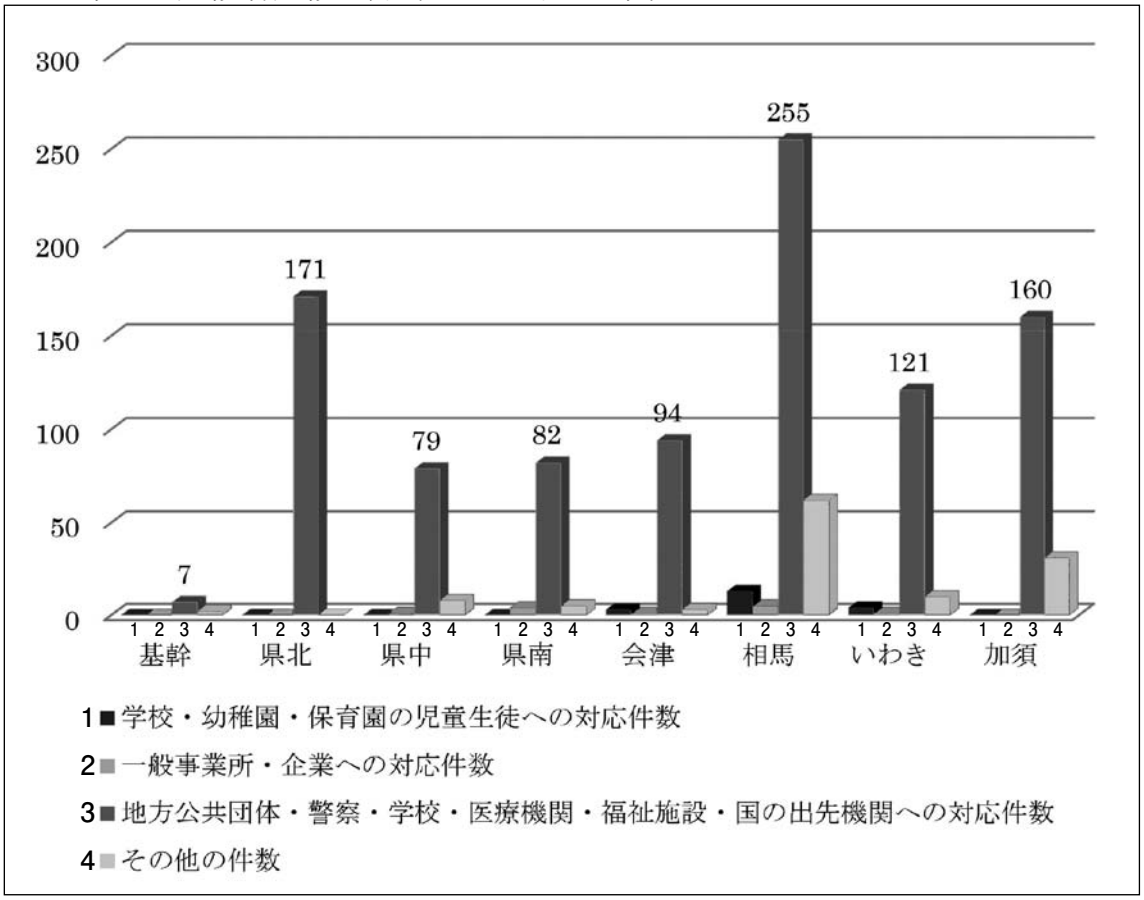


図33　支援者支援～対象別（方部別）

４．普及啓発活動　（図34）

講演会の開催は50回で前年度より15回の減少、参加者は総計1,849名で、前年度比で667名の減少だった。

報道機関等への対応は23件で、前年度より3件の増加だった。

方部別にみるといわき方部が講演会を14回開催し、参加者は総計641名だった。

その他、相馬方部が講演会を11回開催し参加者総計594名、県中方部が講演会を７回開催し参加者総計238名だった。

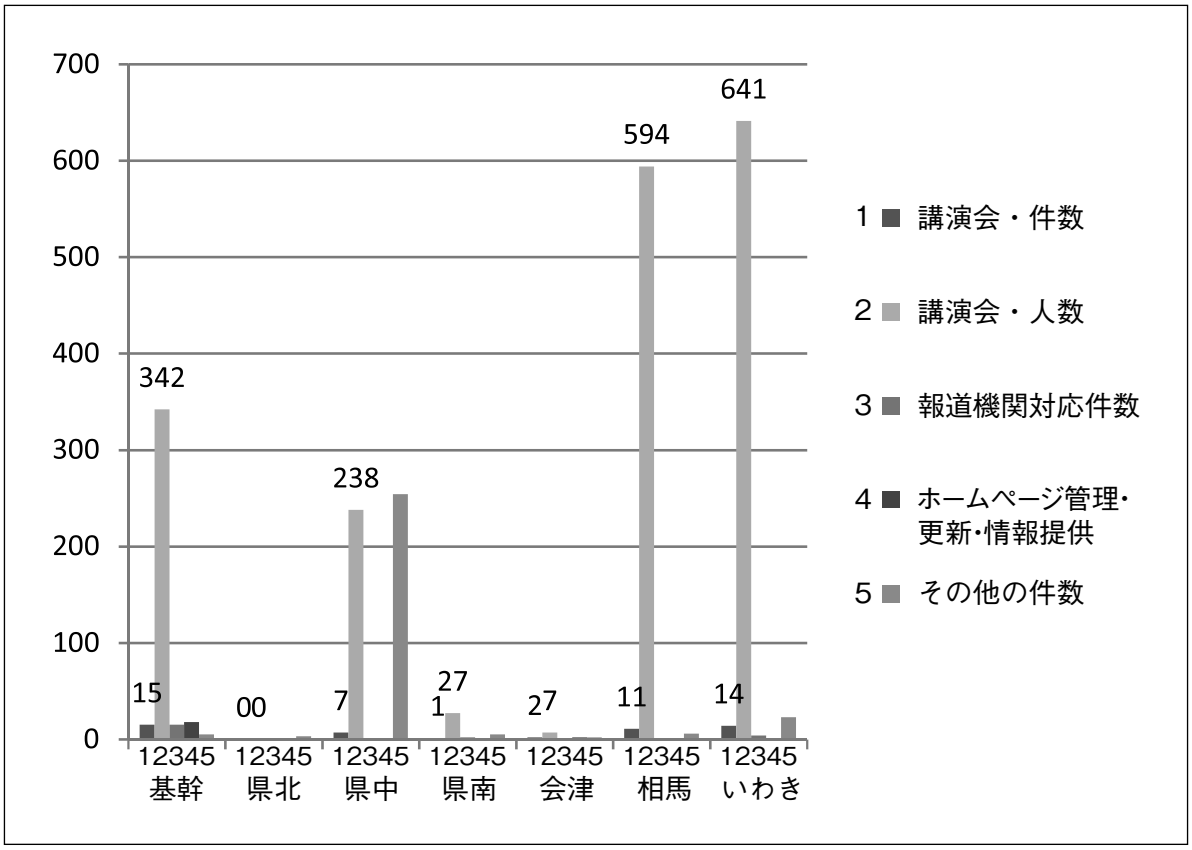


図34　普及啓発（方部別）

５．人材育成研修（図35・表11）

専門家向け講演会・研修会の実施件数は計101件で、参加者総計は計1,888名だった。一般向け講演会・研修会の実施件数は40件で参加者総計は計1,132名、事例検討会の実施件数は29件で、参加者総計は計228名だった。

基幹センターを除いて方部別にみると専門家向け講演会、研修会の件数は、いわき方部が19件、県中方部が17件であり、参加者総計はいわき方部が501名、県中方部が368名、相馬方部が238名だった。

一般向け講演会・研修会の件数は、県中方部17件であり、人数は県中方部センター756名、いわき方部センター114名、事例検討会は相馬方部センター21回191名である。

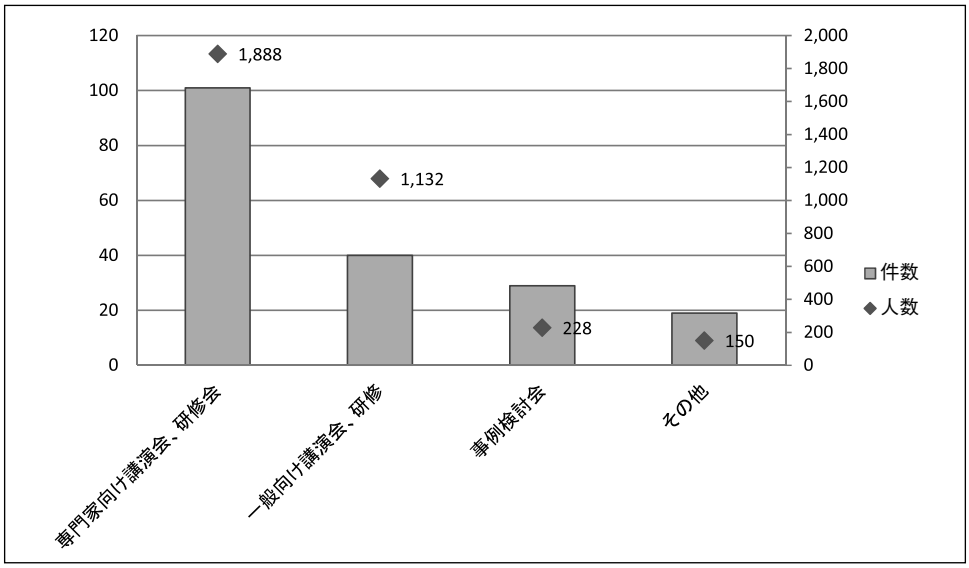


図35　人材育成・研修（全体）

表11　2014年度人材育成・研修（方部別）

		基幹	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	合計
専門家向け講演会、研修会	件数	39	3	17	12	3	8	19	101
	人数	448	150	368	137	46	238	501	1,888
一般向け講演会、研修	件数	7	0	17	1	7	3	5	40
	人数	152	0	756	35	47	28	114	1,132
事例検討会	件数	0	0	0	3	0	21	5	29
	人数	0	0	0	16	0	191	21	228
その他	件数	0	1	1	1	9	2	5	19
	人数	0	1	44	1	19	34	51	150

６．まとめ

東日本大震災の発生から４年目となる2014年度を振り返り、統計を元に活動状況の分析を行った。今後、当センターが取り組むべき課題について以下に記す。

まず被災者支援については、長引く避難生活の中、依然として被災者は心身の健康に不安を抱えたまま、困難な生活を余儀なくされており、当センターとしてはハイリスク者への継続支援とともに必要に応じて医療機関へのつなぎが求められている。相談の背景には、健康の問題、居住環境の変化、家族・家庭問題が上位を占め、個別化、多様化する被災者の状況に応じた、しなやかできめ細やかな支援が必要とされている。また今後増加が予想される廃用症候群（生活不活発病）、認知症については、アルコール依存、うつ、自殺等への対応とともに、県、市町村、医療機関等と連携しての予防対策を講じる必要も出てきている。

次いで支援者支援においては、自治体職員や支援団体職員の疲弊化への対応も喫緊の課題となっている。これまでメンタルヘルスに関する研修会やコンサルテーション、事例検討などによる技術的支援を行ってきているが、ストレスチェック制度の義務化と相まって、当センターの果たすべき役割について検討すべき時期に来ている。

さらに関係機関との連携では、当センターが支援に関わる機関・団体のコーディネートの役割を担うことも期待されており、中・長期的な視点では、地域における

課題・ニーズに添ったネットワークづくりを目指して地域精神保健福祉構築への協力が求められている。

［参考資料］　被災地市町村人口の推移～2011年3月と2015年3月との比較（表12～13）

１）福島県の総人口92,009名減少（△4.5%）している。浜通り13市町村の総人口33,339名減少（△6.2％）しており県全体の36.2%を占めている。

２）人口減少数の大きい市町村（千名以上）は下記のとおりであり、市部と浜通りの市町村の数が多い。会津若松市・会津美里町･南会津町等の会津方部の市町村は過疎化の影響が多いと考えられる。

市町村毎の順位は次のとおりである。

①いわき市　(−15,675名)　⑪相馬市　(−2,277名)
②郡山市　(−9,962名)　⑫須賀川市　(−2,266名)
③福島市　(−9,080名)　⑬白河市　(−1,996名)
④南相馬市　(−7,399名)　⑭富岡町　(−1,850名)
⑤伊達市　(−3,846名)　⑮会津美里町　(−1,648名)
⑥二本松市　(−3,521名)　⑯南会津町　(−1,355名)
⑦会津若松市　(−3,483名)　⑰川俣町　(−1,300名)
⑧田村市　(−2,651名)　⑱石川町　(−1,027名)
⑨喜多方市　(−2,539名)　⑲本宮市　(−1,021名)
⑩浪江町　(−2,514名)

表12　人口の減少数（市町村別）

市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数
いわき市	△15,675	郡山市	△9,962	福島市	△9,080	南相馬市	△7,399
伊達市	△3,846	二本松市	△3,521	会津若松市	△3,483	田村市	△2,671
喜多方市	△2,539	浪江町	△2,514	相馬市	△2,277	須賀川市	△2,266
白河市	△1,996	富岡町	△1,850	会津美里町	△1,648	南会津町	△1,355
川俣町	△1,300	石川町	△1,027	本宮市	△1,021	三春町	△918
会津坂下町	△865	双葉町	△820	猪苗代町	△810	小野町	△774
桑折町	△742	大熊町	△727	西会津町	△680	楢葉町	△613
棚倉町	△609	国見町	△577	塙町	△565	矢吹町	△475
平田村	△464	下郷町	△463	天栄村	△460	新地町	△456
古殿町	△444	広野町	△412	只見町	△392	柳津町	△386
矢祭町	△378	玉川村	△362	鮫川村	△319	金山町	△291
北塩原村	△287	川内村	△277	浅川町	△245	飯舘村	△238
泉崎村	△227	鏡石町	△225	三島町	△219	大玉村	△206
湯川村	△184	昭和村	△183	磐梯町	△176	葛尾村	△81
中島村	△71	檜枝岐村	△14	西郷村	36		

３） 人口減少率の大きな市町村（８％以上）については会津地方の町村が上位を占めている。地震津波の被害・原発事故で避難した市町村では浪江町・双葉町・富岡町・南相馬市・川内村・川俣町・楢葉町の減少が大きい。

表13　人口の減少率（市町村別）

市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率
昭和村	△12.3	浪江町	△12.1	金山町	△11.9	双葉町	△11.9
富岡町	△11.6	三島町	△11.5	南相馬市	△10.5	川内村	△9.8
柳津町	△9.7	平田村	△9.6	西会津町	△9.3	北塩原村	△9.0
川俣町	△8.4	鮫川村	△8.0	只見町	△8.0	楢葉町	△8.0
広野町	△7.6	南会津町	△7.6	古殿町	△7.4	天栄村	△7.4
会津美里町	△7.3	下郷町	△7.2	小野町	△6.9	田村市	△6.6
大熊町	△6.3	相馬市	△6.0	矢祭町	△6.0	二本松市	△5.9
伊達市	△5.8	桑折町	△5.8	石川町	△5.8	塙町	△5.8
国見町	△5.8	新地町	△5.6	湯川村	△5.5	葛尾村	△5.3
猪苗代町	△5.1	三春町	△5.1	会津坂下町	△5.0	玉川村	△5.0
喜多方市	△4.9	磐梯町	△4.7	いわき市	△4.6	棚倉町	△4.1
飯舘村	△3.9	浅川町	△3.6	泉崎村	△3.4	本宮市	△3.2
福島市	△3.1	白河市	△3.1	郡山市	△2.9	須賀川市	△2.9
会津若松市	△2.8	矢吹町	△2.6	大玉村	△2.4	檜枝岐村	△2.2
鏡石町	△1.8	中島村	△1.4	西郷村	0.2		

旧避難区域からの避難者数内訳

1.都道府県別

	都道府県	南相馬市	川俣町	広野町	楢葉町	富岡町	川内村	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	飯舘村	合　計	復興庁データー
1	北海道	69	4	1	14	65	9	31	17	71	0	39	320	1,406
2	青森県	18	0	4	2	29	2	23	20	39	1	3	141	334
3	岩手県	47	14	4	0	22	8	3	8	36	6	3	151	484
4	宮城県	1,613	14	15	31	242	23	185	220	746	7	57	3,153	2,633
5	秋田県	55	2	11	0	24	0	22	14	65	0	5	198	632
6	山形県	614	27	0	17	29	5	46	36	190	0	28	992	3,392
7	福島県	57,051	1,203	4,765	6,393	10,872	2,461	8,212	4,055	14,538	1,383	6,225	117,158	
8	茨城県	578	12	38	229	616	27	449	454	1,010	6	16	3,435	3,541
9	栃木県	411	5	12	37	212	29	184	160	467	2	45	1,564	2,823
10	群馬県	163	13	4	28	167	13	88	43	166	1	10	696	1,181
11	埼玉県	552	7	54	131	543	55	397	877	731	6	75	3,428	4,845
12	千葉県	361	2	34	119	462	42	244	176	547	8	25	2,020	3,118
13	東京都	609	24	72	152	707	49	293	355	912	27	61	3,261	5,942
14	神奈川県	351	18	60	69	399	46	178	186	452	12	61	1,832	3,149
15	新潟県	622	11	9	59	273	20	244	171	441	2	21	1,873	3,622
16	富山県	6	0	0	4	10	0	6	13	13	0	0	52	153
17	石川県	31	0	0	2	18	1	16	14	30	0	0	112	220
18	福井県	21	0	1	0	17	1	3	9	12	0	0	64	171
19	山梨県	69	4	4	7	22	3	4	11	52	0	3	179	585
20	長野県	72	3	0	6	52	1	9	15	55	2	4	219	813
21	岐阜県	10	0	0	3	4	4	6	10	17	0	1	55	183
22	静岡県	41	7	1	16	57	2	23	35	59	2	11	254	615
23	愛知県	35	1	0	4	55	2	6	3	28	0	1	135	671
24	三重県	4	4	1	6	4	0	8	0	8	0	6	41	183
25	滋賀県	9	1	0	4	12	2	0	1	1	0	0	30	152
26	京都府	27	6	4	0	11	0	9	10	34	1	5	107	489
27	大阪府	26	8	1	6	36	8	20	5	56	0	2	168	483
28	兵庫県	34	3	3	4	11	3	4	3	21	0	0	86	491
29	奈良県	1	0	0	0	10	0	0	0	7	0	0	18	79
30	和歌山県	0	4	0	0	3	0	2	0	0	0	0	9	27
31	鳥取県	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	97
32	島根県	0	0	0	0	16	0	0	17	6	0	0	39	73
33	岡山県	12	3	0	1	11	4	2	3	25	0	5	66	318
34	広島県	8	0	0	0	11	0	0	4	13	0	6	42	223
35	山口県	2	0	0	0	14	0	0	0	1	0	0	17	67
36	徳島県	0	4	0	0	9	0	0	0	1	0	1	15	33
37	香川県	3	7	0	2	3	0	1	0	3	0	0	19	47
38	愛媛県	3	1	0	0	10	3	2	5	13	0	0	37	84
39	高知県	1	1	0	0	6	0	0	0	6	0	0	14	42
40	福岡県	7	0	5	4	21	1	20	6	21	0	0	85	333
41	佐賀県	3	0	0	0	3	0	3	4	5	0	1	19	82
42	長崎県	8	1	0	0	7	0	2	5	12	0	0	35	79
43	熊本県	6	0	0	0	8	0	0	2	6	0	0	22	109
44	大分県	3	2	0	7	13	0	10	6	5	0	0	46	107
45	宮崎県	4	0	3	3	10	0	15	0	8	0	0	43	135
46	鹿児島県		0	0	0	15	0	1	16	7	0	1	40	106
47	沖縄県	19	2	0	1	19	3	8	4	20	1	3	80	502
48	国外	11	0	0		12	5	0	4	12	12	4	60	0
49	不明	0	0	0	7	0	9	7	0	0	0	1	24	0
合　計		63,590	1,418	5,106	7,368	15,173	2,841	10,786	6,997	20,969	1,479	6,729	142,456	44,854
福島県内避難者数※		57,051	1,203	4,765	6,393	10,872	2,461	8,212	4,055	14,538	1,383	6,225	116,818	
福島県外避難者数		6,539	215	341	975	4,301	380	2,574	2,942	6,431	96	504	25,298	44,854

※福島県内避難者数（避難元市町村に居住している住民も含む）

市町村名	南相馬市	川俣町※1	広野町	楢葉町	富岡町	川内村	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	飯舘村	合　計
避難先不明者	10	0	4	10	0	0	5	0	0	0	2	31

２．福島県内市町村別

	市町村名	南相馬市	川俣町※1	広野町※2	楢葉町	富岡町	川内村	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	飯舘村	合　計
1	福島市	1,186	359	12	50	401	38	229	334	3,355	33	3,868	9,865
2	会津若松市	234	3	12	72	170	5	1,555	78	293	8	21	2,451
3	郡山市	484	33	17	134	2,810	1,140	1,007	737	1,744	272	66	8,444
4	いわき市	613	5	2,420	5,738	5,995	349	4,439	2,006	2,897	32	17	24,511
5	白河市	57	2	0	8	99	2	73	237	271	1	1	751
6	須賀川市	79	4	7	8	84	7	85	58	160	19	6	517
7	喜多方市	48	0	0	13	35	3	61	11	47	0	15	233
8	相馬市	1,148	1	0	6	54	5	88	56	549	0	427	2,334
9	二本松市	109	64	0	14	41	1	47	18	2,008	3	84	2,389
10	田村市	12	5	0	10	158	131	61	22	82	151	16	648
11	南相馬市	52,492	3	4	9	128	13	221	198	1,360	11	402	54,841
12	伊達市	94	3	0	0	17	2	15	17	117	0	585	850
13	本宮市	30	3	3	1	42	6	32	58	685	13	12	885
14	桑折町	16	3	0	1	3	0	6	0	261	0	6	296
15	国見町	1	1	0	0	7	0	2	0	22	0	63	96
16	川俣町	15	707	0	0	2	0	1	0	94	7	520	1,346
17	大玉村	0	0	0	0	205	0	25	5	83	1	7	326
18	鏡石町	20	0	0	0	9	0	9	9	19	1	5	72
19	天栄村	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	6
20	下郷町	3	0	0	5	1	0	0	0	2	0	2	13
21	檜枝岐村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	只見町	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
23	南会津町	15	0	0	2	3	0	4	0	9	0	1	19
24	北塩原村	5	0	0	0	1	0	0	0	5	0	1	7
25	西会津町	13	0	0	0	8	0	1	0	2	0	0	11
26	磐梯町	9	0	0	0	3	0	1	0	4	0	0	8
27	猪苗代町	16	0	1	8	22	6	11	21	40	0	9	118
28	会津坂下町	26	0	0	0	3	0	22	15	20	1	0	61
29	湯川村	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
30	柳津町	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
31	三島町	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
32	金山町	7	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	11
33	昭和村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
34	会津美里町	11	0	0	203	11	0	26	15	17	0	1	284
35	西郷村	24	0	1	5	49	4	20	38	144	1	8	294
36	泉崎村	4	0	0	0	6	0	3	0	3	0	0	16
37	中島村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	7
38	矢吹町	6	0	2	2	32	5	16	29	19	0	1	112
39	棚倉町	14	0	2	0	7	0	2	11	9	3	0	48
40	矢祭町	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
41	塙町		0	0	0	7	0	5	9	5	0	0	26
42	鮫川村	2	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	8
43	石川町	1	0	34	12	7	1	3	0	12	5	0	75
44	玉川村	0	0	1	8	9	3	5	0	1	0	2	29
45	平田村	0	0	2	4	9	6	1	6	2	5	0	35
46	浅川町	2	0	0	0	7	0	5	0	0	0	0	12
47	古殿町	6	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	6
48	三春町	17	7	0	7	305	15	46	13	62	816	5	1,269
49	小野町	2	0	5	5	24	59	12	0	19	0	5	129
50	広野町	3	0	2,241	22	62	1	30	23	27	0	1	2,407
51	楢葉町	0	0	0	41	0	1	1	0	0	0	0	43
52	富岡町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	川内村	0	0	1	1	18	653	5	0	2	0	0	680
54	大熊町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55	双葉町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56	浪江町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
57	葛尾村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
58	新地町	219	0	0	4	15	2	23	7	65	0	8	124
59	飯舘村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	53
	福島県内	0	0	0	0	0	3	0	24	8	0	0	35
合　計		57,051	1,203	4,765	6,393	10,872	2,461	8,212	4,055	14,538	1,383	6,225	116,818

※1　山木屋地区（1,193名）及び自主避難者数（227名）の合計～川俣町の人口14,097名（27.7.1）
※2　広野町内居住者数 2,241名　（8/25現在）
※南相馬市（27年8月27日現在）、川俣町（27年9月1日現在）、広野町（27年8月31日現在）、楢葉町（27年8月31日現在）、富岡町（27年9月1日現在）
川内村（27年7月31日現在）、大熊町（27年9月1日現在）、双葉町（27年9月1日現在）、浪江町（27年8月31日現在）、葛尾村（27年8月1日現在）、飯舘村（27年9月1日現在）
復興庁データ:県外避難者（27年8月13日現在）～復興庁福島県・各市町村ホームページから（広野町・川内村については情報提供をいただいた）

県内への避難状況

								災害対策本部（土木部）		災害対策本部（生活環境部）		災害対策本部（危機管理部）	
								平成27年8月31日現在		平成27年6月30日現在		平成27年9月2日現在	
		仮設住宅		借上げ住宅 一般		借上げ住宅 特例(*1)		公営住宅(*2)		雇用促進住宅 公務員宿舎等(*4)		親戚・知人宅等 (*5)	合計
市町村別内訳		入居戸数	入居人数	入居戸数	入居人数	入居戸数	入居人数	入居戸数	入居人数	入居戸数	入居人数	人数	人数
福島市		－	－	10	25	164	441	11	26	10	22	－	514
国見町		22	42	－	－	4	10	－	－	－	－	－	52
桑折町		0	0	－	－	7	24	－	－	4	12	－	36
郡山市		0	0	10	19	655	1,463	10	21	8	17	－	1,520
須賀川市		68	143	－	－	191	445	－	－	19	58	－	646
田村市		188	496	－	－	206	553	4	17	19	89	146	1,301
鏡石町		16	40	0	0	46	91	－	－	－	－	－	131
白河市		20	54	3	6	84	203	16	49	－	－	－	312
西郷村		2	6	3	7	7	28	1	1	－	－	－	42
矢吹町		60	137	－	－	41	108	3	3	16	19	－	267
泉崎村		－	－	0	0	0	0	－	－	－	－	－	0
西会津町		－	－	0	0	0	0	0	0	－	－	－	0
新地町		141	356	－	－	17	38	－	－	1	2	－	396
相馬市		219	581	－	－	94	229	12	28	31	59	－	897
南相馬市	南相馬市	2,239	4,343	－	－	2,630	6,283	60	181	89	289	不明	11,417
	相馬市	117	289	－	－								
	福島市	－	－	4	18								
	郡山市	－	－	5	14								
	会津若松市	－	－	－	－								
いわき市		116	296	229	551	850	2,063	－	－	182	541	－	3,451
その他（伊達市、会津坂下町、小野町、玉川村、平田村、中島村、会津若松、喜多方市、会津美里町、矢祭町、塙町、南会津町、猪苗代町、石川町、北塩原村、三春町、天栄村、大玉村、二本松市、本宮市）		－	－	－	－	124	398	24	85	56	173	－	656
川俣町		207	399	－	－	225	562	17	63	1	1	69	1,094
飯舘村	福島市	283	518	20	38	1,278	2,835	18	44	136	361	411	4,693
	伊達市	90	144	9	11								
	国見町	27	54	－	－								
	相馬市	143	277	－	－								
大熊町	郡山市	－	－	9	20	1,408	3,033	16	42	15	46	109	4,934
	会津若松市	413	622	48	126								
	喜多方市	－	－	6	9								
	いわき市	503	927	－	－								
富岡町	郡山市	387	596	98	182	2,067	4,303	23	65	13	40	658	6,979
	大玉村	150	235	－	－								
	田村市	20	28	－	－								
	三春町	148	252	－	－								
	いわき市	357	620	－	－								
浪江町	二本松市	705	1,332	14	25	2,676	5,313	17	60	70	229	428	9,505
	福島市	578	1,058	83	145								
	相馬市	93	200	－	－								
	桑折町	101	156	－	－								
	郡山市	－	－	4	11								
	いわき市	－	－	0	0								
	南相馬市	70	97	－	－								
	本宮市	263	451	－	－								
	西郷村	－	－	0	0								
楢葉町	会津若松市	－	－	10	15	1,136	2,606	6	19	24	89	102	5,342
	会津美里町	138	185	－	－								
	いわき市	1,080	2,326	0	0								
広野町	広野町	32	50	－	－	499	1,301	2	3	15	52	200	2,661
	いわき市	457	1,049	3	6								
葛尾村	三春町	390	738	－	－	189	367	－	－	2	9	2	1,122
	郡山市	－	－	4	6								
川内村	川内村	34	64	－	－	341	769	9	18	－	－	74	1,776
	郡山市	313	594	61	149								
	田村市	0	0	－	－								
	いわき市	61	108	－	－								
双葉町	福島市	49	75	7	7	728	1,343	3	3	9	31	117	2,147
	郡山市	79	128	3	8								
	白河市	45	71	3	10								
	会津若松市	5	12	0	0								
	猪苗代町	5	14	－	－								
	いわき市	195	328	－	－								
計		10,629	(*3) 20,491	646	(*3) 1,408	(*3) 15,667	(*3) 34,809	(*3) 252	728	(*3) 720	2,139	2,316	61,891

注）(*1)特例とは、自ら県内の民間賃貸住宅に入居した避難住民の賃貸借契約を県との契約に切り替え、県借上げ住宅とする特例措置
注）(*2)公営住宅（254戸737人：県営住宅87戸232人・市町村営住宅167戸505人）をいう。
注）(*3)各市町村において確認できた人数を集計したものである。
注）(*4)避難者支援課で集計したものである。
注）(*5)親戚・知人宅、施設・病院、県の借上げでない住宅、社宅等への避難者数。（災害対策本部総括班で集計したものである。）

福島県から県外への避難状況

福島県避難者支援課・復興庁・宮城県

調査時点：平成27年8月13日（木）
復興庁からのデータ提供：平成27年8月28日（金）

2015/8/11

地方名	都道府県	A 避難所（公民館、学校等）	B 旅館・ホテル	C その他（親族・知人宅等）	D 住宅等（公営、仮設、民間、病院含む）	合計	所在都道府県別の避難者等の数（全国の避難者等の数）	都道府県	宮城県
北海道	北海道	0	0	250	1,156	1,406	2,302	北海道	446
東北	青森	0	0	178	156	334	507	青森	140
	岩手	0	0	153	331	484	25,761	岩手	1,043
	宮城	0		1,108	1,525	2,633	57,565	宮城	
	秋田	0	0	240	392	632	878	秋田	258
	山形	0	0	538	2,854	3,392	3,746	山形	447
	福島						62,773	福島	73
関東	茨城	0	0	1,063	2,478	3,541	3,936	茨城	53
	栃木	0	0	692	2,131	2,823	2,931	栃木	75
	群馬	0	0	250	931	1,181	1,274	群馬	74
	埼玉	0	0	1,553	3,292	4,845	5,380	埼玉	450
	千葉	0	0	1,356	1,762	3,118	3,556	千葉	256
	東京	0	0	1,302	4,640	5,942	7,282	東京	868
	神奈川	0	0	1,615	1,534	3,149	3,845	神奈川	488
中部	新潟	0	0	139	3,483	3,622	3,765	新潟	100
	富山	0	0	58	95	153	213	富山	32
	石川	0	0	29	191	220	300	石川	46
	福井	0	0	30	141	171	244	福井	49
	山梨	0	0	85	500	585	689	山梨	43
	長野	0	0	134	679	813	1,012	長野	42
	岐阜	0	0	42	141	183	270	岐阜	59
	静岡	0	0	171	444	615	892	静岡	160
	愛知	0	0	61	610	671	1,102	愛知	238
近畿	三重	0	0	51	132	183	444	三重	47
	滋賀	0	0	50	102	152	212	滋賀	53
	京都	0	0	161	328	489	732	京都	114
	大阪	0	0	87	396	483	762	大阪	270
	兵庫	0	0	136	355	491	871	兵庫	189
	奈良	0	0	31	48	79	153	奈良	24
	和歌山	0	0	11	16	27	90	和歌山	26
中国	鳥取	0	0	23	74	97	154	鳥取	18
	島根	0	0	9	64	73	96	島根	14
	岡山	0	0	109	209	318	1,138	岡山	54
	広島	0	0	100	123	223	425	広島	83
	山口	0	0	19	48	67	111	山口	17
四国	徳島	0	0	2	31	33	66	徳島	10
	香川	0	0	3	44	47	83	香川	5
	愛媛	0	0	56	28	84	177	愛媛	35
	高知	0	0	23	19	42	81	高知	19
九州	福岡	0	0	75	258	333	698	福岡	223
	佐賀	0	0	15	67	82	159	佐賀	23
	長崎	0	0	12	67	79	121	長崎	34
	熊本	0	0	43	66	109	361	熊本	41
	大分	0	0	6	101	107	206	大分	40
	宮崎	0	0	25	110	135	232	宮崎	39
	鹿児島	0	0	19	87	106	190	鹿児島	32
沖縄	沖縄	0	0	10	492	502	728	沖縄	159
合計		0	0	12,123	32,731	44,854	198,513		7,009

※復興庁「全国の避難者等の数」調査のうち福島県分を抽出。

東日本大震災に係る子どもの避難者数調べ

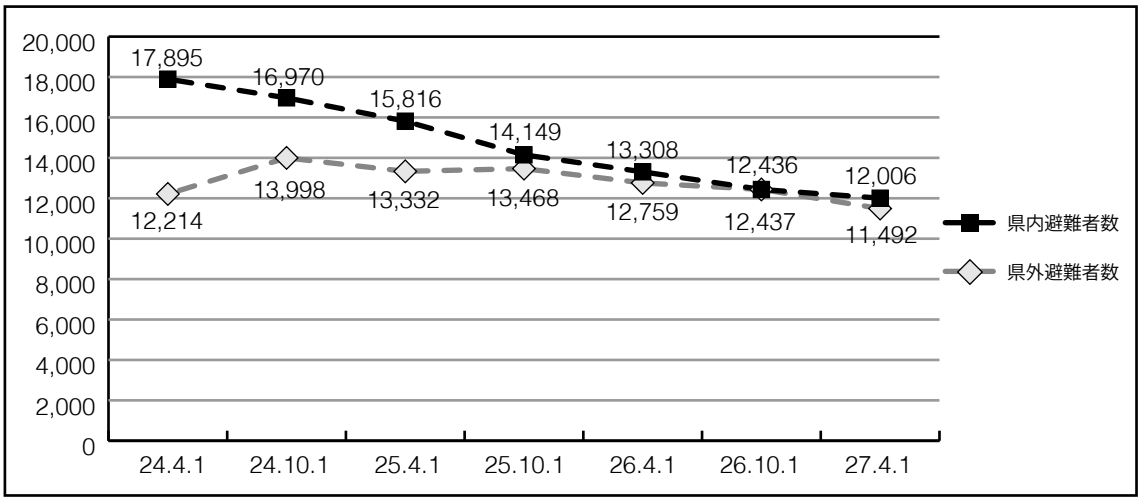
（市町村が把握している人数）

福島県こども青少年政策課

市町村名	平成27年4月1日現在の把握数（18歳未満の避難者数）	避難先別 県内		県外
		避難元市町村内	派遣元市町村外	
福島市	2,059	0	25	2,034
会津若松市	55	0	4	51
郡山市	2,032	0	31	2,001
いわき市	1,690	516	36	1,138
白河市	238	50	6	182
須賀川市	247	66	32	149
喜多方市	0	0	0	0
相馬市	38	0	1	37
二本松市	272	0	5	267
田村市	206	157	24	25
南相馬市	4,729	1,769	1,086	1,874
伊達市	246	34	4	208
本宮市	31	0	3	28
桑折町	10	0	2	8
国見町	25	4	0	21
川俣町	176	68	66	42
大玉村	4	0	3	1
鏡石町	30	0	0	30
天栄村	22	0	4	18
下郷町	0	0	0	0
檜枝岐村	0	0	0	0
只見町	0	0	0	0
南会津町	0	0	0	0
北塩原村	0	0	0	0
西会津町	0	0	0	0
磐梯町	0	0	0	0
猪苗代町	17	0	0	17
会津坂下町	0	0	0	0
湯川村	0	0	0	0
柳津町	0	0	0	0

市町村名	平成27年4月1日現在の把握数（18歳未満の避難者数）	避難先別 県内		県外
		避難元市町村内	派遣元市町村外	
三島町	0	0	0	0
金山町	0	0	0	0
昭和村	0	0	0	0
会津美里町	2	0	0	2
西郷村	51	0	0	51
泉崎村	11	0	0	11
中島村	0	0	0	0
矢吹町	42	0	1	41
棚倉町	18	0	2	16
矢祭町	0	0	0	0
塙町	0	0	0	0
鮫川村	2	0	0	2
石川町	3	0	0	3
玉川村	6	0	0	6
平田村	0	0	0	0
浅川町	2	0	0	2
古殿町	7	0	0	7
三春町	12	0	2	10
小野町	29	0	6	23
広野町	490	11	411	68
楢葉町	1,077	0	905	172
富岡町	2,194	0	1,612	582
川内村	185	10	134	41
大熊町	2,058	0	1,510	548
双葉町	967	0	497	470
浪江町	3,039	0	1,859	1,180
葛尾村	186	0	168	18
新地町	8	0	0	8
飯舘村	982	0	882	100
計	23,498	2,685	9,321	11,492
		12,006		
H26.10.1現在	24,873	12,437		12,436
増減数	△ 1,375	△ 431		△ 944

※平成27年4月1日時点の避難者数である。
※4月1日現在の「全国避難者情報システム」の積み上げ等によるもの。
注）避難元の県や市町村に提供するもの。



被害の状況　（福島県発表：平成27年9月11日）

福島県災害対策課・警察庁緊急災害警備本部

(1)人的被害

単位：人

市町村名	人的被害							備考
	死者				行方不明者※2	重傷者	軽傷者	
	直接死	関連死	死亡届等※1	死者数計				
福島市	6	10		16		2	17	平成23年4月7日、4月11日、7月25日、8月12日の余震による被害を含む
二本松市							3	平成23年4月7日の余震による
伊達市		1		1			3	平成23年4月7日の余震による被害を含む
本宮市								
桑折町							1	
国見町	1			1			20	
川俣町		26		26				
大玉村		1		1				
郡山市	5	8	2	15		2	3	平成23年4月11日、7月31日、8月12日、平成26年7月12日の余震による被害を含む
須賀川市	9	2	1	12			1	平成23年4月7日、4月11日の余震による被害を含む
田村市		14		14		1	4	
鏡石町		2		2			2	
天栄村						2	1	
石川町		1		1			4	平成23年4月11日の余震による被害を含む
玉川村							3	
平田村								
浅川町							3	
古殿町								
三春町		1		1			2	
小野町								
白河市	12			12			2	
西郷村	3	2		5			4	
泉崎村								
中島村								
矢吹町						1	6	
棚倉町								
矢祭町								
塙町								
鮫川村								
会津若松市	1	3		4			6	
喜多方市								
北塩原村								
西会津町								
磐梯町							1	平成23年4月12日の余震による被害を含む
猪苗代町							1	
会津坂下町							1	
湯川村								
柳津町								
三島町								
金山町								
昭和村								
会津美里町							1	
下郷町								
檜枝岐村								
只見町								
南会津町						1		
相馬市	439	28	19	486		4	7	平成23年4月7日の余震による被害を含む
南相馬市	525	478	111	1,114		2	57	
広野町	2	43		45	1			
楢葉町	11	112	2	125		2	3	
富岡町	18	318	6	342				
川内村		85		85			1	
大熊町	11	113		124	1			
双葉町	17	131	3	151	1		1	
浪江町	150	370	32	552				
葛尾村		32	1	33				
新地町	100	9	10	119			3	
飯舘村	1	42		43			1	
いわき市	293	130	37	460		3	1	平成23年4月11日の余震による被害を含む
合計	1,604	1,962	224	3,790	3	20	163	

※1　明確に死亡が確認できる遺体が見つかっていないが、死亡届等が出されている者
※2　明確に死亡が確認できる遺体が見つかっておらず、死亡届等も出ていない者

県内行方不明者(警察庁緊急災害警備本部発表：平成27年8月31日)　200

※人数は平成26年9月30日17時現在。死者は福島県の発表。直接死は地震や津波での死者、関連死は避難途中や避難先などで死亡し認定され、災害弔慰金が支給された死者。死亡届等は、遺体が見つかっていないが、死亡届が出されている人や災害弔慰金の支給対象となった人ら。

被害の状況　（福島県発表：平成27年9月18日）

(2)住家・非住家被害

市町村名	住家被害															非住家被害		備考
	全壊			半壊			一部破損			床上浸水			床下浸水			公共建物	その他	
	棟数	世帯数	人数	棟数	世帯数	人数	棟数	世帯数	人数	棟数	世帯数	人数	棟数	世帯数	人数	棟数	棟数	
福島市	204	204		3,980	3,980		6,549	6,549								1	2,117	
二本松市	11	11	35	475	490	1,767	5,399									93	140	
伊達市	25	25		239	242		850	850								162	84	
本宮市	16	18	54	222	264	917	3,246	3,086	11,430							13	227	
桑折町	55	54		187	190		1,175	1,144								2	399	
国見町	191	191		565	565		508	508								1	635	
川俣町	28	28	82	30	30	93	1,287	1,287	3,732							4	406	
大玉村	6			27			734										41	
郡山市	2,455			21,712			34,427									69	1,467	
須賀川市	1,249			3,503			10,557			32			30			93	947	
田村市	19	19	54	196	196	737	4,137									114	500	
鏡石町	172			768			1,666									37	642	
天栄村	72			139			1,561									16	126	
石川町	1	1	2	32	33	118	2,619	2,876	11,032							27	22	
玉川村				47			665									18	257	
平田村	1	1	3	15	15	58	441									26	90	
浅川町				1	1		586	586								17	134	
古殿町				27	28	72	785	785								16	202	
三春町	32	37	109	231	256	747	1,404									1	338	
小野町	4	4	8	45	45	147	1,422	1,422									147	
白河市	240			1,818			7,051									42	2,059	
西郷村	43	43		305	305		2,009	2,009								36	238	
泉崎村	62	65		323	332		625	633								※1 9	※2 6	※1 うち平成23年4月7日余震によるもの1棟 ※2 うち平成24年12月7日余震によるもの1棟
中島村	3	3	9	29	29	108	954	954								3	3	
矢吹町	294	294		1,587	1,587		1,827	1,827								※ 59	1,133	※うち平成23年4月7日余震によるもの1棟
棚倉町	1	1	4	24	24	86	1,092									19		
矢祭町				63	63	220	251	251									7	
塙町							270	270								1		
鮫川村				7	7	24	112	112	543							※ 11	39	※うち平成23年4月12日余震によるもの5棟
会津若松市	4	4	6	87	97	259	5,720	6,177	15,440							1	131	
喜多方市																※ 20	26	※うち平成23年4月11日余震によるもの1棟
北塩原村																		
西会津町																		
磐梯町							8									5	21	
猪苗代町	18	18	74	63	63	130	666	666	1,868							0	148	
会津坂下町	2			7			32									2	309	
湯川村				3	3	6	39	39									123	
柳津町																		
三島町																		
金山町																		
昭和村																		
会津美里町				2	2	17	331										6	
下郷町																	16	
檜枝岐村																		
只見町																		
南会津町																		
相馬市	1,004	1,104	3,871	833	968	2,856	3,397	3,674	12,229							2	2,514	
南相馬市	2,266	1,241		1,942	1,088		3,515	2,549		999	249		306	108		4	5,641	
広野町	160	113		593	301		3,244	1,577		30						1	239	
楢葉町	146			1,058			323			0			13			8	57	
富岡町	332			2,167			2,748										139	
川内村	8	7	20	565	565	1,627	167	167	474							3	225	
大熊町	61	50	165	95	79	249	16	8	30							4	109	
双葉町	103	100	359	14	14	48	1	1	4									
浪江町	742	742	2,403	1,034	1,025	3,080	100	100	301				2	2	4		267	
葛尾村				31	31		1	1									194	
新地町	439	474	1,462	138	156	527	669	636	2,375							24	991	
飯舘村				1			113											
いわき市	4,644			32,921			26,004									0	12,736	
合計	15,113	4,852	8,720	78,151	13,074	13,893	141,303	40,744	59,458	1,061	249	0	351	110	4	964	36,298	

災害公営住宅の進捗状況（平成27年8月31日時点）　　福島県建築住宅課

	事業主体	団地名又は地区名等	計画戸数	構造						現在の状況	完成予定年度
				戸建・長屋建			共同住宅			設計・建設等	
					木造	非木造		木造	非木造		
自市町村の罹災住民（地震・津波等被災）の住宅整備	桑折町	東段地区	22	22	22		0			入居開始	H27
		計	22	22	22	0	0	0	0		
	須賀川市	東町	21	0			21		21	入居開始	H27
		馬町	11	11	11		0			入居開始	H26
		弘法坦	45	0			45		45	建築工事中	H27
		山寺北	23	0			23		23	建築工事中	H27
		計	100	11	11	0	89	0	89		
	鏡石町	駅東地区	24				24		24	入居開始	H26
		計	24	0	0	0	24	0	24		
	白河市	葉ノ木平	16	0			16		16	入居開始	H27
		計	16	0	0	0	16	0	16		
	矢吹町	中町第一	14	0	0		14	14		建築工事中	H27
		中町第二	23	23	23		0			建築工事中	H27
		中畑	4	4	4		0			入居開始	H27
		中町第三	11	0	0		11	11		建築工事中	H27
		計	52	27	27	0	25	25	0		
	相馬市	細田東団地	77	65	65		12	12		入居開始	H25
		刈敷田第2団地	106	70	70		36		36	入居開始	H26
		南戸崎団地	10	0			10	10		入居開始	H24
		南ノ入団地	28	28	28		0			入居開始	H26
		北高野団地	51	51	51		0			入居開始	H26
		馬場野山田団地	12	0			12	12		入居開始	H24
		程田明神前団地	46	46	46		0			入居開始	H24
		狐穴団地	12	0			12		12	入居開始	H24
		山信田団地	56	56	56		0			入居開始	H26
		計	398	316	316	0	82	34	48		
	南相馬市	原町　大町第一	40	0			40		40	入居開始	H26
		原町　大町第二	80	0			80	20	60	入居開始	H26
		原町　大町第三	29	0			29		29	建築工事中	H27
		原町　集合住宅	33	0			33		33	建築工事中	H27
		原町　戸建住宅	38	38	38		0			建築工事中	H27
		鹿島　西町	30	0			30		30	入居開始	H26
		鹿島　西川原	28	28	28		0			入居開始	H25
		鹿島　西川原第二	32	0			32		32	建築工事中	H27
		小高　東町	20	20	20		0			建築工事中	H27
		小高　集合住宅	2	0			2	2		建築工事中	H27
		小高区内　集合住宅	18	0			18	18		建築工事中	H27
		計	350	86	86	0	264	40	224		
	新地町	愛宕東	30				30		30	入居開始	H25
		駒ヶ嶺原	6	6	6		0			入居開始	H25
		中島地区	30	30	30		0			用地調整中	H27
		作田東地区	6	6	6		0			入居開始	H26
		作田西地区	9	9	9		0			入居開始	H26
		岡	14	14	14		0			入居開始	H26
		雁小屋	27	27	27		0			入居開始	H26
		大戸浜	11	11	11		0			入居開始	H26
		計	133	103	103	0	30	0	30		
	いわき市	錦	64	0			64		64	入居開始	H25
		平沼ノ内	40	0			40		40	入居開始	H25
		四倉	151	21	21		130		130	入居開始	H26
		小名浜	189	24	24		165		165	建築工事中	H27
		勿来関田	72	0			72		72	入居開始	H26
		勿来四沢	20	0			20		20	入居開始	H26
		勿来四沢	30	30	30		0		0	建築工事中	H27
		常磐関船	32	0			32		32	入居開始	H25
		常磐湯本	88	13	13		75		75	建築工事中	H27
		平作町	45	0			45		45	入居開始	H26
		内郷	250	0			250		250	建築工事中	H27
		平北白土	50	0			50		50	建築工事中	H27
		久之浜	120	0			120		120	入居開始	H26
		久之浜	16	16	16		0			建築工事中	H27
		平豊間	192	24	24		168		168	入居開始	H26
		平薄磯	103	18	18		85		85	入居開始	H26
		佐糠	51	0			51		51	建築工事完了	H27
		計	1,513	146	146	0	1,367	0	1,367		
	広野町	下浅見川字桜田地内	48	10	10		38		38	入居開始	H26
		折木字大平地区	14	未定			未定			建築設計中	調整中
		計	62	10	10	0	38	0	38		
	楢葉町	中満南	15	15	15		0			用地確保完了	H28
		一ツ屋	8	8	8		0			造成工事中	H27
		シウ神山	10	10	10		0			造成工事中	H27
		中満	108	108	108		0			用地確保完了	H28
		計	141	141	141	0	0	0	0		
		小計①	2,811	862	862	0	1,935	99	1,836		

復興公営住宅（原子力災害による避難者の住宅整備）の進捗状況（平成27年8月31日時点）　　福島県建築住宅課

		事業主体	団地名又は　地区名等	計画戸数	構造						現在の状況	完成予定年度
					戸建・長屋建			共同住宅			設計・建設等	
						木造	非木造		木造	非木造		
原子力災害による避難者の住宅整備		桑折町	桑折町東段	25	25	25		0		0	入居開始	H27
			桑折町東段2	39	39	39		0		0	設計中	H28
			計	64	64	64	0	0	0	0		
		飯舘村	福島市飯野団地	23	23	23		0			入居開始	H26
			計	23	23	23	0	0	0	0		
		葛尾村	三春町恵下越	125	125	125		0			造成工事中	H28
			計	125	125	125	0	0	0	0		
		川内村	宮ノ下	25	25	25		0		0	入居開始	H27
			計	25	25	25	0	0	0	0		
		川俣町	新中町	40	40	40		0			造成工事中	H27
			計	40	40	40	0	0	0	0		
		大玉村	横堀平	67	67	67		0		0	建築工事中	H27
			計	67	67	67	0	0	0	0		
		本宮市	和田	20	20	20		0		0	造成工事中	H27
			仁井田	22	0			22		22	建築工事中	H27
			仁井田2	19	19	19		0		0	建築工事中	H27
			計	61	39	39	0	22	0	22		
		（市町村事業　小計）		405	383	383	0	22	0	22		
			福島市北信団地	24	0			24		24	入居開始	H26
			福島市笹谷団地	24	0			24		24	入居開始	H26
			福島市飯坂団地	58	0			58		58	建築工事中	H27
			福島市北沢又	152	0			152		152	設計中	H27
			福島市北沢又2	130	70	70		60		60	設計中	H29
			福島市北中央団地	64	0			64		64	建築工事中	H28
			会津若松市古川町団地	20	0			20		20	入居開始	H26
			会津若松市年貢町団地	8	8	8		0			入居開始	H26
			会津若松市年貢町団地	42	0			42		42	入居開始	H27
			会津若松市城北町	30	30	30		0			造成・建築工事中	H28
			会津若松市白虎町1	19	19	19		0			設計中	H27
			会津若松市白虎町2	15	15	15		0			設計中	H28
			郡山市柴宮団地57号棟	30	0			30		30	入居開始	H26
			郡山市富田団地1号棟	40	0			40		40	入居開始	H26
			郡山市日和田団地	20	0			20		20	入居開始	H26
			郡山市八山田団地1号棟	20	0			20		20	入居開始	H26
			郡山市東原団地1号棟	50	0			50		50	入居開始	H26
			郡山市富田団地2号棟	40	0			40		40	建設工事中	H27
			郡山市富田団地3号棟	40	0			40		40	建設工事中	H27
			郡山市富田団地4号棟	34	0			34		34	入居開始	H27
			郡山市八山田団地2号棟	40	0			40		40	建物完成	H27
			郡山市東原団地2号棟	20	0			20		20	建設工事中	H27
			郡山市東原団地3号棟	15	0			15		15	建設工事中	H27
			郡山市柴宮団地58号棟	16	0			16		16	建設工事中	H27
			郡山市安積団地18号棟	35	0			35		35	建設工事中	H27
			郡山市鶴見坦団地	30	0			30		30	建設工事中	H27
			郡山市八山田団地3号棟	40	0			40		40	建設工事中	H27
			郡山市田村町岩作	80	80	80		0			造成工事中	H28
			郡山市安積団地17号棟	20	0			20		20	建設工事中	H27
			いわき市湯長谷団地	50	0			50		50	入居開始	H26
			いわき市下神白団地	200	0			200		200	入居開始	H26
			いわき市八幡小路団地	12	0			12		12	入居開始	H27
			いわき市家ノ前団地	53	53	53		0			造成工事中	H28
			いわき市小川町上代	50	50	50		0			設計中	H28
			いわき市小川町小路尻	30	30	30		0			設計中	H28
			いわき市勿来酒井	200	100	100		100		100	設計中	H29
			いわき市北好間中川原	300	0			300		300	設計中	H29
			いわき市宮沢団地2、3号棟	72	0			72		72	建設工事中	H28
			いわき市大原団地	54	0			54		54	建設工事中	H28
			いわき市泉町本谷	244	0			244		244	設計中	H29
			いわき市常下湯長谷	150	0			150		150	設計中	調整中
			いわき市四倉上仁井田	150	0			150		150	設計中	H29
			いわき市平赤井	80	0			80		80	設計中	調整中
			いわき市鹿島町下矢田1	30	0			30		30	設計中	H29
			いわき市関船団地	27	0			27		27	建設工事中	H28
			いわき市小名浜中原	125	0			125		125	設計中	H29
			白河市鬼越団地	28	28	28		0			設計中	H28
			白河市白坂	12	12	12					設計中	H28
			二本松市根柄山団地	70	70	70		0			造成工事中	H28
			二本松市油井石倉	200	0			200		200	造成工事中	H28
			二本松市若宮	32	0			32		32	設計中	H29
			二本松市表	44	0			44		44	設計中	H29
			田村市船引	18	18	18		0			設計中	H28
			南相馬市北原団地	264	0			264		264	建築工事中	H28
			南相馬市上町団地	182	0			182		182	造成工事中	H28
			南相馬市辻内	176	0			176		176	設計中	H28
			南相馬市南町団地	255	0			255		255	造成工事中	H28
			南相馬市鹿島	50	50	50		0			設計中	H28
			川俣町壁沢	80	80	80		0			造成工事中	H28
			三春町平沢団地	92	92	92		0			造成工事中	H28
			広野町下北迫	58	58	58					設計中	H29
			計	4,544	863	863	0	3,681	0	3,681		
			小計a	4,949	1,246	1,246	0	3,703	0	3,703		
	未定（建設地未確定）　b			0								
			小計②（a＋b）	4,949	1,246	1,246	0	3,703	0	3,703		
			合計（小計①＋小計②）	7,760	2,108	2,108	0	5,638	99	5,539		

福島県の人口比較（23年3月1日と27年3月1日）

福島県統計課

統計表

地域	世帯数	人口
福 島 県	729,978	1,932,392
	721,535	2,024,401
比較	8,443	△92,009
市 部	594,908	1,534,012
	585,260	1,599,728
比較	9,648	△65,716
郡 部	135,070	398,380
	136,275	424,673
比較	△1,205	△26,293
県北管内	180,600	475,574
	176,638	495,867
比較	3,962	△20,293
県中管内	202,230	531,371
	197,712	551,169
比較	4,518	△19,798
県南管内	51,036	145,090
	49,633	149,694
比較	1,403	△4,604
会津管内	91,568	249,283
	91,379	261,034
比較	189	△11,751
南会津管内	10,513	27,488
	10,644	29,712
比較	△131	△2,224
相双管内	63,992	177,798
	66,569	195,462
比較	△2,577	△17,664
いわき管内	130,039	325,788
	128,960	341,463
比較	1,079	△15,675

地域	世帯数	人口
伊達郡	12,394	35,699
	12,449	38,318
比較	△55	△2,619
安達郡	2,408	8,430
	2,276	8,636
比較	132	△206
岩瀬郡	5,936	18,373
	5,744	19,058
比較	192	△685
石川郡	13,229	42,114
	13,077	44,656
比較	152	△2,542
田村郡	9,036	27,538
	9,019	29,230
比較	17	△1,692
西白河郡	16,845	49,249
	16,075	49,986
比較	770	△737
東白川郡	10,893	33,235
	10,820	35,106
比較	73	△1,871
耶麻郡	9,706	27,991
	9,769	29,944
比較	△63	△1,953
河沼郡	7,605	23,160
	7,524	24,595
比較	81	△1,435
大沼郡	8,941	26,102
	9,210	28,443
比較	△269	△2,341
南会津郡	10,513	27,488
	10,644	29,712
比較	△131	△2,224
双葉郡	23,445	65,385
	25,491	72,679
比較	△2,046	△7,294
相馬郡	4,119	13,616
	4,177	14,310
比較	△58	△694

地域	世帯数	人口
福島市	116,102	282,912
	113,111	291,992
比較	2,991	△9,080
二本松市	18,689	56,144
	18,365	59,665
比較	324	△3,521
伊達市	21,135	61,903
	20,863	65,749
比較	272	△3,846
本宮市	9,872	30,486
	9,574	31,507
比較	298	△1,021
郡山市	135,628	328,920
	132,118	338,882
比較	3,510	△9,962
須賀川市	26,563	76,843
	25,824	79,109
比較	739	△2,266
田村市	11,838	37,583
	11,930	40,234
比較	△92	△2,651
白河市	23,298	62,606
	22,738	64,602
比較	560	△1,996
会津若松市	48,318	122,389
	47,893	125,872
比較	425	△3,483
喜多方市	16,998	49,641
	16,983	52,180
比較	15	△2,539
相馬市	13,481	35,444
	13,251	37,721
比較	230	△2,277
南相馬市	22,947	63,353
	23,650	70,752
比較	△703	△7,399
いわき市	130,039	325,788
	128,960	341,463
比較	1,079	△15,675

地域	世帯数	人口
桑折町	4,085	12,042
	4,067	12,784
比較	18	△742
国見町	3,240	9,452
	3,193	10,029
比較	47	△577
川俣町	5,069	14,205
	5,189	15,505
比較	△120	△1,300
大玉村	2,408	8,430
	2,276	8,636
比較	132	△206
鏡石町	4,251	12,586
	4,082	12,811
比較	169	△225
天栄村	1,685	5,787
	1,662	6,247
比較	23	△460
石川町	5,433	16,690
	5,396	17,717
比較	37	△1,027
玉川村	1,982	6,869
	1,938	7,231
比較	44	△362
平田村	2,038	6,424
	2,001	6,888
比較	37	△464
浅川町	2,071	6,594
	2,018	6,839
比較	53	△245
古殿町	1,705	5,537
	1,724	5,981
比較	△19	△444
三春町	5,550	17,171
	5,500	18,089
比較	50	△918
小野町	3,486	10,367
	3,519	11,141
比較	△33	△774
西郷村	7,183	19,765
	6,723	19,729
比較	460	36
泉崎村	2,039	6,544
	2,013	6,771
比較	26	△227
中島村	1,526	5,050
	1,391	5,121
比較	135	△71
矢吹町	6,097	17,890
	5,948	18,365
比較	149	△475
棚倉町	4,788	14,402
	4,699	15,011
比較	89	△609
矢祭町	1,931	5,940
	1,936	6,318
比較	△5	△378
塙町	3,081	9,246
	3,077	9,811
比較	4	△565
鮫川村	1,093	3,647
	1,108	3,966
比較	△15	△319

地域	世帯数	人口
北塩原村	1,027	2,906
	1,058	3,193
比較	△31	△287
西会津町	2,527	6,603
	2,629	7,283
比較	△102	△680
磐梯町	1,117	3,558
	1,128	3,734
比較	△11	△176
猪苗代町	5,035	14,924
	4,954	15,734
比較	81	△810
会津坂下町	5,446	16,401
	5,365	17,266
比較	81	△865
湯川村	937	3,159
	914	3,343
比較	23	△184
柳津町	1,222	3,600
	1,245	3,986
比較	△23	△386
三島町	707	1,688
	739	1,907
比較	△32	△219
金山町	999	2,146
	1,039	2,437
比較	△40	△291
昭和村	593	1,304
	644	1,487
比較	△51	△183
会津美里町	6,642	20,964
	6,788	22,612
比較	△146	△1,648
下郷町	2,069	5,950
	2,095	6,413
比較	△26	△463
檜枝岐村	229	616
	218	630
比較	11	△14
只見町	1,783	4,504
	1,845	4,896
比較	△62	△392
南会津町	6,432	16,418
	6,486	17,773
比較	△54	△1,355

地域	世帯数	人口
広野町	1,807	4,974
	1,806	5,386
比較	1	△412
楢葉町	2,382	7,063
	2,564	7,676
比較	△182	△613
富岡町	5,444	14,109
	6,125	15,959
比較	△681	△1,850
川内村	981	2,542
	948	2,819
比較	33	△277
大熊町	3,668	10,843
	4,002	11,570
比較	△334	△727
双葉町	2,140	6,071
	2,386	6,891
比較	△246	△820
浪江町	6,576	18,340
	7,192	20,854
比較	△616	△2,514
葛尾村	447	1,443
	468	1,524
比較	△21	△81
新地町	2,502	7,722
	2,461	8,178
比較	41	△456
飯舘村	1,617	5,894
	1,716	6,132
比較	△99	△238

上段：平成27年3月1日
下段：平成23年3月1日

人口の増減数（27年３月１日と23年３月１日の比較）

市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数	市町村名	人口の減少数
いわき市	△15,675	南会津町	△1,355	塙町	△565	川内村	△277
郡山市	△9,962	川俣町	△1,300	矢吹町	△475	浅川町	△245
福島市	△9,080	石川町	△1,027	平田村	△464	飯舘村	△238
南相馬市	△7,399	本宮市	△1,021	下郷町	△463	泉崎村	△227
伊達市	△3,846	三春町	△918	天栄村	△460	鏡石町	△225
二本松市	△3,521	会津坂下町	△865	新地町	△456	三島町	△219
会津若松市	△3,483	双葉町	△820	古殿町	△444	大玉村	△206
田村市	△2,671	猪苗代町	△810	広野町	△412	湯川村	△184
喜多方市	△2,539	小野町	△774	只見町	△392	昭和村	△183
浪江町	△2,514	桑折町	△742	柳津町	△386	磐梯町	△176
相馬市	△2,277	大熊町	△727	矢祭町	△378	葛尾村	△81
須賀川市	△2,266	西会津町	△680	玉川村	△362	中島村	△71
白河市	△1,996	楢葉町	△613	鮫川村	△319	檜枝岐村	△14
富岡町	△1,850	棚倉町	△609	金山町	△291	西郷村	36
会津美里町	△1,648	国見町	△577	北塩原村	△287		

人口の増減率

市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率	市町村名	人口の減少率
昭和村	△12.3	楢葉町	△8.0	石川町	△5.8	浅川町	△3.6
浪江町	△12.1	広野町	△7.6	塙町	△5.8	泉崎村	△3.4
金山町	△11.9	南会津町	△7.6	国見町	△5.8	本宮市	△3.2
双葉町	△11.9	古殿町	△7.4	新地町	△5.6	福島市	△3.1
富岡町	△11.6	天栄村	△7.4	湯川村	△5.5	白河市	△3.1
三島町	△11.5	会津美里町	△7.3	葛尾村	△5.3	郡山市	△2.9
南相馬市	△10.5	下郷町	△7.2	猪苗代町	△5.1	須賀川市	△2.9
川内村	△9.8	小野町	△6.9	三春町	△5.1	会津若松市	△2.8
柳津町	△9.7	田村市	△6.6	会津坂下町	△5.0	矢吹町	△2.6
平田村	△9.6	大熊町	△6.3	玉川村	△5.0	大玉村	△2.4
西会津町	△9.3	相馬市	△6.0	喜多方市	△4.9	檜枝岐村	△2.2
北塩原村	△9.0	矢祭町	△6.0	磐梯町	△4.7	鏡石町	△1.8
川俣町	△8.4	二本松市	△5.9	いわき市	△4.6	中島村	△1.4
鮫川村	△8.0	伊達市	△5.8	棚倉町	△4.1	西郷村	0.2
只見町	△8.0	桑折町	△5.8	飯舘村	△3.9		

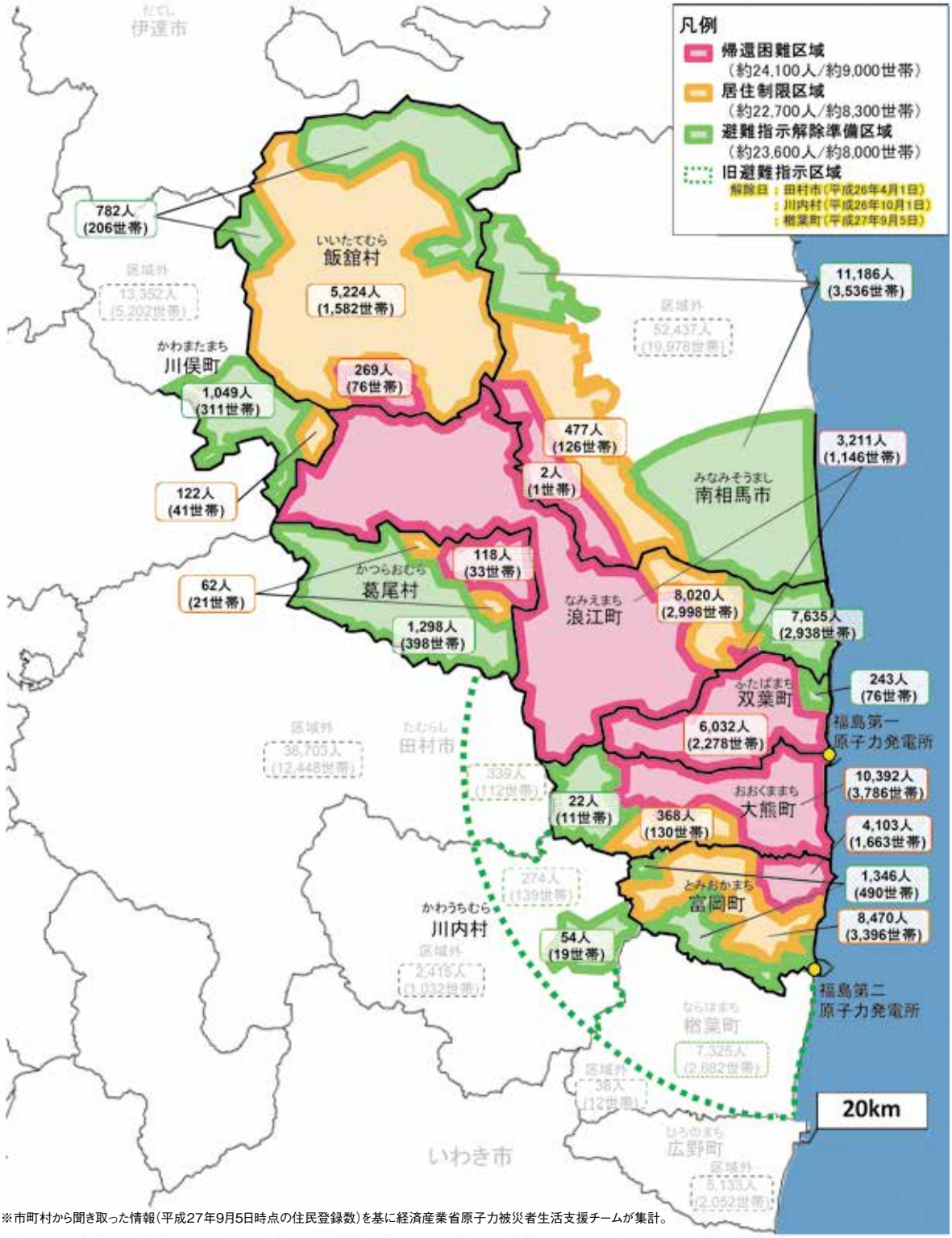
避難地域の現状	
2014年04月01日	田村市都路地区→避難指示区域の解除。
2014年09月01日	福島県が中間貯蔵施設の建設受入れを表明。
2014年10月01日	川内村の警戒区域及び避難指示区域の見直しにより、避難指示解除準備区域の解除。居住制限区域を避難準備区域に変更
2014年12月28日	南相馬市における特定避難勧奨地点の解除。
2015年09月05日	楢葉町における避難指示解除準備区域の解除。
2016年春	南相馬市小高地区、川俣町山木屋地区、葛尾村の避難指示解除準備区域の解除が見込まれる。
浜通りの交通	
2014年09月05日	国道6号　全線通行可（帰還困難区域内は、自動二輪、原動機付自転車、軽車両及び歩行者は通行不可）
2014年12月06日	常磐自動車道浪江～南相馬、相馬～山元間開通
2015年03月01日	常磐自動車道全線開通。

表　被災した幼児児童生徒の学校における受け入れ状況（文部科学省報道発表資料）

2015年5月1日現在	福島県の幼児児童生徒で、他の都道府県で受け入れた数	福島県の幼児児童生徒で、県内の学校で受け入れた数	計
幼稚園	809　(-364)	609 (-299)	1,418　(-663)
小学校	4,906　(-530)	2,793 (-105)	7,699　(-635)
中学校	2,211　(+8)	1,523 (+19)	3,734　(+27)
高等学校	715　(-194)	194　(+3)	909　(-151)
中等教育学校	17　(+5)	0	17　(+5)
特別支援学校	71　(-3)	58　(-16)	129　(-19)
計	8,729 (-1,038)	5,177 (-398)	13,906 (-1,436)

(　):前年比

避難指示区域の概念図と各区域の人口及び世帯数（平成27年9月5日時点）



※市町村から聞き取った情報（平成27年9月5日時点の住民登録数）を基に経済産業省原子力被災者生活支援チームが集計。

４　ふくしま心のケアセンター
３年間の活動経過

ふくしま心のケアセンター３年間の活動経過

【基幹センター：昼田源四郎、内山清一、高橋悦男】

はじめに

2011 年 3 月 11 日、福島県ではマグニチュード 9 という巨大地震と、追い打ちをかけるように発生した巨大津波により、海沿いの市町村が甚大な被害を被った。さらに、海沿いに位置する東京電力福島第一原子力発電所が地震・津波により破壊され、人口集中地域でのメルトダウンという人類史上最悪の原発事故が起こった。

2011 年度、発災後の住宅等の被害は、全壊 15,113 棟、半壊 78,151 棟、一部破損 141,303 棟で、合計で 234,567 棟にも及んだ。また床上浸水は 1,061 棟、床下浸水は 351 棟だった。公共の建物など非住家屋の被害は 37,262 棟で、被災は 48 市町村に及んだ（平成 27 年 9 月 18 日福島県発表）

2015 年 8 月現在でもなお、福島原発は完全な冷温停止や燃料棒取り出しには至っておらず、不安定な状況が続いている。また 2015 年 8 月 31 日現在での福島県内の人的被害は、福島県発表では関連死、死亡届を含めると累計で 3,787 名、行方不明者は 3 名である（警察庁緊急災害警備本部 2015 年 8 月 31 日発表では行方不明者は 200 名）。

子どもの放射線被ばくを避けるため、原発事故直後から多くの子育て世代の人々が県外に避難した。2015 年 8 月現在でも、なお 107,703 名の方々が全国各地に避難を続けている。ピーク時（2013 年 6 月：約 164,000 名）からは減少しているものの、県外避難した人々の 7 割弱が、今なお福島県に戻っていない。

以下では、2014 年度の当センターの活動実績と、2012 年度からの経年変化を中心に報告する（2012 年のデータが無い項目もある）。

１．被災者支援

１）福島県内の被災状況（図１）

2013 年度と 2014 年度の 2 年間で、最も多かったのは放射線量の高い地域からの強制的退去で、2013 年度は 2,812 名、2014 年度は 3,177 名が自宅からの退去を余儀なくされた。次に多かったのは家屋の倒壊による退去で、2013 年度は 617 名、2014 年度は 685 名だった。家族の死亡・行方不明も多く、2013 年度で 269 名（6.1%）、2014 年度で 262 名（3.7%）だった。

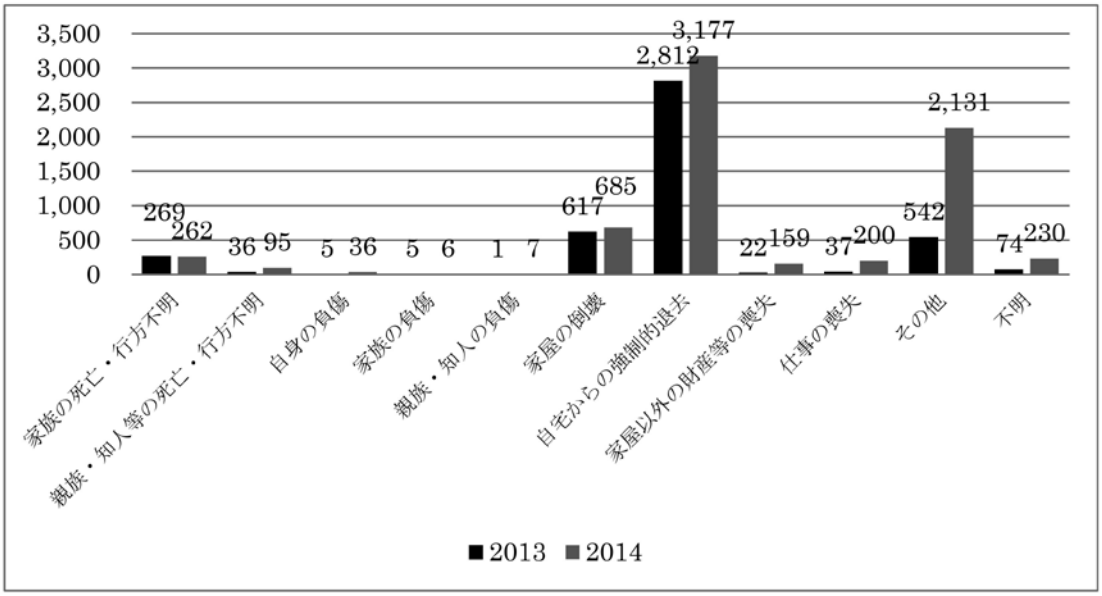


図１　県内の被災状況（2013 ～ 2014 年度）

２）相談支援【図２】

当センターが相談支援活動を実施した対象人数（延べ人数：以下同様）を年度毎にみると、2012 年度 8,464 名（月平均：705.3 名）、2013 年度 5,566 名（月平均：463.8 名）、2014 年度 6,164 名（月平均：513.7 名）だった。

相談支援を方法別にみると、訪問が第１位で 2012 年度 7,377 名（87.2%）、2013 年度 4,150 名(74.6 %)、2014 年度 4,345 名(70.5%)である。当センターはアウトリーチを中心に活動しているため、訪問が多くなっている。

第２位は電話相談で、2012 年度 547 名（6.5%）、2013 年度 542 名（9.7%）、2014 年度 772 名（12.5%）と年度を追って増えている。福島では、原発事故のため、とりわけ子育て世代の方々が県外避難を強いられた。電話相談は、県外避難をしている方々への、相談支援の窓口としても機能している。

集団活動の中での相談は 2012 年度 370 名（4.4%）、2013 年度 577 名（10.4%）、2014 年度 186 名（3.0%）と、2014 年度は 2012 ～ 2013 年度と比較して減少している。一方、来所による相談は 2012 年度 150 名（1.8%）、2013 年度 205 名（3.7%）、2014 年度 640 名（10.4%）と、年度ごとに増加している。来所相談の増加は、被災者側のニーズが個別化してきていることと、そうした個別的ニーズに対応するため、各方部センターにプライバシーを保てる面接相談スペースを確保し、個別的な相談をしやすい環境を整えたためと思われる。なお、上記の相談支援の対象者数には「健康調査」は含まれていない。

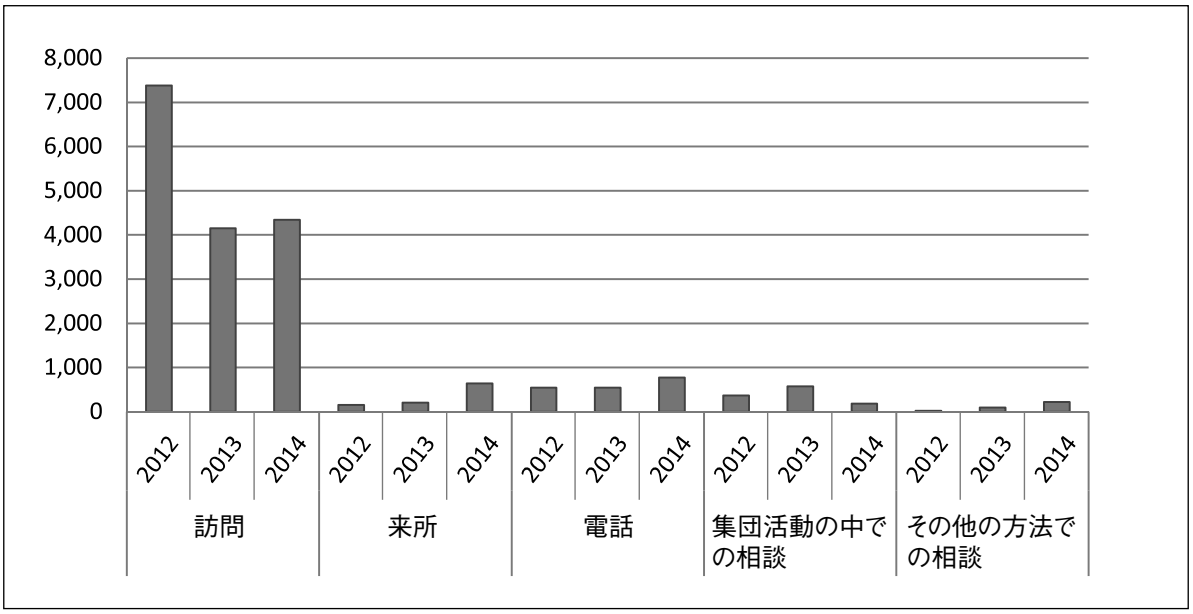


図2　年度別相談方法

３）相談支援の回数および実人数（2013 ～ 2014 年度の比較）（図３～４）

相談支援をおこなった実人数は 2013 年度が 1,386 名で、2014 年度が 1,609 名と前年度比で 223 名増となっている。これは県中方部といわき方部で住民への支援に加え、「支援者支援」として自治体職員などの相談支援を実施したためである。なお、方部毎の実人数の推移は図３を参照されたい。

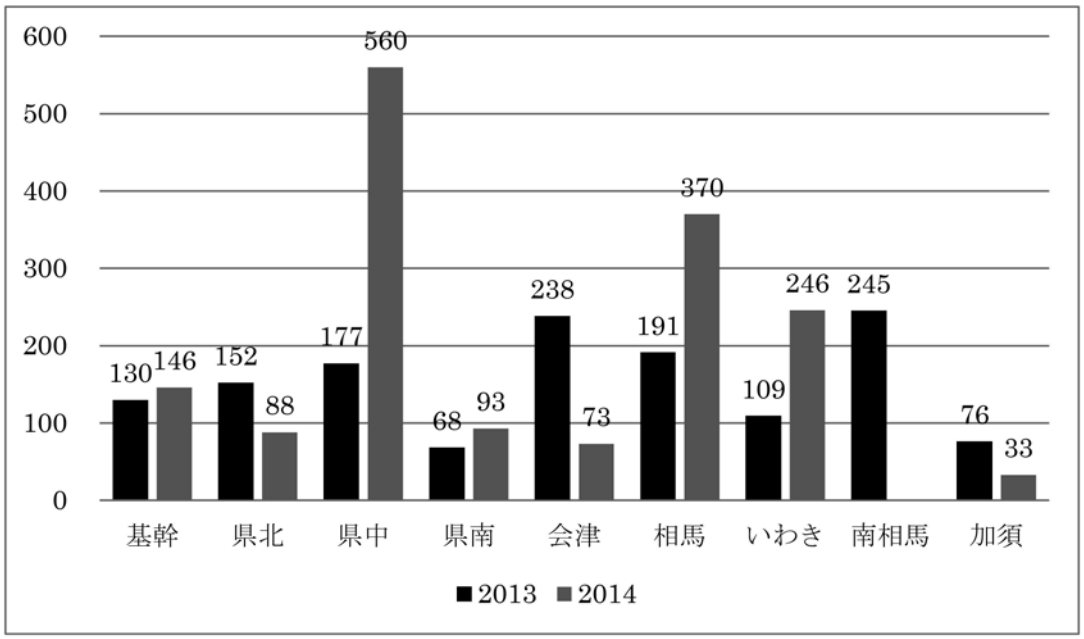


図３　方部毎の相談支援実人数（2013 ～ 2014 年度）

図４は、対象者１名あたりに対する年間平均支援回数で、相馬方部では１名あたり７～８回という高い支援回数を２年にわたり維持しているが、他の方部では２～６回ほどの支援回数で推移している。

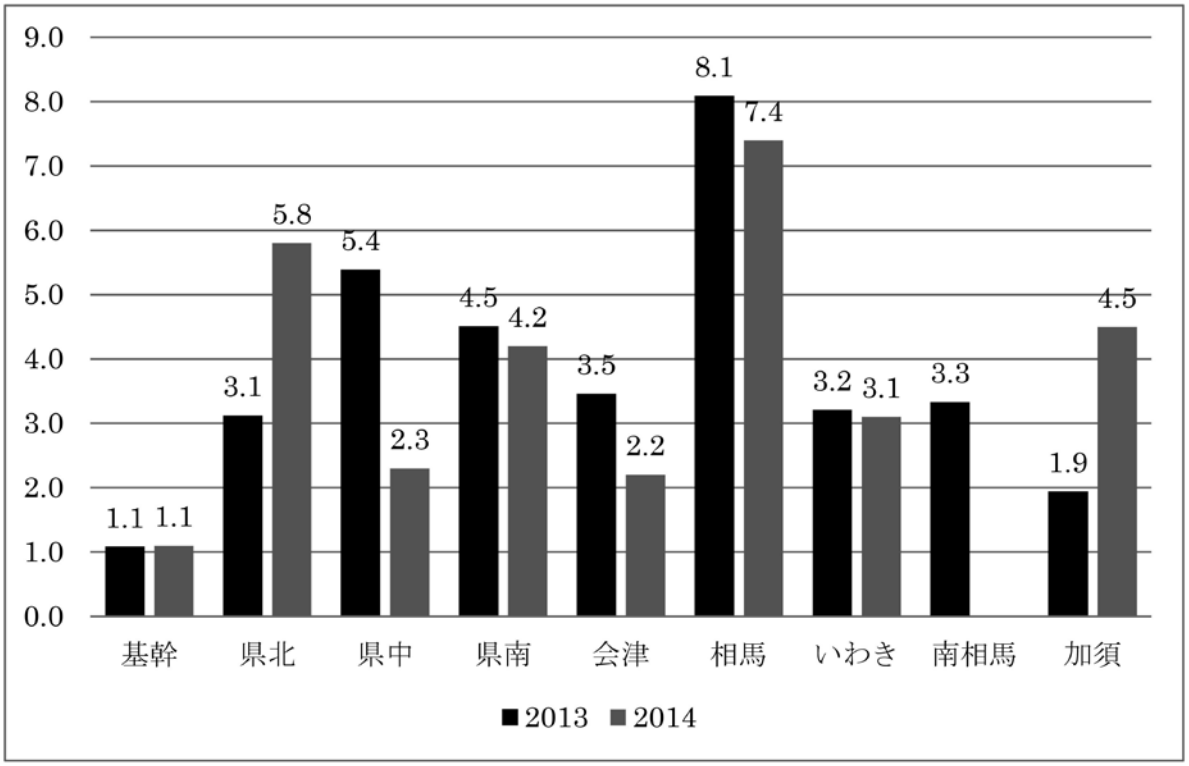


図４　対象者１名あたりの平均支援回数（2013 ～ 2014 年度）（方部別）

４）相談の対象と方法別実人数（図５～8）

①訪問実人数の比較

訪問実人数（図５）を2013年度と2014年度で比較すると、県中方部・相馬方部・いわき方部で増加している。

県中方部では、2013年度の165名から2014年度は389名と大きく増加しているが、支援者支援の一環としての面談等を実施したためである。

相馬方部では2013年度の133名から2014年度は245名と、112名増加している。これは南相馬市駐在の廃止に伴い、南相馬市も相馬方部の担当地域と編入されたためである。

いわき方部では、2013年度の85名から2014年度は151名と66名増加している。これは県中方部と同じく、支援者支援の一環での面談等が増加したためである。

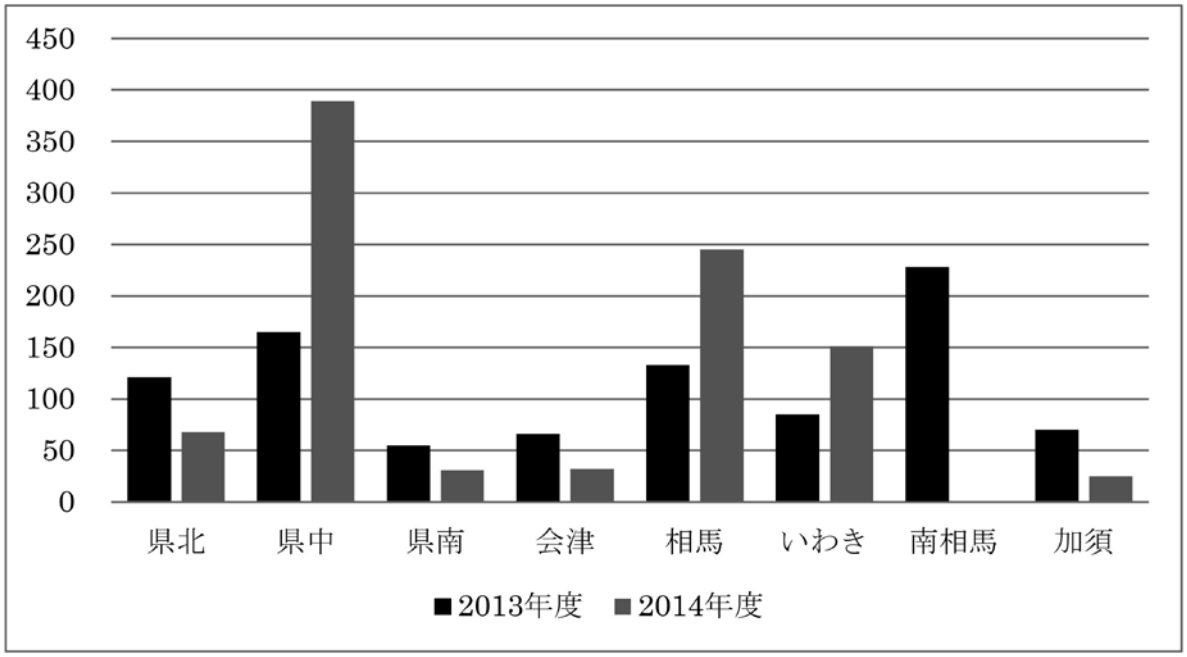


図５　訪問（実人数）

②電話相談実人数の比較

電話相談（図６）の利用人数をみると、基幹センターが他の方部より人数が多くなっているのは基幹センターにて電話相談専用の「ふくここライン」を設置しているためであり、2013 年度の 130 名から 2014 年度は 144 名と、14 名増加している。2013 年と 2014 年比では､相馬方部で 2013 年度の 9 名から 2014 年度は 33 名と 3.7 倍の増加、いわき方部では 2013 年度の 8 名から 2014 年度は 26 名と 3.3 倍に増加している。とりわけ相馬方部といわき方部で、電話相談の件数が増えている。

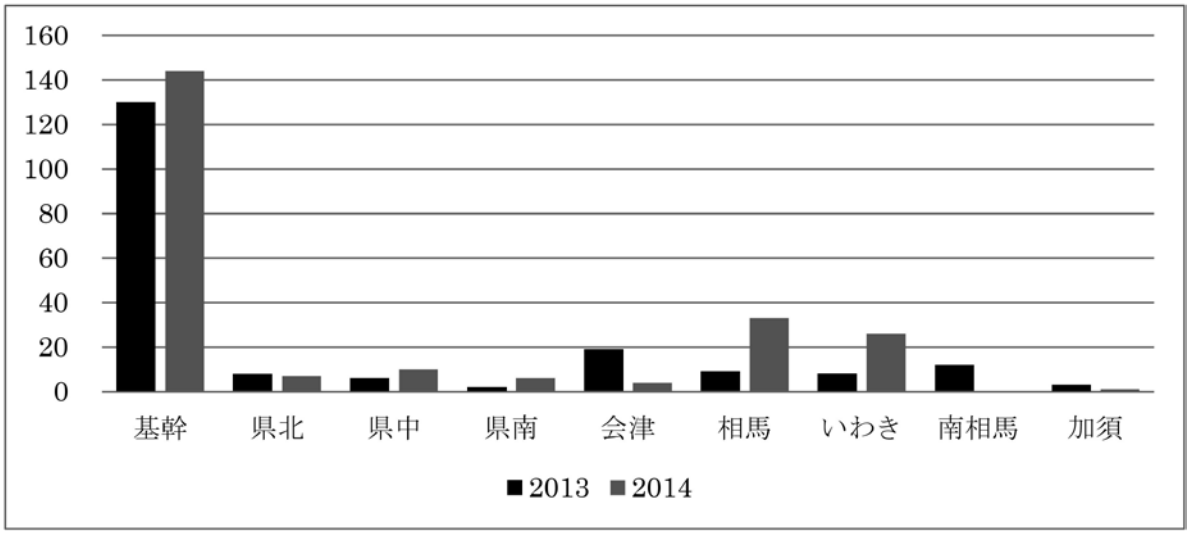


図６　電話相談（実人数）

③来所相談実人数の比較

来所相談の実人数を 2013 年度と 2014 年度で比較（図７）すると、県中方部で 13 年度の１名から 14 年度は 148 名に増加､同じく相馬方部では 40 名から 66 名に増加、いわき方部では４名から 55 名と顕著に増加している。特に県中方部およびいわき方部の増加については、県外における、ホールボディカウンター（以下、WBC）による内部被ばく検査の際に実施された相談会での面接人数が計 130 名分、含まれているためである。

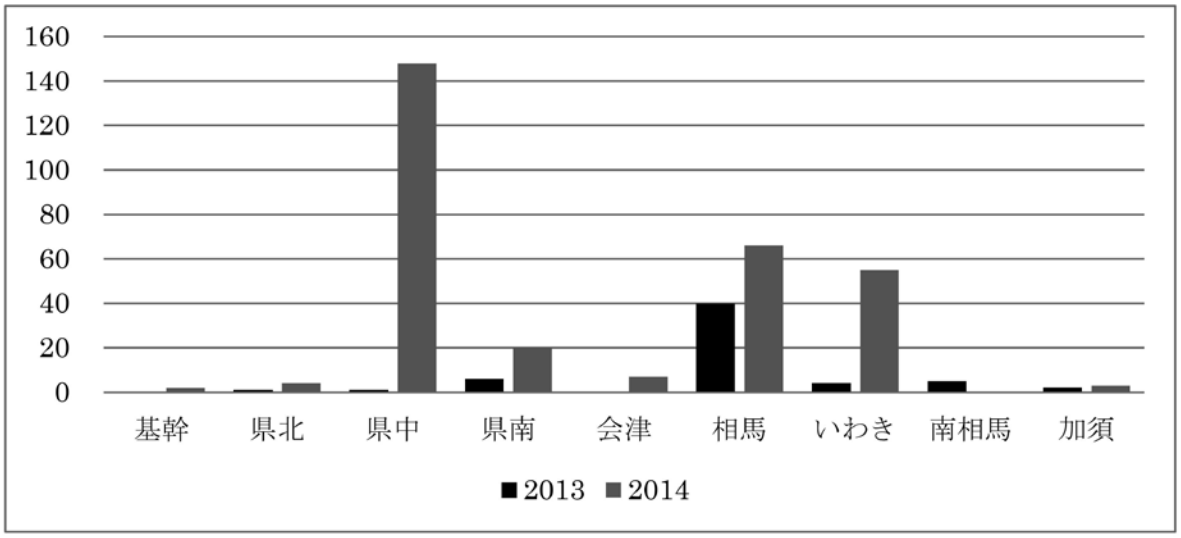


図7　来所（実人数）

④集団活動の中での相談実人数の比較

集団活動の中での相談件数は、図８に見るように 2013 年度と 2014 年度では会津方部では 148 名から 26 名へと減少し、一方で県南方部では５名から 27 名へと増加している。

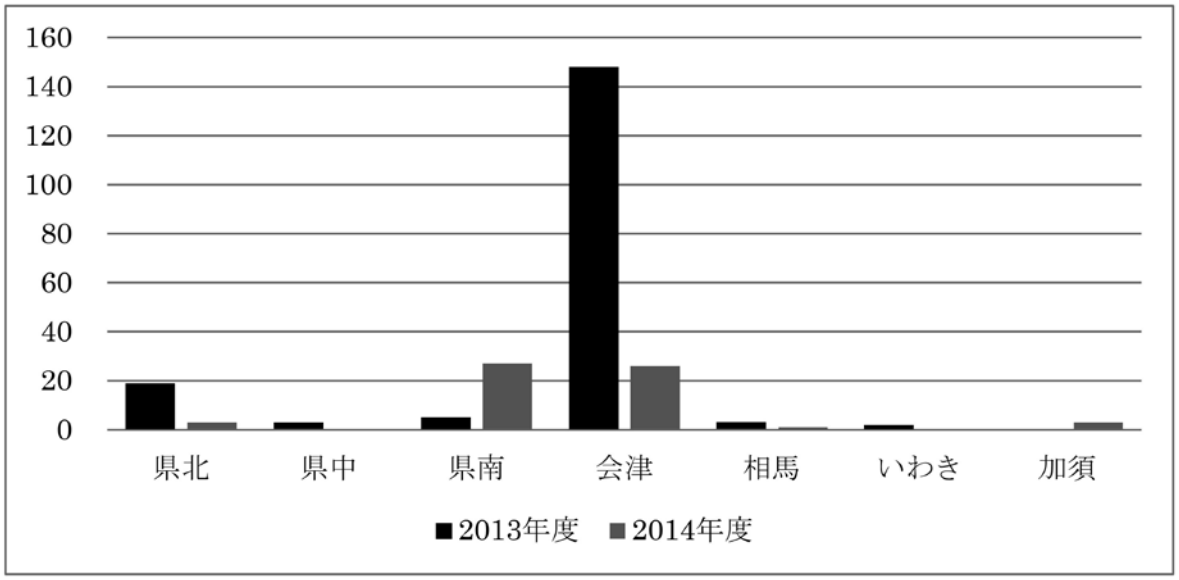


図8　集団活動の中での相談（実人数）

５）相談の経過　（図９）

相談を経過別に新規と継続に分けると、図９に見るように、2012 年度（2012 年 11 月～ 2013 年 3 月では新規は 508 名、継続人数は 1,969 名（79.5%）、2013 年度では新規は 867 名、継続は 4,699 名（84.4%）、2014 年度では新規は 1，077 名、継続は 5,087 名（82.2%）となっている。年度毎に新規も継続も増え、相談の総件数は年度ごとに増えている。

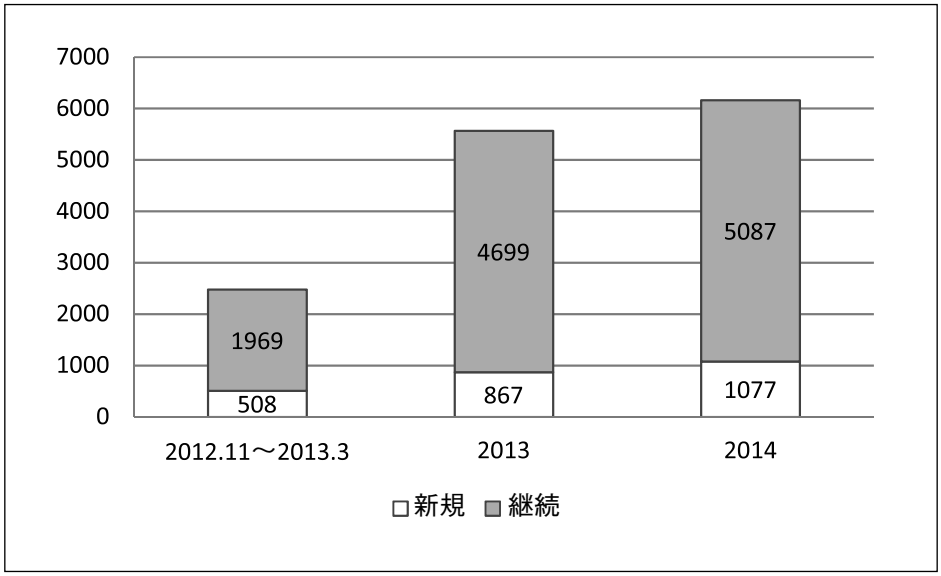


図９　相談経過別（年度毎）

６）相談場所　（図 10）

相談場所として、最も割合が多かったのは仮設住宅への訪問だったが、2012 年度は 3,550 名 (46.2%)、2013 年度は 2,124 名 (38.2 %)、2014 年度は 1,426 名 (23.1%) と年々、件数・割合ともに減少している。同様に、民間の賃貸借上住宅への訪問も 2012 年度は 2,385 名 (31.1%) と最も多かったが、その後 2013 年度には 1,131 名 (20.3 %)、2014 年度には 919 名（14.9%）と漸減している。

一方、自宅への訪問は 2012 年度 854 名（11.1%）、2013 年度 1,090 名（19.6%）、2014 年　度 1,378 名（22.4%）と年々、件数が増加している。

訪問場所が仮設・借上住宅から自宅訪問へと移行しているのは、避難者が新たな自宅へと移住しつつあることによる。

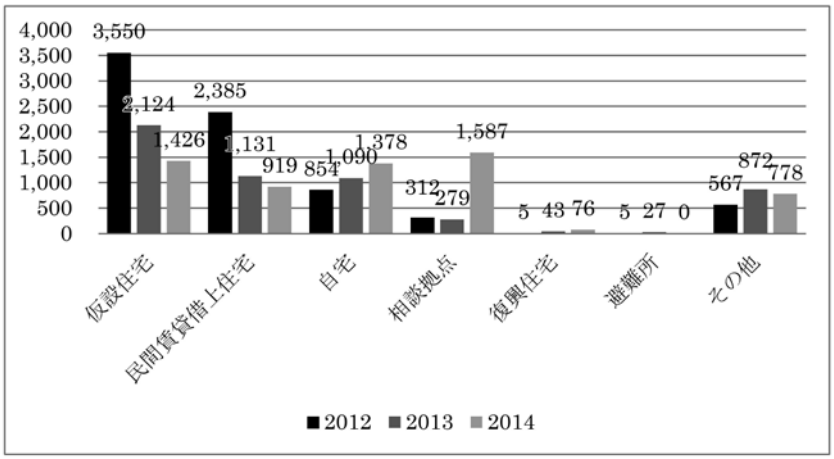


図10　相談場所と相談件数

７）相談者と相談対象者（図 11）

ここでは、相談の場に現れた人を「相談者」とし、誰についての相談なのか、その対象を「相談対象者」とする。

相談事を抱えた当事者自身が自発的に、あるいは周囲に促されて相談に訪れた（相談者＝相談対象者）のは、2012 年度 2,220 名（89.4%）、2013 年度 4,931 名（88.6 %）、2014 年度 5,312 名（86.2%）と高い割合を示している。

次いで、家族だけが相談に来たケース（例　相談者：母親、相談対象者：息子など）が多く、2012 年度 241 名（9.7%）、2013 年度 527 名（9.5 %）、2014 年度 616 名（10.0%）だった。

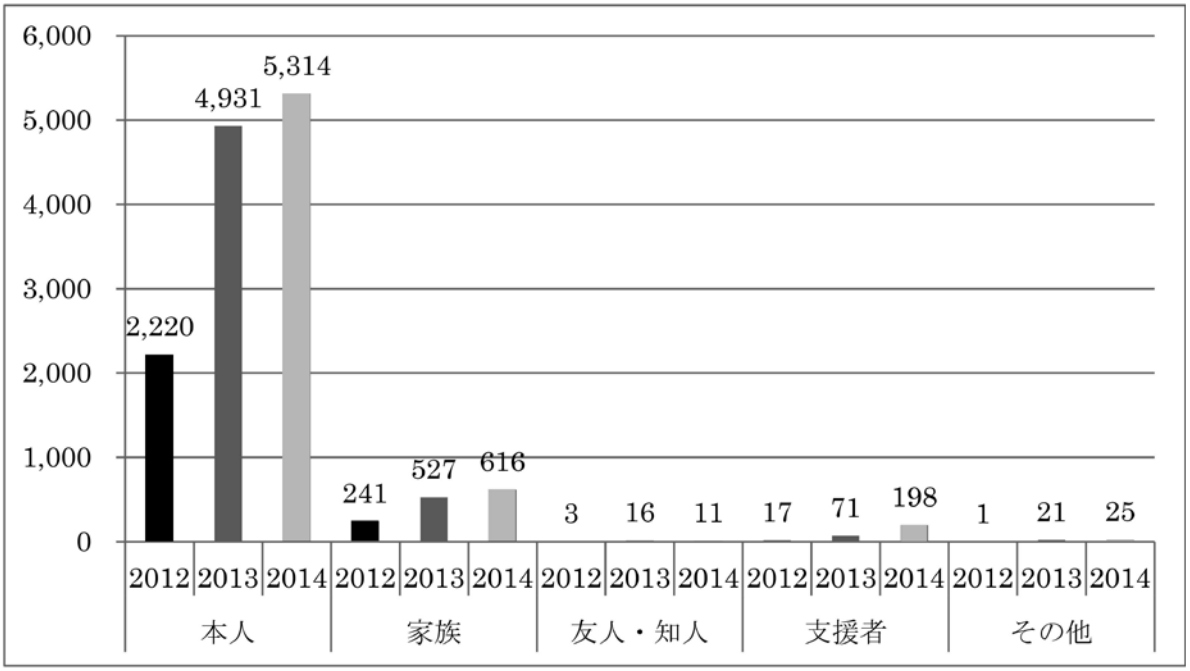


図11　相談者と本人の関係（「相談者」の内訳）

８）相談の契機（図 12）

福島県による県民健康調査や市町村保健師等による全戸訪問などからピックアップされて当センターへの相談支援につながった方（図 12 の「健康調査・全戸訪問等によるピックアップ」）は、2012 年度は 3,159 名（62.6％）だったが、2013 年度は 1,281 名（23.4％）、2014 年度では 754 名（12.2%）と年々減少している。

一方、それ以外の市町村保健師等による地域の保健活動からピックアップされて当センターにつながった方（図 12 の「行政機関からの依頼」）は、2012 年度 904 名（17.9%）、2013 年度 2,048 名（37.5%）、2014 年度 3,101 名（50.3%）と、年度ごとに増加している。また、そのほかの保健医療関係者や家族・親族からの訪問依頼が年度ごとに少しずつ増加し、2014 年度では、それぞれ 580 名、545 名となっている。

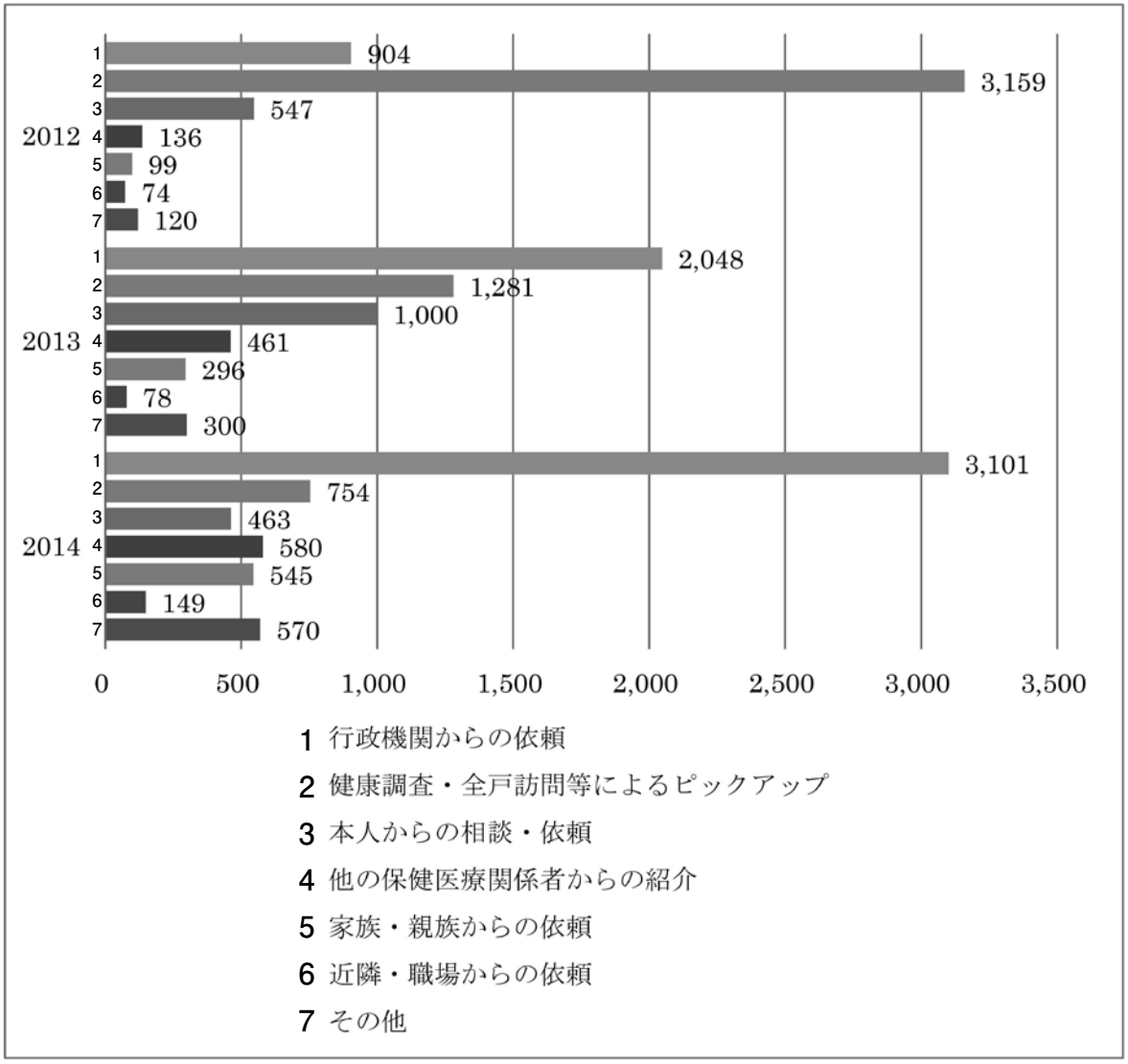


図12　相談の契機（2012.11～2015.3）

９）性別および年齢別

１）　性別（図13）

相談対象者の性別では女性の割合がやや多く、年度ごとの女性の相談者数と割合は、2012 年度（2012 年 11 月～ 2013 年 3 月）は 1,422 名（57.3%）、2013 年度は 3,121 名（56.1%）、2014 年度は 3,503 名（56.8%）である。

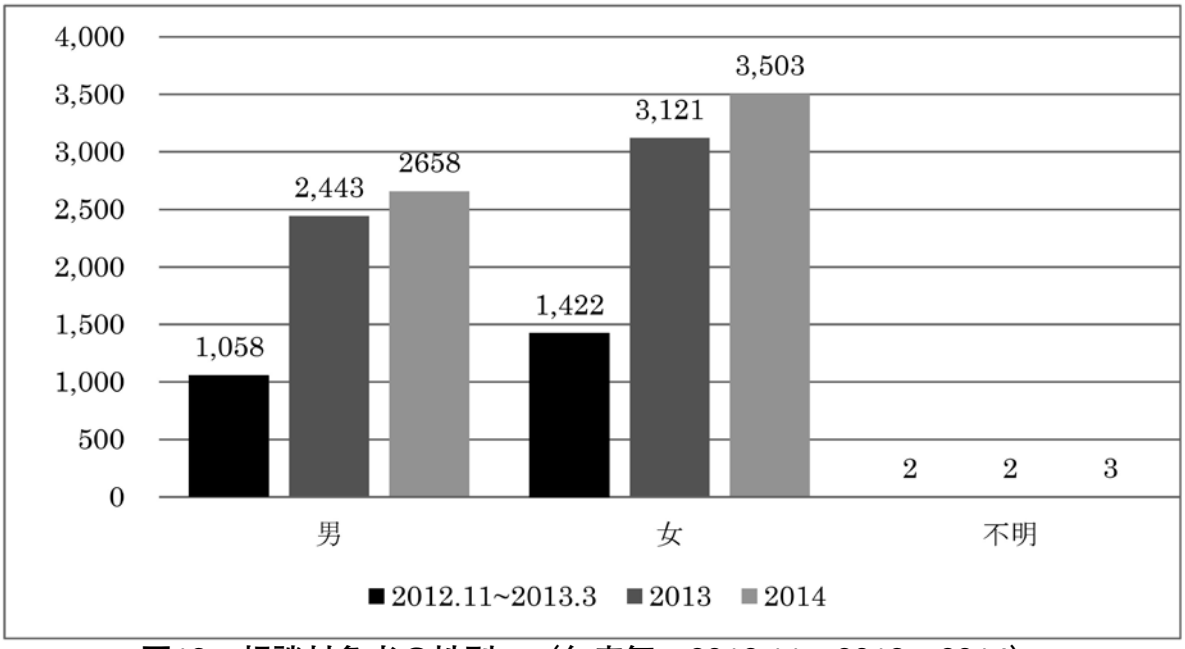


図13　相談対象者の性別　（年度毎：2012.11～2013～2014）

② 年齢別（図14）

相談対象者を年齢別に見ると、中年期（45 ～ 64 歳）が最も多く、2013 年度では 2,266 名（40.7%）、2014 年度では 2,073 名（33.6%）だった。次いで高齢者（65 歳以上）が 2013 年度 2,092 名（37.6%）、2014 年度 1,854 名（30.1%）と多かった。

次いで、壮年期（31 ～ 44 歳）、青年期（15 ～ 30 歳）、幼少年期（0 ～ 14 歳）の順だった。

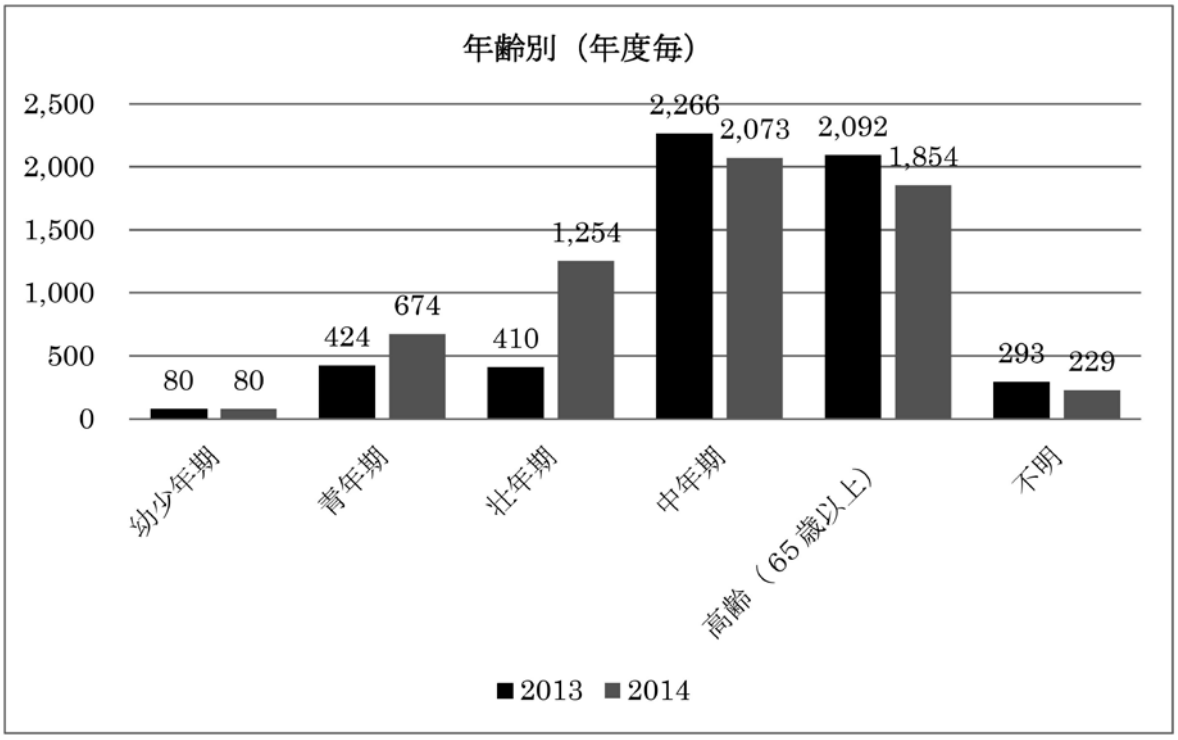


図14　年齢別（年度毎）

10）相談対象者の症状（表１・図 15）

３年間を通して相談対象者の症状として、最も多く聞かれたものは「身体症状」に関するもので、年度別では 2012 年度 1,413 名（18.7%）、2013 年度 1,661 名（22.3 %）、2014 年度 1,826 名（20.3%）で、高い水準で推移している。

２番目に多かったのは「気分・情動に関する症状」で、2012 年度 859 名（11.4%）、2013 年度 1,382 名（18.5 %）、2014 年度 1,663 名（18.5%）だった。

３番目に多かったのは「睡眠の問題」で、2012 年度 1,257 名（16.6%）、2013 年度 858 名（11.5 %）、2014 年度 953 名（10.6%）だった。

４番目に多かったのは「不安症状」で、2012 年度 998 名（13.2%）、2013 年度 642 名（8.6 %）、2014 年度 874 名（9.7%）だった。

以下、「飲酒の問題」が 2012 年度 309 名（4.1%）、2013 年度 284 名（3.8 %）、2014 年度 404 名（4.5%）、「行動上の問題」が 2013 年度 353 名（4.7 %）、2014 年度 624 名（6.9%）などと続く。

以上をまとめると、「身体症状」「気分･情動に関する症状」「睡眠の問題」「不安症状」などが３年を通して多い割合で存在していることがわかる。また、不安症状はおおむね横ばいであるのに対し、気分・情動に関する症状は経過とともに増加傾向がみられ、今後の課題といえる。「症状なし」に分類された方は 2012 年度 762 名（10.1%）、2013 年度 1,188 名（15.9 %）、2014 年度 1,461 名（16.2%）で、年度を追うごとに、やや増加傾向にある。

表１　相談対象者の症状

相談対象者の症状	2012	2013	2014
身体症状	1,413	1,661	1,826
睡眠の問題	1,257	858	953
不安症状	998	642	874
気分・情動に関する症状	859	1,382	1,663
解離・転換症状	※	5	14
強迫症状	20	92	34
幻覚・妄想症状	※	317	577
行動上の問題	※	353	624
てんかん・けいれん発作	6	19	22
飲酒の問題	309	284	404
意識障害	6	10	1
小児に特有の症状	※	11	11
その他の症状	1,804	149	104
症状なし	762	1,188	1,461
不明	123	494	425

※ 2012 年度は統計をとっていない　　（重複項目あり）

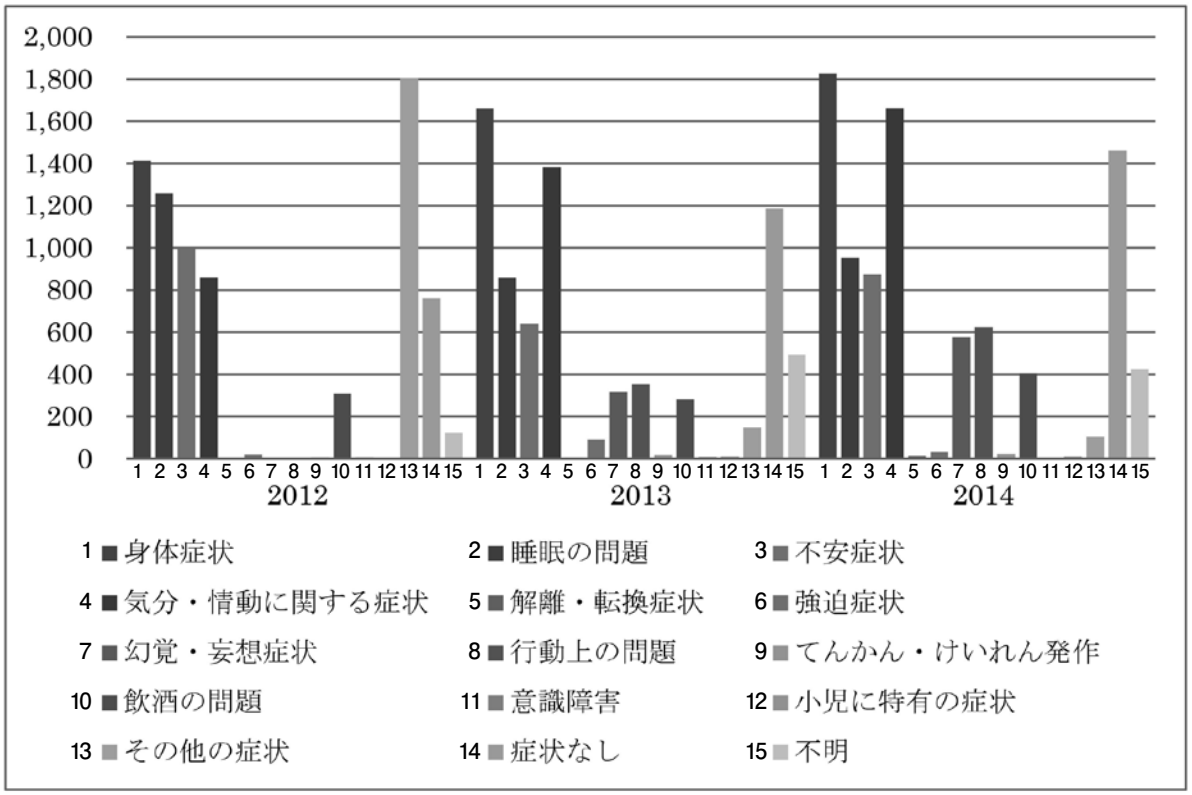


図15　相談の内容　（年度毎）

11）相談の背景（表２・図 16）

相談内容の背景にあると推測された、あるいは相談者により言語化された生活上の出来事を「相談の背景」として以下に列記する。

2012 年度は最も多かった相談の背景は「居住環境の変化」で 3,058 名（36.2％）で、次いで「健康上の問題」が 1,330 名（15.8％）、「家族･家庭問題」1,160 名（13.7％）であった。3 年間を通してこの３つの相談背景が主要な背景ではあるが、年数を経るごとに割合は変化し、2014 年度には「居住環境の変化」と「健康上の問題」が逆転していた（それぞれ 2,581 名（20.0％）、3,282 名（31.4％））。

「放射線」に関する相談は、2012 年度 106 名（1.3%）、2013 年度 182 名（1.7%）、2014 年度 368 名（2.8%）で、それほど多くはなかった。

表２　相談の背景ごとの相談件数（年度毎）

相談の背景	2012	2013	2014
近　親　者　喪　失	372	514	425
居住環境の変化	3, 058	2, 808	2, 581
経済生活再建問題	556	420	475
失業・就労問題	528	509	643
人　間　関　係	238	500	808
家族・家庭問題	1, 160	1, 227	1, 952
教育・育児・転校	199	311	489
放　射　線	106	182	368
加齢による問題 (2012 年度のみ)	238		
健康上の問題	1, 330	3, 282	3, 949
そ　の　他	622	656	1, 190
不　　明	35	38	56

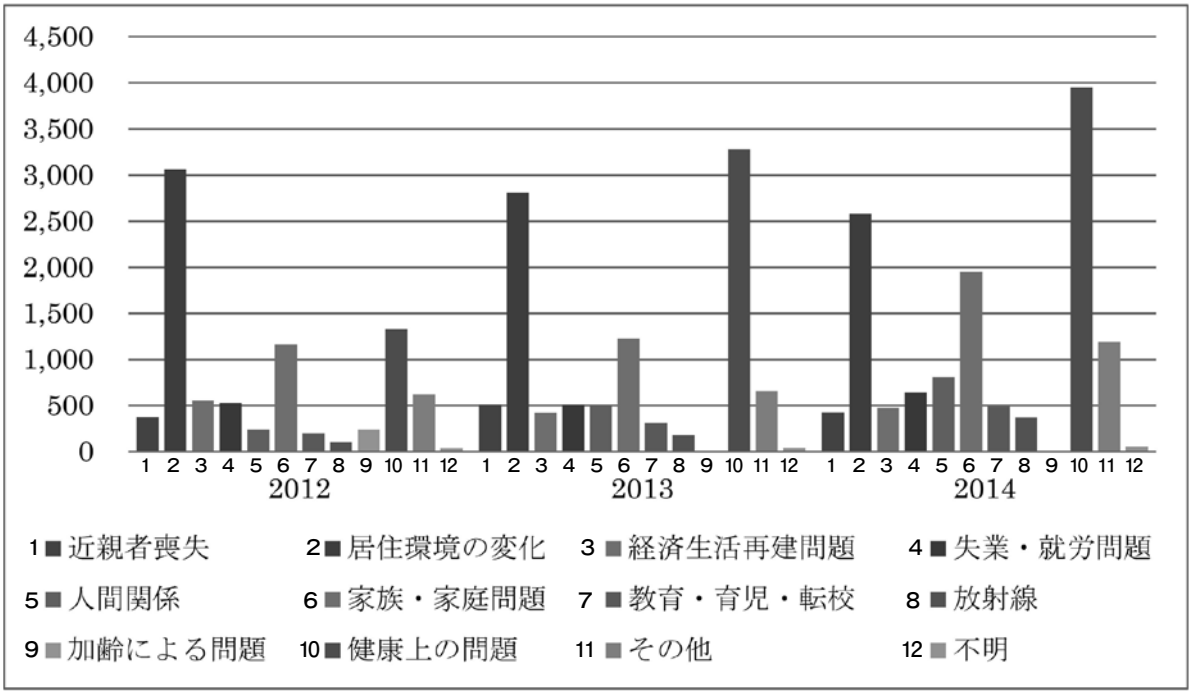


図16　相談の背景ごとの相談件数（年度別）

12）相談対象者の病名

相談対象者が有している精神疾患（疑いを含む）について、以下に述べる。

病名別で１番多かったのは「精神病性障害」で、2012 年度 230 名（36.2%）、2013 年度 784 名（33.6 %）、2014 年度 985 名（30.0%）だった。

２番目に多かったのは「気分障害」で、2012 年度 167 名（26.3%）、2013 年度 629 名（26.9%）、2014 年度 930 名（28.3%）だった。

３番目は「神経症性障害、ストレス関連障害」で、2012 年度 51 名（8.0%）、2013 年度 204 名（8.7%）、2014 年度 508 名（15.5%）である。

４番目は「物質常用障害」で、2012 年度 67 名（2.0%）、2013 年度 244 名（10.4%）、2014 年度 359 名（10.9%）である。

図 17 に見るように、上記の１～４番目の診断名に該当する人が、年々大きく増加している。とりわけ「神経症性障害、ストレス関連障害」が、2014 年度には前年度比で約２倍に急増していることが注目される。

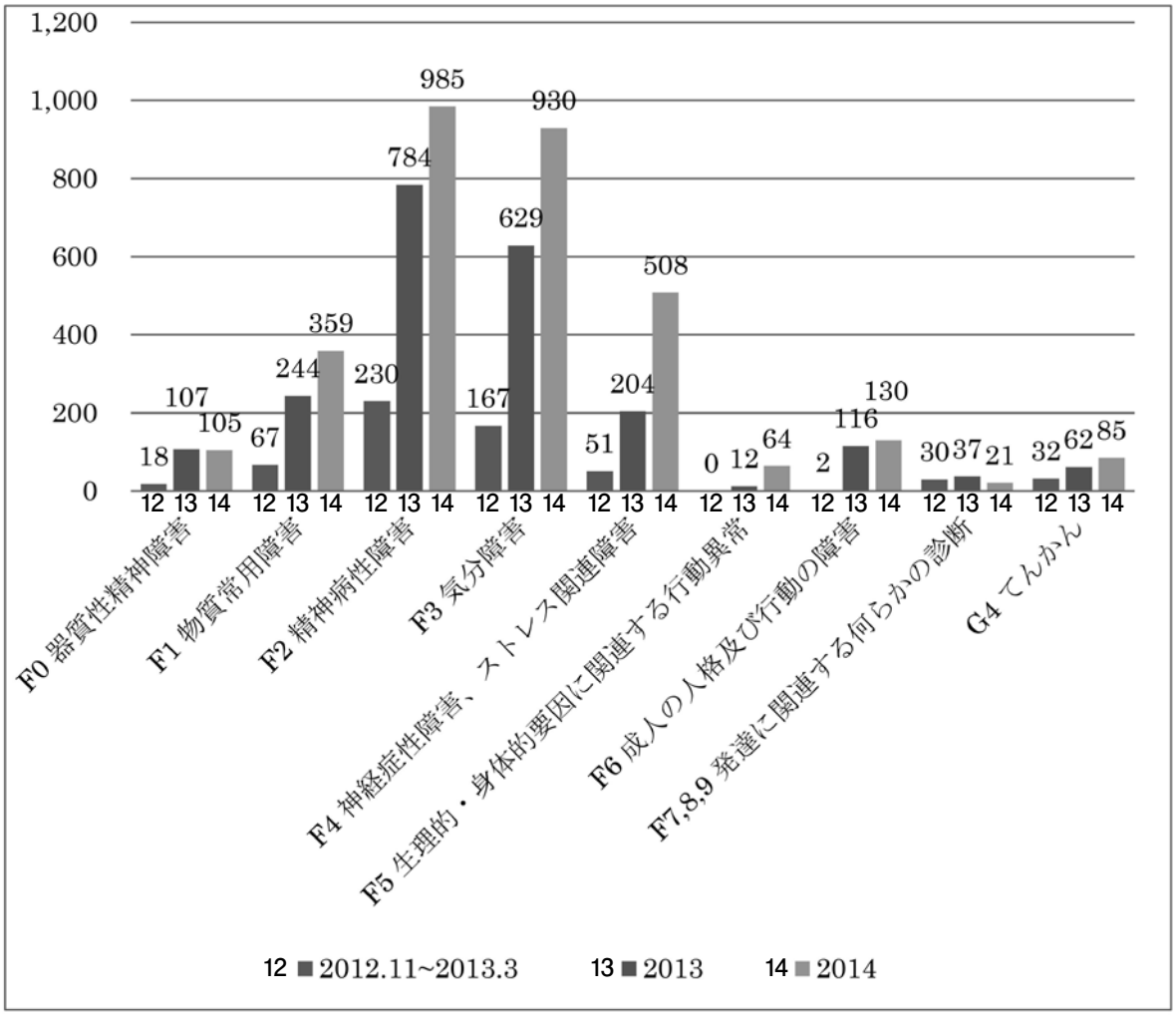


図17　病名別分類

図 17 より、「精神病性障害」に該当する対象者は漸減している一方で「神経症性障害、ストレス関連障害」に該当する対象者は急激に増加傾向にある。また「気分障害」に該当する対象者が横ばいであることも特徴といえる。なお、それぞれの病名は ICD-10 に準拠している。

注）東日本大震災直後、福島県では精神科的なニーズが急増する反面、精神医療体制、とりわけ入院医療体制が崩壊の危機に瀕した。福島県精神病院協会の報告（参考資料１）によれば、東日本大震災に続いた津波と原発事故により、10 病院が入院患者の緊急避難を余儀なくされた。緊急避難の原因は、５病院が「原発事故による避難区域のため」、３病院が「地震による病棟等の損壊のため」、１病院が「津波による外来・病棟等損壊のため」、その他が１病院だった。避難先は１都 10 県の 118 病院に及び、約 920 名の患者が転院した。その内訳は、県内 30 病院に約 270 名､他の１都９県（関東甲信越中心）の 88 病院に約 650 名だった。同報告書は､｢特に､相双地域では原発事故により５病院の入院患者約 710 名が避難を余儀なくされ､約 900 床の精神科病床が稼働できず、相双地域の精神科医療は崩壊の危機に立たされた」と、原発事故直後の緊迫した深刻な被災状況を記している。

13）集団活動（図 18）

年度毎にみると図 22 のとおり、「開催回数」と「参加人数」は 2012 年度をピークに年々減少している。

「開催回数」と「参加人数」は漸減しているが、１回あたりの平均参加人数はほぼ横ばいである。

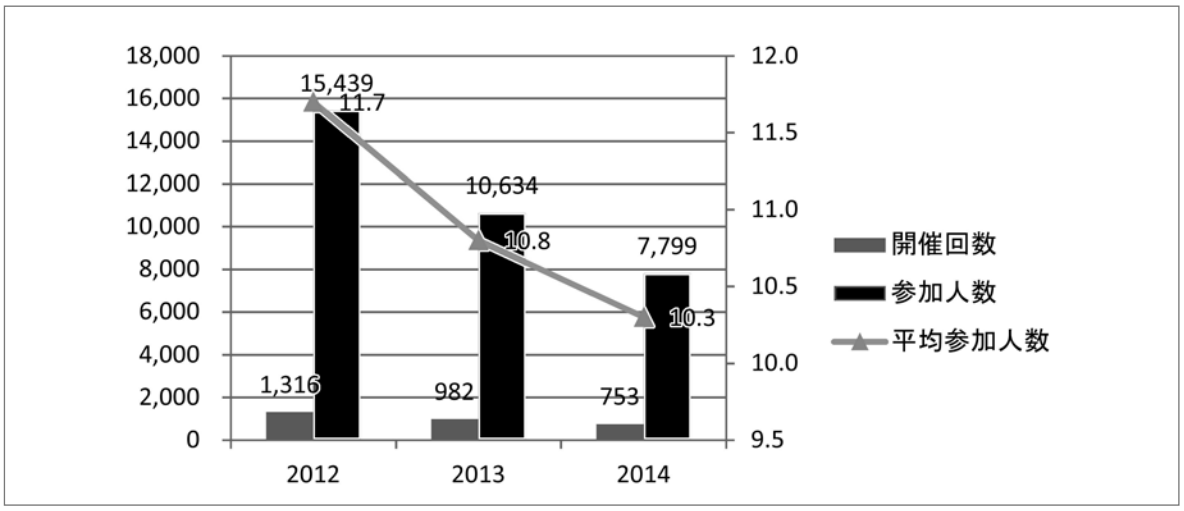


図18　集団活動（年度毎）

14）健康調査（表３）

健康調査を方部別にみると、南相馬市・いわき方部・県北方部での実施件数が多い。方部によりばらつきがあるが、これは市町村等の依頼に基づいて実施したためである。

表３　健康調査

	県北	県中	県南	会津	相馬	いわき	南相馬	加須	計
2012						375	901		1,276
2013	225	29				179	214	3	650
2014	48		2		2	108			160

15）市町村別の相談支援件数　（表４）

表４は、市町村毎の相談支援件数である。相談支援の範囲は、県内 36 市町村と県外の 1 都 10 県だった。

表４に見るように、相談支援件数は 2013 年度と 2014 年度ともに、南相馬市が最も多かった。

原発事故現場に近い双葉郡８町村では 2013 年度に計 2,595 名、2014 年度に計 2,433 名の相談支援をおこなった。双葉郡内での相談件数を多かった順に記載すると、浪江町、双葉町、富岡町、大熊町、広野町、葛尾村、川内村、楢葉町だった。その他の市町村では、放射線量が高かった相馬郡の飯舘村の相談が多かった。

表４　市町村毎の相談支援件数

市町村別	2013 年度	2014 年度	計	市町村別	2013 年度	2014 年度	計
南相馬市	1, 252	1, 575	2, 827	いわき市	48	119	167
相馬市	829	831	1, 660	郡山市	5	64	69
浪江町	624	658	1, 282	西郷村	22	33	55
双葉町	410	493	903	福島市	11	36	47
富岡町	433	336	769	矢吹町	25	20	45
大熊町	462	273	735	棚倉町	0	32	32
飯舘村	298	152	450	須賀川市	2	16	18
新地町	175	272	447	川俣町	5	10	15
広野町	73	292	365	伊達市	0	12	12
葛尾村	201	158	359	福島県内その他の市町村	11	17	28
川内村	141	169	310	福島県：不明・記入なし	54	58	112
楢葉町	251	54	305	県　外	21	27	48
三春町	15	208	223	不明・記入なし	36	17	53
田村市	115	93	208	合　計	5, 566	6, 164	11, 730
白河市	47	139	186				

２．支援者支援

１） 支援者支援～対象別（図 19）

支援者支援全体を見ると、2012 年度 467 件、2013 年度 701 件、2014 年度 1,122 件と年々増加している。そのうち「地方公共団体・警察・学校・医療機関・福祉施設・国の出先機関」の職員などは、自身や家族が被災者でありながら被災住民の支援のために働いた。こうした支援者への支援（支援者支援）の件数は、2012 年度 364 件（77.9%）、2013 年度 543 件（77.5%）、2014 年度 969 件（86.4%）と高い比率を占めた。

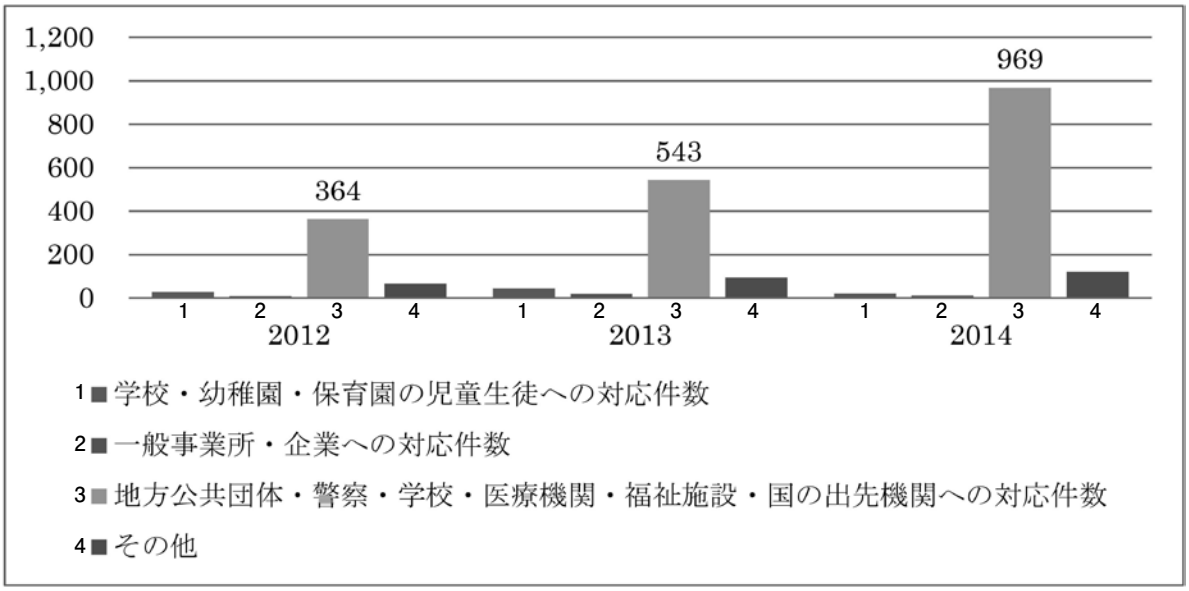


図19　支援者支援～対象別（年度毎）

２） 支援者への支援内容

支援者に対する「支援に関する指導・相談」件数は、2012 年度 33 件、2013 年度 97 件、2014 年度 202 件と増加し、支援対象人数は 2012 年度 125 名、2013 年度 507 名、2014 年度 488 名だった。

支援者と共に行なった被災住民に関する「ケース会議」は 2012 年度 75 回、2013 年度 266 回、2014 年度 297 回、「健診支援件数」は 2012 年度 27 件、2013 年度 92 件、2014 年度 115 件と、年々増加している。

３）普及啓発活動（図 20）

普及啓発に関する年度毎の講演会の開催回数と参加者数（総計）は、2012 年度は 61 回（計 517 名）、2013 年度は 65 回（計 2,516 名）、2014 年度は 50 回（計 1,849 名）だった。

報道機関への対応件数は、2012 年度 22 回、2013 年度 20 回、2014 年度 23 回だった。

ホームページの管理･更新は 2012 年度 36 回、2013 年度 79 回、2014 年度 21 回だった。

※普及啓発に関しては講演会のみ2012年4月からの統計、その他は2012年11月からの統計。

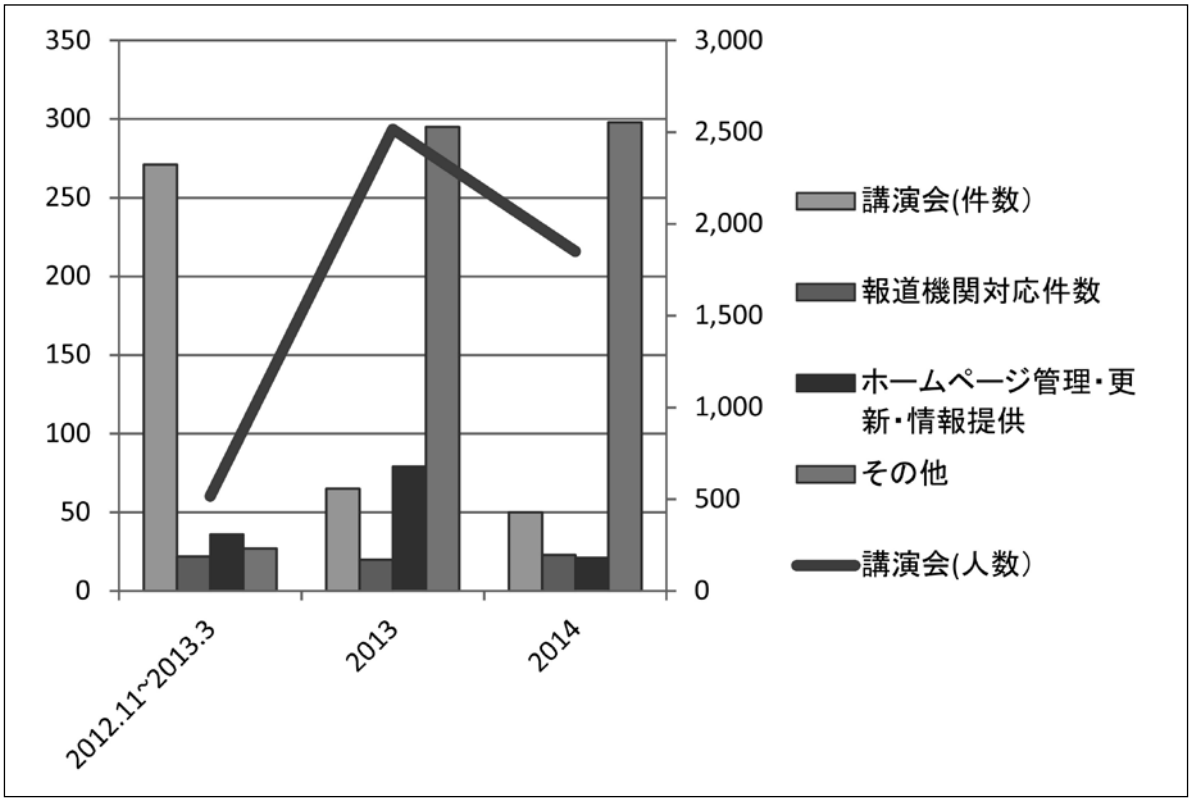


図20　普及啓発（年度毎）

４）　人材育成研修（図 21-22）

「専門家向け講演会・研修会の実施件数」は 2012 年度 26 回、2013 年度 53 回、2014 年度 101 回で、参加人数は 2012 年度 1,110 名、2013 年度 1,209 名、2014 年度 1,888 名あり、年度を追って増加している。

「一般向け講演会・研修会の実施件数」は 2012 年度 7 回、2013 年度 31 回、2014 年度 40 回で参加人数は 2012 年度 255 名、2013 年度 1,252 名、2014 年度 1,132 名と専門家向け講演会・研修会と同様に、年度ごとに増加している。

「事例検討会の実施件数」は 2012 年度 9 回、2013 年度 39 回、2014 年度 29 回で、参加人数は 2012 年度 74 名、2013 年度 374 名、2014 年度 228 名であり、最も多い年度は 2013 年度だった。

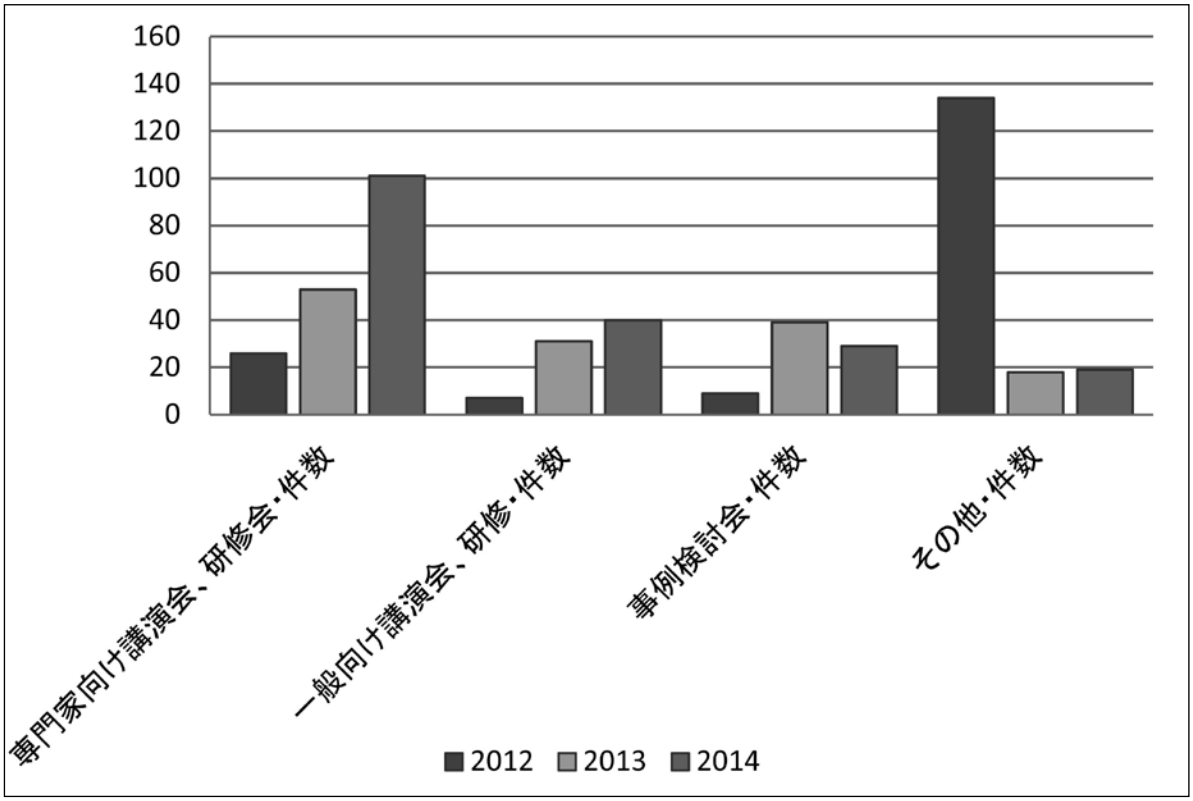


図21　人材育成・研修・件数（年度毎）

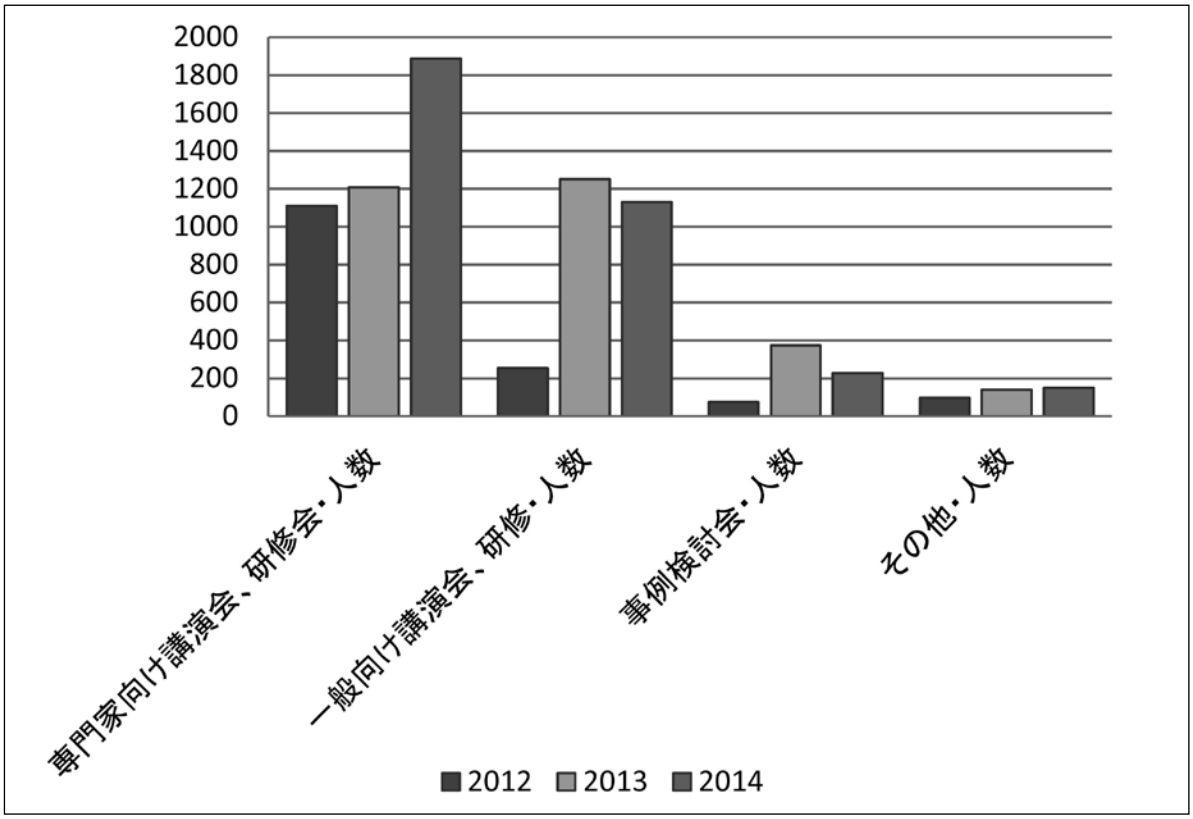


図22　人材育成・研修・人数（年度毎）

５） 職員研修会（図 23）

当センター職員を対象とした事例検討会の実施回数と参加人数は、2012 年度は 23 回、2013 年度は 63 回、2014 年度は 41 回で、参加人数は 2012 年度は 56 名、2013 年度は 218 名、2014 年度は 343 名と年度毎に多くなっている。

アルコール問題、自殺予防などをテーマとしたその他の研修の実施回数は、2012 年度は 140 回、2013 年度は 350 回、2014 年度は 260 回だった。

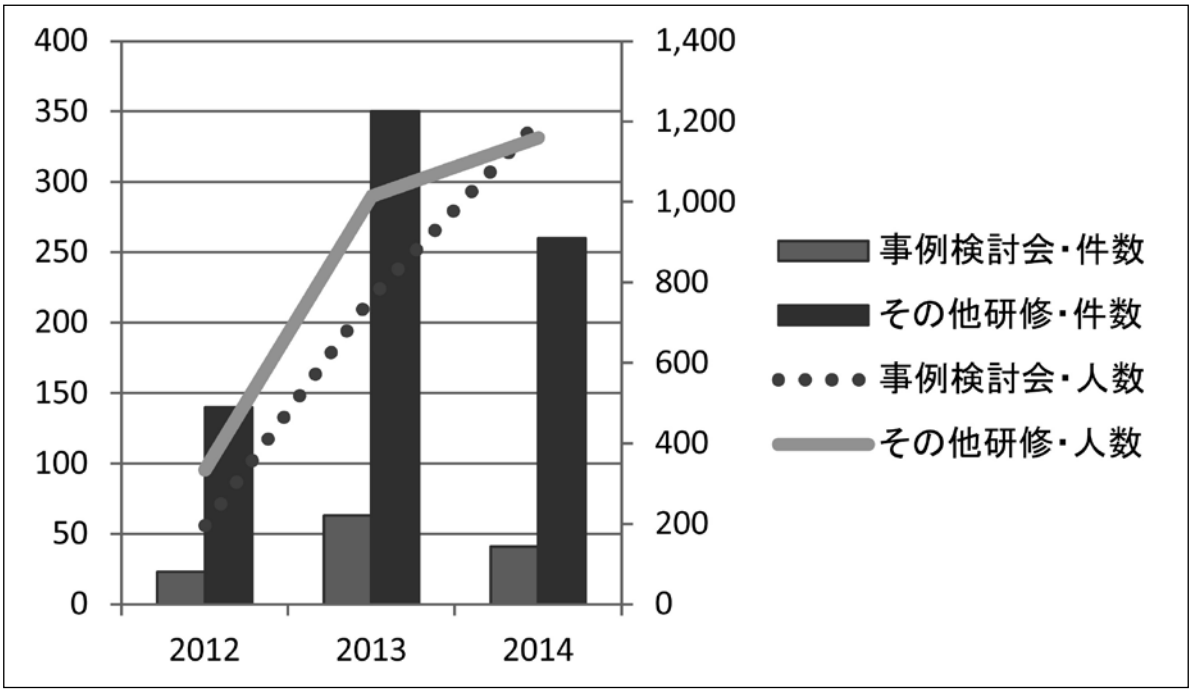


図23　職員研修（年度毎の実施件数）

６） 会議への参加（図 24）

当センター内の会議への参加回数は、2012 年度 128 回、2013 年度 405 回、2014 年度 735 回と年々増加している。

当センター外の会議への参加回数は 2012 年度 144 回、2013 年度 384 回、2014 年度 709 回で年々増加している。

当センター内外の会議はどちらも、2013 年度から 2014 年度にかけて 1.8 倍になっている。

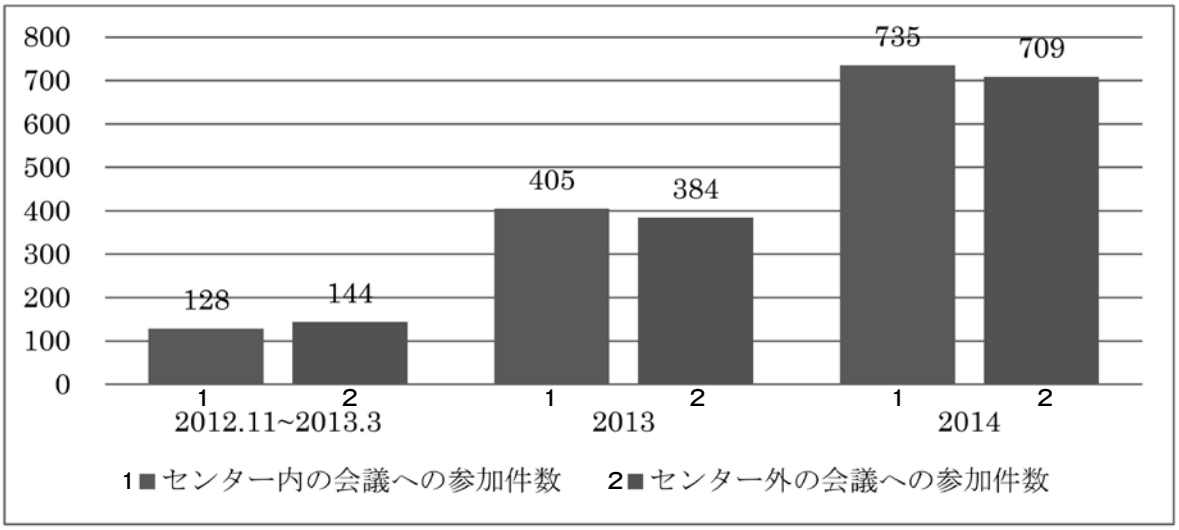


図24　会議への参加件数

３．まとめ

被災者支援の件数は 2012 年度がピークである。その理由としては、健康調査や全戸訪問等の依頼が多かったためである。

相談支援件数が 2013 年度と比較して、2014 年度では 11% 増加しているが、当センターの活動が行政職員や生活支援相談員に認知され、依頼が増えたことも一因として考えられる。

相談方法としては、これまでアウトリーチを中心とする活動をしてきた。そのため各年度とも訪問による支援件数が第１位となっているが、年々、電話や来所による相談も増えつつある。訪問場所も、応急仮設住宅などの割合が減少し、相談者の自宅や各方部センターに設置した相談室の利用も増えている。

甚大な自然災害に原発事故が加わった福島では、より複雑な喪失体験が長期化する恐れがある。福島での被災者支援は、県市町村と協力して地域・生活・心の再建を同時並行的に、長期的な視点で、ねばり強く行う必要がある。

参考資料

１）熊倉徹雄:福精協から復興に向けた課題と提案。精神科医療と東日本大震災・原発事故シンポジウム（記録集）：72 － 75、福島県精神科病院協会、平成 24 年 3 月。

５　ふくしま心のケアセンターの
3年間の連携

ふくしま心のケアセンターの３年間の連携

１．基幹センターにおける連携について

「活動記録誌」第３号を発行するにあたって、開設後丸３年が経過する時点で、「連携」をテーマにこれまでを振り返り、これからを展望する。

基幹センターとしては、「連携」を考えるにあたり、前半は開設に向けての組織体制づくりの上での関係機関との連携・協力について、後半は３年間の支援活動における連携・協働について記す。

１）組織体制づくり

①2011年度

ふくしま心のケアセンターは、2011年（平成23年）３月11日の東日本大震災により、被災３県（岩手県、宮城県、福島県）に設置された「心のケアセンター」の一つとして2012年（平成24年）２月１日に発足した。ちなみに宮城県は2011年12月に、岩手県は2012年２月に、それぞれ設立した。

発足当時は、昼田所長を含めて10名のメンバーである。職種としては、医師・臨床心理士・保健師・精神保健福祉士・作業療法士などからなるチームだった。

当初は職員の研修の一環で、地区踏査としていわき市、南相馬市、加須市に職員を派遣して現状把握を行うとともに、本格的な活動に向けて、各方部の体制づくりを行った。

人材確保については厚生労働省から職能団体を通して紹介のあった者、ハローワークからの紹介、福島県保健福祉事務所で緊急雇用され、被災者の心のケアに携わっていた職員、福島県臨床心理士会の紹介、福島県精神保健福祉センターからの紹介、直接雇用であった。その他、白河厚生病院、旭川荘（岡山市）、日本原荘（岡山県津山市）、佐賀整肢学園（佐賀市）から施設での経験を生かした応援を頂いた。

各方部の事務所は、福島県保健福祉事務所、福島県障がい福祉課の協力で県中方部センターを除いて、福島県保健福祉事務所、いわき合同庁舎の一角に事務所を設置した。県中方部センターは、福島県県中保健福祉事務所の助言により、郡山市役所の近くに事務所を設置した。

以上、2011年度の活動については、厚生労働省、福島県障がい福祉課、福島県保健福祉事務所、福島県精神保健福祉センターに多大の協力を頂き、組織体制の基盤づくりがすすめられた。

②2012年度～2014年度
（６方部３駐在のスタート）

【初任者研修】

発足当時は、専門員として採用した職員の実地研修と４月からどのような形で活動をするのかについて、福島県精神保健福祉センターの助言・支援を得ながら実施した。

2012年４月に１週間の研修を実施。４月９日に各方部センターを開設した。

【各方部の構成・人数】

基幹センター９名、県北方部センター５名、県中方部センター10名、県南方部センター３名、会津方部センター５名、いわき方部センター8名、南相馬市駐在２名、加須市駐在１名、福島県障がい福祉課駐在１名、相馬方部センター５名（NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会に委託）の計49名である。

職種としては、医師２名・保健師６名・看護師８名・精神保健福祉士９名・作業療法士３名・社会福祉士１名・臨床心理士11名・事務員等７名などからなるチームでスタートした。

【電話相談】

「ふくここライン」については2012年11月19日に開設したが、その経緯は福島県から県外支援のために必要な電話相談の要請を受けて、スタートしたものである。そのため、市町村の広報誌に掲載を依頼するとともに、福島県精神保健福祉センター畑所長による職員研修を行い準備にあたった。その結果、電話相談が年明けに増加している。なお、楢葉町のホームページには今も紹介されている。

【事務所を独自開設】

いわき方部センターは2012年７月１日から、福島県いわき合同庁舎の前に事務所を開設した。

会津方部センターは2013年度末に福島県会津保健福祉事務所の近くに事務所を開設した。

【組織体制の改編】

2014年度は、専門性の高い支援活動を実施するためには、職員に専門職種としてのスキルアップが求められるところから、これまでの総務部門と業務部門の２部門に、新たに研修部門を加え、３部門体制となった。

【関係機関との連携】

1. 福島県立医科大学

・「神経精神医学講座」と発足時から連携している。
・「県民健康管理センター」では、原子力災害による放射線の影響を踏まえ、将来にわたる県民の健康を見守るために「県民健康調査」を実施しているが、その協力を兼ねて「こころの健康度・生活習慣に関する調査部門」の専門委員会に2012年３月22日から参加している。

・「災害こころの医学講座」が2013年10月１日に開設し、支援を得ている。

2. 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター　精神保健研究所

「災害時こころの情報支援センター」との連携が2012年当初から始まり、災害精神保健医療情報支援システム（DMHISS）に参加し、ふくしま心のケアセンターの統計にも活用した。また厚生労働科学研究の委員として所長が依頼され、会議等に出席した。

２）支援活動における連携・協働

「心のケアセンター」は、長期的な心のケアを担う拠点として設置され、その業務内容は、訪問・来所等による相談対応、市町村保健師に対する後方支援、専門家による同行訪問、支援者支援（行政機関、医療機関、教育機関職員等）等とされている。

当センター設立当時は県及び市町村職員との同行訪問を基本として活動し、この連携を基盤に支援対象者との信頼関係を構築するように努めてきた。年度を重ねる毎に、「ふくしま心のケアセンター」の名前や活動内容が徐々に知られるようになり、関係機関との連携は広がりと深まりを見せるとともに、当センターの連携上の役割が明確になってきている。

【関係機関と連携】

関係機関との連携の観点で被災者支援を振り返ると、まず「相談の契機」では、「健康調査・全戸訪問等によるピックアップ（方部・駐在別では南相馬、いわき、加須、相馬が特に多い）」が、2012 年度 3,159 名（62.7%）、2013 年度 1,281 名（23.4%）、2014 年度 754 名（12.2%）と年々減少する一方で、「行政機関からの依頼」が 2012 年度 904 名（17.9%）、2013 年度 2,048 名（37.5%）、2014 年度 3,101 名（50.3%）と年々増加している。

このことは、全体の住民の状態把握は行政機関が行い、より専門的なケアが必要な対象者については当センターが担うという、連携の中での役割分担が出来てきているといえる。

【支援者支援】

支援者支援（対象別）では、「地方公共団体・警察・学校・医療機関・福祉施設・国の出先機関」への対応件数は、2012 年度 364 件（77.9%）、2013 年度 543 件（77.5%）、2014 年度 969 件（86.4%）で、各年度とも高い比率を占めている。支援者支援全体をみると 2012 年度 467 件、2013 年度 701 件、2014 年度 1,122 件と年々増加している。

支援者支援の内容別では、「支援に関する指導･相談･件数」は、2012 年度 33 件、2013 年度 97 件、2014 年度 202 件と増加している。

当センターでは被災者に対して訪問・来所等により直接に相談対応をしているが、支援者からの支援に関する相談への対応（コンサルテーション）は、間接的な被災者支援となっている。

【人材育成研修】

人材育成研修においては、専門家向け講演会・研修会の実施件数は 2012 年度 26 回、2013 年度 53 回、2014 年度 101 回で、参加人数は 2012 年度 1,110 人、2013 年度 1,209 人、2014 年度 1,888 人あり、年度を追って増加している。

当センターの専門性が認められるにつれ、研修へのニーズが高まり、研修の企画・実施もコンサルテーションとともに連携の中で当センターが果たすべき役割となってきている。

【連携・調整】

関係機関との連携・調整の場となる「当センター外の会議への参加件数」は、2012 年度 144 回、2013 年度 384 回、2014 年度 709 回で年々増加している。2013 年度と 2014 年度を比較すると 1.8 倍になっている。

被災者の支援にあたっては、支援の切れ目や空白がないように情報を共有し、具体的な目標を設定し、関係機関がそれぞれの役割を明確にし、連携・協働することが欠かせないものとなっている。

【方部連絡調整会議】

方部連絡調整会議は被災者の心のケアを効果的・効率的に実施することを目的として方部センターごとに設置されたものである。構成員は、福島県保健福祉事務所、市町村、医師会、精神科医療機関、社会福祉協議会等からなり、当センターの活動報告や各関係機関・団体等から現状や活動状況について全体で共有しながら、地域の課題や必要な支援について意見交換をする場となっている。

・2012 年度は、各方部で年２回計 12 回開催され、391 人が出席。
・2013 年度は、各方部で年１～２回計７回開催され、177 人が出席。
・2014 年度は、各方部で年１回計６回開催され、前年度同様 177 人が出席。

【福島県被災者心のケア支援事業運営委員会】

県（障がい福祉課）が主催する県域レベルでの会議としては、「福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会」がある。この委員会は本県における被災者の心のケア事業を継続的・安定的に実施することを目的として、事業に関係する団体等が一堂に会して協議を行うために設置されたもので、2014 年に初めての会合が持たれた。

構成員は、県域を代表する医療関係者、関係団体、被災地を代表する市町村、県の関係機関からなり、当センターもメンバーとして選ばれている。この時は、事業の実施状況、関係機関との連携強化等について協議がなされた。

【被災３県における心のケア支援事業合同会議】

国が主催する会議としては、2013 年度末に「３県心のケアセンター等連絡会議」が開催され、さらに国、岩手県、宮城県、福島県、仙台市そして３県の心のケアセンター等の更なる連携が重要なことから 2014 年度からは年２回のペースで「被災３県における心のケア支援事業合同会議」が開催されるようになった。会議においては３県の心のケアセンターの相談支援等の活動に対するニーズの高

まりを確認するとともに、今後の事業展開を進めていく上での課題を共有する場ともなっている。

おわりに

東日本大震災の発生から丸４年が経過したが、福島の状況は原発事故の収束の見通しが立たない中、大切な人やもの、故郷を失ったことなどでの喪失感は深まるばかりで、生活環境の変化や家族関係の変化、そこに損害賠償なども絡み、被災をされた方が抱く問題は、より個別化、多様化、複雑化、深刻化している。

中には、生活の再建へ向けて、第一歩を踏み出した方もいるが、長期にわたる避難生活のために、アルコールやギャンブル、薬物などへの依存が心配される方もいる。また家族関係の悪化など、新たな問題の発生もみられるところである。

被災された方個人が感じる喪失感、悲嘆はひとつとして同じではない。それだけにひとりひとりの状況に応じて、継続的かつきめ細やかで丁寧な支援が求められるようになっている。

心のケアの目的は、生きる力の回復（レジリエンス）がその原点にある。支援においては「寄り添う支援･引き出す支援･分かち合う支援」と言われるが，被災をされた方々が、健康を守られて、希望を失うことなく、誇りを持って、その人らしく自立した生活ができるよう支援に関わる関係機関、関係団体の密なる連携が求められている。

もとより支援活動はひとつの機関単独で自己完結的に行えるものではない。10 年後、20 年後の長期的な視点も加え、関係機関が相互に業務や役割についての理解をした上で、連携・協働を進めていくべきである。

そのためにも支援者同士が顔の見える関係となり、さらにお互いに気心の知れた関係にまで至ればと思うところである。そして、点から線、線から面へのネットワークの広がりの中で、当センターとしてコーディネートできる力を身につけることができればと考えている。

２．県北方部センターにおける連携について

１）県北地区の地域特性と方針

東日本大震災後、県北地区へ避難した人数は 2015 年 10 月時点で約 16,000 人(注1)。その中でも飯舘村は全村避難、川俣町は山木屋地区の住民避難という状況であるが、その避難先はほぼ県北地区である。“いつでも行ける場所であるのに住むことができない”という状況が住民へどれほどの精神的負担を強いているのかは察するに余りある状況であろう。また、飯舘村の場合は行政単位での区分けの問題がある。飯舘村は元来相馬郡であり、行政の管轄は相双地区にあたる。だが震災後全村避難となったことで、上記の通り村民の 84% が県北地区へと避難した。そのため保健福祉事務所管轄等が現在は県北地区が担う形となっており、依頼ルートや連携体制が複雑で、それこそ「連携」という意味では非常に難しい課題の一つであると言える。

県北方部センターは元々福島県県北保健福祉事務所内に事務所を開設していた都合上、2014 年度途中までは福島県県北保健福祉事務所と協働した活動が主であった。ようやく独立した事務所を得ることができたのは 2014 年の 8 月のことであったが、そこからは、それまで当然のものとしてあった福島県県北保健福祉事務所や、そこからつながる他の市町村、社会福祉協議会といった連携先との連携や協力体制は見直さざるを得なかった。ケアセンターの枠組みや活動の周知を強化、「顔の見えるネットワーク」づくりが急務であった。

２）方部の主な連携先

・被災市町村
・県北管内市町村
・福島県県北保健福祉事務所
・社会福祉協議会（被災市町村　避難先市町村）
・地域包括支援センター
・各仮設住宅の自治会長
・コミュニティ交流員等

３）方部の連携状況

①相談の受理から支援の流れ

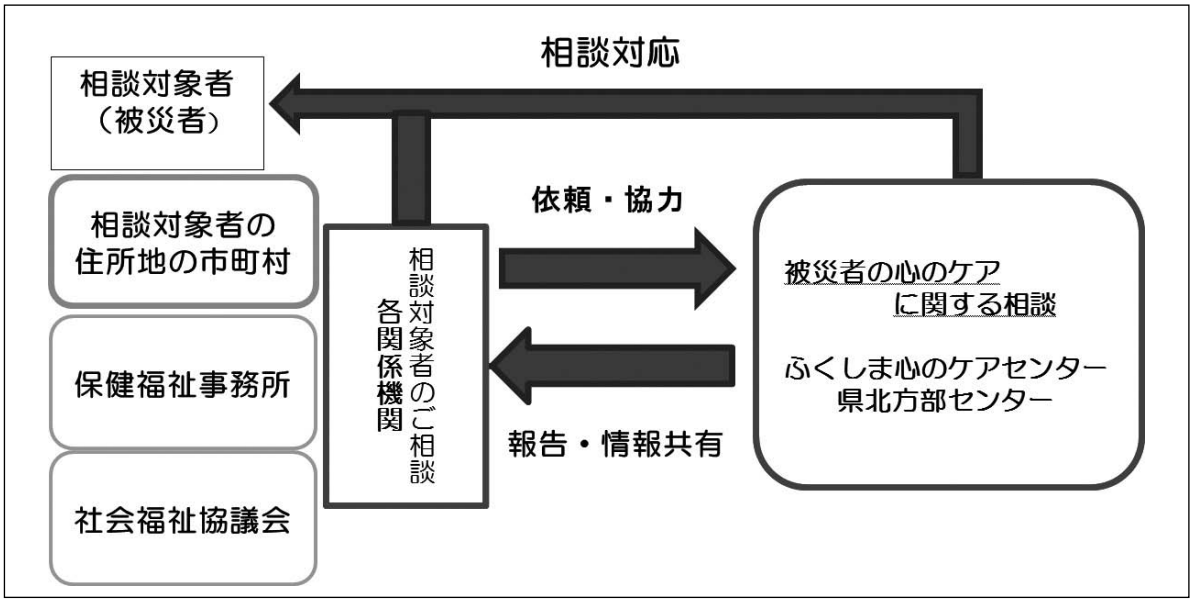


図１：相談受付のイメージ図

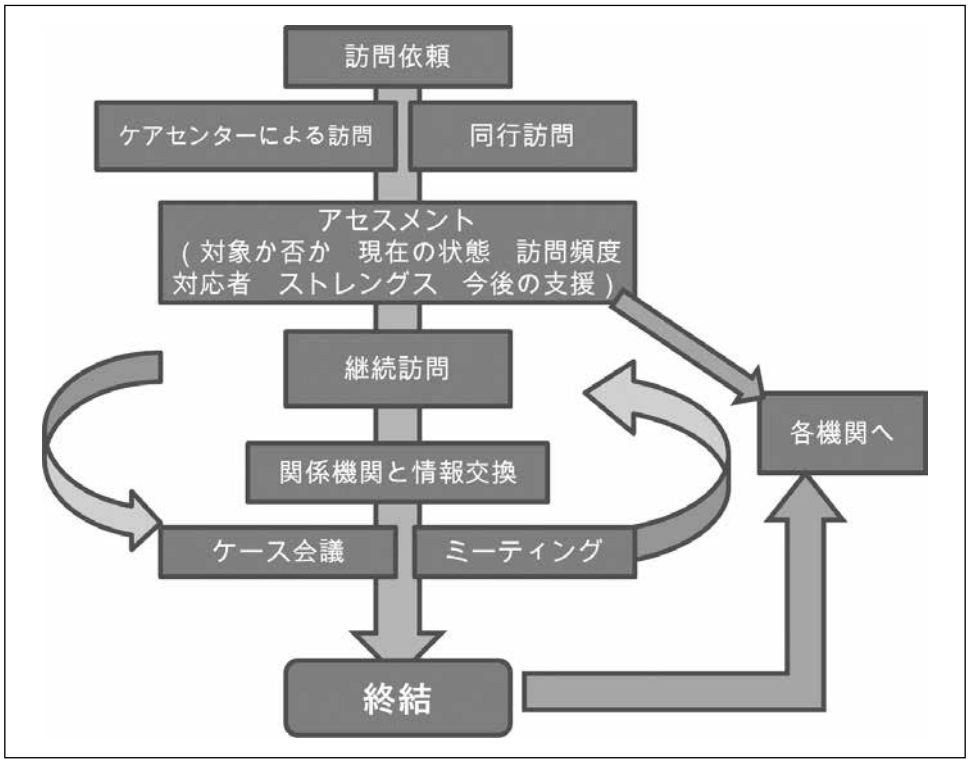


図２：ケースの受理から終結までのフローチャート

②関係機関との定例会、他機関主催の会議への出席
・避難元、避難先各市町村
（個別支援ケース報告、情報交換・共有）
・福島県県北保健福祉事務所
障がい者支援チーム定例会：月1回開催
健康支援活動連絡会等：不定期開催
浪江町　川俣町　富岡町　南相馬市　飯舘村　双葉町
・県社会福祉協議会主催 福島方部被災者支援連絡会：月1回開催
・支援者連絡会準備会：月1回開催

４）連携をしていくうえでの今後の課題

県北地区に限らず、避難住民からは避難先で被災者と思われないよう心掛けるなど、肩身を狭くして生活をしている方が数多く存在する。市町村や社会福祉協議会からは、訪問時に避難元住所の市町村名の書かれた車で来ないでほしいといった要望が寄せられたとの報告もあった。それらは主に賠償金をめぐる軋轢に端を発していると考えられるが、それでは県北地区へ避難したのに自分の出自も明かせず、地域との結びつきやサポートが得られない。そうした現状を反映してか、避難先住民と避難者の融和を指向した会議やサロン活動が開催されるなどの動きも出てきている。

今後、震災から５年という一つの節目を迎えることや、復興公営住宅の整備に伴い益々避難者の動きは多くなっていく。その際に支援者に求められるものは「協働」であり、場合によってはすみわけも排除した超組織的な活動も必要となってくるだろう。そのためにも「顔の見えるネットワーク」は継続して保ち続ける必要があるであろう。2014年度はその出発地点に立つことができたに過ぎないと思料する。

(注 1)
町民の避難状況 . 浪江町 HP
http://www.town.namie.fukushima.jp/site/shinsai/11122.html, （参照 2015 10/23）
平成 27 年 10 月 1 日現在の村民の避難状況 . 飯舘町 HP.
http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=8445,（参照　2015 10/23）
南相馬市民の避難の状況の詳細 . 南相馬市 HP
https://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/10,853,58,html,（参照 2015 10/22）
町外避難者数一覧 . 川俣町 HP
http://www.town.kawamata.lg.jp/site/sinsai-saigai/hinannsakihinansyasuuitirann.html,
（参照 2015 10/23）
県内外の避難先別人数 . 富岡町 HP.
http://www.tomioka-town.jp/living/cat25/2015/06/002374.html,（参照 2015 10/23）

３．県中方部センターにおける連携について

１）県中地区の地域特性と活動初期から中期の連携

県中方部センターは福島県のほぼ中心、郡山市に位置している。被災市町村の役場機能としては、郡山市には富岡町役場郡山事務所、双葉町役場郡山支所があり、また同じ県中地区として三春町には葛尾村役場三春出張所がある。それに伴い、郡山市、三春町にある仮設住宅に加え、郡山市内にある借り上げ住宅には上記の三町村から避難されている方々が今なお多く居住されている。さらに県中地区に役場機能こそないものの、大熊町や浪江町から避難されている方々も郡山市内の借り上げ住宅にて生活されている。

そのため、被災された方々への支援を行うためは上記の大熊町、葛尾村、富岡町、浪江町、双葉町との連携は欠かせないものであった。

また、上記５町村のようにもともと相双管内にあった避難市町村に加え、もともと県中地区である田村市都路町においても警戒区域・緊急時避難準備区域を有していたため、避難生活を余儀なくされていた方々への支援が必要であった。そのため、都路行政局を含む田村市との連携も必要であった。

さらには行政単位での区分けでは相双管内となる川内村も郡山市内に多くの仮設住宅を有していたが、当センター発足当初、相双管内にあった方部センターと川内村との連携が交通アクセスの事情で困難であったため、川内村への支援も県中方部センターで担うこととなった。そのために、川内村との連携も重要な課題であった。

以上のような各避難市町村との連携は支援活動を行う上で必須のものであったが、当ケアセンター発足以前から被災者への支援活動を行っていた各福島県保健福祉事務所との協働も活動開始当初は非常に大きなテーマであった。

こうした状況を踏まえ、活動開始初期において県中方部センターでは、各避難市町村および福島県県中保健福祉事務所と『月例報告』という形で「顔の見える関係づくり」を大切に行ってきた。

２）活動中期から現在までの連携

前述のように、地域における既存の精神保健福祉の要である福島県県中保健福祉事務所および各避難市町村との連携を行いながら支援活動を行っていく中で、支援内容の個別化や多様化が見られてきた。当ケアセンターは民間団体であり、同時に県からの委託を受けた団体であるため半官半民の組織であり、それが故に各自治体などとの関わりも持ちやすく同時に支援内容の自由度が高いというメリットがあった反面、医療機関ではないことや震災後に立ち上がった機関であるためにまだ歴史の浅い組織であるというデメリットもあった。

そこで、さらにきめ細やかな支援を行うために活動中期において連携先を広げていった。その主な連携先は以下の通りである。

- 県中管内の各市町村
- 社会福祉協議会（避難元市町村、避難先市町村）
- 避難先の医療機関
- 地域包括支援センター
- 被災者支援を行っているNPO法人
- 福島県立医科大学

こうした各機関との連携を深めていくために、各機関で行っている各種の事業への協力（人材派遣）を行ったほか、県中方部センターにて実施した会議および研修会へ参加していただき、グループワークなどを通して連携についてともに研修を深めるといったことも行ってきた。

３）今後の課題

県中方部センターでは活動開始当初から、各関係機関との連携を非常に大切に考えてきた。それは各機関、各団体が「点」で支援活動を行うよりも、連携を通して点と点が結びついた「線」となって活動を行うことが、とりもなおさず被災された方々へのより良い支援となると考えているからである。

しかし同時に、よりよい支援を行うための連携が「線」では、まだまだ不十分であるとも感じている。

「点」と「点」とが結びついて「線」となり、「線」と「線」とが結びついて「面」となり「網」となり、それらが複数重なり合い、あるいは多面的に結びつくことで、より密で、より丁寧な支援が行えると考えられる。

そしてこうしたつながりは、今後の福島県における精神保健福祉を支える礎になると考えている。

被災された方々を取り巻く環境は今なお先行き不透明である。それに伴い、被災された方々が抱える個々の問題や課題、悩みはより個別化し、より複雑化、深刻化していくことは想像に難くない。

こうした方々への多面的な支援を行うために、今後も点と点を結び付け、線を太くし、面となり網となっていけるよう、まずは日ごろからの小さな「つながり」を大切に活動を行っていくことが肝要である。

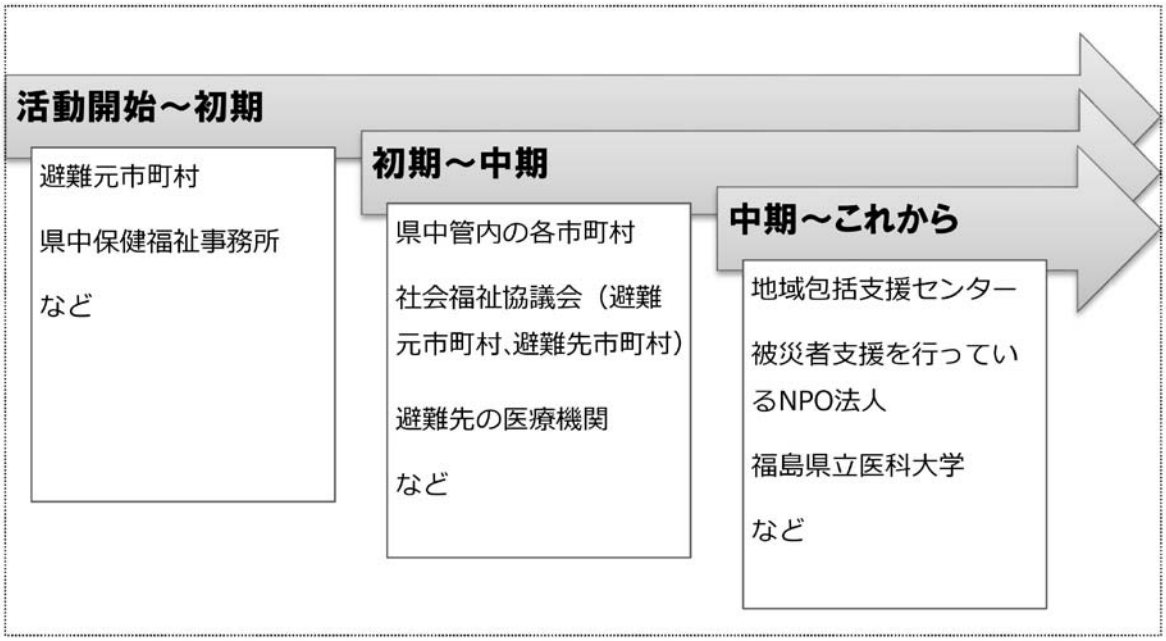


図１　連携先の広がり

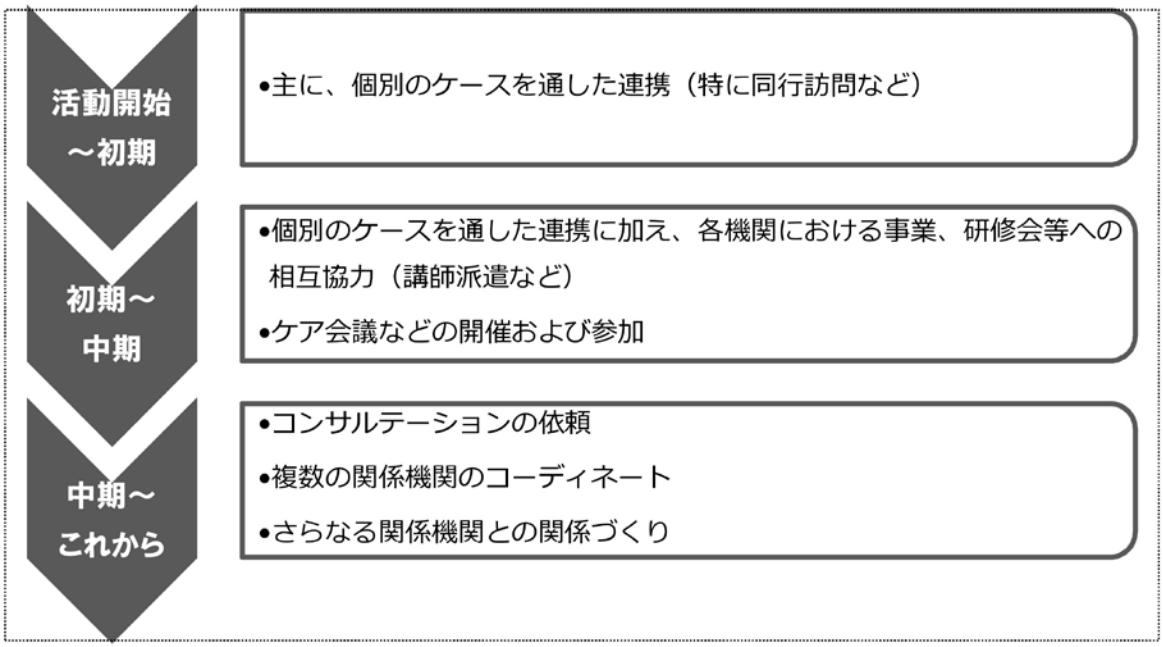
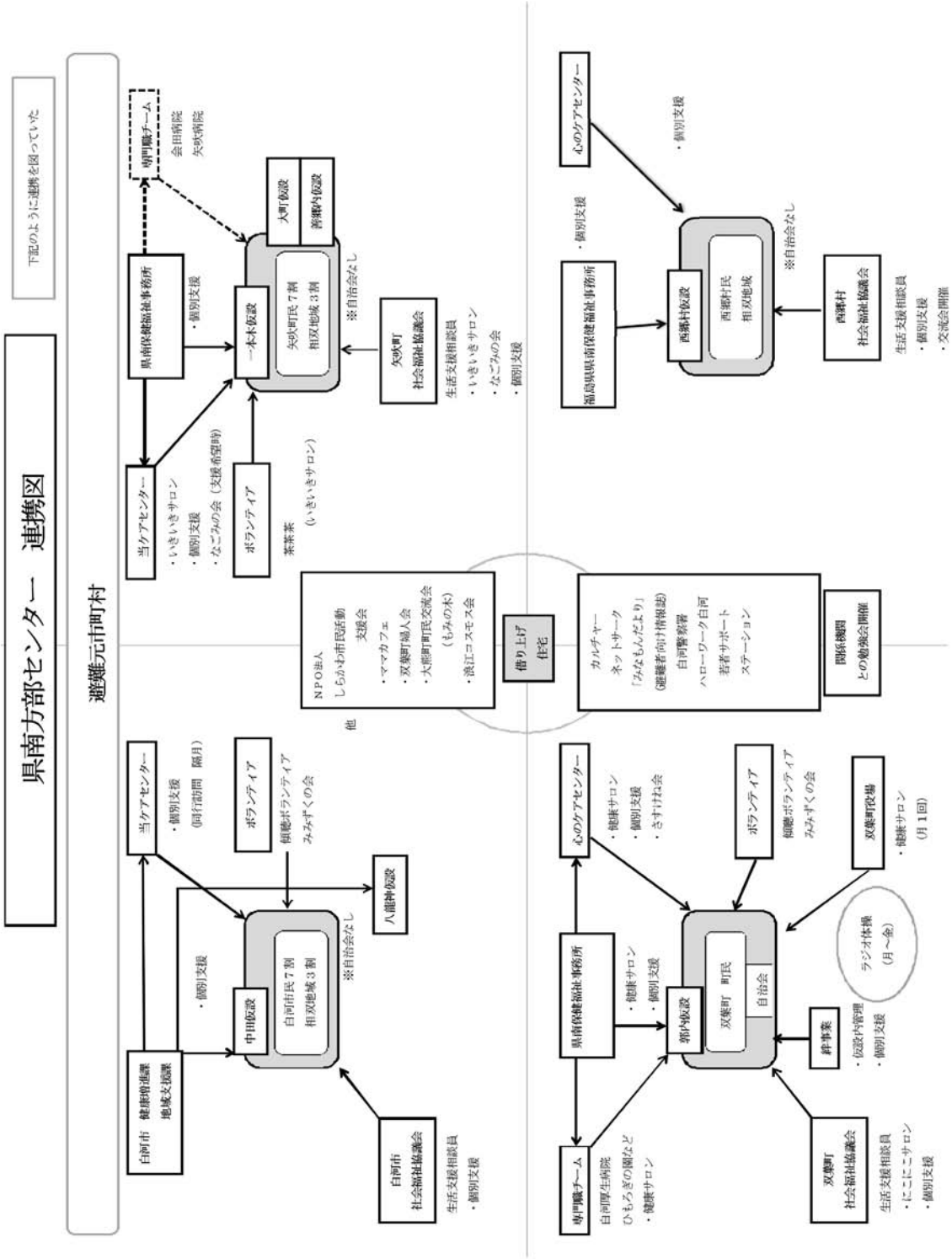


図２　連携内容の深まり

４．県南方部センターにおける連携について（注２）



（注２）本ページに掲載している図は2013年度県南方部センターにて作成した資料を一部改変して掲載した。

5. 会津方部センターにおける連携について

会津地域においては、震災直後相双地域から多数の方々が管内の仮設住宅をはじめ、借り上げ住宅へ避難されていた。状況が少しずつ落ち着き、より地元に近い中通りやいわき方部へ移動される方が増加傾向にあるなか、各関係市町村と連絡を取り合いながら、支援の必要なケースについて対応してきたところである。現在も役場機能のある大熊町、楢葉町を中心として避難住民の支援活動にあたっているが、町・社会福祉協議会と連携しながら個別の支援に努めている。

定例的には、地域ケア会議への参加、生活支援相談員ミーティング、障がい者事業所会議など町が実施する会議等に出席し、情報の共有とともに課題の整理を行いながら事業等の企画に努めた。

また、避難者支援全体を総括している福島県会津保健福祉事務所との月１回のミーティングへ出席し情報の共有を図った。さらに、福島県相談支援専門職チームの調整会議のなかで他職種と連携をとり、事業開催時に協力頂いた。

今後も各関係機関との連携を図りながら、対象者への支援活動に努めたいと考えている。

６．相馬方部センター（NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会）の連携について

2011年３月、福島県立医科大学の心のケアチームは相馬市を拠点として被災者支援を行ってきた。NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会は、2011年11月に設立されこれまでの活動を引き継ぎ、2012年４月にふくしま心のケアセンター事業（相馬方部センター事業）がNPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会へ委託され、相馬広域こころのケアセンターなごみが現在まで実施している。

まず、相馬市と新地町で訪問相談活動を開始した。市町村などの自治体だけでなく、被災者を支援する様々な関係機関と、同行訪問や情報共有を行ってきた。その中でも、被災者を訪問する第一線機関である社会福祉協議会の生活支援相談員や住民の生活をよく知る仮設住宅の自治会長などの情報交換は、被災者ひとりひとりの日常の姿や、その地域の住民同士の関係性を知ることができ、生活に根差した支援をするための貴重な機会である。特に、原発事故によって避難した市町村の住民は県内外に分散して避難しており、行政サービスが行き届きにくい現状がある。相馬市にある飯館村住民の仮設住宅では、飯館村の健康福祉課や生活支援相談員、自治会長などと定期的に支援者会議を行い、密な連携を図ってきた。

2014年４月に南相馬市事務所が開設されると、連携が進む中で、被災者だけでなく、高齢者や障がい者、引きこもりなど、訪問を依頼されるケースは多様化していき、地域包括支援センター、ハローワーク、地域の支援団体（NPO法人等）と、連携機関も多岐に広がってきた。被災後、中長期のステージに入り、日頃の情報共有や事例検討を行うことを通して、事例そのものへの対応を話し合うだけではなく、地域の抱える問題やニーズに気付き、共有していくことも「連携」における今後の重要な課題であると考えられる。

また、社会資源が限られた地域においては、社会的弱者を地域が支えていくという視点が必要不可欠である。高齢化が進み、避難地域の帰還の問題を抱える相双地域では、地域で生活する住民ひとりひとりがお互いを支援し合うコミュニティを作っていく必要がある。そのため地域全体での見守り支援を行うためには、相馬方部センターと地域住民との協働体制を築く必要があり、住民との連携も今後の課題である。

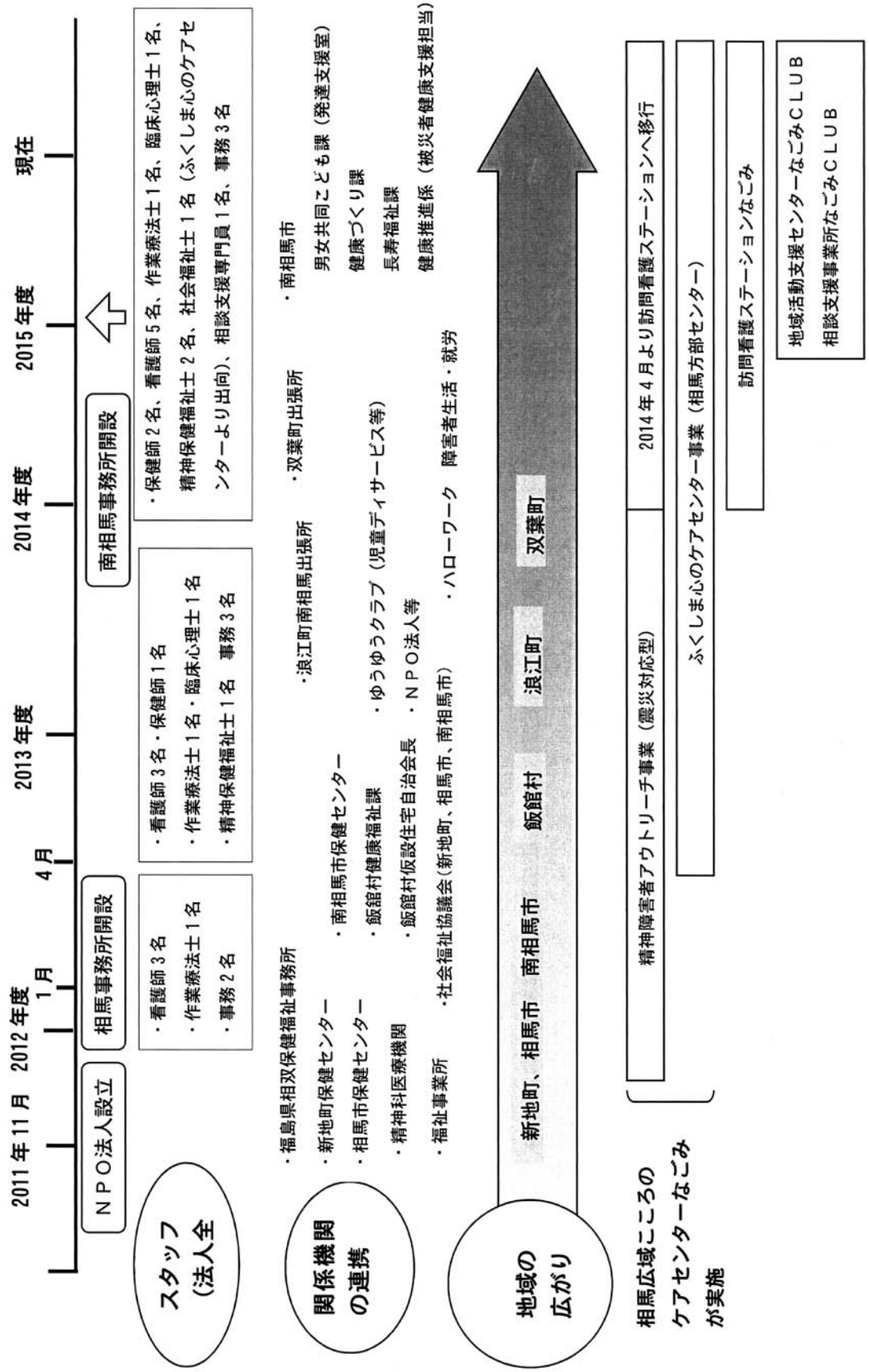


図１　事業の展開と連携のひろがり

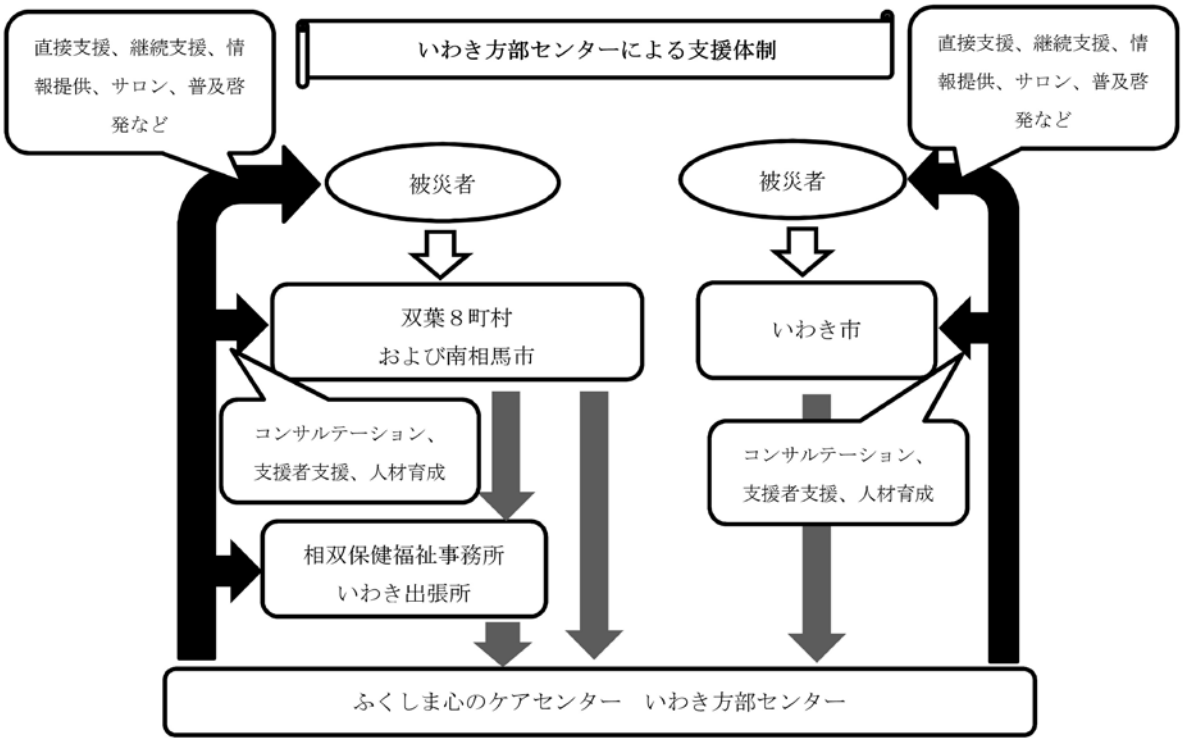
７．いわき方部センターにおける連携

東日本大震災・原発事故により、いわき地域には住民のみならず、複数の町村が役場機能ごと避難している状況がある。一つの行政圏域の中に、複数の別の行政がそれぞれ機能しているという非常に特殊な地域事情にあり、支援活動に入るにあたっては、依頼ルートや連携体制について非常に配慮を要する背景があった。

いわき方部センターが活動を開始した2012年度は、相双管内の市町村からの業務依頼を福島県相双保健福祉事務所いわき出張所（以下、いわき出張所）に取りまとめてもらう形での支援を展開してきた。一方で、市町村から「いわき方部センターに業務の依頼を直接受けてくれないか」との声があった。いわき方部センターは、2013年度より、いわき出張所経由のほか新たに市町村から業務の依頼を直接受けることを方針として決定した。

いわき市内に避難している相双管内の町村などを中心に訪問し、活動内容と合わせていわき方部センターへの依頼の方法について説明してまわったが、すぐに相談を受けるということは少なかった。2013年度は、市町村との関係構築、連携を目標とし、何かの折にこまめに顔を出すという活動を繰り返した。そのうちに、困っている事例に同行訪問させて頂いたり、相談を受ける機会が増え、徐々にではあるが市町村との信頼関係が構築され、それにともない業務の依頼が増えてきた。

なお、いわき市については、設立当初の2012年度より、いわき市保健所に依頼を取りまとめてもらい、グループミーティングや普及啓発や人材育成の講演および講師派遣活動などに取り組んでいる。



６　2014年度県外避難者の心のケア事業「心とからだの健康相談」の報告

2014年度県外避難者の心のケア事業　心とからだの健康相談の報告

はじめに

2014 年 4 月から福島県保健福祉部障がい福祉課（以下、障がい福祉課）からの協力事業として、ふくしま心のケアセンターから臨床心理士または精神保健福祉士 1 名と保健師または看護師 1 名、福島県避難地域復興局避難者支援課 1 名の体制で心とからだの健康相談を実施してきた。

ホールボディカウンター検査（以下 WBC 検査）を受けに来た方を対象に、身体の状況や精神的な不調 , 悩み等の内容が記入できる問診票「健康状態についてのアンケート」を実施し健康相談を進めてきた。沖縄から始まり北海道を含め 13 カ所の概要について報告する。

1．問診票から見られた特徴

問診票に記入した人数の合計は 375 名であった。うち、多かった年代は順に 30 代（108 名、28.8％）、40 代（95 名、25.3％）、10 代（85 名、22.7％）であった。

問診票では心の健康状態を把握するために K6 調査票を用いた。WBC 検査の受検者における心の健康に関してハイリスク者の割合を先行研究（川上、2007）の結果と比較したところ、次の結果となった。

表1　一般住民との心の健康度の比較

	一般住民（川上，2007）	今回の結果
全回答者数	1,183 名	375 名
K6=5 点以上 心理的ストレス相当	27.5%	114 名（30.4%）
K6=10 点以上 不安・気分障害相当	8.2%	44 名（11.7%）

この結果は県外避難者の全体を反映するものではないが、少なくとも WBC 検査受検者の精神的健康度は一般住民と比較するとやや低い状態にあることが推察される。

健康面に関する顕著な特徴としては睡眠に関する項目が挙げられる。375 名中 112 名（30％）が睡眠に関する不調を訴えていたほか、ハイリスク（K 6 が 5 点以上）と判定された 114 名についてみると、68 名（59.6％）が睡眠の不調を訴えていた。具体的な不調は以下の図のとおりであった。

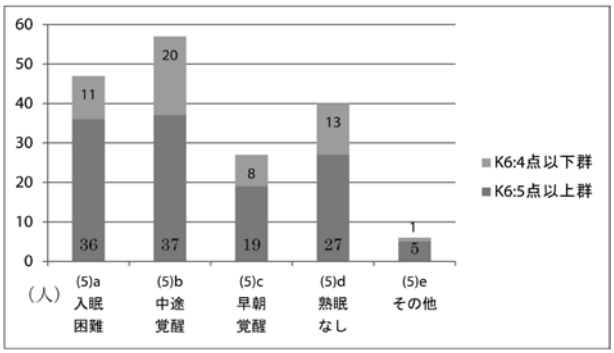


図 1　ハイリスク群と非ハイリスク群別の睡眠の問題

また、各年代別の睡眠に関する困りごとは、以下の図２のとおりであった。

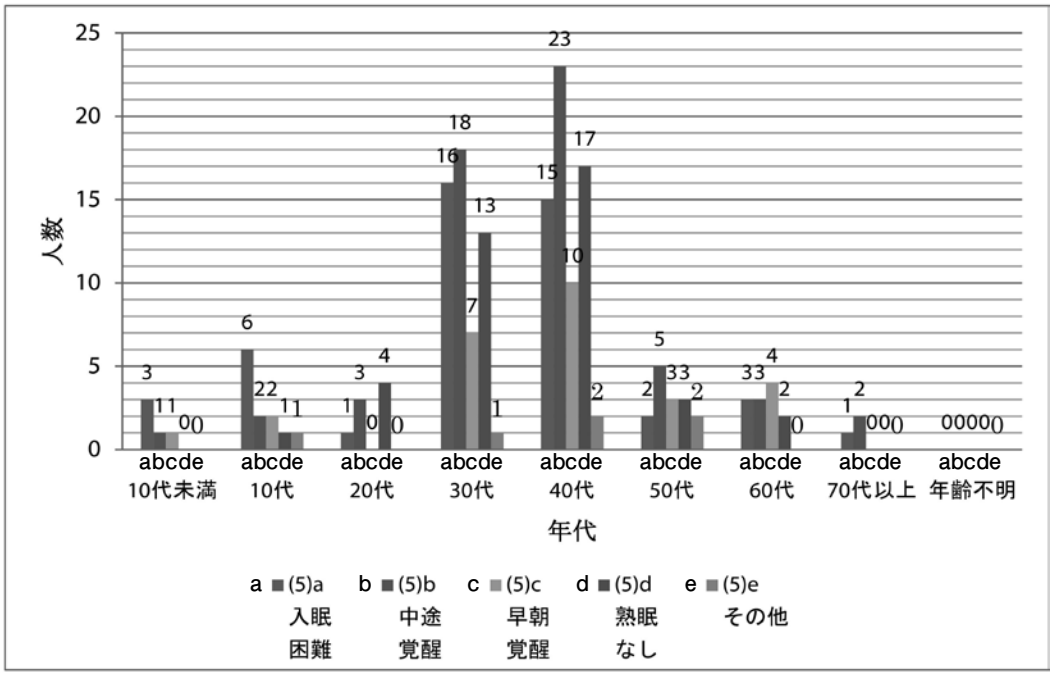


図２　年代別睡眠の困りごと

２．個別相談および事後フォローより

当日、自発的に相談を希望したのは 26 名（12%）にすぎなかったが、障がい福祉課担当者らスタッフが個別に声掛けをして面談を実施した総数は 130 名(34.7%)（当センター職員による面談のみ集計）であった。さらにその中で、1 か月後に電話にてフォローを行った人数は 130 名中 24 名（18.5%）で、内訳は沖縄 4 名、長野 2 名、沼津 2 名、岐阜 3 名、山梨 2 名、札幌 6 名、岡山 1 名、熊本 1 名、福岡 2 名、大阪 1 名であった。

電話での事後フォローの内容をいくつか抜粋すると、以下のようなものであった。

対象者 A:　Ｋ６が高得点であったため、受診勧奨を行った。避難先で医療機関を受診するも、避難先であるがために抱えている悩みや辛い気持ちをきちんと理解してもらえず、かえって辛くなると話される。事後フォローでは、避難先の医療機関情報をお伝えし、セカンドオピニオンを提案した。

対象者 B:　Ｋ６は低い点数であったにもかかわらず、PTSD 尺度が高得点であった。避難先の相談機関情報を面談時に紹介し、その後の避難先でのフォロー状況に関して確認をするため、電話での事後フォローを実施した。

対象者 C:　Ｋ６は 13 点。生活環境の変化から不眠がちになったり、円形脱毛症などの身体症状も見られていた。事後フォローでは避難先での相談先として、避難先の支援機関の情報を提供した。

対象者 D:　Ｋ６で高得点であり、なおかつ質問紙で PTSD 症状が見られたほか、自殺のリスクも見られた。面談時には受診勧奨を行った。事後フォローでは、家族関係の確認を行ったほか、改めて受診勧奨を実施。日を開けて再度事後フォローを行い、受診継続の状況を確認した。

まとめ

まとめとして、県外避難者の状況として以下のことが推察される。

・県外への「移住」ではなく一時的な「避難」であるが故に避難先の環境になじむことへの戸惑いや葛藤があり、孤立感が強い

・福島に戻るかどうかの葛藤、いつ戻れるのかどうかといった先行きの不透明さがあることから気持ちが落ち着かない

・夫婦間、家族間、あるいは親子間での意見の不一致がある

こういった背景が複雑に重なり合っているために精神的な負担が生じやすく、それが心身の不調につながっていることが推察される。これらを踏まえた支援のあり方について、今後も検討していく必要があると考えられる。

参考　報告対象とした相談実施県および日時

1.　2014.4.18 - 19　沖縄県那覇市
2.　2014. 5.24 - 25　長野県長野市
3.　2014. 6. 6 - 8　静岡県沼津市
4.　2014. 6.21 - 22　岐阜県岐阜市
5.　2014. 6.28 - 29　山梨県中央市、甲府市
6.　2014. 8. 2 - 3　北海道札幌市
7.　2014. 8.23 - 24　北海道札幌市
8.　2014. 9. 6 - 7　岡山県岡山市
9.　2014. 9.19 - 20　三重県津市
10.　2014.10.18 - 19　鳥取県鳥取市
11.　2014.10.25 - 26　大阪府大阪市
12.　2014.11.22 - 23　福岡県福岡市
13.　2014.12. 6 - 7　熊本県熊本市

(参考資料)

「全国調査における K6 調査票による心の健康状態の分布と関連要因」(川上、2007)

(文責) 県中方部センター

7　寄稿

●生活支援相談員の支援活動とふくしま心のケアセンターについて
……社会福祉法人福島県社会福祉協議会　避難者生活支援・相談センター長　大和田　誠　137
●東日本大震災後の福島県精神保健福祉士会の動き
……福島県精神福祉士会　事務局　菅野　正彦　139
●浪江町社会福祉協議会生活支援相談員の現状と課題について
……浪江町社会福祉協議会　池崎　悟　141
●被災者健康支援活動を通して思うこと～笑顔が増える暮らしをめざして～
……福島県県北保健福祉事務所　黒田　裕子　144
●復興のための連携を……　一般社団法人ふくしま連携復興センター　遠山　賢一郎　146
●ふくしま心のケアセンター活動報告によせて……　川内村　保健福祉課　猪狩　恵子　148
●県中・県南方部センターの事例検討会への継続的な参加を通して思うこと
……福島県立医科大学看護学部　大川　貴子　150
●ふくしま心のケアセンターとの活動を通して思うこと
……福島県県中保健福祉事務所　保健福祉課　障がい者支援チーム　小田島　カヨ　152
●県南地域の被災者支援活動について～心のケアセンターとの連携を中心に～
……福島県県南保健福祉事務所　健康福祉部　宮田　良子　154
●他職種の支援者と力を合わせた支援活動
……福島県県南保健福祉事務所　健康増進課　専門保健技師　土田　札美　155
●被災者への口腔保健支援～双葉町健康サロンの活動を通して～
……福島県県南保健福祉事務所　健康増進課　医療技師　後藤　優子　157
●県南地域での避難者支援活動を振返って
……福島県県南保健福祉事務所　総務企画課　主任保健技師　濱尾　喜美子　159
●コミュニティ結　活動報告
……株式会社まちづくり会津　サポートコーディネーター　稲村　久美　160
●心のケアセンターの活動に寄せて
……大熊町役場　健康介護課　課長補佐兼統括保健師　武内　由美子　165
●ハローワーク相双・トータルサポーターの窓口から
……ハローワーク相双　精神障害者雇用トータルサポーター　小林　文子　167
●ふくしま心のケアセンター活動報告によせて
……新地町健康福祉課　保健師　畠山　美雪　169
●ふくしま心のケアセンターとともに歩む被災者健康支援
……福島県相双保健福祉事務所いわき出張所　所長　菊地　とも子　170
●心のケアセンター活動によせて
……ＮＰＯ法人シェルパ　居宅サービス担当　古市　貴之　172

（敬称略）

生活支援相談員の支援活動とふくしま心のケアセンターについて

社会福祉法人福島県社会福祉協議会
避難者生活支援・相談センター長　大和田　誠

１．生活支援相談員配置事業

福島県社会福祉協議会では、被災により経済基盤や生活基盤が弱くなり、自立した生活が困難な避難者に、いきいきとした生活を取り戻してもらうために、市町村社会福祉協議会と協力して生活支援相談員配置事業を実施しております。

この事業は、国の制度とはなっておりませんが、阪神・淡路大震災での仮設住宅に配置された「生活支援員」が原点であり、新潟中越地震や新潟中越沖地震による災害の際にも実施されました。

支援内容は、特に定まっているわけではありませんが、①要援助者に対して、必要なサービスや活動が利用できるよう、相談と調整を行うこと②既存サービスや活動で対応できないニーズは自ら行うこととしています。また、日々の活動と継続的なかかわりの中での要援助者の発見、多くの人とかかわりながらの巡回による安否確認、仮設住宅等入居者同士の話し合いの場づくり、周辺の地域住民や団体との関係づくりを行っております。この活動には、地区毎のニーズによりバリエーションがあります。

支援にあたっては、①相談内容を限定せず、まずは受け止める②繰り返し訪問し、徐々に信頼関係を作っていくことを重視しております。

２．福島県社会福祉協議会と関係市町村社会福祉協議会

平成 23 年８月から県内 30 の市町村社会福祉協議会の協力を得てこの事業を開始し、翌年３月には 171 名、平成 27 年９月１日には 267 名の相談員を配置し被災者支援活動に取り組んでおります。平成 27 年度の相談員配置目標を 390 名としておりますが、優秀な人材が確保できないなどの理由により、本年９月１日現在ではこの目標には届いておりません。

市町村社会福祉協議会との役割分担では、事業の実施主体を福島県社会福祉協議会が担い、市町村社会福祉協議会は生活支援相談員を実際に採用し、支援活動をマネジメントしております。

福島県社会福祉協議会では、相談技術のレベルアップ等のための研修を階層別等毎に実施しておりますが、本年度は避難者の住み替えや帰還が進展することを踏まえ、放射線リスクコミュニケーション研修を県内各地で９回実施しました。この研修では、講師から「安全は科学的なもの、安心は人により捉え方が異なる」等と説明があり、生活支援相談員の活動の参考に供しております。今後は、避難者生活の変化に対応した活動が行えるよう、研修内容を見直ししていく必要があります。

３．関係機関との連携

生活支援相談員が活動するにあたり､避難者に新たなサービスが必要と考えられ、制度に基づくサービスを担う関係機関がある場合は、当該機関につなぐことを基本とし、制度外のサービスを提供する関係機関と支援内容が重複する場合は連携して支援することになります。また、生活支援相談員は、支援に漏れがないか十分に留意した活動をしております。

地区毎に避難元・先社会福祉協議会や関係機関の間では定期的に情報交換をし、活動上の課題の解決に努めております。この情報交換の際には、ふくしま心のケアセンター職員の皆様にも参加いただき、地区内の活動状況等の全体把握の場になっております。また、関係社会福祉協議会にとり、専門的な支援の必要なつなぎ先としてふくしま心のケアセンターが各種専門職で構成されており、円滑な避難者支援活動には欠かせない団体となっております。

４．今後の避難者動向を踏まえた支援のために

今後の避難者の動向を考えますと、仮設住宅から復興公営住宅への住み替えや自立再建を図られる方が増加する一方、避難生活の長期化、先行き不安、孤立感などによるストレスが今まで以上に累積する方も想定されます。このような状況に対応した支援活動には一層の困難さが増し、ふくしま心のケアセンターとの連携の重要性が増すことになります。この連携にあたっては、柔軟な考えで避難者支援に携わることが重要と考えます。また、つないだ情報を「気になる情報」として捉え対応していただければ、生活支援相談員の支援活動の励みになります。

今後とも、避難者支援に携わる関係団体として、共に連携し、支援を求めている避難者の孤立化防止に取り組んでいきたいと考えています。

東日本大震災後の福島県精神保健福祉士会の動き

福島県精神保健福祉士会
事務局　菅野　正彦

2011年３月11日の東日本大震災以降､福島県精神保健福祉士会（以下「県士会」）としても様々なことがあり、内容は変化しているが４年半を過ぎた今も新たな課題がでてきている。これまでを振り返りながら今後の活動について考えてみたい。

震災直後、私はまず職場の復旧にあたったものの、自宅のライフライン、実家の家族、余震や放射能の恐怖、ガソリン不足など、職場の慌ただしさも相まって、生活で何を優先すべきか判断できない日々が続いていたように思う。

県士会としては、災害についての備えは殆ど無かったといってよい。当時の事務局担当者が独自に会員の安否確認を行っていたが、理事会内での緊急時の連絡方法は確立されておらず、翌12日に予定されていた理事会は、中止の連絡すら取れなかった。

ようやく震災１ヶ月後の４月上旬に災害支援の担当者を決め、他団体との連携、県からの要請の整理などに対応していくこととなる。その中で、福島県相談支援専門職チーム（以下「専門職チーム」※１）の存在は、福島県独特のものでもあり、且つ非常に有効な支援活動の形ではないかと思う。専門職チームには、県士会としては４月30日に正式に参画することを表明させて頂いた。５月の６団体全体の説明会以降、各方部の地域性を活かした支援活動が始まり、その繋がりは６団体だけにとどまらず現在も広がりを見せている。各団体の強みを活かし役割を分担し合えたことが、支援を継続してきた支援者自身のケアにも大きく寄与してきたと感じている。

被災事業所、被災自治体への支援活動を県士会独自に行ってこられたことも特記すべき点である。中心となって動いて頂いた会員のご尽力とその活動に継続して参加頂いた会員の皆さん方に改めて敬意を表したい｡活動の性格をよく把握しながら、専門職チームなどと役割の整理を行えたことも特徴であり有効であったと思う。

日本協会が３月12日（11日の夜中）に災害対策本部を立ち上げ（※２）４月から宮城、福島両県で支援活動を開始していることを知ったのが夏になってからだった。南相馬市での活動に県士会からも人を出せないかと打診があった際、何とかして協力できないかと画策し、４名の方（その後更に２名から申し出あり計６名）に手を挙げて頂いたときには非常に嬉しかった。６名の方々にも改めて御礼申し上げたい。また、日本協会との協働ということでは、東京電力への要望活動が挙げられる。被災地で生活される方、その方々を支援する方の支援のしづらさにどう対応できるか。組織として行動することの重要性を改めて感じさせられた機会であった。

福島県外の方々との関わりの中で非常に特徴的なものの一つが、県内各地で開催した現地視察のツアーであろう。これまで何度かツアーを開催してきたがその経緯

をぜひお伝えしたい。一番初めは2012年６月熊本での全国大会の際に東京協会の方から「福島で合宿をしたい」と声を掛けて頂いたことだった。県内の様子を発信することの重要性を感じ始めていた頃で「ぜひお越し下さい」とお引受けした。県内の会員や支援者と交流すること、沿岸部の支援者から現状を伺うことなど１泊２日のプランを立て、多くの方にお越し頂いた。こういった活動が初めてで、受け入れについて不手際も多々あったが、支援者の現状や被災状況、復興状況をお伝えし、支援について共に考えることができた非常に良い機会であったと思う。このツアーをきっかけに千葉県協会、神奈川県協会とも交流を持つことができて、回を重ねるごとに発信していくことの大切さと有効性を確認できたように思う。ただ、これらのツアーは県士会のみでお引受けできた訳ではなく、沿岸部の支援者からご協力を頂くことができたのは非常に大きく有難いことであった。現場で活動を続けておられる支援者の方々の言葉には力があり、とても頭が上がらない。そういった方々に微力でも役立てることをこれからも考えていきたい。

こうしたツアーを参考にして、日本協会復興支援本部で東北３県での復興支縁ツアーを計画し2014年度復興支援委員会に引き継がれる形で実施することができた。今年度は第４回目のツアーを福島県内で企画している。今後も刻々と変わる現状をまず県士会としてしっかり把握し「被災地の今」を伝える活動を継続していかねばならないと思う。

現在、県士会や専門職チームでの支援活動は、その殆どが支援者支援など間接的な活動に移行している。その時期の被災者や被災自治体などの声をしっかりと聞き、ニーズに合わせた形に変化させていけるよう、定期的な活動の見直しが必要である。それと同時に、県士会として今までの経験をどの様に形に残していくか、後輩や他の地域にどう伝えていくかも考えていかなければならない。更に今後新たな災害が起きた際への備えを他団体とも協働して準備する必要がある。県内外で発生した災害にどう対応するか、どこまで出来るのか、それらを想定しておく必要があると思う。

これらの課題について、組織として如何に継続して取り組めるかが非常に重要である。本来業務もある中、外へ出る際には残ったスタッフで地域の一社会資源としての役割を果たし続ける必要がある。全てを置いて支援活動にあたることは困難だろう。やはり「組織として継続して」ということが県士会としての今後の大きな課題であると考える。

※１　相談支援専門職チーム…福島県の委託を受けて被災者支援にあたっている県内6つの専門職団体（介護支援専門員協会、医療ソーシャルワーカー協会、社会福祉士会、作業療法士会、理学療法士会、精神保健福祉士会）のチームの総称

※２　日本協会のホームページ内「東日本大震災復興支援情報」に災害対策本部、復興支援本部、復興支援委員会の情報が掲載されている。詳細はそちらを参照されたい。

浪江町社会福祉協議会生活支援相談員の現状と課題について

浪江町社会福祉協議会
池崎　悟

まずは浪江町の現状から広く知って頂きたいと思います。浪江町は人的被害として、死者 182 名（特例死亡 31 名）、震災関連死 366 名（H27.6.30 現在）、家屋被害 651 戸（流失 586、震災 65）となっております。

支援対象者数	県内避難者	県外避難者数
20,999 人	14,565 人	6,434 人

仮設住宅等入居状況（H27.7.8 現在）

市町村名	箇所数	建設戸数	入居戸数	入居人数	入居率	倉庫使用	残戸数
桑折町	1	286	108	172	37.8%	4	174
二本松市	11	1,069	710	1,349	66.4%	106	249
福島市	8	924	593	1,084	64.2%	93	237
本宮市	7	421	237	459	63.4%	56	95
相馬市	1	93	93	200	100%	0	0
川俣町	1	30	18	30	60.0%	2	10
南相馬市	1	70	70	97	100%	0	0
計	30	2,893	1,859	3,391	64.3%	261	765

【応急住宅計】

種別	入居戸数	入居人数	備考
仮設住宅	1,859	3,391	
借上住宅	103	185	福島市 85 戸、二本松市 14 戸、郡山市 4 戸
公営住宅	16	56	福島市 12 戸、いわき市 4 戸
特例借上	2,750	5,473	福島市 549 戸、二本松市 264 戸、郡山市 483 戸、白河市 72 戸、会津若松市 55 戸、相馬市 76 戸、南相馬市 396 戸、いわき市 602 戸ほか
計	4,728	9,105	

【浪江町社会福祉協議会生活支援相談員】

グループ	人数	仮設訪問	借上訪問
福島班	7	桑折町・福島市９か所	福島市・国見町・桑折町
二本松東班	6	二本松市　６か所	川俣町・郡山市
二本松西班	6	二本松市　５か所	二本松市・会津若松市
本宮班	5	本宮市　　７カ所	大玉村・本宮市・郡山市
	24名+１名	27か所	

全町避難により、このように広域避難している為に、全町民に等しく訪問が出来ない状況です。だからこそ、「出来る所から支援・やるからには責任を持って」をスローガンに、日々訪問相談業務にあたっています。

活動当初は､避難のストレスや住民からの信頼もなく､怒鳴られ･不満のぶつけ先･無用の制度と罵られることが多く、この制度そのものに疑問を感じながらの活動でした。しかし、それでも続けて継続訪問していくうちに、避難者の態度や考えにも変化していき、信用・信頼を得る事ができました。「ありがとう」「待ってたよ」そんな言葉に私達の【やる気】【責任】【やりがい】【誇り】が芽生えていき､現在に至っています。

住民からの気軽な相談先、頼れる相談先と認めてもらってからの活動は、やりがいと同時に、複雑で重い相談、解決が困難な問題が多々生まれることになっています。

・原発補償問題
・町特有の制度
・就労問題
・生活困窮問題
・健康・介護・精神疾患問題

まだまだ、書ききれないほどの相談・課題が毎日のように生まれます。そんな問題をいかに「解決していく」･「繋ぐ」かが生活支援相談員の役割と考えています。最近では、その繋ぎ先とも連携がとれ、よりスムーズに問題を解決、もしくは解決に近い方向へと進んでいます。

そんな重要な連携先の一つが、「心のケアセンター」です。生活支援相談員とは、言ってみれば非専門職の集団です。精神疾患を抱えている住民、アルコール依存症を持っている住民、自殺をほのめかす住民、日々いろいろな人と接していくうえで、我々には、その対応策が無知に近い状態です。対象者宅へ同行訪問し、適切な対応をしてもらい､確実な処置(的確な繋ぎ先)等をしてもらったことも多々ありました。

また、「ゲートキーパー」や「アルコール依存」等の知識や対応に関する研修会の実施により、生活支援相談員の相談援助の分野で、大きく成長することもできました。

避難者支援（個別支援・地域支援）は基より、支援者支援の役割も大きく、私達

生活支援相談員が安心して訪問できる要因のひとつになっています。

浪江町に関して言えば、震災避難ではなく原発避難です。大きな違いといえば、自力で復興することができない、復興の時期が分からないことです。そこに、避難者の多くは現在も大きなストレスとジレンマを持っています。復興住宅が完成し、復興住宅へと転居すると言うことは、決して「再建」にはならないのです。避難の住み替え程度の感覚にしか思えないのですから、まだまだ避難者支援は必要だと感じています。違う観点からこの住み替えを見ると、震災後にやっと構築された新たなコミュニティの崩壊でもあります。また、一から同じように、コミュニティの構築が重要になっていきます。私達生活支援相談員の業務も、今後ますます複雑化、困難化していくことが推測されます。今後とも、心のケアセンター様には、避難住民への戸別支援・地域支援、そして、私達のような支援者に対しても、お願いしつつ、一緒に「連携」をしていく機関として期待しています。その機能がスムーズになり、連携がより強化され、この福島県を、浪江町を安心して住める未来ある町へと変わることを願っております。

被災者健康支援活動を通して思うこと～笑顔が増える暮らしをめざして～

福島県県北保健福祉事務所
黒田　裕子

東日本大震災から3年が過ぎた平成26年4月に異動し、被災者健康支援活動を担うことになった。それまで総合衛生学院で医療従事者の養成を担い、震災・原発事故による受験者減少への対応、被災学生や転校希望学生の支援、放射線影響に関する教育と環境整備、震災後減少した講師や実習施設の確保などにあたってきた経験はあるが、避難者支援の最前線に立つことは、困難な事態が予想され不安を持っての異動だった。

県北管内では応急仮設住宅44カ所をはじめ公営住宅、借り上げ住宅等で避難生活を続けておられる方々が1万5千名を越えていた。長期化する避難生活で生じる健康問題への対応について避難元市町村支援として位置づけ、所内には病院局併任専門職、臨時看護職、派遣専門職9名が被災者健康支援の主力スタッフとして配置され、心のケアセンター県北方部のスタッフ5名と共に協働してきめ細かな活動が行われていた。スタッフは県内外から駆けつけた志高い方々であることに心強さを感じ、不安が軽くなったことを思い出す。

心と身体を軽くする集団健康活動

仮設住宅の集会場等36カ所を会場に、1時間30分でミニ健康教育、体操やゲームを行うサロン活動である。参加者は主に60～80代女性が多いが、会場によっては若い世代、子ども達も加わる。ねらいは楽しく笑って身体をほぐすこと。リハビリスタッフの体操メニューは多彩で、ストレッチからボール、タオルや棒を使う体操、太極拳、独自の音楽体操もDVD制作し参加者層に応じて提供する。また、ゲームなどのレク内容も種類豊富で楽しい。参加者はうっすら汗をかき、大笑いの時間を過ごし、「狭い部屋に居ればいろいろ考える。一時でもここさ来てこうして笑うとせいせいすんだ。」と帰途に着く。参加者の中には精神障がいを持つ方もおり、今月も元気に参加されたとスタッフは安堵する。

震災後しばらくは、多くの民間団体がサロン活動に入っていたが、4年目を迎え支援はめっきり減り、少人数の仮設には支援が入らない現状がある。帰還や生活再建に向かうべき時期にいつまでサロン活動か、参加者数が減りスタッフを下回るときの費用対効果は、参加者同士による自主化支援は、など課題もあるが、来るときよりも心なしか背筋がしゃんとして帰って行く参加者の姿を見続けていきたいと思う。

個々の生活実態に応じた訪問活動

避難元市町村からの依頼を受けて行う家庭訪問による支援は、26年度に延612世帯延1，362名だった。看護、栄養、歯科の専門職が2人組みで健康状態を確認

しながら生活に応じた保健指導をしている。訪問した結果をみると、環境の変化による運動不足、食生活の変化などによる生活習慣病予防を必要とする成人がほとんどであるが、家族分離が必要で施設入所調整を要した世帯や生活保護受給が必要な世帯など緊急対応を求められた世帯もあり、出向いて実際に生活を見る家庭訪問の必要性、重要性を改めて感じた。

一方この年の家庭訪問不在は200世帯にのぼり、既に帰還されている世帯や仕事や学校などの社会活動をされている日中不在世帯であり生活が安定しつつあるとの見方もできる。それぞれ異なる生活状況を知り、必要な支援に結びつけられる訪問活動は、電話による訪問予約から関わりが始まる。思いを受けとめることの大切さを感じた出来事がある。

訪問予約の電話をしていた看護職から、「20分ほど話していますが、納得していただけないので代わってください。」と電話を渡された。

60代の男性、仮設住宅に居住している。主訴は「なぜ県が訪問するのか」。避難元の自治体から依頼されていること、環境変化で体調崩されていないか看護専門職が相談に応じること、避難自治体首長から訪問のお知らせが郵送されていることなど説明するが、「名簿提供への不満」「今頃になって」「税金の無駄である」「県は暇なのか」など延々と苦情を訴えられた。

長引く電話対応に、周囲の職員の目や耳が気になりながら…、最終的に納得されたのは「本来は○○町の保健師が訪問したいと思っている。避難先が広範囲で訪問しきれないので県が代わりに訪問する。」という説明だった。「自分の町から心配してもらっていることを実感したい」「自分の町の保健師に来てほしい」という願いがあり、苦情はその確認にすぎず、避難を余儀なくされた方の思いに胸が痛くなった。

当該町との連絡会で町保健師に会いたいと熱望している方がいること、また、こうした反応はこれまでの保健活動の評価でもあることを伝えた。

心のケアセンターとの連携

健康支援活動を通して、メンタル等気になる方について相談し、同行訪問や継続支援を依頼している。心のケアセンタースタッフはケースに応じ検討し、適時、適切な支援に応じてくれるので、当所のスタッフが安心して活動できる大きな要因になっている。

心のケアセンターの職員と共に活動して感じるのは、「聴いて、受けとめ、待つ」という支援者の基本姿勢である。待つことができるのは、信頼があるからと言われる。

被災された方々がより健康的な暮らしができるように、願いを聴いて、気持ちを受けとめて、自分で動き出せるように支援して待つことを関係機関、関係者と共に続けていきたい。笑顔が増える暮らしになり、被災者健康支援が必要でなくなるように。

復興のための連携を

一般社団法人ふくしま連携復興センター
遠山　賢一郎

2011年３月に発生した東日本大震災と原発事故、そこからの復興や地域の再生に向けて数多くの担い手が活躍している。

震災の翌年に福島県内で設立されたNPO法人は100団体を超え、震災直後には数少なかった県外からの支援も、徐々に増加していった。

ふくしま連携復興センターは、震災の発生した2011年７月に発足し、復興活動の担い手が持つ情報や意見の共有のための場づくり、団体同士のコーディネートなどを主なミッションとして活動を推進してきた。

震災直後は混乱が続き、情報が伝わりにくかったことから、復興の担い手同士が情報共有し、意見を交わし、ビジョンを共有して協力し合いながら活動することは、重要な意義を持っていた。

しかし４年の経過とともに、復興への課題は多様化、細分化、複雑化が進み、それと同時に連携もより具体的なテーマが求められるようになってきた。

被災地域によって復興の進み具合に格差があり、また被災者個人個人も、置かれた立場や環境、生活再建への意向の違いなどにより、それぞれが抱える課題も多様化している。

避難者の生活環境は、応急仮設住宅から復興公営住宅や自主取得した住宅へ徐々に変わりつつある。また今後、避難指示が解除される自治体が増えていく見通しである。それとともに、故郷へ帰還する避難者、他の地域に移住する避難者、しばらくの間復興公営住宅等での生活を送り、状況が見えてきてから決断する予定の避難者など、それぞれの今後の生活再建に関する考え方も多岐に渡っている。

加えて、国の定めた集中復興期間もあと半年を残すのみとなり、行政や外部支援をはじめとした復興活動の環境も大きく変化しようとしている。外部支援者の中には、活動にひと段落着けるところも増えている。

このように復興活動はいわば「曲がり角」に差し掛かった状況である。

一方、福島の復興までの道のりは除染や廃炉作業等の長期化に伴い、終わりが見えない。

復興の長期化により、課題の多様化が益々進む中で重要なのが、連携と役割分担による、支援の質の向上である。

復興支援に関しては、行政やNPOなどとともに、復興支援制度に基づき活動する「生活支援相談員」「復興支援員」「コミュニティ交流員」などが存在する。それぞれ国や県、市町村の事業に基づき活動しており、被災者の生活支援やコミュニティ再生などに寄与しているが、一部業務が重複していたり、お互いの情報共有が取りにくいなどの課題があるように思える。

ふくしま連携復興センターでは今年の２月より福島市で、アドバイザーとして心のケアセンターの職員の皆様にも加わっていただき、各支援者の連携を図るべく連絡会議を行っている。その中で、この会議をきっかけに複数の組織での連携事業の企画が浮上するなど、徐々に効果が表れてきつつあると実感している。

組織間の連携やそのためのコーディネートは、震災直後の情報が錯綜した時期から復興ステージが進むにつれ、明確な目的やゴールを設定して連携を進めるといったニーズが大きくなっている。

そして、その連携が効果を発揮するためには、様々な立場や役割、リソースを持った多くの主体が参画することがポイントになる。多様化する課題ごとに、その解決のために力を発揮できる主体が連携チームに存在すれば、課題解決力が高まり、支援の質が向上する。

特に、被災現場で活動する支援者と、その分野での専門家の連携は、質の高い支援を現場で実施できることに繋がる。

このように支援者間の連携は、課題が多様化する現在のステージにおいては、その解決のための行動に繋がるための施策として重要性が増大している。そのために我々ふくしま連携復興センターは、どのような連携がどのような効果を生むことが出来るかを見据えながら、コーディネート活動を進めていきたい。

そして心のケアセンターの皆様へ、これまで通り専門性の高い見地からそのサポートをお願いし、先の見えない福島の復興を少しずつでも前に進められるよう努力していきたい。

ふくしま心のケアセンター活動報告によせて

川内村　保健福祉課
猪狩　恵子

避難、そして帰村を通した状況

2011 年 3 月 16 日　東日本大震災・福島第一原発事故により、住民と共に行政機能ごと郡山市ビッグパレットふくしまへ全村避難しました。

避難所・仮設・借り上げ住宅での避難生活の中で、先の見えない不安や生活・家族環境の変化・生きがいや役割の喪失から、多くの方が不眠や不安、心の落ち込みやストレスを抱えました。

2012 年 1 月帰村宣言“戻れる人から戻りましょう”帰村宣言直後の 3 月末、行政機能を川内村に戻しましたが、帰村したい思い以上に帰村に対する不安・行政に見放された思いを持つ方がおり、いったん落ち着きかけた心がまた、不安定になった時期でもありました。

震災から 4 年半がすぎた現在、様々な思いの中で少しずつ帰村が進み、6 割の方が村での生活に戻っています。

帰村者の多くは高齢者であるため、元の生活に戻りきれず、家族関係の希薄化や認知症等に対する不安を持ちながら生活をしている人、戻りたくても戻れない人の取り残され感、引きこもりやアルコールの問題等住民の抱える問題は、より多様化・複雑化・深刻化している現実があります。

心のケアセンターとの協同での住民支援

平成 24 年 4 月　行政機能を川内村へ戻すと同時に、避難先の郡山・川内村の 2 地域を中心に、心のケアの必要な方の戸別訪問と避難先の仮設住宅での“ひと休みの会”を依頼しました。当初は、何をどのようにお願いしたらよいのか、ケースのとらえ方や対応方法に戸惑いもありましたが、同伴訪問や定期的なケース報告会での情報共有を通して、対応・ケース検討会の進め方、医療機関へのつなぎ等、様々な専門職の専門性を活かした対応を学ばせていただくことがきました。

平成 25 年度からは、継続的な訪問活動の他に、住民による地域支えあいの仕組みを考える“川内村高齢者いきいきなり隊・増やし隊”のメンバーとして、事業の進め方や他団体との連携のあり方について一緒に考え、平成 26 年からは、実践として認知症に対する理解を得るために、中学校や中央学級・各地区での講座のスタッフとして、一緒に考え一緒に講座を実施しました。

支援者支援

“職員ひとやすみの会”の実施―被災者であり支援者である職員の思いを理解し、受け止めている応援メッセージをいただいた後の、リラクゼーションタイムでリフ

レッシュ。大きな力をいただきました。

住民対応で困った時に、自分達で抱えることなく相談できる心強い味方でもあり、保健師自身の思いを受容・支持、もしかしたら、住民より保健師の方が、よりケアしていただいているのではないでしょうか。

心のケアセンターに望むこと

震災を通して失ったものもありますが、震災がなければ得られなかったものがあります。

その一つが、ケアセンターの皆さんと一緒に活動させていただいたことであり、大きな財産となっております。

村は、少しずつ元の生活にもどりつつありますが、一人ひとりの心の復興の歩みのスピードは違い、自分を理解してくれる人の存在、支え見守ってくれる人の存在が重要です。

今後も、専門的立場から戸別訪問や事業へ支援の継続を期待いたします。

また、センター職員の皆様も私達同様、ゴールの見えない中を対応困難事例も多く抱えながら全力疾走され、心身ともに疲弊されていらっしゃるのではないでしょうか。皆さんご自身の心と体をいたわっていただき、今後も私達と一緒に住民のペースに合わせて、それぞれのゴールに向かって伴走していただきたいと思っています。

県中・県南方部センターの事例検討会への継続的な参加を通して思うこと

福島県立医科大学看護学部
大川　貴子

私は、ふくしま心のケアセンターが開設された2012年の5月から8月の期間、非常勤の次長として当センターに籍をおき、その後は顧問として関わらせて頂いています。“顧問とは何をする人ぞ”ということはあまり深く考えず、センターからの求めに応じてできることをさせて頂くというスタンスで臨んできました。そのような中、県中方部センター（2015年度より県中・県南方部センター）は、事例検討会に参加して欲しいという要望を出され、1～2ヶ月に1回の頻度でお邪魔しています。正確に参加回数を数えたことはありませんが、20回近く参加させて頂いていると思います。

私は、この事例検討会に参加させて頂くことで、多くのことを学ばせて頂いています。一つは、事例を通して、東日本大震災および東京電力原子力発電所の事故によって、人々の生活にどれほどの影響をもたらしているのかということを、あらためて実感させられるということです。事例検討会では、精神障がいや身体障がいのある方への支援について検討されることも多いのですが、多くの方は震災前には地域の中で生活を送ってこられた方々です。その人なりに過ごせる家屋があり、日課があり、ご家族や地域の方々に見守られながら、生活を営まれていました。それが、避難を余儀なくされ、全てが一変してしまい、生活のしにくさを感じ、身体的にも精神的にも不調を呈するようになってきます。その方の震災前までの生活を知ることなくして、その方のことを考えることは出来ませんし、心のケアセンターのスタッフとして何ができるかを導きだすことはできません。震災・原発事故によって変えられてしまった個々人の生活、人生ということを少しでも理解しようとすることから、どのような関わりが求められているのかが見えてくるように感じています。

また、事例検討会を通して、心のケアセンターの支援のあり方について学ばせて頂く機会になっています。訪問看護などとは違い、訪問を受ける人との間で契約を結ぶことなく、多くの場合何を目指して関わっていくのかがあまり明確ではない中で、訪問が開始されます。訪問活動を維持していくこと自体も難しいことがあります。月に1回程度の訪問を通して、信頼関係をつくっていき、どのようなことに取り組んでいくのかを模索しながら、協働できることを見出していく、これはスタッフ個々の人と人との関係をつくっていく高い技量が求められていることだと痛感しています。事例検討会では毎回、プロが行なう“寄り添いの技”をみせて頂いています。

さらに、多職種でディスカッションするとはこういうことかということを実感する場ともなっています。看護師、保健師、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士、作業療法士と様々な職種で事例検討が展開されることにより、色々な視点から

質問や意見が出され、事例の立体化がすすんでいきます。心的内面についての理解がすすみ、健康上の問題が整理され、活用できる社会資源がみえてくる、さらには、その地域の文化にまで話が及び、「なるほど！」と思うことがたくさん出てきます。時には、地域の保健師さんも加わって下さり、より一層深まりのあるディスカッションが展開されます。これぞ事例検討の醍醐味といったものを体験できる時間です。とても満たされた気分になって帰路につける、知的活動を通しての癒しとはこのようなものかなとも思います。

最後に、私がこのような有意義な事例検討会に呼んで頂く中で、自分の立場性について思っていることに触れたいと思います。私は、常にコンサルテーションの枠組みを意識しながら、この場に参加しています。キャプランは「精神衛生コンサルテーション」という書物の中で、「コンサルテーションは、二人の専門家、一方をコンサルタントと呼び、一方をコンサルティと呼ぶ、の間の相互作用の一つの過程である。そして、コンサルタントがコンサルティに対して、コンサルティのかかえているクライエントの精神衛生に関係した特定の問題をコンサルティの仕事の中でより効果的に解決できるよう援助する関係をいう」と述べています。この関係においては、コンサルタントはもとより、相談をもちかけるコンサルティも専門家であるということが前提となっています。私はこれからも、スタッフの方々の専門家としての力を尊重し、様々な意見を拝聴していきたいと思います。そして、事例提供者が「そういう考え方もあったか！」「こんな関わりもできそうだな！」とヒントを得て、次の訪問日が待ち遠しくなるような事例検討会となることに貢献できるよう、努力していきたいと思います。

ふくしま心のケアセンターとの活動を通して思うこと

福島県県中保健福祉事務所　保健福祉課　障がい者支援チーム
小田島　カヨ

はじめに

震災の年の６月に県北保健福祉事務所障がい者支援チームに転勤となり、そこから心のケアセンターの方々と関わらせていただくようになりました。平成 26 年度からは、県中保健福祉事務所障がい者支援チームに転勤となり、心のケアセンター県中方部センターの方々とは引き続き被災者の心のケア支援で連携をとらせてもらっています。

その関わりの中で感じていることを述べたいと思います。

震災直後から県北保健福祉事務所での被災者支援

震災当時、私は県中保健福祉事務所の感染症予防チームに勤務していました。大規模な一次避難所では感染性胃腸炎等が多数発生し、急遽避難所内に簡易病床を作り観察室を設け、症状がある人を一時的にそこで隔離し対応していました。それはまるで野戦病院のようで、今でもその光景は忘れられません。

また、被災直後は、情報も錯綜し、県の初動活動が遅れ、市町村や避難者からも大分非難もありました。

そのような中、県中管内の精神科病院が建物倒壊等の被害にあい、入院患者が高校の体育館へ避難を強いられ、避難所で不安定になる精神障がい者の対応に障がい者支援チームの保健師が対応に追われていました。

平成 23 年６月から県北保健福祉事務所の障がい者支援チームに転勤になりました。県北の精神障がい者を取り巻く状況は同様でしたが、県北管内の精神科病院が避難された入院患者の受け入れに協力的で本当に助かったと聞きました。ただ、その後県内外へやむなく転院した避難患者が地元の病院へ戻れず、避難先で長期に入院せざるを得ない状況が今まだ続いている現状があります。

県北保健福祉事務所では、平成 23 年６月から、被災者の心のケアを担当する新たに配置された心の相談員（臨床心理士や精神保健福祉士等）と机を並べて一緒に仕事をすることになりました。被災者への訪問指導や仮設住宅での集団活動等、行政だけではできない専門家集団としてきめ細やかな支援を行っており私たちも学ばせてもらうことが多々ありました。

平成 24 年４月からは、ふくしま心のケアセンターが設置され、心の相談員がそのままセンターのスタッフとなり、またスタッフも増え、より充実した支援が行われるようになりました。しかし、次年度からは、センターのスタッフ自身が疲弊し、体調を崩す姿が見られ心配な状況がありました。手探り状態での活動の中、スタッフの心身の負担は非常に大きかったことと思います。

当所と心のケアセンター県中・県南方部センターとの関わり

平成 26 年度から県中保健福祉事務所に転勤になり、心のケアセンター県中・県南方部センターとは、事業等通して密に連携し活動させていただいてます。

センター設置当初から県中方部センターは、保健福祉事務所とは離れた場所に事務所を設けていました。そのため、月１回当所とセンターとの定例会を設け、要支援者の情報共有や課題等の検討を行ってきました。

また、被災者支援の中でひきこもりやアルコール問題等共通する課題もあり、ひきこもり家族教室やアルコール家族教室等はセンターの協力を得ながら行っております。

自殺予防対策では、当県は震災関連自殺が被災３県の中で一番多く、自殺率の低下が横ばいになってきていることなどから、自殺予防街頭キャンペーンや自殺予防セミナー、うつ病家族教室等の事業を協働で行い自殺対策に取り組んでいます。

このように県中･県南方部センターとの関係がとても良好なのは､今までの携わっていただいた方々が緊密な関係を築いてくれたおかげであり、今後もこの関係性は大事にしていかなければと思っています。

アルコール家族教室

自殺予防街頭キャンペーン

心のケアセンターに期待すること

被災から４年経過する中、まだまだ当県は避難者も多く、心のケアの重要性は叫ばれています。年月が経過するにつれ､被災者のおかれている状況や不安も変化し、支援のあり方がより多様化、複雑化し、それに対応していくのは大変なことだと思います。

また、避難者の中で毎年何人か警察官通報となる精神障がい者の方がいたり、今まで支援が必要でなかった方が、新たに問題化するケースもおります。

心のケアセンターは、多職種の専門家集団であり、直接の被災町村のみならず、それ以外の市町村等からも期待される存在になっています。

不安定な雇用体制であったり、センター自身の今後の方向性が不確かな不安があるかと思いますが、スタッフ自身の心身の健康は保ちつつ、今後も御活躍されることを期待しております。

県南地域の被災者支援活動について
～心のケアセンターとの連携を中心に～

福島県県南保健福祉事務所　健康福祉部
宮田　良子

当所の被災者の健康支援は、健康増進課を中心に他の課と連携を図りながら行っていますが、私が県北保健福祉事務所から H25 年度に転勤した時の県南保健福祉事務所では、保健師を 3 つの地区に分け、地区担当制を取って保健師が中心となり、栄養士や歯科衛生士と避難者の健康サロンや健康相談などの健康支援を行っていました。

心のケアセンターも現在とは違い、県南方部センターがあり、事務所も県南保健福祉事務所の１階にあったので、連携し易い体制でした。一緒に取り組んだ活動としては、当時はいろいろな支援機関・団体が活動していたので、心のケアセンター県南方部センターと共催で「県南地域避難者健康支援連絡会」を開催し、各機関の活動内容の情報交換や共有を図り、活動を進めてきました。その他にも、県南地域の避難者の交流を目的とした芋煮会や史跡巡りウォーキングを各関係機関の協力のもと開催しました。参加者の笑顔を見て、実施してほんとうによかったと思いました。

また、借り上げ住宅に入居した避難者には、避難市町村の依頼に基づき、看護協会派遣の保健師により、きめ細やか訪問活動を行い、避難元市町村担当者、心のケアセンター県南方部センター主任、社会福祉協議会生活支援担当者等とケース検討会を開催し、情報共有を図りながら支援してきました。

心のケアセンター県南方部センターについては、当初は県南保健福祉事務所の１階に入居していたので、連携し易い体制でしたが、事務所が当所から別の場所に移動したことや、職員が毎年変わり、職種も保健師と精神保健福祉士の 3 名という職員の体制の時もあり、当所としても戸惑いながら連携・調整でした。

今年度は、県南方部センターから県中・県南方部センターということで体制も職種も充実し、借り上げ住宅に入居した避難者についても、当所と役割分担をしながら連携ができてきているように思います。また、今年度からはじまった県南地域に住む男性を対象にした「男遊クラブ」についても、心のケアセンター県中・県南方部センターを中心に関係機関が連携し、従来の市町村単位の健康支援ではなく、避難元市町村を問わず、県南地域に住む男性を対象に始まり、徐々に被災者支援の形も変わってきていると思います。

最後に、震災４年目となり、一見、落ち着いてきたように見えますが、帰還への不安や被災者の高齢化など様々問題があり、心のケアセンター等関係機関と連携しながら、仮設住宅･借り上げ住宅の継続的な支援を進めていきたいと思っています。

他職種の支援者と力を合わせた支援活動

福島県県南保健福祉事務所　健康増進課
専門保健技師　土田　札美

１．県南地域の被災者支援体制

東日本大震災では、県南地域の市町村も大きな被害を受けました。さらに原発被害による避難者を受け入れ、管内には、３地区に仮設住宅が設置されました。一つは、白河市の被災者が入所した「中田仮設住宅」、２つ目は、矢吹町の被災者が入居した「一本松仮設」、３つ目は、原発避難者の双葉町住民が入居した「郭内仮設住宅」です。「中田仮設住宅」と「一本松仮設住宅」には、相双地域からの避難者も入居しておりました。

当所では、この３地区の支援にあたり地区担当制を取り、保健師キャップをリーダーとし、保健師・栄養士・歯科衛生士によるチームを組み、健康支援を行ってきました。

２．多くの支援者と力を合わせて

私が県南保健福祉事務所に着任してきた当時（震災後１年後）は、県内外から多くの支援機関･団体が支援活動を行なわれており、また、同年春、心のケアセンター県南方部センター（以下センター）が当所１階に開所されました。そのような中「県南地域避難者健康支援連絡会議」を開催し、各機関の活動内容の情報交換や健康課題の共有を図り活動を進めてきました。

支援活動の一つは、各仮設住宅内集会所での「健康サロン」、次に避難親子の不安軽減と交流を目的とした「親子教室」等を開催するなど避難者の健康管理と心のケアを行っていました。実施にあたりセンターを始め多くの支援者の協力を頂きました。

また、県南地域に避難してきた相双地域の住民との交流を目的とした「大芋煮会＆ウォーキング」「白河市史跡巡りウォーキング」を各関係機関の協力のもと開催しました。参加者から「みんなに会えてうれしい」「久しぶりだね」等と笑顔がみられ、スタッフ一同心から嬉しく思いました。

３．継続した見守り支援と心のケア

県南では、各社会福祉協議会スタッフが、震災後の早い時期から借上げ住宅等の訪問を開始し、現在も定期的に訪問しています。また、避難市町村の依頼に基づき、看護協会からの派遣保健師によるきめ細やか訪問活動も継続しています。

これらの活動から把握された心身に問題を抱えるケースについては、避難市町村保健師と関係機関で随時ケース検討会を開催し、問題の共有・支援方針の確認など調整を行ってきました。

特に、精神的な問題を抱えているケースは、センターへ繋ぎ、専門的な支援をお願いすることができ大変助かりました。しかし、ケースとの関係性が出来上がった頃にセンター職員の異動・交代等があり、当所としても戸惑いを感じたこともありました。

４．最後に

震災後４年が過ぎ、仮設住宅等から新居に移り住む方、住民票を移す方も出ており、県南地域は一見、落ち着いてきたように見えますが、一方で帰還の見通しが見えない不安や避難者の高齢化による認知症発症や ADL の低下など様々な健康課題が出てきています。

今後、仮設住宅等に入居している避難者へ支援は、ますます重要になると思いますので、みんなで力を合わせて頑張って行きたいと考えております。

被災者への口腔保健支援～双葉町健康サロンの活動を通して～

福島県県南保健福祉事務所　健康増進課
医療技師　後藤　優子

１．はじめに

私は、平成 25 年度に歯科衛生士として県南保健福祉事務所健康増進課に配置されました。

平成 25 年度から被災者支援として管内への避難市町村である双葉町の事業に関わらせていただいたため、その活動を振り返りたいと思います。

２．双葉町健康サロンでの活動～被災者口腔ケア支援事業の活用～

双葉町では、福島県が一般社団法人福島県歯科衛生士会に委託している「被災者口腔ケア支援事業」を活用し、双葉町白河仮設において毎月 1 回開催される健康サロンの中で年に 2 ～ 3 回歯科保健指導を行っています。平成 25 ～ 26 年度には、私も講師や調整役兼お手伝いとして関わらせていただきました。また、この際に心のケアセンターの職員の皆様にも御協力をいただき感謝しております。

健康サロンの参加者の方はご高齢の方が多いため、歯科保健指導の内容は主に、誤嚥性肺炎の予防方法、口腔体操、ブラッシング指導等です。白河仮設では、歌を歌ったりする口腔体操がとても人気でしたが、歯科衛生士会の方の話によると他の市町村では歯垢染色を用いたブラッシング指導が好評であったという声もあり、その地域によって参加者の方々の関心が異なることを再確認したとともに、集団指導であっても個別支援のようにその方々の背景や特色をしっかりと理解しなければいけないことを再認識しました。

また、平成 26 年度末の事業評価では、平成 25 年度から同じ歯科衛生士が定期的に支援していることにより、歯科衛生士と参加者との距離が近くなったとの声があり、支援を継続していくことの重要性を感じました。

本来であれば、かかりつけの歯科医院を持ち、定期的に健診等を受けることが口腔の健康ひいては生活の質の向上に効果的であると思うのですが、避難されてきた方々の中には､「前の歯科医院がよい」「どこの歯科医院に行けばよいか分からない」という方もおり、地域に根付いている方々より地域資源等を使いづらいといった側面があるのではないかと思いました。保健福祉事務所の役割として、地域住民の健康を増進するためには環境整備の推進が必要であり、今後も各関係機関と連携し、情報提供等を続けていきたいと思います。

３．おわりに

近年、歯科においても疾患や機能低下の予防の重要性が認識され活動が盛んになりましたが、現在の日本においてはまだ予防よりも治療が中心となっているように

感じます。自覚症状が出てから歯科医院に受診されるという方が多く、また、ご高齢の方ですと、飲み込みが悪かったりしてもそれが口腔機能の低下だと気づかない方もいらっしゃいます。発症・重症化を予防するためには早期発見が重要ですが、そのためには、健康サロンのような集団教育の場を設けたり、歯科以外で個別訪問等を行った際に支援者が“気づき”、“つなげる”ことが必要です。この“気づき”“つなげる”を皆様にお願いするとともに、顔のみえる関係でいたいと思います。

県南地域での避難者支援活動を振返って

福島県県南保健福祉事務所　総務企画課
主任保健技師　濱尾　喜美子

平成 25 年 4 月 1 日に県南保健福祉事務所へ着任し、翌日 4 月 2 日には「郭内仮設住宅集会所」開催される『健康サロン』に参加しました。私は郭内仮設住宅での集団支援活動を主に双葉町避難者への支援活動をしてきましたが、白河に異動しての初仕事でした。

その頃は町役場が県外避難をしており、避難者支援は郡山支所が行い、双葉町の保健福祉活動支援を白河にある当所がしていました。まだ安定した支援体制が確立していたというには課題も多い時期でしたが庁舎内にはこころのケアセンター県南方部センターのスタッフが常在しており、何かとこまめな連絡をするため階段を昇降し行き来できる距離にいました。特に、実施主体を県南保福からこころのケアセンター県南方部へ移行した郭内仮設集会所での「話そう会」の運営や少数ながらも個別事例について意見交換し、専門職の事例を捉える視点や集団支援時のスキルやテクニックを間近で経験しました。

いろいろな議論を重ね２年半が過ぎましたが、私は役場機能がいわき市に置かれるようになってから健康サロンへ出向く機会も少なくなり、今は保健福祉関係の実習生や臨床研修医の学びの場として伺うことが主となりました。それでも顔見知った方達から「久しぶりだね。あえて嬉しい。」といった声をかけてくれる参加者や支援員さんの言葉に自分の居場所がまだこの中に残っていることを嬉しく思います。実習生研修生にとっても大きな学びの場となっています。

「さすけね会」という名称で今も心のケアセンタースタッフからの支援が継続されていますが、これからも実習生達とお邪魔しますのでよろしくお願いします。

コミュニティ結　活動報告

株式会社まちづくり会津
サポートコーディネーター　稲村　久美

１．事業の目的

2011 年 3 月の東日本大震災から 2 年後の 2013 年より「コミュニティ結.Com」を開所しました。2013 年は会津地区にも大勢の避難の方が暮らしておりましたが、先行きも不安、仮設暮らしで閉鎖的であること、仮設と借り上げ住宅生活者との間で情報交換もあまりない。ましてや、会津の人とも交流が難しいなど多くの課題を抱えていた頃でした。

まちづくり会津は、中心市街地の活性に重点を置きさまざまな事業を行ってきました。「まちづくり」には地域に住む人や生活の場としている人々の参加が不可欠であり、いきいきと明るく元気に暮らす人々が、元気なまちをつくるものと考えております。地元住民と避難者の区別なく福島で生活するすべての人々が生きがいを持って生活できるよう、柔軟で多目的に活用できる交流スペースを設置いたしました。また、地元住民やまちづくりに興味を持つ人々の交流拠点として活用し、新たな地域づくり、地域活性のために共に力を合わせ取り組んでいきたいと考え、2013 年（平成 25 年）より、福島県地域づくり総合支援事業（サポート事業）の支援を受け運営を開始しました。

ただ、運営の中では専門知識を必要とする場面や、抱える課題が個々人で違い多様化する中で、ふくしま心のケアセンターの方々との連携により、健康相談や民話の会、お茶のみ会を開催することができ、私どもとしても大変強く、感謝いたします。仮設等への訪問も十分にできず、月に一度のお茶飲み会での情報交換は重要でした。

今年は、震災から 5 年目を迎え、人々の暮らしや心境にも変化が見られ、前向きに人生の再スタートを切られた方、他地域へ転居される方など様々ですが、情報不足、新たな地域で知人がいないなどの悩みを抱えています。「コミュニティ結」では、孤独感の払拭や、交流による心の支え、気軽に行けるみんなの拠り所として、他機関との連携をしながら、現在置かれている状況を真摯に受け止め、私たちにできる事をひとつづつクリアしていきたいと思います。また本年は、避難の方々が自主的に会津地域で活動ができるよう自立に向けたお手伝いができる事を目標にしています。

「コミュニティ結」は古くから日本に存在する結の精神に基づき、地域の人々が協力し合いともに成長し、地域の発展に寄与することを目的としこの名称としました。

ミニコミ紙、会津若松市、大熊町のホ ームページで紹介。facebok, では活動 状況をアップしています。

２．活動内容

■コミュニティスペースの設置運営と活用

○各種講座の開催

低料金で参加できるイベントを開催し交流のきっかけをつくる。

只見線を活用した交流イベントを実施し絆づくりを行う。

大熊町ママ隊の方々も参加してのポーセラーツ講座を開催

只見線 トロッコ列車風っこ号で
金山町ごっつおまつりへ参加

○子育て世代・高齢者支援

ママカフェ、ママ育の場として活用します。

ママたちが気兼ねなく立ち寄れる飲食店が欲しいとの要望から飲食スペース運営オーナーと協力し運営します。健康で衛生的に暮らすため、また近隣の高齢者または家族とのコミュニケーションツールとして家庭で簡単にできる衛生ケアの方法や技術を専門家から学びます。

人気のベビーマッサージ教室

アロマ教室

■創業支援としての活用

○会津地区での創業相談、関係機関への橋渡しなど

○「ワンデーシェフ・ワンデーカフェ・トワイライトシェフ」

チャレンジ形式を用い、飲食事業にトライしたい人を募集し、実践を通し
やりがいをみつけ、開業の手ごたえを掴んでいただくお手伝いをします。

「大熊と会津の懸け橋になりたい」と話す前田さん

ふくしまの明日を見つめて

紡ぐ未来

大熊と会津 懸け橋に

心の隙間埋める店目標

前田真理子さん 29

（カフェワンズホーム）

「大熊と会津の懸け橋になりたい」。東京電力福島第1原発事故で大熊町から会津若松市に避難している前田真理子さん(29)は4月、同市に焼きたてピザと地元野菜料理を振る舞うカフェ「ワンズホーム」を開店させた。

震災前はいわき市のイタリア料理店などで働き、独立を目指して料理の腕を磨いていた。「近所の人が集まれるカフェを経営したい」と決意し、念願の店を開いた。

「震災で帰る場所をなくして心に穴が空いたようだ」と、避難生活を送りながら感じている。同じような思いを抱く大熊町民の心の隙間を埋められる店にするのが目標。同時に、「地元の人が楽しめる料理を提供していきたい」とも意気込む。お薦めは地元野菜を使った季節のピザ。800円の日替わりランチもある。

場所は会津若松市馬場町の交流ステーションコミュニティ結．com1階。営業は午前11時～午後6時。休みは日曜、祝日。電話は0242(85)8444へ。

大熊町出身の女性がピザカフェを開業

大熊町デーサービスセンターのお花見に協力

会津ならでは「日本酒」を媒介にした交流を目的に始まった『酒カフェ』

会津山都そば協会と連携し、松長近隣公園仮設住宅で振る舞った。

翌年は、御礼にバスで山都そばまつりに参加

■住民参加のまちづくり支援と担い手の発掘

○まちづくりに関心ある人の交流サロン

「まちづくりは人づくり」をキーワードに、地域に住む人々が世代を超えてまちづくりを語れるスペースの提供をします。

また、地域に住み、会津若松市のまちづくりについて学びたい、会津若松に一躍を担いたい方との情報交換・交流拠点とします。

○ボランティアの拠り所

自分ができることを地域のために生かせるよう、ＮＰＯと協力しボランティア登録ができる窓口となり、ボランティア情報の提供発信のお手伝いをします。

○市内空き店舗等の情報提供

まちづくり会社ならでの情報等を希望者に提供いたします。

また、各種補助制度などなどの活用についての相談もお受けします。

心のケアセンター様とのコラボ事業（お茶飲み会・民話の会）

ヨガ講座・ダンボールでさき織り講座は大人気

平成 27 年 7 月 大熊町の方が実行委員となり
大流しそうめんを実施

心のケアセンターの活動に寄せて

大熊町役場　健康介護課
課長補佐兼統括保健師　武内　由美子

〈はじめに〉

平成23年３月11日に発生した東日本大震災と原子力災害から５年目に入りましたが、大熊町は現在も全町避難の状態が継続しています。

大熊町では、長期化する避難生活が住民の身体的健康だけでなく心の健康に及ぼす影響も大きいと考え、平成24年度から昨年度までの３年間、国立看護大学等関係機関の協力を得て「こころのアンケート」を実施しました。内容は、K6調査票等を使用し震災前後の生活の変化や心の状態、それに影響をあたえる要因等を調査し、住民の状態把握とそれに基づく保健事業を実施してきました。

〈こころのアンケート結果〉

平成24年度の調査結果では、震災や原子力災害による精神的打撃や地縁や血縁、コミュニティの分断など、深刻な多くのストレスにより、心の健康度が低くなっていました。

平成25年度の調査結果は、平成24年度よりさらに心の健康度は悪化傾向にあり、ストレスの原因としては「生活の変化」「災害や原発事故」「家族や友人と離れたこと」「自宅に戻れないこと」「仕事・役割の喪失」「生きがいの喪失」と回答している人が多数をしめました。

平成26年度の結果は、心境の変化については、先が見えず不安な気持ちを抱えている人が多い状況は前２年の結果と同様でしたが、「自分の置かれている立場を受け入れ、前向きな生活を心がけている」と言う心境変化も見られました。また、震災直後の混乱した状況から、大分落ち着き、生活再建に向け少しずつ新たな一歩を踏み出し始めている住民がいる一方で、諸事情から取り残されていると感じ、抑うつ傾向になっている住民も顕在化してきました。

この結果から、表面的には落ち着いてきているように見えますが、潜在化していた心の問題が表面化し、ますます心のケアの重要性が高まっていることが明らかになりました。

〈心のケアセンターと共に〉

町保健師だけではマンパワーが足りなく、心のケアセンター会津方部が発足された当初から協力を依頼し、より専門性を生かした対応を担っていただきました。

アンケートから見えてきた様々な問題を心のケアセンターのスタッフの方と共有し、ハイリスク者への同行訪問や「心の元気を育てる講座」や健康相談開催時には、専門性を生かした心の健康に関するワンポイントアドバイスなどを担当していただ

いています。

また、住民だけではなく町職員を対象に支援者支援の一環として、週１回お昼休みの休憩時間を利用して「ぐっちカフェ」を開催していただき、ハーブティ等のちょっとした飲み物を頂きながら、自席を離れ気分転換を兼ね「ほっ」とする癒しの場を提供していただいています。

住民や職員の心が折れそうなときに「そうだね」と相槌をうってくれる人がそばにいることの心地良さと安心感与えてくださっています。

〈おわりに〉

住む場所が変わるたびに、新たな不安を抱えてきています。公営住宅に移ったある高齢者は「家を建てるには、歳をとり過ぎている。跡を継ぐ人もいないし、…」「ここが終の棲家かと思うとやりきれない」「歳をとるということはこういうことなのか」「子供に面倒はかけられない…」「何を生きがいにしていけば良いのか」となんともやり切れない言葉を耳にします。

子供から高齢者までライフサイクルによって心の問題は異なりますが、心のケアセンターには様々な専門職の方がいますので、その専門性を生かし避難者に寄り添った支援を今後も継続していただきたいと願っています。

ハローワーク相双・トータルサポーターの窓口から

ハローワーク相双
精神障害者雇用トータルサポーター　小林　文子

エリクソンによると、青年期に獲得するべき発達課題は「労働」と「愛」。そう学んでから、随分時が流れた。こんなところから書き起こしたのは、私の窓口を訪れる方々はそのどちらにも困難を感じ、生きづらさ、生活しにくさを抱えているからである。

対人関係が苦手。仕事がなかなか覚えられない。他人はもとより自分さえ愛せない。理解してもらえない。居場所がない。表現こそ違うけれど…淋しいと…。彼らのしんどさに付き合い、耳を傾けていると、差別や偏見や理解のなさに苦しむ彼らにとって「働く」ということは『あたりまえの一人の人間として認められること』であり『社会に関わっている自分に安心できること』なのかもしれないと思えてくる。

平成 25 年 4 月 1 日から障害者雇用率制度が改正され、民間企業（従業員 50 名以上）では従来の 1.8％から 2.0％に、国や地方公共団体等は、2.1％から 2.3％へと変わった。さらに平成 30 年からは精神障害のある人も法定雇用率に算定基礎に加えるよう改定された。これは精神障害のある人の雇用の義務化ということになる。こういった国の法改正を受けて、都道府県労働局に、精神障害者および、発達障害者（以下精神障害者等という）の求職者に対して、「精神障害者雇用トータルサポーター」を専門家に委嘱し、就労支援を行うこととする。という制度ができた。

いかなるご縁か、私がトータルサポーターを委嘱されることになったのは同平成 25 年の 9 月のことだった。初年度の勤務は週 1 日であったが、平成 27 年 4 月から週 3 日となって現在に至っている。3.11 以降、原発被災や廃炉問題が重くのしかかる当地は、今後も精神疾患が増えるあるいは残り続けるだろうという配慮もあるのだろうか。県内でも手厚い配置である。

仕事を始めた当時は窓口の利用者はすでに障害者手帳をお持ちの方が多かった。3.11 で増えたと思われる特に母子家庭の母や生活保護受給者、困窮者の方の病気や障害、後遺症の問題で、ハローワークの就職支援ナビゲーターや障害担当者と連携させていただくも多くなった。トータルサポーターの存在が周知されるにつれて、忙しすぎ、働きすぎて心も身体も病んでしまった方、PTSD が疑われる方、転職を繰り返す方、自宅に引きこもっていた方など、窓口に来る方の抱える問題は多様化しつつ、相談件数も増えてきている。しかし、障害手帳を持っていないと、現在の制度では就労雇用率にカウントされず、使えるサービスも少ない、あるいは、ないという現状がある。

全てがマニュアルなどのない個別対応であり、「働く」「今は休む」の決定から徹底して自己決定を促し、支える関わりとなる。自分が今後どうしたいのか。どんな

職業が好きなのか。病気や障害をどうとらえているのか。自分でどうコントロールするのかなどなど話し合いを重ねる。時には対人緊張が強く、人間関係を作りにくい彼らとともに、職場見学に行き、面接に同行し、専業主様や人事部長さんへ、その病の特徴や、その方にとっての病状の現れ方を、具体的に説明する。指示の出し方やフォローのしかたなども提案する。就労後、定着支援も行えると話すと安心して就労につながる場合もある。

しかし、私のできるのはごくわずかでしかない。週３日間、一人での支援には限界がある。そして私の仕事はハローワーク内はもちろん他の支援機関へつなげることであり、より良い協働体制を作り上げることでもある。福祉分野では、相双地域障害者総合支援センターの就労支援担当者や生活支援担当者、ジョブコーチの方々にはいつもお世話になっている。ご近所さんなので、顔の見える密な連携が可能だ。

自治体や県の障害担当者や保健センターの保健師の方にもお願いしたいことのあるケースが増えた。雇用推進委員会の職場実習も、積極的に使わせていただいている。

私の配属前ハローワークでは敷居が高かったという医療だが、少しずつ主治医の先生方、ケースワーカーさん、デイケアの作業療法士さん、訪問看護師さんと、情報交換や、ご意見をいただけるようになり、少ないながら勉強会やカンファレンスも開催しており、今後も継続させていただきたいと思っている。そのことが定着率を上げているなら、医療との連携はなくてはならないものだと考える。

そして、こころのケアセンターなごみである。より専門的なカウンセリングが必要と思われるケースの紹介や、自宅に訪問支援に入ってほしいケース、危機対応はアウトリーチでとあらゆる場面に柔軟に対応いただいている。困難ケースに立ちすくむ私のケアまでしていただいている気がしている。

ひとつひとつのケースに対応しているうちに、素敵な方々とたくさん知り合えた。就労を果たし、働いている方も週５日８時間のフルタイムから週３日半日、週５日半日、一日３時間、など多彩な働き方をし、３ヶ月以上継続している人が増えた。定着支援に出向いて行ったり、来ていただいたりして、逆に私が励まされる。彼らにとってまわりに受け入れられ、理解してもらえる状況の中では病気や障害はもはや個性になりつつある。

制度の矛盾や、不備やこの地域の抱える問題にもより具体的な形で気づくことができた。人手を求める社長さんたちの悲鳴も、すぐそばの窓口から漏れてくる。嘆くのはたやすいが、今後も皆さんとともに就労支援者の一人として小さな歩みを進めたいと願う。

それでも…現実は厳しい。

人手不足のこの地域だからこそ、みんなで可能性のある若者を育てましょうよ。即、戦力にはならないけれど。

半年単位で成長を見守り、３年くらいかけるつもりで「いっちょまえ（一人前）」にしてくれるそんな太っ腹の社長さん、役員さん、親方さんいませんか？　老後の面倒だって見てくれるかもしれませんよ。

つぶやいてみたいこの頃である。

ふくしま心のケアセンター活動報告によせて

新地町　健康福祉課
保健師　畠山　美雪

平成23年3月に発生した東日本大震災から4年目を迎え、新地町も8カ所ある仮設住宅のうち、震災後1年時は町内外から470世帯・1439名の方が入居していましたが、27年9月の入居者は112世帯・350名となっており、それぞれ新しい生活をスタートさせた方がたくさんいる状況です。

現在、仮設住宅に入居している方は、約7割が町外から避難された方であり、今後の見通しがまだ決まらず、不安を抱えている現状です。

ふくしま心のケアセンターとの活動

震災直後、相馬地域にはメンタルクリニックがなくなり診察を受けていた方は途方にくれた時期もありましたが、徐々に再開され、さらに、今まで精神科医師がいなかった相馬市に、平成24年1月に「メンタルクリニックなごみ」が開設されました。日々の活動の中で精神科を受診して欲しいケースにも、近くにクリニックがあるからと受診勧奨しやすくなりました。

さらに、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」の開設により、仮設住宅でのサロン活動「ちょっとここで一息の会」が開催され、被災された方に寄り添い心身両面から支援を行い、現在も仮設入居者の減少により回数は少なくなりましたが、継続して実施しています。

また、訪問ケースの情報共有を目的に、関係機関（こころのケアセンターなごみ・サポートセンター・町保健師）による情報交換会を開催しています。

アウトリーチ事業で精神科の専門スタッフによる訪問が始まり、継続的に支援が入ることは、町保健師としても非常に心強く思っているところです。

困難ケースには事例検討会なども実施し今後の方向性をスタッフ間で共有しています。

心のケアセンターに期待すること

東日本大震災から4年以上が過ぎ、多くの方は新たな一歩を踏み出した様に感じます。しかし、住民が抱える問題はより一層複雑化してきているようにも感じています。

これらに対応するためにも、専門スタッフがいる「心のケアセンター」の存在は、とても重要であり、今後とも息の長い支援活動に期待しています。

ふくしま心のケアセンターとともに歩む被災者健康支援

福島県相双保健福祉事務所いわき出張所
所長　菊地　とも子

１．はじめに

私は、平成 25 年４月に相双保健福祉事務所いわき出張所に着任してから３年目を迎えましたが、「被災者健康支援」という共通の目的を掲げて心のケアセンターいわき方部センター（以下、方部センターという。）と歩んできた現在に至るまでの状況を振り返るとともに、これからの心のケアセンターに期待することなどについてまとめました。

２．心のケアセンターいわき方部センターとの歩み

当所は、平成 24 年６月にいわき地域に避難されている南相馬市及び双葉郡町村等被災者への健康支援のため開設された事務所です。方部センターは、平成 24 年４月に開設されましたので、当所とほぼ同時の開設でした。新設事務所同士、助け合いながらともに歩んできた感じが非常にあります。

(1) 同じ事務室内に席を置き、業務も一体となって連携していた時期

私が着任する以前の平成 24 年６月末までは当所内に方部センター職員も席を置き、当所職員とともに訪問活動等を行っていました。同年７月から方部センターは新たに事務所を当所のすぐ近くに構えましたが、連携した取組が多く、平成 25 年３月末までは当所で実施している朝のミーティングにも毎日出席されていました。

(2) それぞれの事務所の役割を明確化し、連携はより深く

平成 25 年度に私が着任してから、まず連携のあり方として考えたのは、一体的な活動の段階から、次の段階に移行していく時期なのではないか。当所と方部センターが、まずはそれぞれの事務所の組織目標や組織の役割に沿って取組の強化を行い、さらに打合せは密にし、双方の役割や連携すべき取組を整理し、重複なく、しかし漏れのないように効果的に連携を図り、組織目標達成を目指したいということでした。

目指す連携の方向性を踏まえ、平成 25 年度からは定期及び随時の打合せを行い、当所は「健康支援」を中心に、方部センターは「健康支援の中でもメンタル支援」を中心に、双方で対応した方が効果的な取組は連携して、というように整理しながら対応してきました。

平成 24 年度に同じ事務所で毎日一体的に活動し、互いの取組を理解、協力し合った（互いのと言いながら、当所への事業協力をいただいた業務量の方が大きかったと思います。）時期を経たからこそ、平成 25 年度に双方の役割や連携すべき事業の整理が容易にできたのではないかと思います。

(3) いわき地域に定着した方部センターの業務、役割

方部センターは、当初、市町村からの依頼を当所を経由して受けていましたが、平成 25 年度からは市町村が直接方部センターに依頼・相談する体制に整理するとともに、避難元市町村だけでなく、避難先であるいわき市への支援等も拡充していきました。

方部センターは「どんな支援をしてくれるところ？」という PR から始まり、業務拡充の状況や調整の御苦労を身近に見てきたからこそ、地域に必要な機関として定着したことを非常に嬉しく思っています。

(4) いわき出張所と方部センターとの業務以外での親睦

余談ですが、方部センターとは、事務所が別々となってからも業務以外でも懇親の機会を設け、歓迎会、忘年会、送別会を合同で開催したり、職員が協力しあい、鍋パーティーを開いたりして懇親や連携を深めてきました。

平成 26 年度末に他県から応援いただいていた方部センター職員が大勢退職され、自分の県へ戻って行ったのは非常に寂しいかぎりでしたが、今年度に入り、新たに地元で採用された職員が加わり安堵しています。

３．心のケアセンターに期待すること

南相馬市及び双葉８町村からいわき地域へ約２万４千名が避難している状況下において、アルコール問題等避難者の健康課題を含む諸々の問題は深刻であり、また、避難者と地域住民との軋轢などにより心を痛めている住民もおり、その方々に対する心のケアに関する支援は非常に重要であると考えています。また、生活の再建はできても心の再建は追いついていない等による顕在化していないニーズや健康課題も多いのではないかと懸念しています。

このようなニーズや課題に対応し、方部センターへの市町村等関係機関や住民からの依頼や期待は増加するものと考えます。マンパワーと業務量の調整や優先順位を整理しながら、方部センターの職員の皆様自身の心身の健康も大事にして、これからも続く支援活動に当たっていただきたいと思います。また、被災者健康支援は、心と身体と生活という多軸の観点からの支援が必要と思いますので、引き続き、当所、市町村等関係機関とともに、連携してチームでアプローチしていきましょう。

平成27年３月の方部センターといわき出張所との送別会

心のケアセンターの活動記録誌に寄せて

ＮＰＯ法人シェルパ
居宅サービス担当　古市　貴之

私がふくしま心のケアセンターの皆さんと初めてお会いしたのは平成24年の４月であった。双葉郡出身であり、その地域の生活支援センターに勤め、震災後はいわき市にある母体の法人内で双葉郡から避難されてきた方達の支援を行っていた当時の私は、その４月から県事業の相談支援を担当することになり、避難生活をされている障がいのある方への訪問や必要な情報の提供を行っていた。当時は震災からちょうど１年の時期が過ぎていたが、住民の広域避難、地域性の喪失等による行政・支援者間の混乱も未だ続いており、当事者の避難生活の実態のさらなる把握の必要性が高い時期であったと思う。それから３年以上が経ち、地域のニーズも求められているサポートの形も変わってきている。心のケアセンターの皆さんは、被災地が経過する時間の中で「今やっておかなければならないことは何か」を多様な場面でその都度検討し、専門性を持ってその活動の必要性を示してくださったと思う。私自身も、多くの学ぶ機会を得て支援者支援という面だけでなく、一人の人間として寄り添っていただいていたのかもしれない。すべての人たちそれぞれの居場所づくりの必要性をこの時期強く感じたことは、今の私自身の活動の根っこになっていると思う。

震災後の生活でより強く感じるようになっていた「居場所」の大事さ。人が生きづらさを感じる時、孤立感・疎外感・自己を卑下する思いを内に生じさせてしまう背景・要因があると思う。絶望を感じるほどであれば、この世に自分の生きている意味などないと思い詰めるだろう。その状態にあることは不幸だ。共に考え、それでいいんだよと寄り添ってくれて、時々背中を押してくれる存在。そばにいてくれるだけでも良いかもしれない。そんな心穏やかに時間を共有できる場所や仲間の中にいることを少しでも実感できるのなら人は誰しも様々な壁を乗り越えて行けるのではないだろうか。自らの生き方を自ら選択できるのではないか。大きな流れの中で埋没しやすい小さな声。先行きが見えない不安の中で交錯する多様な思惑。子育てへの不安、食物への不安、体制への不満。しかしそれを口にして不安を訴えることは、この土地で生活をしていくと決めた者にとって多くのストレスを生み出しかねない実情がある。依然として特殊な環境ではあるけれども、用意された型にはまってもらうのではなく、一人ひとりの大きさに向かい合える「よりそい」の形がこの地域で今求められていると思う。その「よりそい」や地域生活支援が大きな花を咲かせられるようにいろいろな配慮を持って畑を耕してくれているのが心のケアセンターさんではないだろうか。そこから種を巻き育てるのは地元の人間の役割だと思う。思いだけではなく、専門性も肉付けされた「よりそい」を自分も目指したい。「震災を契機にこの地域の課題が明らかになり、地域の復興と同じくして地域福祉もさらに発展していった」近い将来、胸を張ってそう言えるように頑張っていきたい。

８　職員の感想
（振り返って思うこと）

職員の感想（振り返って思うこと）

＊基幹センター ＊

相山　未希子（事務：総務財務課長）

立ち上げから日の浅い組織に往々にしてある、どことなく落ち着かない空気が漂ったままの年度初め。

その年から立ち上がったアルコールプロジェクトと研修部門はエンジン全開だった。

それに連動するかのように私にとって初めての仕事が舞い込み、決算もまだまだ終わらない中、初年度とは種類の違う戸惑いと焦りの連続だったのをよく覚えている。

それぞれの方部の活動も活発になり、新たな一歩に向けて移転を始め、センター全体として2013年度末から半年間のあいだに４拠点が移転した頃だった。

この時の移転を何とか進められたのは、基幹と方部の相互の協力と、何より当時の事務担当二人の奮闘があったからだと思う。

話を私の事に戻すと、一人の専門員と様々な活動を共にしたことを思い出す。

その専門員は、「事務員だから」という区別をすることなく、一緒に活動している仲間として意見を交換したり、知識を与えてくれたりもした。

冒頭の研修部門長も同様だったことも相まって、それまで目を向ける余裕の無かった、専門員の方がこれまでに得て来た教育や知識、経験について考えるようになった。

もっと色んな事を知り、理解し、その上で事務方として何ができるのか。それ以来、以前にも増してそう考えながら日々の業務にあたっている。

私がケアセンター職員となって丸２年が経過した2014年度。

多くの戸惑いと焦りは新しい事柄の習得につながり、落ち着かない環境の中にも光を見いだすことのできた一年だったと思う。

高橋　悦男

4年間、何とか仕事をやってこられたのは、昼田所長のおかげです。それと発足当初から一緒に仕事をしている相山さんです。このお二人には感謝の気持ちでいっぱいです。

2011年度2012年度責任者として礎をつくった自負を持っています。

これからの当センターを考えると、副所長（総務担当）を中心に活動した方がベストだと思います。将来、所長が誰になるかわかりませんが、福島県で長く活動している精神科医が見つかればと思います。

＊県北方部センター ＊

活動を振り返って

二階堂　紀子（看護師）

平成26年度から県北方部センターで活動させて頂いています。

まず思ったことは、復興というゴールにたどり着くまでには様々な、そして被災者の多様な問題が多くあり一筋縄ではいかないのでは、ということでした。支援者の私がそう思うのであれば、被災者が抱える「先の見えない不安」はどれほど大きな問題として心に重くのしかかっているのだろう、と切なく感じます。

例えば、ふるさとを思って前に進めなかったり、家族関係の変化・環境の変化で新たなストレスを感じたり、生活スタイルが変わり体調を崩したりと数えあげればキリがないはずです。そんな中でも、少しでも前を向いて明るく生活しよう、苦しい思いは胸に納めて生活しようと思っている方は多いです。活動していて話を聞かせて頂いていると、普段は言えない思いがとめどなく出てきます。このような過酷な状況の中、支援者の私たちが出来ることは、本当に小さなことかもしれないけど、困っている方、どうして良いかわからない方、不安に押しつぶされそうな方が、笑顔になれる時間が少しずつでも増えるよう、目の前にある問題をひとつひとつ一緒に考え一歩一歩進んで行けるよう、その方にあった方法を検討しながら支援を続けていきたいです。そして、みなさまが健康で前向きに生活できるよう、願ってやみません。

＊県中方部センター ＊

感　想

岩沢　裕樹（臨床心理士）

当センターの名称にも含まれている『心のケア』。この言葉はとても平易な言葉であると同時に、とても難解な言葉でもあると感じています。平成26年度、当センターが活動を始め、３年が経過しました。その中で常に「心のケアとは何か」を考え続けてきましたが、わたしなりの解釈として心のケアとは『エンパワメント』であると考えています。

被災された方々は、確かにいま現在は困難な中で生活をしているために支援が必要な状態にあるかもしれません。ですがそれは、その方々が弱い人、できない人なのではなく、もともと持っている力やリソースを十分に発揮できていないだけなのです。つまり、その方々が自律的にご自身のもっている力を発揮できるようにお手伝いをしていくこと、それこそが『心のケア』の本懐であると考えています。

長期的な視点に立ち、その方々がレジリエントかつ自律的・自立的に生きていけるようになるための支援。それをこれからも心がけていきたいと思います。

菅野　寿洋（作業療法士）

私は、作業療法士として精神科領域を専門に働いていました。

ふくしま心のケアセンターでの支援活動を行う中で、作業療法士ができる事、経験を活かす事について、葛藤を持ちながら支援活動を行っていました。リハビリテーション専門職としての基本に立ち返り、リハビリテーションという言葉の意味について考えました。

「リハビリテーション」の語源はラテン語で、re（再び）+ habilis（適した）、「再び適した状態になること」、「本来あるべき状態への回復」などの意味を持ちます。

東日本大震災及び東京電力福島原子力発電所の事故によって、被災された方、避難された方々が、本来の生活に近づくための援助を行うことが、リハビリテーション専門職に与えられた役割であると思います。

サロン活動や訪問支援の中で、故郷への思いを大切にしながら新しい生活を送っている方々、故郷での生活を再開されている方々、それぞれの状況に応じた関わりを今後も継続していくことが大切であると思います。

＊県南方部センター ＊

職員の感想（振り返って思うこと）

服部　徳子（保健師）

平成26年4月より県南地域の中で活動を行い、１年。そして今…。平成27年４月に県南方部が県中方部と統合となった。「県中県南方部」の一員として、諸先輩方、同僚の皆さんのお力を頂きつつ歩みだしている。しかし、県南方部に在籍していた職員２名が退職となり、当時の活動を知る職員が２名となり、数少ない職員の１人となってしまった。県南方部としての事務所単独設置の最後の職員として、活動についての感想をここに記していきたい。

事務所が置かれた白河市は、東日本大震災で震度６強の揺れを体験し、地域が大きな被害を受けた。観光名所も被害を受け、市内の山では地滑りにより、尊い命が奪われた悲しい出来事もあった。白河市以外の県南地域でも多くの地震被害があったことは知られている。そして放射能による健康被害への不安、風評被害で不安を感じている方も多い。地域のハード面は復興の姿が表れてきているが、心の復興にはまだまだ課題が残されているのが目に見えた。

私達はこれらの背景から、県南地域全体が間違いなく「被災地」であると受け止め、相双地域から避難された皆様の支援と共に、県南地域の住民の皆様への支援を行っていった。平成26年度は臨床心理士が県南方部に在籍しておらず、精神保健福祉士、作業療法士、保健師の３職種が力を合わせて、心と身体のケアを行っていった。

１年を振り返ると、県南方部の活動におけるキーワードは「逢」と「変」が浮かぶ。温かく優しさあふれる支援者の皆様と出逢った。お互いが心地よいと思える関係づくりができたことは、職員にとっての喜びであり「宝物」であった。それは、県南方部設置当初から従事されていた、諸先輩方の活動があったからこそ、良好な関係づくりができたと私は思っている。方部の事務所の扉を開けば、そこには話を聞いてくれる職員がいる。「事務所に来てみたよ」「今日はこんなことで困っています」「あら？どうされたの？」「これってどうなんだい？」そんなやり取りが、今では懐かしく感じる。

さらには、地域で出逢った住民の皆様から、数多くの気づきや学びの機会を頂いた。サロン活動や個別訪問による支援は勿論であるが、個別支援については、うつ病や発達障害など疾患の診断までには至らず、障害者総合支援法等の支援に該当しないため、地域の既存の支援の利用が厳しく、本来は必要な支援があるはずが支援を受ける事ができない方や、家族間の課題を抱える方もおり、支援の場を持った。法に基づいた支援の該当とならない方の、地域での「生きにくさ」を垣間見ることとなった。

これらの活動はまさに「地域保健活動」の原点を見ているかのようであった。県南地域での支援活動の場において、大きな特徴となったことは言うまでもない。支援者として、原点に戻りつつの活動を行う１年となり「出逢いが大事」であることを強く実感した。地域の課題を住民の皆様、支援者の皆様から教えて頂くことが多かった。

県南方部の支援は地域密着型の支援であったことは間違いない。それだけに突然の方部の統合は、残念な気持ちでいっぱいとなった。県南地域に事務所を構えているからこそ、可能な支援が存在した。それをどうするか？職員も動揺が隠せなかった。この地域から職員が離れることで「心の距離感」「支援の距離感」ができてしまうのではないか…と。地域の住民の皆様から「今度遠くなるね」とのお声や、支援者の皆様より「何故今、離れるのか。県南の現場の現実を見ているのか」「非常にやりにくい」「寂しくなる」という、厳しくもあり、温かみのあるお言葉を頂いたことは忘れない。

これからこの県中県南方部の職員としてできることは、県南地域を離れることによる「支援への距離感」を作らないことだと感じている。県南地域へ出向く時「おお～来たね～良かった～」と言って下さる住民の皆様、支援者の皆様のお言葉に感謝の思いでいっぱいになる。

こうして歩み始めている県中地域においても同様に、支援者の皆様や住民の皆様と「新たな出逢い」があると思う。その中で「つながりづくり」を行い「今から。ここから」で、地域と共に具体的に動いていきたいと考えている。

＊会津方部センター ＊

内川　礼子（看護師）

「震災・復興・心のケア」何もわからないまま未知の世界に身を投じ、あっという間の1年でした。
ほっと寛げる場の提供という取り組みを通し、住民や支援者が笑顔になると
ほんの一時のことかもしれませんが良かった～と感じ、「なんかほっとする」
「また話に来ますね」の一言に励まされた日々でもありました。
今後も、多職種協働・他機関との連携を図り、被災された方の生活の安定の一助となるべく、ニーズは何か・できることは何かを見極め、活動していこうと思います。

＊相馬方部センター ＊

河村　木綿子（看護師）

26年度から心のケアセンター相馬方部スタッフとして活動を開始しました。特に、アルコールプロジェクトの一員となった事で得たものが大きかったように思います。毎月の会議、研修会の企画運営は、これまで経験したことのない仕事でしたが、組織の一員としての責任を感じるとともに、直接的ではなくとも地域住民の力になっていく活動だと実感することができました。また、自分自身、アルコール関連問題に向き合い、多角的に地域を診るということを学ぶことができたことは看護師としての自身の成長にもつながったと感じています。

伏見　香代（保健師）

今年度は、南相馬事務所が開設し、新たな活動が始まりました。南相馬地域は、沿岸から市内へ避難している方、小高区や双葉郡から避難してきた方、県内外の避難から帰ってきた方、避難せずこの地で住み続けている方と様々な事情を抱えた方がいらっしゃいます。子どもから高齢者まで、多くの課題と共に暮らしているのが現状です。震災直後の混乱を思わせる現状に途方に暮れそうでしたが、スタッフと地域の関係機関の暖かいご協力で、何とか一年過ごすことが出来ました。南相馬地域の回復と復興は、まだまだ時間を要します。原子力発電所事故は、電気を使うすべての人にとっての課題です。全国の方々にも、南相馬に関心を寄せ続けて欲しいと願っています。

＊加須市駐在 ＊

職員感想

渡邊　正道（いわき方部センター・精神保健福祉士）

活動の終了が決まっており、ご負担をおかけしたり加須市駐在の使い方がなかなか難しい状況だったと感じております。そのような中、県民の皆様、双葉町役場や社会福祉協議会の職員の皆様、関係機関の皆様のご対応のおかげで活動が出来、3年間の活動を通しても連携があってこその加須市駐在でした。

心のケアとして何か出来たことはほとんどありませんが、県民の皆様、職員の皆様との「一緒に何かを考える時間」はお互いの支え合いにつながった時間であったかなと感じています。

末筆ではありますが、３年間加須市駐在として活動をさせて頂き、ありがとうございました。

＊退職者 ＊

福島県被災者支援活動報告会から

谷口　博己（旭川荘・社会福祉士）
（いわき方部センター）

旭川荘から福島県に派遣され、被災地支援活動に従事した職員による活動報告会が７月27日に開催されました。

旭川荘では平成24年度から３年間、「ふくしま心のケアセンター」に社会福祉士等を派遣。1年目は埼玉県加須市で主に福島県双葉町からの避難住民の安否確認を行い、２年目は福島県会津若松市で仮設住宅でのサロン活動等に従事。昨年度は福島県いわき市における医療・福祉ネットワークの構築等を行い、一定の役割を果たしました。また今年度は人手不足が深刻な「南相馬市立総合病院」に療育・医療センターの看護師を派遣しています。

報告会では、まず昨年度にふくしま心のケアセンター「いわき方部センター」へ１年間派遣されたいんべ通園センターの谷口博己さんが、参加した末光茂理事長、仁木壯副理事長をはじめ職員有志約20名に対して、現地の状況や担当した業務についての報告を行いました。

谷口さんの報告要旨

「心のケアセンターは、近隣自治体からの避難住民および従来からのいわき市民を対象として、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーのチームアプローチによる心のケアを行っています。

いわき市には、大熊町や双葉町など福島第一原発の周辺自治体の役場機能とともに住民約２万４千名が避難してきており、複雑な環境にあります。そのような中では、社会福祉士として個別ケースへの専門的な対応だけでなく、それを越えた「何

いわき市での活動について報告する谷口さん

でも屋」として動くことも必要であり、それが関係自治体との連携を強めることにもつながりました。自分も障害者などの個別ケースを担当しながら、ときには自治体の担当者間の調整役となり、あるいは医療機関や福祉施設の連携が不十分な状況を改善しようと、これらの施設を訪問してネットワークを構築するなど、幅広く業務を行いました。

今後もネットワークのさらなる充実が求められますが、現地の職員たちがしっかりと引き継いでくださると信じています。

また、今年４月初めから６月末まで南相馬市立総合病院に派遣された療育・医療センターの安原雅江さんも登壇し、内科病棟での業務を報告（詳細は旭川荘だより第203号でお伝えしています）。被災地の応援に行ったつもりが逆に温かく迎えていただき、最後には院長から「感謝状」を贈呈されたエピソードを紹介しました。

参加者からは、今後も心のケアセンターとの連絡を継続してニーズを把握したい、あるいは岡山に避難してきた方々に対する支援活動にも参加するなど、可能な形で被災者支援を継続したいという意見が出されました。

なお、南相馬市立総合病院には、７月初めから９月末まで療育・医療センターの今城京子さんが派遣されており、内科病棟の業務を引き継いで活動しています。」

（旭川荘だより206号2015年９月１日発行から）

（2013年度の所属部署、退職者～アイウエオ順）

９　活動資料

活動資料

関係職員の教育研修

※再掲

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	実施日	会場	対象者	実施回数	受講者数
1	基幹センター	福島県県南保健福祉事務所	自殺対策研修会	宮原俊也	8月7日	県南保健福祉事務所	市町村職員、生活支援相談員		
2		福島県総務部市町村行政課	メンタルヘルス研修（ふくしま心のケアセンターの事業概要）	内山清一	7月23日	ロイヤルホテル丸屋	被災市町村派遣職員、市町村採用任期付職員		31
3					7月30日	いわきワシントンホテル椿山荘			37
4					9月24日	ホテルハマツ			38
5		福島県県北保健福祉事務所	家庭訪問における面接技術のスキルアップ	内山清一	8月5日	県北保健福祉事務所	家庭訪問を担当する訪問員		16
6		楢葉町	アルコール多量飲酒者への対応―減酒の考え方―	宮原俊也	9月12日	会津美里宮里仮設住宅内グループホーム	会津保健福祉事務所、社会福祉協議会等		15
7		福島県県北保健福祉事務所	ふくしま心のケアセンターについて	内山清一	9月8日	県北保健福祉事務所	保健医療福祉関係者実習生		20
8		兵庫県こころのケアセンター	中長期の災害精神保健活動に関する意見交換会	渡部育子 松島輝明	1月28日	兵庫県こころのケアセンター	関係者		14
9		楢葉町	楽しく、人と酒と上手に付き合う方法	植田由紀子 宮原俊也	3月3日	サポートセンター「空の家」	民生児童委員、食生活改善推進員等		20
10	県北方部センター	福島県消防学校	消防職員初任教育講義（ストレスについて）	羽田雄祐 杉本裕子	5月8日	福島県消防学校	新採用職員	1	90
11		神奈川若手会「第2回交流会」	目の前にある利用者の為、震災の視点から考える「福島の今、そしてこれから」	塩田義人 松島輝明	11月22日	横浜メンタルネットサービスネットワーク研修室	20歳代を限定とした精神保健福祉、社会福祉分野に従事する者等		14
12		福島県消防学校	消防職員初任教育講義（ストレスについて）	羽田雄祐	10月31日	福島県消防学校	新採用職員	1	46
13	県中方部センター	須賀川市	相談の実際と実技	後藤弓子 安藤純子	2月9日	長沼保健センター	民生児童委員	1	20
14					2月16日	大東公民館		1	31
15				後藤弓子	2月19日	岩瀬農村環境改善センター		1	15
16		三春町	三春町ゲートキーパー養成研修会	相良サク子	2月19日	三春町交流館まほら	民生委員	1	51
17		ふくしま心のケアセンター	自殺対策に関する研修と情報交換	神澤創先生	2月24日	県中方部センター	心のケアセンター職員及び市町村職員	1	8
18		ふくしま心のケアセンター	県中方部方部内研修会	飯尾弥生先生	3月24日	県中方部センター	県中方部センター職員、いわき方部1名	1	13
19	県南方部センター	塙町社会福祉協議会		吉田麻里香	8月5日	塙町営公民館	傾聴ボランティア・ケアマネージャー		

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	実施日	会場	対象者	実施回数	受講者数
20	会津方部センター	楢葉町	アルコール対策研修会「多量飲酒者への対応・支援・事例検討」	助言者:鶴幸一郎氏(みやぎ心のケアセンター)	12月12日	グループホームならは	楢葉町、楢葉町社会福祉協議会、生活支援相談員、会津保健福祉事務所職員他		15
21			アルコール対策研修会「アルコール依存症予備軍への対応・支援・事例検討」		3月13日				15
22		楢葉町	あたまとからだ・ぬくぬく体操	福島県作業療法士会 椎野良隆氏	2月18日	楢葉町美里町出張所	楢葉町職員		
23		楢葉町			2月23日	サポートセンターならは	楢葉町社会福祉協議会職員		
24	相馬方部センター	松村看護専門学校	専門学生3年生への講義	米倉一磨	10月29日	松村看護専門学校	看護学生	1	50
25		日本公衆衛生協会	保健師等ブロック別研修会「長期避難生活における心のケアと支援者支援」での事例報告	米倉一磨	8月27日	コラッセふくしま　4階多目的ホール	保健師等	1	40
26		NPO法人みんなのとなり組	相双地域のアルコール依存症の実際	伏見香代	11月7日	原町生涯学習センター	市民	1	20
27		NPO法人福島子どもとこころと未来を育む会	福島子どもとこころと未来を育むシンポジウム	佐藤里美	11月3日	ビックパレット福島	福島のこどもの支援者	1	51
28		南相馬市健康づくり課	アルコールに関する勉強会	伏見香代	3月2日	原町保健センター	被災地の支援者	1	20
29		NPO法人心の架け橋いわて	被災3団体交流企画ここ・から・なごみ災害復興メンタルヘルス研修会	河村木綿子	11月9日	TKPガーデンシティ仙台ホール	被災者の支援者	1	50
30		南相馬市健康づくり課	アルコールに関する勉強会	伏見香代	3月2日	南相馬市立病院	医療保健従事者	1	20
31	いわき方部センター	宮城県アディクション問題研究会	福島県・いわき市におけるアディクションの現状	真鍋博	4月10日	エルソーラ仙台　28階　大研修室	宮城県でアディクション問題に関わる専門職	1	30
32		東北アルコール関連問題ソーシャルワーカー研修会実行委員会	シンポジウム「震災から4年目を迎えて～それぞれの地域から見えてきたもの」	真鍋博	5月17日・18日	エポカ21(宮城県栗原市)	アルコール問題に関心をもつ精神保健福祉士及び関係者	1	30
33		いわき市平保健福祉地区センター	精神疾患の基礎知識	袰岩弘起 石塚幸作	5月22日	いわき文化センター	いわき市内の介護サービスに関わる専門職員	1	80
34		ちるさぽ☆FUKUSHIMA	ストレスケア講座	石塚幸作 鈴木恵美子 東條仁美	7月4日	いわき市生涯学習プラザ	いわき市内で対人支援に関わる専門職	1	30
35		双葉町	対人援助職向けのストレスに対するセルフケア	袰岩弘起 石塚幸作	7月22日	双葉町役場いわき支所	双葉町役場いわき支所職員	1	5
36		富岡町社会福祉協議会	支援員のスキルアップ研修	袰岩弘起 石塚幸作	8月19日	富岡町社会福祉協議会	富岡町社会福祉協議会生活支援員	1	10
37		双葉町	面接が上手くなる　上手な話の聞き方	袰岩弘起 石塚幸作	8月26日	双葉町役場いわき支所	双葉町役場いわき支所職員	1	6
38		浪江町民生委員協議会	相談手法について	袰岩弘起	10月7日	二本松市岳下住民センター	浪江町民生委員		—
39		いわき市平包括支援センター	精神疾患の基礎知識	袰岩弘起 石塚幸作	10月21日	いわき市保健センター	いわき市内の介護サービスに関わる専門職員	1	30
40		富岡町社会福祉協議会	支援員のスキルアップ研修	袰岩弘起	10月28日	富岡町社会福祉協議会	富岡町社会福祉協議会生活支援員	1	12
41		いわき市保健所	ストレスと上手につきあうために～うつの予防～	真鍋博 谷口博己	11月4日	ハートフルなこそ	ハートフルなこそ施設職員	1	14

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	実施日	会場	対象者	実施回数	受講者数
42	いわき方部センター	福島県相双保健福祉事務所	平成26年度福島県地域保健福祉職員新任研修・フォローアップ研修 「円滑なコミュニケーションを目指して」事例検討	植田由紀子 袰岩弘起	11月20日	いわき合同庁舎	平成26年度福島県地域保健福祉職員新任研修に参加した県職員・市町村職員（いわき市・広野町・楢葉町・双葉町・相双保健福祉事務所いわき出張所）		22
43		けやきの会	認知行動療法について	石塚幸作	11月30日	スペースけやき	精神障害者の家族と当事者		15
44		富岡町社会福祉協議会	支援員のスキルアップ研修	袰岩弘起 石塚幸作	12月15日	富岡町社会福祉協議会	富岡町社会福祉協議会生活支援員	1	10
45		いわき市平包括支援センター	精神疾患の基礎知識	袰岩弘起 石塚幸作	1月14日	いわき市保健センター	いわき市内の介護サービスに関わる専門職員	1	30
46		いわき市	働く人たちのメンタルヘルス～うつ病とアルコール問題の予防を中心に～	袰岩弘起 山内美智子 谷口博己	2月3日	合同庁舎南分庁舎	いわき地方振興局職員	1	43
47			働く人たちのメンタルヘルス～うつ病とアルコール問題の予防を中心に～	植田由紀子 山内美智子 鈴木恵美子	2月5日	合同庁舎南分庁舎	いわき地方振興局職員	1	46
48		富岡町社会福祉協議会	支援員のスキルアップ研修	袰岩弘起 山内美智子	2月17日	富岡町社会福祉協議会	富岡町社会福祉協議会生活支援員	1	10
49		いわき市社会福祉協議会	アウトリーチによる支援	袰岩弘起 石塚幸作 山内美智子	2月18日	いわき市社会福祉センター	いわき市社会福祉総合相談センター相談員他	1	21
50		楢葉町	楽しく、人と酒と上手に付き合う方法	植田由紀子 宮原俊也	3月3日	サポートセンター「空の家」	民生児童委員、食生活改善推進員等		20
51	加須市駐在	浪江町復興支援員	事例相談とグループワーク（聴き取り・疾患等）	精神保健福祉士	月1回（7月～）	復興支援員事務所	埼玉県労働者福祉協議会職員 浪江町復興支援員	8回	3~5人
52		福島県復興支援員	事例相談とグループワーク（聴き取り・疾患等）	精神保健福祉士	月1回～2回（12月～）	復興支援員事務所	福島県避難者支援課 福島県復興支援員	8回	3~5人

普及啓発

※再掲

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	期日	会場	対象者	実施回数	参加者数
4	県北方部センター	福島県県北保健福祉事務所	被災者支援としての健康相談や心のケアの支援活動の実際	塩田義人	9月24日	県北方部センター	岩手県立医科大学社会福祉学部学生		1
5		福島県県北保健福祉事務所	自殺対策強化月間キャンペーン	県北方部スタッフ	3月3日	ＪＲ福島駅東口前広場	一般住民		—
6	県中方部センター	精神保健みちのくフォーラム実行委員会	「福島県における震災・原発事故後の心のケア」	安藤純子	9月21日	磐梯熱海・清稜山クラブ	精神医療・保健・福祉に従事する様々な職種、当事者、家族、ボランティア	1	25
7		市民こころの健康講座	講演会：心地よい睡眠を得るためには 演習：からだとこころをほぐすリラクセーション	岩沢裕樹 菅原睦子 松島輝明	10月4日	郡山市総合福祉センター	一般市民	1	50
10		川内村役場保健福祉課	川内中学生への認知症講話	みどりの杜クリニック：森川すいめい先生 スタッフ：菅原睦子 菅野寿洋	11月21日	川内中学校	川内中学校：教員・学生、川内村教育委員会	1	30
11		第2回市民くらしの健康講座	認知症を支える家族のための生活術	みどりの杜クリニック：森川すいめい先生	11月29日	郡山市総合福祉センター	認知症に関心のある方など	1	33
12		ふれあい共生会	福島県視察	安藤・松田	11月6・7日	富岡社協おだがいさまセンター他	ふれあい共生会職員	2	7
13		高知大学	東日本大震災　看護支援のインタビュー	後藤弓子	12月9日	県中方部センター	高知大学	1	5
14	県南方部センター	浪江町	軽体操	菅野寿洋	2014年7月～第3金曜日	マイタウン白河	コスモス会	9	—
15	会津方部センター		語りべ・かっちゃんの民話の世界へようこそ	会津美里民話の会 五ノ井勝子先生	12月16日	交流ステーション・コミュニティ結	会津地域に暮らす住民		—
16			「お弁当診断の時間ですよ」と健康相談	鈴木京子先生 （栄養士）	2月17日	交流ステーション・コミュニティ結	会津地域に暮らす住民		—
17	相馬方部センター	原町第二小学校	人に優しい街づくり	清山真琴	7月9日	原町第二小学校	小学6年生		—
18		鳥取県社会復帰支援研究会	鳥取県社会復帰支援研究会開催講演会「東北震災時のチーム支援について」	米倉一磨	7月26日	鳥取県とりぎん文化会館	医療保健福祉従事者		30
19		NPO法人みんなのとなり組	南相馬こころの連絡会「相双地域のアルコール依存症の実際」	伏見香代	11月7日	原町生涯学習センター	一般市民		—
20		NPO法人奈良NPOセンター	「避難者の今を考える」シンポジウム	米倉一磨	11月15日	奈良市ボランティアインフォメーションセンター	一般市民		20
21	相馬方部センター	宮崎保健福祉専門学校	東日本大震災　震災直後から現在までの福島でのＯＴとしての活動紹介	清山真琴	8月26日	宮崎保健福祉専門学校	作業療法学科1～2年生		—
22			地域アルコール対応力強化事業「相双地区におけるモデル事業」高等学校での啓発に関する情報交換会	大川貴子（福島医大）	1月14日	相馬市総合福祉センター	相双地域高等学校の養護教諭		11
23				大川貴子（福島医大）	3月4日				—
24			大野台第6仮設交流会（アルコール談話会）	中澤先生 米倉一磨 河村木綿子 宮原俊也	1月19日	大野台仮設住宅	飯舘村避難者		11
25		関西アルコール関連問題学会	第21回関西アルコール関連問題学会シンポジスト	米倉一磨	1月24日	和歌山ビック愛	医療保健従事者		—
26		新聞労連東北地連	「2015新聞労連東北地連春闘産研集会」パネルディスカッション出席依頼	米倉一磨	2月2日	ホテルロイヤル盛岡	報道関係者		—

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	期日	会場	対象者	実施回数	参加者数
27	相馬方部センター	東日本大震災支援全国ネットワーク	第10回現地会議in福島シンポジスト	米倉一磨	2月6日	南相馬市情報交流センター	福島の支援者		—
28		公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫こころのケアセンター	チリ国別研修「災害時におけるこころのモデルの構築」講師	大川貴子 米倉一磨 佐藤里美	2月9日	相馬市総合福祉センターはまなす館	チリ医療保健従事者		—
29	いわき方部センター	いわき市保健所	「ストレスと上手に付き合うために～うつの予防～」	石塚幸作 西山志乃 谷口博巳	5月8日	地域活動センタースペースけやき	地域活動センタースペースけやき施設利用者及び職員	1	14
30		IAEA	Research Cooperation Technical Meeting4	植田由紀子	5月21日	福島県立医科大学	IAEA関係者	1	—
31		いわき市保健所	女性セミナー「ストレスと上手につきあう方法」	東條仁美 鈴木恵美子 西山志乃	6月12日	いわき市好間公民館	一般女性市民	1	35
32		広野町食生活改善推進協議会	家庭訪問時の留意点について講演及び演習	鈴木恵美子 石塚幸作	6月25日	広野町保健センター	食生活改善推進員	1	15
33		いわき市職親会	いわき市障がい者職親会第3回勉強会	西山志乃 谷口博巳	7月16日	いわき産業創造館	いわき市内在住の障がい者と保護者	1	60
34		いわき市保健所	「ストレスと上手に付き合うために～うつの予防～」	袰岩弘起 石塚幸作	8月6日	東北電力いわき技術センター	東北電力職員	1	60
35		浪江町ぐるりんこ隊	ぐるりんこ隊　座談会	鈴木恵美子 東條仁美	8月21日	なみえ交流館	浪江町ぐるりんこ隊隊員	1	14
36		就労移行支援事業所つばさ	アサーション～より良い人間関係へ～	本田順一	8月20日	就労移行支援事業所つばさ	施設利用者と職員	1	7
37		いわき市保健所	職場のメンタルヘルス	袰岩弘起 石塚幸作	10月1日	いわき市中央公民館	保育所給食担当職員	1	40
38		厚生労働省科学研究	大規模災害復興期の支援者のメンタルヘルスと支援	袰岩弘起	10月18日	TKPガーテンシティ仙台	一般市民など	1	40
39			第3回未来会議inいわき2014「今できること」 「ふくしま心のケアセンターいわき方部センター活動概要報告」	東條仁美 谷口博己	11月8日	いわき市生涯学習センター	いわき市民	1	60
40		けやきの会	認知行動療法について	石塚幸作	11月30日	スペースけやき	いわき市精神障がい者家族会	1	12
41		愛知県	原子力災害時に住民等への対応に当たる者に対しての心のケアやリスクコミュニケーションに関する講演」	植田由紀子	12月19日	愛知県三の丸庁舎	市町村及び医療関係機関等の職員		90
42		いわき市	実技「心のリフレッシュ」	石塚幸作 西山志乃	1月15日	いわき市総合保健福祉センター	いわき市内の精神障害者家族会会員及び統合失調症を抱える家族	1	25
43			平成26年度 「交流サロンフェスタ」	東條仁美 鈴木恵美子 西山志乃 山内美智子 谷口博己	2月11日	いわき市生涯学習プラザ	一般市民など	1	—
44		楢葉町	楽しく、人とお酒と上手に付き合う方法	植田由紀子 山内美智子 （宮原俊也）	3月3日	サポートセンター空の家	楢葉町健康大学受講生	1	16

心のケア相談会の開催

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	期日	会場	対象者	実施回数	参加者数
1	県中方部センター	福島県県中保健福祉事務所	心の健康相談	山下和彦	4月24日	県中保健福祉事務所	心の健康相談申込者	1	2
2				松島輝明	5月20日			1	1
3				岩沢裕樹	6月12日			1	1
4				松田聡一郎	7月22日			1	2
5				山下和彦	8月8日			1	1
6				松田聡一郎	9月9日			1	3
7				安藤純子	10月9日			1	1
8				山下和彦	11月11日			1	7
9				松田聡一郎	1月22日			1	3
10				安藤純子	2月18日			1	1
11				安藤純子	3月10日			1	2
12	いわき方部センター	福島県相双保健福祉事務所	難病相談会・個別相談	―	9月16日	いわき産業創造館	神経難病認定患者とその家族	1	34
13		広野町	広野町メンタルヘルス相談会	植田由紀子 藤井千太	10月1日	広野町保健センター	相談希望者	1	2
14				袰岩弘起 藤井千太	1月21日			1	2
15				石塚幸作 藤井千太	3月18日			1	2

メンタルヘルスケア（集団）

	開催年月日	開催方部・駐在	対象職種		人数	集団開催の内容	備考
1	6月19日	基幹センター	その他	家族等	10	薬物家族教室	福島県精神保健福祉センター
2	10月16日	基幹センター	その他		10		
3	10月12・13日	基幹センター	その他	津波被害により、遺児または孤児となった子ども等	66	交流旅行を通じてのこころのケア	南相馬市
4	4月18日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	4	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
5	7月18日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	10	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
6	7月30日	県北方部	その他	ひきこもりの家族を抱えている家族	12	ひきこもり家族教室	県北保健福祉事務所
7	8月27日	県北方部	その他	ひきこもりの家族を抱えている家族	8	「ひきこもり家族教室公開講座」「ひきこもり家族交流会」	県北保健福祉事務所
8	9月19日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	3	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
9	10月17日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	8	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
10	10月29日	県北方部	その他	ひきこもりの家族を抱えている家族	11	ひきこもり家族教室	県北保健福祉事務所
11	11月21日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	7	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
12	11月28日	県北方部	その他	ひきこもりの家族を抱えている家族	7	ひきこもり家族教室	県北保健福祉事務所
13	12月19日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	7	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
14	1月26日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	23	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
15	1月30日	県北方部	その他	ひきこもりの家族を抱えている家族	8	ひきこもり家族教室	県北保健福祉事務所
16	2月20日	県北方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	10	アルコール家族教室	県北保健福祉事務所
17	5月8日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	5	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
18	6月5日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	1	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
19	6月13日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	8	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
20	6月12日	県中方部	その他	幼稚園教諭	6	緊急スクールカウンセラー等事業（グループミーティング）	NPO法人ハートフルハート
21	6月19日	県中方部	その他	幼稚園教諭	5	緊急スクールカウンセラー等事業（グループミーティング）	NPO法人ハートフルハート
22	7月3日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	1	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
23	8月7日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	3	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
24	8月19日	県中方部	その他	保育士	6	三春町メンタルヘルス事業（コンサルテーション）	三春町
25	8月21日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	8	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
26	8月21日	県中方部	その他	葛尾村役場職員	7	葛尾村リラクセーション体験会	葛尾村
27	9月2日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	5	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
28	9月17日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	11	うつ病家族教室	郡山市保健所
29	9月25日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	12	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
30	10月1日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	3	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
31	10月22日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	8	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
32	10月23日	県中方部	その他	育児中の母親	5	尚志幼稚園子育てティータイム	尚志幼稚園
33	11月4日	県中方部	その他	うつ病の治療を受けている方の家族	3	家族のためのうつ病教室	県中保健福祉事務所
34	11月25日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	9	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所

	開催年月日	開催方部・駐在	対象職種		人数	集団開催の内容	備考
35	10月23日	県中方部	その他	育児中の母親	5	尚志幼稚園子育てティータイム	尚志幼稚園
36	12月17日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	3	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
37	1月29日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	7	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
38	2月26日	県中方部	その他	アルコール関連問題を抱えている家族	—	アルコール家族教室	県中保健福祉事務所
39	8月25日	県南方部	保健師、作業療法士、その他		14	リスニングスキルとセルフケアについて	定例勉強会（県社協・白河市社協・矢吹社協・須賀川社協・西郷社協・双葉社協・ケアセンター）
40	10月15日	会津方部	その他	楢葉町会津美里町出張所職員	5	ちょいのびしタ～イム（タッピングタッチ）	楢葉町
41	10月15日	会津方部	その他	楢葉町会津美里町出張所職員	5	ちょいのびしタ～イム（タッピングタッチ）	楢葉町
42	6月1日	相馬方部	保健師、看護師	仮設住宅住民	42	南相馬市八方内仮設住宅にて花植支援及びアンケート調査	ICA文化事業協会との共催
43	12月22日	相馬方部	その他	高齢者	10	高齢者メンタルヘルス研修会	

メンタルヘルスケア（個別）

	開催方部	市町村等対応数	開催回数	人数	対応の概要	備考
1	県中方部	6	48	525	個別面談など	
2	県南方部	3	3	4	支援者のメンタルケアなど	
3	相馬方部	1	3	3	個別カウンセリング	
4	いわき方部	3	11	138	支援者への個別面談	

語らいの場（サロン）の運営及び被災者自助グループの育成

		要請機関	テーマ	期日	会場	対象者	参加者数	備考
1	県北方部センター	福島市社会福祉協議会	～ホッとサロン「てとて」～	4月9日	福島市保健福祉センター	福島市内に避難している住民	70	
2				4月23日			70	
3				5月14日			70	個別相談2名
4				5月28日			70	個別相談4名
5				6月11日			76	個別相談4名
6				6月25日			65	
7				7月9日			45	個別相談5名
8				7月23日			70	個別相談3名
9				8月6日			54	個別相談2名
10				8月27日			70	個別相談3名
11				9月10日			70	個別相談4名
12				9月24日			75	個別相談4名
13				10月8日			70	個別相談5名
14			福島市社協サロン「リフレッシュツアー」健康相談事業	10月16日			36	
15			～ホッとサロン「てとて」～	10月22日			70	個別相談5名
16			福島市社協サロン「リフレッシュツアー」健康相談事業	10月23日			32	
17			～ホッとサロン「てとて」～	11月12日			70	個別相談4名
18				11月26日			80	個別相談4名
19				12月10日			70	個別相談4名
20				12月24日			84	個別相談2名
21				1月14日			80	個別相談2名
22				1月28日			92	個別相談2名
23				2月10日			65	個別相談3名
24			福島市社協リフレッシュツアー	2月18日	いわき市へバスツアー		42	
25			～ホッとサロン「てとて」～	2月25日	福島市保健福祉センター		94	個別相談2名
26				3月11日			90	個別相談3名
27				3月25日			90	個別相談1名
28		浪江町社会福祉協議会	浪江町社協主催茶話会	6月24日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	15	
29				7月14日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	8	
30				7月28日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	12	
31				8月26日			11	
32				9月8日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	17	
33				9月22日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	12	
34				10月14日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	12	
35				10月28日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	12	
36				11月10日			17	

		要請機関	テーマ	期日	会場	対象者	参加者数	備考
37	県北方部センター	浪江町社会福祉協議会	浪江町社協主催茶話会	12月8日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	16	個別相談1名
38				12月22日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	16	
39				1月13日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	16	
40				1月20日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	13	
41				2月9日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	12	
42				2月23日	北幹線仮設住宅集会所	北幹線仮設住宅住民	6	
43				3月9日	宮代仮設住宅集会所	宮代仮設住宅住民	8	
44	県南方部センター	「なごみの会　ふれあいいきいきサロン」(矢吹町社会福祉協議会)	バスレクリエーション	4月17日	福島空港	矢吹町に避難している方	25	
45			健康講話、茶話会	6月19日	善郷内応急仮設住宅集会所		5	
46			栄養士、保健師による健康指導	10月8日	矢吹町保健福祉センター		54	
47			レクリエーション(ウォーキング)	10月16日	三十三観音公園		10	
48			団子さしつくり、茶話会	1月15日	善郷内応急仮設住宅集会所		8	
49			茶話会(来年度の計画)	2月19日			9	
50			追悼式	3月11日	一本木応急仮設住宅集会所		23	
51			お花見昼食会(白河警察署講話、健康体操)	4月15日			9	
52		コスモス会	体操、茶話会	4月28日	マイタウン3階	矢吹町に避難している浪江町住民	14	
53			体操、茶話会	5月24日			12	
54			軽体操・レクリエーション	7月18日			15	
55			講話「腰痛」	9月19日			15	
56		さすけね会(双葉町サロン)	身体の軸を整えるエクササイズ	5月20日	郭内応急仮設集会所	白河地域に避難している双葉町住民	13	
57			良いこと探しと報告	6月17日			12	
58			地図づくり	7月15日			12	
59			地図づくり	8月19日			6	
60			川柳作り	9月16日			10	
61			『故郷(ふるさと)』の4番の歌詞をつくろう	10月21日			7	
62			『冬の思い出・過去今未来』	11月18日			9	
63			『福笑い』	1月20日			11	
64			『双葉かるたづくり』	2月17日			15	
65			『双葉かるたづくり』	3月17日			12	
66		しらかわ地域富岡さくらの会	発足総会	6月21日	マイタウン白河3階	白河地域に避難している富岡町住民	30	
67		ハローワーク健康チェックはまなかみんなのサロン	健康チェック、サロン	5月28日	ハローワーク白河	白河地域に避難している相双地域住民	3	
68				6月23日			3	
69				7月23日			1	
70		健康チエック&ほっとひといき相談室		8月18日			6	
71				9月29日			5	
72				10月27日			4	
73				11月19日			1	
74				1月26日			4	
75				2月23日			4	
76		健康サロン(双葉町・社会福祉協議会)	花粉症について講話　実技(マスク装着方法)	4月8日	郭内応急仮設住宅集会所	白河地域に避難している双葉町住民	18	
77		みみずくの会主催　お花見	お花見	4月22日	小峰城広場		130	
78		郭内仮設健康サロン	ストレスを防ぐ運動(ストレッチ体操)　日赤	5月13日	郭内応急仮設住宅集会所		23	
79		郭内仮設健康サロン(相談専門職チーム)	「誤嚥性肺炎予防と口腔ケアについて」講義と実技	6月3日			14	
80			「熱中症予防について」講義と実技、体操	6月10日			19	
81			相談支援専門職チームによる講話と体操、ゲーム	6月24日			17	

		要請機関	テーマ	期日	会場	対象者	参加者数	備考
82	県南方部センター	郭内仮設健康サロン（双葉町社会福祉協議会）	介護予防体操	7月8日	郭内応急仮設住宅集会所	白河地域に避難している双葉町住民	17	
83			相談支援専門職チームによる体操とゲーム	7月22日			10	
84			「食事と高齢者の栄養失調克服のカギ」	8月5日			11	
85		健康サロン（相談支援専門職チーム）	相談支援専門職チームによる体操	8月26日			12	
86		郭内仮設健康サロン（双葉町役場）	「救急車を上手に使いましょう」	9月2日			13	
87		郭内仮設健康サロン（双葉町社会福祉協議会）	「救急時の対応」	9月9日			13	
88		郭内仮設健康サロン（双葉町）	笑いヨガ	10月7日			12	
89		郭内仮設健康サロン（双葉町社会福祉協議会）	「乳がん検診」「目の愛護デー」「ボールで心もからだも元気!」	10月14日			13	
90		郭内仮設健康サロン（双葉町）	「感染症」「アルコール消毒ジェルの使い方」「ボールで心もからだも元気!」	11月4日			15	
91		郭内仮設健康サロン（双葉町社会福祉協議会　福島県歯科衛生士会）	口腔衛生についての実技、講演	11月11日			11	
92		郭内仮設健康サロン（双葉町役場）	転倒予防講話、ボール体操	12月2日			12	
93			「笑いヨガでストレス解消」	12月16日			11	
94		郭内仮設健康サロン（双葉町　県栄養士会）	「特定健診に関する栄養指導」ボール体操（上肢編）	1月6日			15	
95		健康サロン（双葉町社会福祉協議会）	「なつかしカルタ」、ボール体操（上肢編　番外編）	1月13日			16	
96		郭内仮設健康サロン（双葉町）	生活習慣病ミニ講座　こころ体操	2月3日			14	
97		郭内仮設健康サロン（双葉町　在宅歯科衛生士会）	口腔保健ケア（歯周病）、顔面体操、舌体操（歌）	2月10日			17	
98		郭内仮設健康サロン（双葉町）	ひな祭り	3月3日			13	
99		双葉町借り上げ住宅自治会	会議終了後の健康体操	9月8日			13	
100		双葉町「男の料理教室&健康相談」		1月16日	白河市産業プラザ人材育成センター	白河地域に避難している双葉町、浪江町住民	13	
101		双葉町「白河男の料理教室」	料理教室	2月27日		白河地域に避難している双葉町住民	9	
102			料理教室	3月20日			11	
103		白河警察署主催AED講習会	白河警察署、白河消防署による講演、実習	8月29日	白河市中田応急仮設集会所	白河地域に避難している方	9	
104				9月4日	矢吹町一本木仮設集会所	矢吹町に避難している方	7	
105		白河警察署主催交通安全講習会	白河警察署復興支援係	11月14日	白河市中田仮設集会所	白河地域に避難している方	4	
106		ままカフェ　白河	あそび・フリートーク・個別相談	8月6日	マイタウン白河	避難先から戻ってきた親子支援	14	
107				9月10日			24	
108				11月12日			14	
109				2月4日			25	
110				3月11日			14	
111		会津若松市仮設住宅双葉町サロン	フェザータッチでリラクゼーション	9月10日	第二中学校仮設住宅談話室	白河地域に避難している双葉町住民	7	
112		にこにこサロン（双葉町社会福祉協議会）	生活習慣病予防・笑いヨガ	7月16日	白河市中央福祉センター	白河地域に避難している双葉町住民	21	
113	加須市駐在	双葉町社会福祉協議会	サロン（いきいきサロン、囲碁将棋の会、ママカフェサロン等）参加	適宜	双葉町社会福祉協議会	双葉町民		
114		浪江町復興支援員	埼玉県に避難している広域サロンの参加	9月10日	八潮市民文化会館	福島県民		

市町村への業務支援

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
1	県北方部センター	被災者支援について	看護師、精神保健福祉士	5月2日	10	双葉町健康支援活動連絡会
2		被災者への健康支援について	精神保健福祉士、保健師	5月2日	11	飯舘村健康支援活動連絡会
3		被災者への健康支援について	精神保健福祉士、臨床心理士	5月9日	10	浪江町健康支援活動連絡会
4		被災者支援について	精神保健福祉士、臨床心理士	5月12日	8	富岡町健康支援活動連絡会
5		被災者支援について	精神保健福祉士、臨床心理士	5月13日	10	川俣町健康支援活動連絡会
6		被災者への健康支援について	精神保健福祉士、保健師	5月13日	8	伊達市健康支援活動連絡会
7		被災者支援について	看護師、精神保健福祉士	5月16日	7	南相馬市健康支援活動連絡会
8		富岡町借上入居者の個別支援について	臨床心理士、看護師	6月11日	11	富岡町健康支援活動連絡会
9		対応ケースについて報告、町からの要望	看護師	6月18日	3	浪江町ミーティング
10		双葉町仮設・借り上げ住宅入居者の個別支援について	看護師	6月27日	8	双葉町健康支援活動連絡会
11		要訪問世帯について	看護師、精神保健福祉士	7月1日	9	川俣町健康支援活動連絡会
12		「ままカフェ」の現状、課題、福島市大波地区	精神保健福祉士、保健師	7月7日	3	福島市健康福祉部　放射線健康管理室とのミーティング
13		内部被ばくを防ぐための健康座談会	精神保健福祉士、保健師	7月9日	10	福島市大波地区上染屋
14		大波地区健康座談会の振り返り	精神保健福祉士、保健師	7月24日	3	福島市健康福祉部　放射線健康管理室とのミーティング
15		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	8月7日	14	浪江町
16		ケア会議	保健師、看護師、精神保健福祉士	8月7日	4	浪江町
17		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師	8月19日	9	浪江町
18		浪江町健康支援活動連絡会	看護師、臨床心理士	9月2日	14	浪江町
19		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師	9月5日	13	浪江町
20		富岡町健康支援活動連絡会	看護師、臨床心理士	9月9日	9	富岡町
21		飯舘村健康支援活動連絡会	保健師、看護師	9月16日	11	飯舘村
22		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師	9月16日	6	浪江町
23		健康フェスタ2014	看護師、精神保健福祉士	9月28日	270	福島市
24		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	10月20日	16	浪江町
25		内部被ばくを防ぐための健康座談会	保健師、看護師、医師、その他	10月24日	20	福島市大波地区上染屋
26		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	10月29日	6	浪江町
27		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	10月31日	4	浪江町
28		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	11月10日	9	浪江町
29		杉田住民センター仮設茶話会	看護師、栄養士、臨床心理士	11月11日	20	浪江町
30		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	11月13日	11	浪江町
31		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	11月17日	4	浪江町
32		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	11月25日	5	浪江町
33		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	11月26日	11	浪江町
34		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	11月28日	10	浪江町
35		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	12月1日	9	浪江町
36		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	12月4日	9	浪江町
37		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	12月9日	10	浪江町
38		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	12月15日	4	浪江町
39		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	12月16日	3	浪江町
40		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	12月22日	11	浪江町
41		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	12月24日	6	浪江町
42		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	1月6日	11	浪江町

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
43	県北方部センター	浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	1月8日	6	浪江町
44		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	1月13日	13	浪江町
45		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	1月19日	6	浪江町
46		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	1月20日	6	浪江町
47		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	1月26日	13	浪江町
48		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	1月28日	7	浪江町
49		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	1月29日	4	浪江町
50		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	2月2日	8	浪江町
51		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	2月5日	12	浪江町
52		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	2月6日	7	浪江町
53		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	2月10日	6	浪江町
54		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師	2月13日	7	浪江町
55		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	2月16日	8	浪江町
56		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	2月17日	14	浪江町
57		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	2月23日	14	浪江町
58		杉田住民センター仮設住宅茶話会調理実習	保健師、臨床心理士、栄養士	2月24日	12	浪江町
59		杉田住民センター仮設住宅茶話会調理実習	看護師	2月26日	7	浪江町
60		浪江町仮設住宅健康相談会	看護師	3月2日	10	浪江町
61		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	3月5日	9	浪江町
62		浪江町仮設住宅健康相談会	保健師、看護師	3月10日	5	浪江町
63	県中方部センター	絆カフェろここ	精神保健福祉士	4月2日	17	郡山市総合福祉センター
64		葛尾村定例会	看護師、精神保健福祉士	4月4日	10	葛尾村役場
65		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士	4月9日	10	須賀川保健センター
66		葛尾村親子ふれあい教室	精神保健福祉士、臨床心理士	4月10日	7	貝山支え合いセンター
67		田村市・都路町月例報告	精神保健福祉士、作業療法士	4月10日	2	田村市船引保健センター
68		三春町親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士	4月11日	24	三春保健センター
69		双葉町県中地区連携システム打ち合わせ	臨床心理士、社会福祉士	4月11日	13	双葉町郡山支所
70		三春町職員メンタルヘルス事業打ち合わせ	保健師、臨床心理士、看護師	4月14日	4	三春町役場
71		双葉町定例会	保健師、臨床心理士、社会福祉士	4月15日	10	双葉町社会福祉協議会
72		双葉町サロン	保健師、臨床心理士、社会福祉士	4月16日	8	喜久田仮設
73		川内村月例報告	臨床心理士、看護師	4月16日	2	川内村役場
74		葛尾村デイケアひだまりの会	看護師、精神保健福祉士	4月17日	6	しんせい・開成山公園
75		双葉町サロン	看護師、臨床心理士、社会福祉士	4月17日	8	富田仮設
76		川内イキイキ高齢者ふやし隊	看護師、社会福祉士	4月18日	11	川内村ゆふね
77		双葉町サロン	看護師、精神保健福祉士	4月18日	3	日和田仮設
78		富岡町ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	4月21日	6	大槻町北公民館
79		平田村親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士	4月21日	19	平田村保健センター
80		富岡町絆カフェ	看護師、精神保健福祉士	4月22日	4	富岡町絆カフェ
81		三春町職員メンタルヘルス事業打合せ	保健師 、看護師、臨床心理士	4月25日	16	三春町役場
82		葛尾村メンタルヘルス事業打合せ	臨床心理士、看護師	5月2日	3	葛尾村役場三春事務所
83		川内村月例報告	臨床心理士、看護師	5月7日	2	川内村ゆふね
84		双葉町サロン（日和田仮設）	臨床心理士、社会福祉士	5月7日	2	日和田仮設
85		茶話カフェろここ	看護師、精神保健福祉士	5月7日	14	郡山市総合福祉センター
86		富岡町月例報告	看護師	5月7日	2	県中方部センター
87		葛尾村親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	5月8日	5	貝山支え合いセンター
88		三春町親子ふれあい教室	社会福祉士、臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	5月9日	11	三春町保健センター
89		富岡町健康サロン	看護師、精神保健福祉士、社会福祉士	5月12日	18	若宮前仮設
90		葛尾村精神障がい者デイケアひだまりの会	精神保健福祉士、看護師	5月13日	1	中妻仮設

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
91	県中方部センター	双葉町職員メンタルヘルス事業打合せ	臨床心理士、社会福祉士	5月13日	1	双葉町役場いわき事務所
92		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士	5月14日	28	須賀川市保健センター
93		双葉町定例会	保健師、臨床心理士、社会福祉士	5月15日	4	双葉町社会福祉協議会
94		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	5月15日	2	田村市船引保健センター
95		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	5月15日	1	田村市船引保健センター
96		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	5月19日	7	葛尾村役場三春事務所
97		双葉町・県中保健福祉事務所定例会	臨床心理士、社会福祉士	5月19日	9	福島県県中保健福祉事務所
98		双葉町サロン（喜久田仮設）	看護師、臨床心理士、社会福祉士	5月21日	7	喜久田仮設
99		双葉町サロン（富田仮設）	看護師、社会福祉士、作業療法士	5月22日	11	富田仮設
100		富岡町ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	5月22日	6	大槻町北公民館
101		平田村親子ふれあい教室	看護師、作業療法士	5月26日	18	平田村保健センター
102		富岡町絆カフェ	精神保健福祉士	5月27日	0	富岡町絆カフェ
103		三春町メンタルヘルス事業結果報告	保健師、臨床心理士	6月3日	3	三春町役場
104		双葉町サロン（日和田仮設）	社会福祉士、精神保健福祉士	6月4日	1	日和田仮設
105		茶話カフェろここ	社会福祉士、精神保健福祉士	6月4日	17	郡山市総合福祉センター
106		葛尾村親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	6月5日	6	貝山支え合いセンター
107		平田村親子ふれあい教室	看護師、社会福祉士、作業療法士	6月9日	31	平田村保健センター
108		川内村月例報告	看護師、臨床心理士	6月10日	2	川内村ゆふね
109		富岡町月例報告	看護師	6月10日	2	富岡町郡山事務所
110		双葉町月例報告	臨床心理士、社会福祉士	6月12日	8	双葉町役場郡山支所
111		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	6月12日	2	田村市船引保健センター
112		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	6月12日	1	田村市船引保健センター
113		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	6月16日	8	葛尾村役場三春事務所
114		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士、作業療法士	6月17日	3	中妻集会所
115		双葉町サロン（喜久田仮設）	臨床心理士、看護師	6月18日	6	喜久田仮設
116		双葉町サロン（富田仮設）	臨床心理士、看護師	6月19日	15	富田仮設
117		富岡町ひとやすみの会	看護師	6月20日	5	大槻町北公民館
118		三春町親子ふれあい教室	臨床心理士、社会福祉士、作業療法士	6月20日	18	三春町保健センター
119		三春町メンタルヘルス事業打合せ	保健師、看護師、臨床心理士	6月20日	2	三春町役場
120		富岡町絆カフェ	看護師、精神保健福祉士	6月24日	13	富岡町絆カフェ
121		須賀川市親子ふれあい教室	精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士、看護師、作業療法士	6月25日	46	須賀川市保健センター
122		双葉町サロン	社会福祉士、看護師	7月2日	0	日和田仮設
123		茶話カフェろここ	看護師、精神保健福祉士	7月2日	17	郡山市総合福祉センター
124		葛尾村親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	7月3日	6	貝山支え合いセンター
125		富岡町月例報告	看護師、精神保健福祉士	7月7日	4	富岡町郡山事務所
126		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	7月10日	2	田村市船引保健センター
127		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	7月10日	1	田村市船引保健センター
128		川内村月例報告	看護師、臨床心理士	7月10日	2	川内村ゆふね
129		平田村親子ふれあい教室	看護師、社会福祉士、作業療法士、精神保健福祉士	7月14日	20	平田村保健センター
130		富岡町健康サロン	看護師、精神保健福祉士	7月14日	15	若宮前仮設
131		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	7月14日	4	葛尾村役場三春事務所
132		葛尾村精神障がい者デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	7月15日	4	中妻集会所
133		双葉町月例報告	保健師、社会福祉士、臨床心理士	7月15日	8	双葉町社会福祉協議会
134		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士	7月16日	21	須賀川市保健センター
135		双葉町サロン（喜久田仮設）	臨床心理士、社会福祉士	7月16日	8	喜久田仮設
136		双葉町サロン（富田仮設）	社会福祉士、看護師	7月17日	10	富田仮設
137		富岡町ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	7月22日	3	大槻町北公民館
138		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	8月5日	4	中妻仮設
139		双葉町サロン（日和田仮設）	社会福祉士、作業療法士	8月6日	1	日和田仮設

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
140	県中方部センター	茶話カフェろここ	精神保健福祉士	8月6日	12	郡山市総合福祉センター
141		富岡町月例報告	看護師、精神保健福祉士	8月6日	1	富岡町郡山事務所
142		葛尾村親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	8月7日	8	貝山支え合いセンター
143		川内村月例報告	臨床心理士、社会福祉士	8月7日	2	川内村ゆふね
144		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	8月7日	3	田村市船引保健センター
145		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	8月7日	1	田村市船引保健センター
146		三春町親子ふれあい教室	看護師、作業療法士	8月8日	18	三春町保健センター
147		葛尾村月例会議	看護師、精神保健福祉士	8月18日	8	葛尾村役場三春事務所
148		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、社会福祉士	8月20日	32	須賀川市保健センター
149		双葉町サロン(喜久田仮設)	臨床心理士、作業療法士	8月20日	7	喜久田仮設
150		富岡町ひとやすみの会	看護師、作業療法士、精神保健福祉士	8月21日	3	大槻町北公民館
151		双葉町サロン(富田仮設)	社会福祉士、看護師	8月21日	10	富田仮設
152		双葉町月例報告	保健師、臨床心理士、社会福祉士	8月21日	10	双葉町社会福祉協議会
153		葛尾村親子ふれあい教室	精神保健福祉士、看護師	9月2日	4	貝山支え合いセンター
154		双葉町サロン(日和田仮設)	看護師、社会福祉士	9月3日	4	日和田仮設
155		茶話カフェろここ	看護師、精神保健福祉士	9月3日	13	郡山市総合福祉センター
156		富岡町月例報告	看護師	9月3日	2	富岡町郡山事務所
157		川内村月例報告	看護師、臨床心理士	9月4日	2	川内村ゆふね
158		富岡町健康サロン	看護師、精神保健福祉士	9月5日	13	若宮前仮設
159		平田村親子ふれあい教室	精神保健福祉士、看護師、社会福祉士	9月5日	22	平田村保健センター
160		片平行政局リフレッシュママ教室	看護師、臨床心理士	9月9日	15	片平ふれあいセンター
161		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、社会福祉士	9月10日	54	須賀川市保健センター
162		双葉町月例報告	臨床心理士、社会福祉士	9月11日	8	双葉町社会福祉協議会
163		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	9月11日	4	田村市船引保健センター
164		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	9月11日	1	田村市船引保健センター
165		三春町親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師、社会福祉士	9月12日	21	三春町保健センター
166		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	9月16日	3	高旗山のんびりワンダーフォレスト
167		双葉町サロン(喜久田仮設)	看護師、社会福祉士	9月17日	17	喜久田仮設
168		双葉町サロン(富田仮設)	看護師、精神保健福祉士	9月18日	9	富田仮設
169		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	9月18日	7	葛尾村役場三春事務所
170		富岡町ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	9月22日	4	大槻町北公民館
171		浪江町検診後の相談会	看護師、精神保健福祉士	9月24日	40	ビッグパレット
172		三春町職員メンタルヘルス事業打合せ	保健師、臨床心理士、看護師	9月24日	2	三春町役場
173		三春町幼保支援報告会	保健師、臨床心理士、看護師	9月24日	6	三春町役場
174		大熊町心を元気にする講座	作業療法士、精神保健福祉士	9月25日	8	ビッグパレット
175		浪江町検診後の相談会	看護師、精神保健福祉士	9月25日	25	南東北総合卸センター
176		茶話カフェろここ	社会福祉士、看護師、作業療法士	10月1日	15	郡山市総合福祉センター
177		葛尾村親子ふれあい教室	看護師	10月2日	14	貝山支え合いセンター
178		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士	10月8日	32	須賀川市保健センター
179		富岡町月例報告	看護師、精神保健福祉士	10月8日	2	富岡町郡山事務所
180		田村市月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	10月9日	3	田村市船引保健センター
181		都路町月例報告	作業療法士、精神保健福祉士	10月9日	1	田村市船引保健センター
182		三春町親子ふれあい教室	臨床心理士、作業療法士、看護師	10月10日	20	三春町保健センター
183		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	10月14日	3	中妻仮設
184		茶話カフェろここ	精神保健福祉士、作業療法士	10月15日	5	郡山市総合福祉センター
185		双葉町月例報告	臨床心理士、社会福祉士	10月16日	10	双葉町社会福祉協議会
186		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	10月20日	7	葛尾村役場
187		富岡ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士、作業療法士	10月20日	5	大槻町北公民館
188		平田村親子ふれあい教室	臨床心理士、作業療法士、社会福祉士、看護師	10月20日	39	平田村保健センター
189		大熊町検診支援	作業療法士、精神保健福祉士	10月23日	120	富田西仮設　集会所
190		大熊町検診支援	作業療法士、精神保健福祉士	10月24日	50	富田西仮設　集会所

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
191	県中方部センター	県中保健福祉事務所健康サロンこらんしょ広場	看護師、精神保健福祉士、作業療法士	10月31日	12	大槻町東地域公民館
192		葛尾村親子ふれあい教室	精神保健福祉士、作業療法士	11月4日	6	貝山支え合いセンター
193		川内村月例報告	看護師、臨床心理士	11月10日	3	川内村役場
194		川内村中学校認知症講座打ち合わせ	社会福祉士、作業療法士	11月10日	5	川内村役場、川内中学校
195		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、社会福祉士	11月12日	38	須賀川市保健センター
196		三春町親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、作業療法士	11月14日	15	三春町保健センター
197		富岡町健康サロン	看護師、精神保健福祉士	11月10日	14	富岡町若宮前仮設集会所
198		田村市月例報告	作業療法士	11月13日	1	田村市船引保健センター
199		都路町月例報告	作業療法士	11月13日	1	田村市船引保健センター
200		富岡町ケース報告	看護師、精神保健福祉士	11月13日	2	富岡町役場郡山事務所
201		平田村親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、作業療法士	11月17日	24	平田村保健センター
202		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	11月18日	3	中妻仮設集会所
203		双葉町月例報告	臨床心理士、社会福祉士	11月18日	10	双葉町社会福祉協議会
204		県中保健福祉事務所健康サロンこらんしょ広場	作業療法士、看護師	11月21日	2	大槻町東地域公民館
205		葛尾村リラクセーション体験会	臨床心理士、看護師	11月26日	6	葛尾村役場
206		葛尾村親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	12月2日	11	貝山支え合いセンター
207		茶話カフェろここ	社会福祉士、作業療法士	12月3日	12	郡山市総合福祉センター
208		認知症に関する講話	臨床心理士、社会福祉士	12月5日	4	川内村保健センター
209		認知症に関する講話	臨床心理士、社会福祉士	12月5日	46	川内村保健センター
210		須賀川市親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士	12月10日	33	須賀川市保健センター
211		田村市月例報告	作業療法士	12月11日	3	田村町船引保健センター
212		都路町月例報告	作業療法士	12月11日	3	田村町船引保健センター
213		三春町親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師	12月12日	17	三春町保健センター
214		富岡町月例報告	看護師、精神保健福祉士	12月12日	2	富岡町役場郡山事務所
215		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	12月15日	7	葛尾村役場
216		双葉町月例報告	臨床心理士、社会福祉士	12月16日	10	双葉町社会福祉協議会
217		浪江町月例報告郵送	作業療法士	12月18日	2	浪江町役場二本松事務所
218		大熊町月例報告郵送	作業療法士	12月18日	2	大熊町役場会津若松出張所
219		双葉町サロン	社会福祉士、作業療法士	12月16日	10	喜久田仮設
220		双葉町サロン	臨床心理士、看護師	12月18日	10	富田仮設
221		郡山市月例報告	保健師、臨床心理士	12月18日	4	郡山市保健所
222		県中保健福祉事務所健康サロンこらんしょ広場	作業療法士、看護師	12月19日	8	大槻町東地域公民館
223		白河市月例報告郵送	白河市月例報告郵送	12月22日	1	白河市中央保健センター
224		南相馬市月例報告郵送	看護師	12月22日	1	南相馬市役所
225		富岡ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	12月22日	3	大槻町北公民会館
226		富岡町絆職員メンタルヘルス事業報告	精神保健福祉士	12月25日	3	富岡町郡山事務所
227		茶話カフェろここ	社会福祉士、作業療法士	1月7日	13	郡山市総合福祉センター
228		三春町親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師	1月9日	14	三春町保健センター
229		葛尾村職員面談報告	臨床心理士、看護師	1月13日	3	葛尾村役場
230		須賀川市親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師、作業療法士、社会福祉士	1月14日	39	須賀川市保健センター
231		葛尾村月例報告	看護師、精神保健福祉士	1月14日	9	葛尾村役場
232		田村市月例報告	看護師、作業療法士	1月15日	3	船引保健センター
233		都路町月例報告	看護師、作業療法士	1月15日	3	船引保健センター
234		双葉町サロン	臨床心理士、看護師	1月15日	9	富田仮設
235		富岡町月例報告	看護師、精神保健福祉士	1月16日	4	県中方部センター
236		平田村親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	1月19日	24	平田村保健センター
237		葛尾精神デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	1月20日	3	中妻仮設集会所

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
238	県中方部センター	田村市支援ニーズ聞き取り	保健師、作業療法士	1月20日	1	田村市役所
239		富岡ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	1月21日	2	大槻町北公民会館
240		川内村月例報告	保健師、看護師、臨床心理士	1月21日	2	川内村保健センター
241		川内村支援ニーズ聞き取り	保健師、看護師、臨床心理士	1月21日	2	川内村保健センター
242		双葉町サロン	社会福祉士、精神保健福祉士	1月21日	5	喜久田仮設
243		双葉町定例会	看護師、社会福祉士	1月22日	7	双葉町社会福祉協議会
244		葛尾村支援ニーズ聞き取り	保健師、看護師、精神保健福祉士	1月22日	3	葛尾村役場
245		富岡町支援ニーズ聞き取り	保健師、看護師、精神保健福祉士	1月23日	1	葛尾村役場
246		三春町親子ふれあい教室	精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士	2月13日	11	三春町保健センター
247		葛尾村支援ニーズ聞き取り	臨床心理士、看護師	2月16日	9	葛尾村役場
248		葛尾村デイケアひだまりの会	精神保健福祉士	2月17日	3	中妻仮設集会所
249		大熊町健康相談後のハイリスク者同行訪問	社会福祉士、看護師、作業療法士	2月17日	4	県中地区を巡回
250		双葉町サロン	臨床心理士	2月19日	8	喜久田仮設
251		富岡ひとやすみの会	看護師	2月20日	2	大槻北公民館
252		双葉町検診後の健康相談会	作業療法士	2月20日	8	喜久田仮設
253		大熊町健康相談後のハイリスク者同行訪問	社会福祉士、看護師、作業療法士	2月20日	4	県中地区を巡回
254		川内村イキイキ高齢者なり隊増やし隊会議	臨床心理士	2月20日	10	川内村複合施設ゆふね
255		三春町役場管理職対象研修会	保健師、臨床心理士、看護師	2月23日	不明	三春町役場
256		三春町役場一般職員対象研修会	看護師、臨床心理士	2月24日	不明	三春町役場
257		双葉町サロン	臨床心理士	3月4日	3	日和田仮設
258		茶話カフェろここ	看護師、作業療法士	3月4日	14	郡山市総合福祉センター
259		三春町親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、社会福祉士	3月13日	24	三春町保健センター
260		平田村親子ふれあい教室	看護師、臨床心理士、社会福祉士	3月16日	26	平田村保健センター
261		双葉町サロン	社会福祉士、作業療法士	3月18日	4	喜久田仮設集会所
262		双葉町サロン	社会福祉士、作業療法士	3月19日	5	若宮前仮設集会所
263		富岡ひとやすみの会	看護師、精神保健福祉士	3月20日	5	大槻町北公民会館
264	県南方部センター	ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月8日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
265		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月9日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
266		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月9日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
267		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月23日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
268		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月23日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
269		身体ケアについての指導	保健師、作業療法士	5月27日	1	白河市社会福祉協議会
270		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	5月28日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
271		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月5日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
272		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月5日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
273		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月6日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
274		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月9日	1	矢吹町社会福祉協議会
275		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月9日	1	矢吹町社会福祉協議会
276		メンタルケア	精神保健福祉士	6月10日	1	矢吹町社会福祉協議会
277		身体ケアについての指導	保健師	6月16日	1	双葉町社会福祉協議会
278		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月19日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
279		ケースに対する相談対応・助言	精神保健福祉士	6月19日	1	県南保健福祉事務所生活保護課

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
280	県南方部センター	ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	6月25日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
281		メンタルケア	保健師	6月26日	1	双葉町社会福祉協議会
282		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月3日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
283		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月3日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
284		身体ケアについての指導	保健師	7月7日	1	双葉町社会福祉協議会
285		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月9日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
286		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月13日	1	白河市社会福祉協議会
287		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月17日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
288		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月17日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
289		ケースに対する相談対応･助言	精神保健福祉士	7月25日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
290		スーパーバイズ、支援についての助言	精神保健福祉士	8月5日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
291		勉強会について、うつの方の行動について	その他	8月5日	2	白河市社会福祉協議会
292		スーパーバイズ、支援についての助言	精神保健福祉士	8月6日	1	県南保健福祉事務所生活保護課
293		血圧測定結果について	その他	8月18日	1	西郷村社会福祉協議会
294		集団支援活動の支援･協力	精神保健福祉士	10月2日	1	NPO法人ビーンズふくしま
295		集団支援活動の支援･協力	精神保健福祉士	10月2日	1	NPO法人白河市民活動支援会
296		訪問同行、スーパーバイズ	精神保健福祉士	10月9日	1	矢吹町社会福祉協議会
297		ケース情報交換･助言	精神保健福祉士	10月15日	1	県南保健福祉事務所母子担当
298		スーパーバイズ	精神保健福祉士	10月15日	1	県南保健福祉事務所生活保護担当
299		集団活動への支援･協力	保健師	10月7日	1	双葉町役場
300		集団活動への支援･協力	保健師	10月14日	1	双葉町社会福祉協議会
301		スーパーバイズ	保健師	10月20日	1	白河市社会福祉協議会
302		健康支援･スーパーバイズ	保健師	10月21日	1	白河市社会福祉協議会
303		講演会内容伝達･健康支援	保健師	10月29日	1	白河市社会福祉協議会
304		集団活動への支援･協力	保健師	12月2日	12	双葉町役場
305		集団活動への支援･協力	保健師、精神保健福祉士	12月16日	11	双葉町役場
306	会津方部センター	LSA体制	看護師、社会福祉士	4月10日	12	大熊町　LSAミーテイング
307		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士	4月11日	16	楢葉町
308		大熊町要支援者･今年度事業打合せ	精神保健福祉士、保健師、看護師、社会福祉士	4月15日	8	大熊町
309		大熊町支援者支援打ち合わせ	精神保健福祉士、社会福祉士	4月22日	3	大熊町
310		楢葉町ケア会議	精神保健福祉士、保健師	4月25日	8	楢葉町
311		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	看護師	4月25日	11	富岡町
312		大熊町（会津地域）障がい者支援事業所会議	看護師、精神保健福祉士	4月30日	10	大熊町
313		大熊町事業打ち合わせ	精神保健福祉士、保健師、看護師、社会福祉士	4月30日	6	大熊町
314		大熊町との事業打ち合わせ	看護師、精神保健福祉士、社会福祉士	5月1日	7	大熊町
315		大熊町支援者支援打ち合わせ	精神保健福祉士、社会福祉士	5月12日	3	大熊町
316		LSAより報告	社会福祉士、看護師	5月15日	10	大熊町LSAMT
317		大熊町支援者支援打ち合わせ	看護師、精神保健福祉士	5月21日	3	大熊町
318		楢葉町ケア会議	保健師、精神保健福祉士	5月23日	15	楢葉町
319		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	看護師	5月26日	10	富岡町
320		大熊町障がい者支援事業所会議	精神保健福祉士	5月28日	10	大熊町
321		大熊町障がい児支援調整会議	精神保健福祉士、社会福祉士	6月2日	6	大熊町
322		LSAより報告	看護師	6月10日	9	大熊町LSAMT

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
323	会津方部センター	楢葉町ケア会議	保健師	6月13日	15	楢葉町
324		大熊町障がい者支援事業所会議	精神保健福祉士、社会福祉士	6月25日	9	大熊町
325		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	看護師	6月26日	7	富岡町
326		LSAより報告	看護師	7月2日	11	大熊町LSAMT
327		浪江町打ち合わせ	看護師、精神保健福祉士	7月9日	4	浪江町
328		楢葉町ケア会議	精神保健福祉士、保健師	7月11日	15	楢葉町
329		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	看護師	7月24日	9	富岡町
330		大熊町障がい者支援事業所会議	精神保健福祉士、社会福祉士	7月30日	9	大熊町
331		大熊町精神保健事業　映画上映に関する打合せ	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	8月4日	4	大熊町
332		楢葉町ケア会議	保健師他	8月8日	10	楢葉町
333		大熊町職員ストレスチェックに関わる打ち合わせ	保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、その他	8月11日	6	大熊町
334		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士	8月12日	7	富岡町
335		大熊町職員ストレスチェックに関わる打ち合わせ	医師、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、その他	8月14日	6	大熊町
336		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、栄養士	8月25日	7	富岡町
337		大熊町障がい者支援事業所会議	保健師、看護師、社会福祉士、その他	8月27日	7	大熊町
338		大熊町支援者支援打ち合わせ（ちょいのびしタイム）	社会福祉士、看護師	9月3日	4	大熊町
339		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	9月9日	9	富岡町
340		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、精神保健福祉士	9月12日	9	楢葉町
341		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、栄養士	9月25日	2	富岡町
342		浪江町総合健診の支援協力	看護師、保健師	10月3日	78	浪江町
343		大熊町LSAMT	看護師、保健師	10月7日	9	大熊町
344		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	社会福祉士、保健師、看護師他	10月7日	7	富岡町
345		大熊町支援者支援打ち合わせ（ちょいのびしタイム）	社会福祉士、保健師、看護師他	10月7日	7	大熊町
346		ひきこもり予防対策事業「のほほんクラブ」	社会福祉士、保健師、看護師他	10月14日	6	大熊町
347		大熊町総合検診支援	看護師、保健師	10月20日	148	大熊町
348		大熊町総合検診支援	看護師、保健師	10月21日	199	大熊町
349		大熊町総合検診支援	看護師、保健師	10月22日	165	大熊町
350		大熊町障がい児支援調整会議	社会福祉士	10月22日	6	大熊町
351		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	10月24日	12	富岡町
352		ちょいのびしタイム（大熊町支援者支援事業）	保健師、看護師	10月28日	4	大熊町
353		大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士	11月4日	8	大熊町
354		大熊町LSAMT	看護師、保健師	11月5日	5	大熊町
355		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	11月11日	3	富岡町
356		大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士	11月12日	8	大熊町
357		ちょいのびしタイム（大熊町支援者支援事業）	保健師、看護師	11月13日	10	大熊町
358		楢葉町ケア会議	保健師、看護師	11月14日	10	楢葉町
359		大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士	11月20日	10	大熊町
360		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	11月25日	7	富岡町
361		大熊町障がい者支援事業所会議	精神保健福祉士、社会福祉士	11月26日	6	大熊町

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
362	会津方部センター	大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士	12月1日	7	大熊町
363		大熊町健康相談会	看護師、栄養士、その他	12月1日	3	大熊町
364		楢葉町ふら～っとルーム	保健師、看護師	12月2日	4	楢葉町
365		ぐっちーcafé（支援者支援）	保健師、看護師	12月3日	4	大熊町
366		大熊町LSAMT	看護師、保健師、その他	12月3日	10	大熊町
367		大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士、その他	12月4日	11	大熊町
368		大熊町健康相談会	保健師、社会福祉士、栄養士、その他	12月4日	5	大熊町
369		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士、作業療法士	12月9日	5	富岡町
370		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士、栄養士	12月10日	5	大熊町
371		大熊町城前仮設ふら～っとルーム	社会福祉士	12月11日	2	大熊町
372		メンズクラブ	保健師、看護師、社会福祉士	12月11日	9	大熊町
373		大熊町ふら～っとルーム	看護師	12月15日	2	大熊町
374		ぐっちーcafé（支援者支援）	社会福祉士	12月17日	3	大熊町
375		第2回大熊町虐待防止対策連絡協議会	医師、社会福祉士、保健師、児童福祉司、教師、その他	12月18日	13	大熊町
376		大熊町障がい者支援事業所会議	保健師、社会福祉士、その他	12月24日	5	大熊町
377		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師	12月24日	3	大熊町
378		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、社会福祉士、栄養士	12月25日	9	富岡町
379		大熊町健康相談会	保健師、栄養士、その他	12月25日	3	大熊町
380		大熊町健康相談会	保健師、看護師、栄養士、その他	12月25日	13	大熊町
381		大熊町LSAMT	社会福祉士、保健師、ケアマネージャー、その他	1月7日	9	大熊町
382		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師	1月7日	8	大熊町
383		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	1月13日	3	富岡町
384		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、栄養士、社会福祉士	1月14日	6	大熊町
385		楢葉町ふら～っとルーム	看護師	1月15日	3	楢葉町
386		楢葉町ケア会議	看護師、その他	1月16日	16	楢葉町
387		大熊町ふら～っとルーム	看護師	1月17日	1	大熊町
388		ぐっちーcafé（支援者支援）	社会福祉士	1月21日	5	大熊町
389		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	1月26日	23	富岡町
390		大熊町障がい者支援事業所会議	保健師、社会福祉士、その他	1月28日	6	大熊町
391		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士	1月28日	1	大熊町
392		大熊町ふら～っとルーム	社会福祉士	2月2日	1	大熊町
393		楢葉町ふら～っとルーム	社会福祉士	2月3日	3	楢葉町
394		大熊町LSAMT	社会福祉士、保健師、ケアマネージャー、その他	2月4日	6	大熊町
395		ぐっちーcafé（支援者支援）	社会福祉士	2月4日	3	大熊町
396		大熊町健康相談会（みどり仮設）	看護師	2月5日	9	大熊町
397		大熊町健康相談会（城前仮設）	保健師、看護師、栄養士	2月5日	3	大熊町
398		大熊町健康相談会（扇町5号仮設）	保健師、看護師、栄養士	2月9日	4	大熊町
399		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	看護師、社会福祉士、栄養士	2月10日	3	富岡町
400		城前ふら～っとルーム	社会福祉士	2月12日	1	大熊町
401		大熊町健康相談会（城北仮設）	保健師、看護師、栄養士	2月16日	5	大熊町
402		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師	2月18日	1	大熊町
403		ちょいのびターイム	作業療法士、社会福祉士	2月18日	6	楢葉町
404		楢葉町ケア会議	看護師、その他	2月20日	12	楢葉町
405		K氏事例検討後の各機関の動きに関する打合せ	保健師、看護師、その他	2月20日	6	楢葉町
406		ちょいのびターイム	作業療法士、社会福祉士	2月25日	8	楢葉町
407		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士	2月25日	1	大熊町

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
408	会津方部センター	避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	2月26日	7	富岡町
409		大熊町健康相談会（松長5号仮設）	保健師、看護師、栄養士	2月26日	3	大熊町
410		大熊町健康相談会（長原仮設）	保健師、看護師、栄養士	2月26日	2	大熊町
411		大熊町健康相談会（扇町1号仮設）	保健師、看護師、栄養士	3月2日	4	大熊町
412		楢葉町ふら～っとルーム	看護師、社会福祉士、その他	3月3日	6	楢葉町
413		大熊町LSAMT	社会福祉士、保健師、ケアマネージャー、その他	3月4日	6	大熊町
414		ぐっちーcafé（支援者支援）	社会福祉士	3月4日	3	大熊町
415		避難者健康相談会担当者会議	看護師、社会福祉士、栄養士	3月9日	10	富岡町、双葉町、飯舘村
416		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士	3月11日	4	大熊町
417		城前ふら～っとルーム	社会福祉士	3月12日	6	大熊町
418		ふら～っとルーム（結）	社会福祉士	3月17日	6	大熊町
419		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士	3月18日	2	大熊町
420		ぐっちーcafé（支援者支援）	看護師、社会福祉士	3月25日	2	大熊町
421		大熊町障がい者支援事業所会議	保健師、社会福祉士、看護師、その他	3月25日	6	大熊町
422		避難者健康相談会（そうそう絆サロン）	保健師、看護師、社会福祉士、栄養士	3月26日	5	富岡町
423	相馬方部センター	なかよし広場、母子への支援	作業療法士、保育士	6月3日	56	南相馬市
424		原町保健センターへのコンサルテーション	臨床心理士	6月3日	1	南相馬市
425		原町保健センターへのコンサルテーション	臨床心理士	6月5日	1	南相馬市
426		幼稚園教諭巡回相談支援	作業療法士	6月5日	5	八沢幼稚園
427		ﾘﾄﾐｯｸ教室	臨床心理士、作業療法士	6月6日	18	南相馬市鹿島保健センター
428		なみえ相双会	臨床心理士、作業療法士	6月7日	19	原町生涯学習センター
429		保育士巡回相談支援	作業療法士	6月10日	4	上真野幼稚園
430		ケア会議	看護師、精神保健福祉士	6月11日	3	南相馬市
431		保健師への指導	作業療法士	6月11日	6	南相馬市
432		1･6歳児健診	作業療法士	6月11日	18	南相馬市鹿島保健センター
433		ケア会議	臨床心理士、保健師	6月11日	2	南相馬市鹿島区役所
434		八方内仮設住宅でのサロン	看護師	6月12日	5	南相馬市
435		3歳児健診	作業療法士	6月12日	34	南相馬市鹿島保健センター
436		ぽにたん広場　母子への支援	作業療法士、保育士、医師	6月13日	34	南相馬市鹿島保健センター
437		ケア会議	看護師	6月17日	1	障がい者就業･生活支援センター
438		ケア会議	看護師、その他	6月19日	10	新地町
439		キッチンママ	作業療法士	6月23日	17	南相馬市鹿島保健センター
440		なかよし広場、母子への支援	作業療法士、保育士	6月24日	78	南相馬市鹿島保健センター
441		大野台第6仮設住宅支援者会議	精神保健福祉士、その他	6月24日	不明	飯舘村
442		北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士	6月26日	不明	相馬市北飯淵仮設住宅
443		保育士巡回相談支援	作業療法士	6月26日	4	高平幼稚園
444		なかよし広場、母子への支援	作業療法士、保育士、その他	7月1日	62	南相馬市
445		かしまに集まった会	社会福祉士、作業療法士	7月1日	11	南相馬市
446		すこやか教室	作業療法士	7月2日	18	南相馬市原町保健センター
447		サロン　いちにのさ～んぽ	保健師、社会福祉士	7月3日	11	太田生涯学習センター
448		保育士巡回相談支援	作業療法士	7月3日	4	上真野幼稚園
449		4ヶ月健診	作業療法士	7月3日	20	南相馬市鹿島保健センター
450		すくすく教室	作業療法士	7月4日	6	南相馬市鹿島保健センター
451		10ヶ月健診	作業療法士	7月4日	36	南相馬市鹿島保健センター
452		ﾘﾄﾐｯｸ教室	保育士	7月4日	8	南相馬市原町保健センター
453		保育士巡回相談支援	作業療法士	7月8日	8	北町保育所
454		サロン　いちにのさ～んぽ	保健師、社会福祉士	7月9日	15	ひばり生涯学習センター
455		ぽにたん広場　母子への支援	作業療法士、保育士	7月10日	35	南相馬市鹿島保健センター
456		保育士巡回相談支援	作業療法士	7月10日	2	かしま幼稚園

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
457	相馬方部センター	サロン　いちにのさ～んぽ	社会福祉士	7月10日	21	ひがし生涯学習センター
458		サロン　いちにのさ～んぽ	作業療法士	7月11日	20	南相馬市
459		大野台第6仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士、医師	7月14日	不明	飯舘村
460		支援者支援	医師	7月14日	13	サポートセンターぴあ
461		サロン　いちにのさ～んぽ	作業療法士	7月16日	8	南相馬市
462		キッチンママ	保育士	7月18日	13	南相馬市鹿島保健センター
463		4ヶ月健診	作業療法士	7月22日	44	南相馬市原町保健センター
464		1･6歳児健診	作業療法士	7月26日	24	南相馬市原町保健センター
465		新地町支援者会議	臨床心理士、看護師	7月24日	不明	新地町
466		八方内仮設住宅でのサロン	看護師、社会福祉士	7月24日	3	南相馬市
467		サロン　いちにのさ～んぽ	社会福祉士	7月24日	7	南相馬市
468		3歳児健診	作業療法士、看護師	7月24日	24	南相馬市原町保健センター
469		3B親子体操	作業療法士	7月28日	19	南相馬市原町保健センター
470		サロン　いちにのさ～んぽ	社会福祉士	7月28日	6	南相馬市
471		サロン　いちにのさ～んぽ	作業療法士	7月29日	17	南相馬市
472		北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士	7月31日	不明	相馬市北飯淵仮設住宅
473		フォローワーチームとの情報交換	看護師、作業療法士	7月31日	不明	LVMH子どもアート･メゾン
474		なかよし広場、母子への支援	作業療法士、保育士	8月5日	59	南相馬市鹿島保健センター
475		1･6歳児健診	作業療法士	8月6日	14	南相馬市鹿島保健センター
476		3歳児健診	作業療法士	8月7日	19	南相馬市鹿島保健センター
477		相馬市大野台第6仮設住宅支援者会議	看護師、その他	8月12日	7	飯舘村
478		なかよし広場、母子への支援	作業療法士、保育士、臨床心理士	8月12日	71	南相馬市原町保健センター
479		かしまに集まった会	保健師、社会福祉士	8月12日	9	南相馬市
480		キッチンママ	保育士	8月13日	13	南相馬市原町保健センター
481		4ヶ月健診	作業療法士	8月19日	24	南相馬市
482		1･6歳児健診	作業療法士	8月20日	15	南相馬市原町保健センター
483		3歳児健診	作業療法士	8月21日	15	南相馬市原町保健センター
484		双葉町保健福祉実務者連絡会	看護師、作業療法士、その他	8月22日	3	双葉町
485		すくすく教室	作業療法士	8月22日	11	南相馬市原町保健センター
486		10ヶ月健診	作業療法士	8月22日	19	南相馬市原町保健センター
487		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	作業療法士	8月28日	2	相馬市
488		ぽにたん広場　母子への支援	看護師、保育士	8月30日	35	南相馬市
489		相馬市大野台第6仮設住宅（飯舘村）支援者会議	医師、作業療法士	9月2日	3	飯舘村
490		南相馬市母子愛育会への講師派遣	保育士、その他	9月2日	16	南相馬市
491		ケア会議	保健師、臨床心理士	9月4日	3	雲雀ケ丘病院
492		なみえ相双会	保健師、作業療法士	9月6日	54	浪江町
493		断酒会	看護師	9月6日	5	原町区労働福祉会館
494		南相馬市西町第一仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月8日	15	南相馬市
495		南相馬市牛河内第一仮設住宅健康講話	看護師	9月8日	5	南相馬市
496		なかよし広場	作業療法士、保育士、その他	9月9日	84	南相馬市原町保健センター
497		南相馬市寺内第一仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月9日	13	南相馬市
498		南相馬市西町第一仮設住宅健康講話	看護師	9月9日	3	南相馬市
499		ケア会議	作業療法士	9月10日	3	相馬中央病院
500		南相馬市角河原仮設住宅健康講話	看護師	9月10日	9	南相馬市
501		南相馬市小池長沼西仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月10日	6	南相馬市

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
502	相馬方部センター	南相馬市八方内仮設住宅サロン	看護師、作業療法士	9月11日	7	南相馬市
503		南相馬市雇用促進住宅健康講話	看護師	9月11日	6	南相馬市
504		南相馬市小池第一仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月11日	6	南相馬市
505		リトミック教室	保育士	9月12日	4	南相馬市原町保健センター
506		南相馬市原畑仮設住宅健康講話	看護師	9月12日	4	南相馬市
507		南相馬市牛河内仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月12日	6	南相馬市
508		4ヶ月健診	保育士	9月16日	30	南相馬市
509		ふくしま就職応援センターコンサルテーション	保健師、保育士	9月17日	1	ふくしま就職応援センター
510		ゆうゆうクラブ地域ミーティング	保育士	9月18日	20	相馬市　ゆうゆうクラブ
511		10ヶ月健診	保育士	9月19日	27	南相馬市原町保健センター
512		ケア会議	保健師、看護師、社会福祉士、医師	9月19日	7	地域包括支援センター
513		南相馬市西町第一仮設住宅健康講話	社会福祉士	9月22日	7	南相馬市
514		南相馬市寺内塚合第一仮設住宅健康講話	看護師	9月22日	6	南相馬市
515		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	作業療法士、その他	9月25日	7	南相馬市
516		ぽにたん広場	作業療法士、保育士	9月25日	30	南相馬市鹿島保健センター
517		南相馬市八方内仮設住宅サロン	臨床心理士、社会福祉士	9月25日	7	南相馬市
518		南相馬市小池第三仮設住宅健康講話	看護師	9月25日	3	南相馬市
519		南相馬市寺内塚合第二仮設住宅健康講話	臨床心理士、社会福祉士	9月25日	18	南相馬市
520		南相馬市健康福祉祭りについての会議	保健師	9月25日	19	南相馬市
521		南相馬市小池長沼東仮設住宅健康講話	保健師、看護士、保育士	9月26日	6	南相馬市
522		ハローワーク支援者会議	保健師、看護士、保育士	9月26日	4	南相馬市
523		南相馬市友伸グラウンド仮設住宅健康講話	看護師	9月26日	14	南相馬市
524		放射線健康講演会における保育	保育士	9月29日	9	南相馬市原町保健センター
525		なかよし広場	作業療法士、保育士	9月30日	72	南相馬市鹿島保健センター
526		児童の発達支援に関わる情報交換会	臨床心理士、保健師	9月30日	16	南相馬ラーニングセンター
527		南相馬市母子健康推進員養成講座	保育士、その他	10月1日	7	南相馬市
528		ぽにたん広場	作業療法士、保育士	10月2日	46	飯舘村
529		新地町支援者会議	作業療法士	10月2日	―	新地町
530		キッチンママ後期	保育士	10月3日	7	南相馬市鹿島保健センター
531		なみえ相双会	保健師	10月4日	60	浪江町
532		かしまに集まっ会	保健師、社会福祉士、保育士	10月6日	10	南相馬市鹿島保健センター
533		借上げ住宅ケースカンファレンス	社会福祉士	10月6日	―	南相馬市鹿島保健センター
534		なかよし広場	作業療法士、保育士	10月7日	77	南相馬市原町保健センター
535		南相馬市牛越仮設住宅健康講話	看護師、保育士	10月8日	10	南相馬市
536		南相馬市権現沢仮設住宅健康講話	保健師、看護師、社会福祉士	10月8日	7	南相馬市
537		放射線講演会・座談会及び放射線測定相談会での子育て相談、託児	保育士	10月8日	7	南相馬市原町保健センター
538		南相馬市八方内仮設住宅サロン	臨床心理士、社会福祉士、保育士	10月9日	8	南相馬市
539		南相馬市小池長沼西仮設住宅健康講話	社会福祉士	10月9日	6	南相馬市
540		南相馬市牛河内仮設住宅健康講話	臨床心理士、社会福祉士	10月9日	4	南相馬市
541		3歳児健診	保育士	10月9日	14	南相馬市鹿島保健センター

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
542	相馬方部センター	南相馬市小池小草仮設住宅健康講話	社会福祉士、保育士	10月10日	14	南相馬市
543		南相馬市原畑第二仮設住宅健康講話	社会福祉士	10月10日	4	南相馬市
544		南相馬市西町公園仮設住宅健康講話	社会福祉士	10月14日	6	南相馬市
545		南相馬市寺内第二仮設住宅健康講話	社会福祉士	10月14日	11	南相馬市
546		4ヶ月健診	保育士	10月14日	19	南相馬市原町保健センター
547		1歳6ヶ月健診	保育士	10月15日	17	南相馬市原町保健センター
548		3ヶ月健診	保育士	10月16日	12	南相馬市原町保健センター
549		ゆうゆうクラブ地域ミーティング	保健師	10月16日	14	相馬市　ゆうゆうクラブ
550		10ヶ月健診	保育士	10月17日	24	南相馬市原町保健センター
551		なかよし広場	作業療法士、保育士	10月21日	35	南相馬市鹿島保健センター
552		相馬市大野台第6（飯舘村）支援者会議	保健師、作業療法士、医師	10月21日	—	飯舘村
553		借上げ住宅住民への健康講話	看護師、保育士	10月22日	37	南相馬市
554		南相馬市牛河内第2仮設住宅健康講話	社会福祉士	10月22日	15	南相馬市
555		南相馬市小池第3仮設住宅　健康講話	社会福祉士	10月22日	17	南相馬市
556		南相馬市八方内仮設住宅サロン	社会福祉士、保育士	10月23日	5	南相馬市
557		南相馬市高見第1仮設住宅健康講話	看護師	10月23日	15	南相馬市
558		南相馬市大鹿仮設住宅　健康講話	看護師	10月23日	15	南相馬市
559		南相馬市桜井町仮設住宅　健康講話	看護師	10月24日	7	南相馬市鹿島保健センター
560		南相馬市高見第2仮設住宅健康講話	社会福祉士、保育士	10月28日	7	南相馬市
561		南相馬市牛河内第2仮設住宅健康講話	看護師	10月28日	9	南相馬市
562		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士	10月30日	—	相馬市
563		双葉町支援者会議	臨床心理士、作業療法士、医師	10月31日	—	双葉町
564		リトミック教室	保育士	10月31日	9	南相馬市原町保健センター
565		なかよし広場	作業療法士、保育士	11月4日	72	南相馬市原町保健センター
566		4歳児健診	保育士	11月6日	13	南相馬市原町保健センター
567		10ヶ月健診	保育士	11月7日	21	南相馬市鹿島保健センター
568		リフレッシュママクラス	保育士	11月10日	20	南相馬市原町保健センター
569		かしまに集まっ会	社会福祉士	11月10日	12	南相馬市鹿島保健センター
570		健康講話　むつみ荘	社会福祉士	11月10日	11	
571		相馬市大野台第6仮設住宅飯舘村支援者会議	看護師、作業療法士、医師	11月11日	12	飯舘村
572		ケア会議	看護師	11月11日	15	新地町
573		キッチンママ	保育士	11月12日	6	南相馬市鹿島保健センター
574		ぽにたん広場	作業療法士、保育士	11月13日	31	飯舘村
575		南相馬市八方内仮設住宅サロン	社会福祉士、臨床心理士、保健師、看護師	11月13日	6	南相馬市
576		リトミック教室	保育士	11月14日	13	南相馬市原町保健センター
577		ケア会議	保健師、医師	11月14日	1	
578		リフレッシュママクラス	保育士	11月17日	20	南相馬市原町保健センター
579		4ヶ月健診	保育士	11月18日	28	南相馬市原町保健センター
580		1歳6ヶ月健診	保育士	11月19日	17	南相馬市原町保健センター
581		相馬市災害弱者支援及びPTSD対策情報交換会	作業療法士	11月20日	ー	相馬市　支援者会議
582		ゆうゆうクラブ地域ミーティング	保健師、看護師、保育士	11月20日	22	相馬市　ゆうゆうクラブ
583		3歳児健診	保育士	11月20日	15	南相馬市原町保健センター
584		かしまに集まっ会	保健師、社会福祉士	11月20日	2	南相馬市原町保健センター

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
585	相馬方部センター	10ヶ月健診	保育士	11月21日	13	南相馬市原町保健センター
586		なかよし広場	作業療法士、保育士	11月25日	29	南相馬市鹿島保健センター
587		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	臨床心理士、作業療法士	11月27日	14	相馬市
588		南相馬市八方内仮設住宅サロン	看護師、保育士	11月27日	6	南相馬市
589		大熊町こころの元気を育てる講座「懐かしい料理であつまっぺ」	保健師、看護師	11月27日	21	大熊町
590		かしまに集まっ会	社会福祉士、保育士	12月1日	7	南相馬市鹿島保健センター
591		なかよし広場	作業療法士、保育士	12月2日	37	南相馬市原町保健センター
592		もりあげ隊定例会研修会講師	臨床心理士、社会福祉士	12月5日	28	南相馬市鹿島保健センター
593		キッチンママ	保育士	12月8日	6	南相馬市鹿島保健センター
594		なかよし広場	作業療法士、保育士	12月9日	29	南相馬市鹿島保健センター
595		相馬市大野台第6仮設住宅飯舘村支援者会	看護師、作業療法士、医師	12月9日	—	飯舘村
596		1歳6ヶ月健診	保育士	12月10日	14	南相馬市鹿島保健センター
597		南相馬市八方内仮設住宅サロン	臨床心理士、社会福祉士	12月11日	6	南相馬市
598		3歳児健診	作業療法士、保育士	12月11日	15	南相馬市鹿島保健センター
599		リトミック教室	保育士	12月12日	11	南相馬市原町保健センター
600		双葉町支援者会議	臨床心理士、保健師	12月12日	6	双葉町
601		1歳6ヶ月健診	保育士	12月17日	18	南相馬市原町保健センター
602		相馬市大野台第6仮設住宅子育てサロン	看護師、作業療法士、その他	12月18日	14	飯舘村
603		3歳児健診	保育士	12月18日	11	南相馬市原町保健センター
604		10ヶ月健診	保育士	12月19日	15	南相馬市原町保健センター
605		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	臨床心理士、看護士、その他	12月25日	—	相馬市
606		南相馬市八方内仮設住宅サロン	臨床心理士、保健師、看護師、社会福祉士、保育士、その他	12月25日	6	相馬市
607		南相馬市健康づくり課職員ストレス対処法講座	臨床心理士、保健師、社会福祉士、保育士	12月26日	11	南相馬市
608		なかよし広場	作業療法士、保育士	1月6日	37	南相馬市原町保健センター
609		かしまに集まっ会	保健師、社会福祉士、保育士	1月7日	5	南相馬市鹿島保健センター
610		新地町支援者会議	看護師、作業療法士	1月8日	2	新地町保健センター
611		南相馬市八方内仮設住宅サロン	臨床心理士、社会福祉士、保健師、保育士	1月8日	9	南相馬市
612		4ヶ月健診	保育士	1月8日	17	南相馬市鹿島保健センター
613		サロン　いちにのさ～んぽ	看護師	1月8日	27	南相馬市ひがし生涯学習センター
614		10ヶ月健診	保育士	1月9日	13	南相馬市鹿島保健センター
615		健康福祉まつり実行委員会会議	保健師	1月13日	12	南相馬市
616		ケア会議	保健師、社会福祉士	1月14日	—	南相馬市
617		ぽにたん広場	看護師、作業療法士、保育士	1月15日	18	飯舘村
618		サロン　いちにのさ～んぽ	社会福祉士	1月16日	18	南相馬市ひばり生涯学習センター
619		相馬市大野台第6仮設住宅（飯舘村）支援者会議	作業療法士、看護師、医師	1月20日	—	仮設住宅集会場にて
620		サロン　いちにのさ～んぽ	看護師	1月21日	6	南相馬市高平生涯学習センター
621		1歳6ヶ月健診	保育士	1月21日	9	南相馬市原町保健センター
622		相馬市大野台第6仮設住宅子育てサロン	看護師、作業療法士	1月22日	9	飯舘村
623		10ヶ月健診	保育士	1月23日	15	南相馬市原町保健センター
624		サロン　いちにのさ～んぽ	保育士	1月26日	12	南相馬市石神生涯学習センター
625		サロン　いちにのさ～んぽ	臨床心理士、看護師	1月27日	15	南相馬市原町区福祉会館
626		なかよし広場	保育士	1月27日	22	南相馬市鹿島保健センター
627		就労支援交流会	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	1月27日	—	南相馬市情報交流センター

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
628	相馬方部センター	相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士	1月29日	―	相馬市
629		サロン　いちにのさ～んぽ	保健師	1月29日	5	南相馬市
630		南相馬市西町第一仮設住宅ケースカンファレンス	看護師	1月29日	7	南相馬市
631		南相馬市西町第二仮設住宅ケースカンファレンス	看護師	1月29日	7	南相馬市
632		リトミック教室	保育士、看護師	1月30日	12	南相馬市
633		かしまに集まっ会	保健師、社会福祉士、保育士	2月2日	11	南相馬市鹿島保健センター
634		南相馬市長沢西仮設住宅ケースカンファ	看護師	2月2日	8	南相馬市
635		南相馬市権現沢仮設住宅ケースカンファ	看護師	2月2日	8	南相馬市
636		南相馬市塚合仮設住宅ケースカンファ	看護師	2月3日	8	南相馬市
637		南相馬市牛河内仮設住宅ケースカンファ	社会福祉士	2月3日	10	南相馬市
638		なかよし広場	作業療法士、保育士	2月3日	35	南相馬市鹿島保健センター
639		ケア会議　本人出席　自宅にて	看護師、作業療法士、その他	2月4日	5	
640		南相馬市小池仮設住宅ケースカンファ	社会福祉士	2月4日	10	南相馬市
641		南相馬市原畑仮設住宅ケースカンファ	看護師	2月4日	10	南相馬市
642		南相馬市寺内仮設住宅ケースカンファ	社会福祉士	2月5日	10	南相馬市
643		なみえ相双会	看護師	2月7日	32	浪江町
644		南相馬市牛越仮設住宅ケースカンファ	社会福祉士	2月9日	11	南相馬市
645		相馬市大野台第6仮設住宅支援者会議	作業療法士、医師	2月10日	―	飯舘村
646		ぽにたん広場	保育士	2月10日	21	飯舘村
647		ケア会議　雲雀ケ丘病院にて	社会福祉士、その他	2月10日	9	南相馬市
648		南相馬市八方内仮設住宅サロン	保健師、臨床心理士、社会福祉士、保育士	2月12日	4	南相馬市
649		1歳6ヶ月健診	保育士	2月12日	14	南相馬市鹿島保健センター
650		3歳児健診	保育士	2月13日	18	南相馬市鹿島保健センター
651		ケア会議　なごみ南相馬事務所にて	保健師、看護師、臨床心理士、社会福祉士、保育士、医師、その他	2月13日	10	南相馬市
652		ケア会議	看護師、その他	2月16日	11	新地町
653		南相馬市友伸仮設住宅ケースカンファ	看護師	2月16日	9	南相馬市
654		南相馬市原町第一仮設住宅ケースカンファ	社会福祉士	2月16日	10	南相馬市
655		南相馬市塚合第二仮設住宅ケースカンファ	臨床心理士、社会福祉士	2月17日	9	南相馬市
656		4ヶ月健診	保育士	2月17日	17	南相馬市原町保健センター
657		1歳6ヶ月健診	保育士	2月18日	15	南相馬市鹿島保健センター
658		大野台第6仮設住宅子育てサロン	看護師、臨床心理士、作業療法士	2月19日	6	飯舘村
659		3歳児健診	保育士	2月19日	18	南相馬市鹿島保健センター
660		10ヶ月健診	保育士	2月20日	27	南相馬市原町保健センター
661		ケア会議	保健師、医師、教師、児相職員	2月20日	7	原町第二中
662		なかよし広場	作業療法士、保育士	2月24日	22	南相馬市鹿島保健センター
663		相馬市保健センターとの同行訪問	作業療法士	2月26日	1	相馬市
664		新地町健康づくり推進委員会講演会	看護師、作業療法士、その他	2月26日	43	新地町
665		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士、その他	2月26日	―	相馬市
666		南相馬市八方内仮設住宅サロン	保健師、臨床心理士、社会福祉士、保育士	2月26日	9	南相馬市

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
667	相馬方部センター	双葉町支援者会議	看護師、臨床心理士	2月27日	10	双葉町
668		リトミック教室	保育士	2月27日	13	南相馬市鹿島保健センター
669		南相馬市被災者健康支援連絡会（アルコール勉強会）	保健師、看護士、保育士	3月2日	40	南相馬市
670		なかよし広場	作業療法士、保育士	3月3日	41	南相馬市原町保健センター
671		ケア会議	保健師、看護士、精神保健福祉士	3月4日	8	
672		4ヶ月健診	保育士	3月5日	20	南相馬市鹿島保健センター
673		ケア会議	臨床心理士	3月5日	3	
674		10ヶ月健診	保育士	3月6日	12	南相馬市鹿島保健センター
675		かしまに集まっ会	保育士、その他	3月9日	12	南相馬市鹿島保健センター
676		なかよし広場	作業療法士、保育士	3月10日	57	南相馬市鹿島保健センター
677		相馬市大野台第6仮設住宅支援者会議	看護師、医師	3月10日	—	相馬市
678		南相馬市八方内サロン仮設住宅	保健師、社会福祉士、保育士、その他	3月12日	16	南相馬市
679		リトミック教室	保育士	3月13日	20	南相馬市鹿島保健センター
680		4ヶ月健診	保育士	3月17日	22	南相馬市原町保健センター
681		1歳6ヶ月健診	保育士	3月18日	30	南相馬市原町保健センター
682		相馬市大野台第6仮設住宅子育てサロン	作業療法士、保育士	3月19日	6	相馬市
683		3歳児健診	保育士	3月19日	16	南相馬市原町保健センター
684		10ヶ月健診	保育士	3月20日	23	南相馬市原町保健センター
685		相馬市北飯淵仮設住宅支援者会議	看護師、作業療法士、その他	3月26日	3	相馬市
686		南相馬市八方内サロン仮設住宅	保健師、臨床心理士、社会福祉士、保育士、その他	3月26日	13	南相馬市
687		リトミック教室	作業療法士、保育士	3月27日	48	南相馬市原町保健センター
688	いわき方部センター	役場支援	臨床心理士	4月1日	4	楢葉町役場いわき出張所
689		広野町全職員面接報告会についての打合せ	臨床心理士	4月7日	6	広野町
690		楢葉町ケア会議	看護師、精神保健福祉士	4月10日	12	楢葉町
691		今後の連携について	臨床心理士	4月10日	4	いわき市保健所
692		広野町全職員面接報告会	臨床心理士	4月10日	6	広野町
693		双葉町保健福祉実務者連絡会	臨床心理士、看護師	4月17日	14	双葉町
694		大熊町いわき福祉行政情報交換会	臨床心理士、看護師	4月17日	12	大熊町役場いわき出張所
695		浪江町親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	4月17日	21	浪江町
696		楢葉町ケア会議	臨床心理士	4月24日	13	楢葉町
697		双葉町全職員面談実施に関する打合せ	臨床心理士	4月24日	7	双葉町
698		双葉町・県民健康管理センターとの合同打合せ	臨床心理士、看護師	4月24日	14	双葉町
699		双葉町自殺防止事業打合せ	臨床心理士	4月28日	4	双葉町
700		双葉町支援者支援打合せ	臨床心理士	5月2日	3	双葉町
701		双葉町職員面談打合せ	臨床心理士	5月13日	4	双葉町
702		楢葉町ケア会議	臨床心理士、看護師	5月15日	13	楢葉町
703		双葉町自殺防止事業打合せ	臨床心理士	5月15日	2	双葉町
704		浪江町親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	5月15日	37	いわき市文化センター
705		双葉町自殺防止事業打合せ	臨床心理士、看護師	5月15日	3	双葉町
706		一般向け研修打合せ	看護師、社会福祉士、精神保健福祉士	5月21日	4	いわき市保健所
707		いわき市自立支援協議会児童養護部会	社会福祉士、精神保健福祉士	5月21日	21	いわき市
708		楢葉町ケア会議	臨床心理士、看護師	5月22日	15	楢葉町
709		広野町食生活改善協議会の訪問活動	臨床心理士、社会福祉士	5月28日	5	広野町保健センター
710		双葉町保健福祉実務者連絡会	臨床心理士	5月28日	12	双葉町
711		双葉町事業支援打合せ	臨床心理士、看護師	6月4日	4	双葉町
712		双葉町職員面談打合せ	臨床心理士	6月5日	5	双葉町
713		県民健康調査について	臨床心理士	6月6日	4	楢葉町・県民健康管理センターとの合同打合せ

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
714	いわき方部センター	広野町職員メンタルヘルスに関するコンサルテーション	臨床心理士	6月6日	6	広野町
715		浪江町ケース会議	臨床心理士	6月11日	6	浪江町
716		楢葉町ケア会議	臨床心理士、看護師	6月12日	11	楢葉町
717		双葉町保健福祉実務者連絡会	臨床心理士	6月18日	8	双葉町
718		大熊町いわき福祉行政情報交換会	臨床心理士、看護師	6月19日	13	大熊町役場いわき出張所
719		浪江町親子ふれあい教室	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	6月19日	36	浪江町
720		楢葉町ケア会議	臨床心理士、看護師	6月26日	11	楢葉町
721		楢葉町ケア会議	臨床心理士、看護師	7月3日	13	楢葉町
722		職員メンタルヘルス面談についての打ち合わせ	臨床心理士	7月4日	3	双葉町
723		広野町　事後フォロー　打ち合わせ	臨床心理士	7月5日	5	広野町
724		浪江町ぐるりんこ支援、6月分ケース報告	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	7月8日	6	浪江町
725		今後の連携とケース対応について	臨床心理士	7月10日	2	広野町
726		いわき市住民支援について	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	7月14日	4	いわき市保健所
727		情報交換	社会福祉士、精神保健福祉士	7月14日	6	いわき市常磐・遠野地区保健福祉センター
728		事業内容確認と、今後の連携について	臨床心理士、看護師、精神保健福祉士	7月15日	5	いわき市平地区保健福祉センター
729		内郷・好間・三和地区保健福祉センターとの情報交換	社会福祉士、精神保健福祉士	7月16日	3	いわき市内郷・好間・三和地区保健福祉センター
730		県民健康調査について	臨床心理士	7月17日	8	楢葉町・県民健康管理センターとの合同打合せ
731		双葉町保健福祉実務者連絡会	臨床心理士	7月17日	11	双葉町
732		いわき市平地区センター打ち合わせ	臨床心理士	7月17日	5	いわき市平地区保健福祉センター
733		なみえ町ぐるりんこ隊のメンタルヘルス	臨床心理士、看護師	7月29日	3	浪江町
734		なみえ町ぐるりんこ隊のメンタルヘルス	看護師、精神保健福祉士	7月30日	3	浪江町
735		浪江町親子ふれあい教室	臨床心理士、精神保健福祉士、保健師、保育士、社会福祉士	8月21日	30	いわき市文化センター
736		楢葉町ケア会議	看護師	9月5日	12	楢葉町
737		8月訪問分のケース報告他打ち合わせ	看護師、精神保健福祉士	9月9日	4	浪江町
738		浪江町親子ふれあい教室	看護師、精神保健福祉士	9月18日	25	いわき市文化センター
739		双葉町保健福祉実務者連絡会（第13回）	臨床心理士	9月26日	9	双葉町
740		楢葉町健診支援	臨床心理士	9月27日	—	楢葉町
741		楢葉町健診支援	臨床心理士	9月28日	—	楢葉町
742		楢葉町健診支援	臨床心理士	9月29日	4	楢葉町
743		楢葉町健診支援	臨床心理士	9月30日	—	楢葉町
744		楢葉町健康診断支援	臨床心理士	10月1日	—	楢葉町
745		楢葉町健康診断支援	保健師、臨床心理士、その他	10月2日	—	楢葉町
746		大熊町9月分ケース報告	保健師、看護師	10月3日	2	大熊町
747		楢葉町健康診断支援	保健師、看護師、臨床心理士、その他	10月10日	—	楢葉町
748		楢葉町健康づくり推進協議会検討会	保健師、栄養士、歯科衛生士、その他	10月14日	14	楢葉町
749		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、精神保健福祉士、保育士	10月16日	11	浪江町
750		大熊町健康診断打ち合わせ	保健師、看護師	10月20日	4	大熊町
751		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月20日	9	楢葉町
752		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月21日	12	楢葉町
753		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月22日	10	楢葉町
754		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	10月23日	12	楢葉町

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
755	いわき方部センター	双葉町ママカフェ	保健師、看護師	10月23日	4	双葉町
756		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月23日	16	楢葉町
757		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月24日	8	楢葉町
758		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	10月24日	15	楢葉町
759		双葉町健診打ち合わせ	保健師、臨床心理士	10月27日	2	双葉町
760		大熊町総合健診	看護師	10月28日	—	大熊町
761		大熊町総合健診	看護師	10月29日	—	大熊町
762		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、臨床心理士、その他	10月30日	9	双葉町
763		大熊町総合健診	看護師	10月30日	—	大熊町
764		大熊町総合健診	看護師	10月31日	—	大熊町
765		楢葉町健康づくり推進協議会検討会	保健師、歯科衛生士、医師、臨床心理士、その他	11月5日	15	楢葉町
766		双葉町健診支援	保健師、臨床心理士、その他	11月11日	2	双葉町
767		相双地域子ども遊びの教室	保健師、臨床心理士、保育士	11月17日	8	双葉町、富岡町、浪江町
768		楢葉町元気あっぷ教室	保健師、看護師	11月17日	10	楢葉町
769		豊間復興住宅リラクゼーション	臨床心理士、看護士	11月19日	30	いわき市平地区保健福祉センター
770		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	11月20日	7	楢葉町
771		大熊町いわき市内福祉行政の情報交換会	保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、その他	11月20日	7	大熊町
772		浪江町ケース報告会	保健師、精神保健福祉士	11月20日	5	浪江町
773		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、保育士、看護師、精神保健福祉士	11月20日	29	浪江町
774		富岡町ケース会議	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	11月21日	9	富岡町
775		薄磯復興住宅リラクゼーション	臨床心理士、看護士	11月26日	8	いわき市平地区保健福祉センター
776		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、臨床心理士、その他	11月27日	9	双葉町
777		双葉町ママカフェ	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	11月27日	1	双葉町
778		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	12月4日	13	楢葉町
779		双葉町職員メンタルヘルス対策についてのコンサルテーション	医師、臨床心理士、その他	12月9日	7	双葉町
780		双葉町支援者支援打ち合わせ	保健師、臨床心理士、精神保健福祉士、その他	12月10日	7	双葉町
781		第9回相双地域等障がい児者支援関係者会議	保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、教諭、その他	12月15日	7	
782		豊間地区リラクゼーション	臨床心理士、看護士、精神保健福祉士	12月16日	17	いわき市平地区保健福祉センター
783		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、臨床心理士、その他	12月16日	9	双葉町
784		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	12月18日	11	楢葉町
785		薄磯地区リラクゼーション	臨床心理士、看護士、社会福祉士	12月18日	10	いわき市平地区保健福祉センター
786		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、保育士、看護師、精神保健福祉士	12月18日	10	浪江町
787		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月13日	11	大熊町
788		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月15日	6	大熊町
789		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、臨床心理士、その他	1月15日	9	双葉町
790		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、保育士、看護師、精神保健福祉士	1月15日	9	浪江町
791		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月16日	5	大熊町
792		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月20日	9	大熊町
793		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、ケアマネージャー、その他	1月22日	15	楢葉町
794		大熊町いわき福祉行政情報交換会（第5回）	保健師、看護師、臨床心理士、その他	1月22日	10	大熊町

	開催方部・駐在	内容	講師・スタッフ	期日	参加者数	備考
795	いわき方部センター	双葉町ママサロン	保健師、看護師、その他	1月22日	2	双葉町
796		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月27日	19	大熊町
797		大熊町　健康サロン「リラクゼーション」	看護師	1月28日	6	大熊町
798		富岡町ケース会議	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	1月30日	12	富岡町
799		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、ケアマネージャー、その他	2月5日	19	楢葉町
800		楢葉町健康づくり推進協議会検討会	―	2月6日	13	楢葉町
801		薄磯地区リラクゼーション	臨床心理士、看護士	2月17日	13	いわき市平地区保健福祉センター
802		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、その他	2月17日	9	双葉町
803		富岡町ケース会議	保健師、看護師、臨床心理士	2月18日	4	富岡町
804		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、保育士、看護師、精神保健福祉士	2月19日	16	浪江町
805		ケース関係者会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	2月25日	6	広野町
806		ケース会議（広野町）	保健師、社会福祉士、教師、その他	2月25日	6	広野町
807		豊間地区リラクゼーション	臨床心理士、看護士、精神保健福祉士	2月26日	19	いわき市平地区保健福祉センター
808		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	3月5日	9	楢葉町
809		双葉町保健福祉実務者連絡会	保健師、看護師、臨床心理士、その他	3月17日	9	双葉町
810		楢葉町ケア会議	保健師、看護師、臨床心理士、その他	3月19日	21	楢葉町
811		大熊町いわき福祉行政情報交換会（第6回）	保健師、看護師、その他	3月19日	11	大熊町
812		浪江町ケース報告会	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	3月19日	7	浪江町
813		浪江町親子ふれあい教室	保健師、臨床心理士、保育士、看護師、精神保健福祉士	3月19日	17	浪江町
814		双葉町ママサロン	保健師、看護師、その他	3月26日	7	双葉町
815		富岡町ケース会議	保健師、看護師、精神保健福祉士、その他	3月27日	10	富岡町
816	加須市駐在	訪問ケースの情報交換	精神保健福祉士	4月9日	8	双葉町民ケース情報交換会議
817		訪問ケースの情報交換	精神保健福祉士	4月23日	8	双葉町民ケース情報交換会議
818		訪問ケースの情報交換	精神保健福祉士	5月14日	7	双葉町民ケース情報交換会議
819		訪問ケースの情報交換	精神保健福祉士	5月28日	7	双葉町民ケース情報交換会議
820		訪問ケースの情報交換（定例）	精神保健福祉士	6月11日	7	双葉町民ケース情報交換会議
821		訪問ケースの情報交換（定例）	精神保健福祉士	6月25日	7	双葉町民ケース情報交換会議
822		訪問ケース・面接技法の助言	精神保健福祉士	7月1日	6	浪江町復興支援員事例検討会
823		訪問ケースの情報交換（定例）	精神保健福祉士	7月9日	8	双葉町民ケース情報交換会議
824		訪問ケースの情報交換（定例）	精神保健福祉士	7月23日	6	双葉町民ケース情報交換会議

（福島県への報告から）

関係機関との連絡会

		内容	期日	会場	参加者数	実施回数
1	基幹センター	第88回心の健康度専門員会	4月7日	福島県立医科大学	34	
2		第89回心の健康度専門員会	4月14日	福島県立医科大学	35	
3		第90回心の健康度専門員会	4月21日	福島県立医科大学	36	
4		第91回心の健康度専門員会	5月12日	福島県立医科大学	30	
5		第92回心の健康度専門員会	5月26日	福島県立医科大学	29	
6		平成26年度「自殺対策官民連携協働ブロック会議」	6月20日	福島テルサ	42	
7		第93回心の健康度専門員会	6月16日	福島県立医科大学	35	
8		第94回心の健康度専門員会	6月23日	福島県立医科大学	34	
9		被災3県における心のケア支援事業合同会議	6月30日	東北厚生局	77	
10		第95回心の健康度専門員会	7月14日	福島県立医科大学	39	
11		第96回心の健康度専門員会	7月28日	福島県立医科大学	27	
12		第97回心の健康度専門員会	8月4日	福島県立医科大学	34	
13		第98回心の健康度専門員会	8月25日	福島県立医科大学	26	
14		第99回心の健康度専門員会	9月8日	福島県立医科大学	25	
15		災害派遣精神医療チーム（DPAT）に関する活動指針検討会	9月25日	トラストシティカンファレンス・丸の内	23	
16		第100回心の健康度専門員会	10月6日	福島県立医科大学	35	
17		第101回心の健康度専門員会	10月20日	福島県立医科大学	32	
18		第102回心の健康度専門員会	11月10日	福島県立医科大学	34	
19		平成26年度第1回福島県災害派遣精神医療チーム（DPAT）運営協議会	11月18日	杉妻会館	20	
20		第103回心の健康度専門員会	11月20日	福島県立医科大学	22	
21		平成26年度第23回生活復興VC連絡会	11月27日	福島県社会福祉協議会	12	
22		第104回心の健康度専門員会	12月9日	福島県立医科大学	32	
23		第105回心の健康度専門員会	12月15日	福島県立医科大学	32	
24		被災3県における心のケア支援事業合同会議	12月19日	東北厚生局	65	
25		第106回心の健康度専門員会	12月22日	福島県立医科大学	33	
26		第107回心の健康度専門員会	1月19日	福島県立医科大学	27	
27		平成26年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委委員会	1月22日	杉妻会館	24	
28		第108回心の健康度専門員会	2月2日	福島県立医科大学	33	
29		第109回心の健康度専門員会	2月16日	福島県立医科大学	34	
30		第110回心の健康度専門員会	3月2日	福島県立医科大学	33	
31		第111回心の健康度専門員会	3月16日	福島県立医科大学	34	
32		平成26年度福島県自殺対策推進協議会	3月27日	福島県庁本庁舎	16	
33		第112回心の健康度専門員会	3月30日	福島県立医科大学	34	
34	県中方部センター	みやぎ心のケアセンターとの合同研修会	2月20日	仙台市	13	
35		町村別被災者健康支援活動連絡会	2月23日	葛尾村役場	18	
36		福島県県中保健福祉事務所との定例会	2月27日	県中方部センター	1	
37		町村別被災者健康支援活動連絡会	3月6日	富岡町郡山事務所	16	
38		富岡町社協次年度事業打ち合わせ	3月12日	おだがいさまセンター	3	
39		次年度事業打ち合わせ	3月13日	双葉町郡山支所	1	
40		福島県県中保健福祉事務所との定例会	3月17日	県中方部センター	1	
41		三春町次年度打ち合わせ	3月19日	三春町役場	3	
42		矢吹病院精神保健業務懇談会	3月20日	矢吹病院	37	
43		三県合同企画打ち合わせ（心のケアセンター）	3月23日	みやぎ心のケアセンター	5	
44		富岡町絆支援員メンタルヘルス事業報告会	3月25日	富岡町役場郡山事務所	6	
45		福島県県中保健福祉事務所「アルコール家族教室」打ち合わせ	3月25日	県中方部センター	2	
46	相馬方部センター	相馬市大野台第6仮設住宅支援スタッフ情報共有会（飯舘村）	月1回	相馬市大野台第6仮設住宅集会場		
47		相馬市災害弱者支援及びPTSD対策情報交換会	年3回	相馬市市役所等		
48		南相馬市被災者健康支援連絡会	不定期	南相馬市保健センター		
49		仮設住宅入居者等支援関係者情報交換会（新地町）	隔月	新地町保健センター		

		内容	期日	会場	参加者数	実施回数
50	いわき方部センター	楢葉町ケア会議	4月10日	楢葉町サポートセンター	12	1
51		大熊町いわき福祉行政情報交換会	4月17日	大熊町いわき出張所	12	1
52		双葉町保健福祉実務者連絡会	4月17日	南台仮設ひだまり	14	1
53		相双地域等障がい児者支援関係者会議	4月21日	いわき合同庁舎	5	1
54		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	4月24日	いわき市社会福祉センター	38	1
55		楢葉町ケア会議	4月24日	楢葉町サポートセンター	14	1
56		楢葉町ケア会議	5月15日	楢葉町サポートセンター	13	1
57		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	5月19日	いわき合同庁舎	5	1
58		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	5月22日	いわき市社会福祉センター	32	1
59		楢葉町ケア会議	5月22日	楢葉町サポートセンター	15	1
60		双葉町保健福祉実務者連絡会	5月28日	南台仮設ひだまり	14	1
61		浪江町ケース報告会	6月11日	いわき合同庁舎	5	1
62		楢葉町ケア会議	6月12日	楢葉町サポートセンター	11	1
63		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	6月16日	いわき合同庁舎	4	1
64		みんぷく会議	6月17日	みんぷく	—	1
65		双葉町保健福祉実務者連絡会	6月18日	南台仮設ひだまり	8	1
66		大熊町いわき福祉行政情報交換会	6月19日	大熊町いわき出張所	13	1
67		平成26年度第1回保健事業担当者会議	6月24日	いわき合同庁舎	27	1
68		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	6月26日	いわき市社会福祉センター	33	1
69		楢葉町ケア会議	6月26日	楢葉町サポートセンター	10	1
70		楢葉町ケア会議	7月3日	楢葉町サポートセンター	13	1
71		浪江町ケース報告会	7月8日	ケアセンターいわき方部	5	1
72		みんぷく会議	7月15日	みんぷく	—	1
73		双葉町保健福祉実務者連絡会	7月17日	南台仮設ひだまり	12	1
74		楢葉町ケア会議	7月24日	楢葉町サポートセンター	12	1
75		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	7月28日	いわき合同庁舎	5	1
76		浪江町ケース報告会	8月1日	浪江町役場	5	1
77		双葉町ケース報告会	8月7日	いわき方部センター	3	1
78		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	8月18日	いわき合同庁舎	5	1
79		大熊町いわき福祉行政情報交換会	8月21日	大熊町いわき出張所	12	1
80		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	8月28日	いわき市社会福祉センター	28	1
81		双葉町保健福祉実務者連絡会	8月29日	南台仮設ひだまり	12	1
82		楢葉町ケア会議	9月4日	楢葉町サポートセンター	12	1
83		浪江町ケース報告会	9月9日	いわき方部センター	5	1
84		みんぷく会議	9月9日	みんぷく	—	1
85		双葉町保健福祉実務者連絡会	9月29日	南台仮設ひだまり	12	1
86		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	9月26日	いわき合同庁舎	5	1
87		楢葉町ケア会議	10月2日	楢葉町サポートセンター	12	1
88		大熊町ケース報告会	10月3日	大熊町役場いわき出張所	2	1
89		ならは健康づくり推進協議会	10月14日	楢葉町いわき出張所	14	1
90		みんぷく会議	10月14日	みんぷく	—	1
91		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	10月20日	いわき合同庁舎	5	1
92		広野中学校ケース会議	10月22日	広野町立広野中学校	—	
93		広野小学校ケース会議	10月22日	広野町立広野小学校	—	
94		楢葉町ケア会議	10月23日	楢葉町サポートセンター	12	1
95		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	10月29日	いわき市社会福祉センター	22	1
96		双葉町保健福祉実務者連絡会	10月30日	南台仮設ひだまり	9	1
97		ならは健康づくり推進協議会	11月5日	楢葉町いわき出張所	14	1
98		相双地域等障がい児･者支援関係者会議	11月17日	いわき合同庁舎	5	1
99		浪江町ケース報告会	11月20日	いわき市文化センター	5	1
100		大熊町いわき福祉行政情報交換会	11月20日	大熊町いわき出張所	7	1
101		双葉町ケース報告会	11月20日	双葉町役場いわき出張所	2	1
102		楢葉町ケア会議	11月20日	楢葉町サポートセンター	7	1
103		富岡町ケース会議	11月21日	富岡町役場いわき支所	9	1
104		双葉町保健福祉実務者連絡会	11月27日	南台仮設ひだまり	14	1

		内容	期日	会場	参加者数	実施回数
105	いわき方部センター	楢葉町ケア会議	11月27日	楢葉町サポートセンター	11	1
106		ならは健康づくり推進協議会	12月1日	楢葉町いわき出張所	14	1
107		楢葉町ケア会議	12月4日	楢葉町サポートセンター	13	1
108		広野中学校ケース会議	12月10日	広野町立広野中学校	—	1
109		相双地域等障がい児・者支援関係者会議	12月15日	いわき合同庁舎	5	1
110		双葉町保健福祉実務者連絡会	12月16日	南台仮設ひだまり	8	1
111		みんぷく会議	12月16日	みんぷく	—	1
112		楢葉町ケア会議	12月18日	楢葉町サポートセンター	11	1
113		厚生労働省科学研究「被災地における精神障害等の状況把握と介入効果の検証及び介入手法の向上に資する研究」	12月18日	トラストシティカンファレンス・丸の内	—	
114		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	12月25日	いわき市社会福祉センター	23	1
115		双葉町ケース報告会	1月7日	双葉町役場いわき出張所	3	1
116		浪江町ケース報告会	1月15日	なみえ交流館	6	1
117		双葉町保健福祉実務者連絡会	1月15日	南台仮設ひだまり	14	1
118		相双地域等障がい児・者支援関係者会議	1月19日	いわき合同庁舎	5	1
119		みんぷく会議	1月20日	みんぷく	—	1
120		大熊町いわき福祉行政情報交換会	1月22日	大熊町いわき出張所	10	1
121		楢葉町ケア会議	1月22日	楢葉町サポートセンター	14	1
122		富岡町ケース報告会	1月23日	富岡町役場いわき支所	4	1
123		富岡町ケース会議	1月30日	富岡町役場いわき支所	12	1
124		楢葉町ケア会議	2月5日	楢葉町サポートセンター	18	1
125		ならは健康づくり推進協議会	2月6日	楢葉町いわき出張所	14	1
126		相双地域等障がい児・者支援関係者会議	2月16日	いわき合同庁舎	5	1
127		双葉町保健福祉実務者連絡会	2月17日	南台仮設ひだまり	8	1
128		富岡町ケース報告会	2月18日	富岡町役場いわき支所	4	1
129		浪江町ケース報告会	2月19日	いわき市文化センター	5	1
130		保健事業担当者会議	2月26日	いわき市文化センター	27	1
131		いわき市内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	2月27日	いわき市社会福祉センター	23	1
132		大熊町ケース報告会	2月27日	大熊町いわき出張所	4	1
133		富岡町ケース報告会	3月4日	富岡町役場いわき支所	4	1
134		大熊町ケース報告会	3月4日	大熊町いわき出張所	4	1
135		楢葉町ケア会議	3月5日	楢葉町サポートセンター	9	1
136		ならは健康づくり推進協議会	3月6日	楢葉町いわき出張所	14	1
137		双葉町保健福祉実務者連絡会	3月17日	南台仮設ひだまり	8	1
138		楢葉町ケア会議	3月19日	楢葉町サポートセンター	20	1
139		大熊町いわき福祉行政情報交換会	3月19日	大熊町いわき出張所	10	1
140		浪江町ケース報告会	3月19日	いわき市文化センター	5	1
141		富岡町ケース会議	3月27日	富岡町役場いわき支所	12	1
142	加須市駐在	双葉町健康福祉課（いわき事務所）駐在業務打ち合わせ・報告	適宜	双葉町いわき事務所		
143		双葉町生活支援課（いわき事務所・埼玉支所）駐在業務打ち合わせ・報告	適宜	双葉町いわき事務所・埼玉支所		
144		双葉町社会福祉協議会（加須事務所）ケース報告会	月2回	双葉町社協（加須）	6～9	
145		埼玉県社会福祉士会ケース報告会	月1回	双葉町社協（加須）	9～13	
146		加須市駐在活動終了に向けた打ち合わせ	適宜			

その他

		要請機関	テーマ	講師・スタッフ	期日	会場	対象者	実施回数	受講者数
1	基幹センター	福島県県北保健福祉事務所	業務説明		9月12日	ー	福島学院大学学生		1
2	県北方部センター	福島県県北保健福祉事務所	アルコール家族教室	県北方部職員	5月18日	県北保健福祉事務所	アルコール依存症者の家族		
3	県中方部センター	田村市商工会議所	たむらスマイルプロジェクトinねぶた	岩沢裕樹 山下和彦	8月5日・6日	青森県青森市		1	35
4		山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安心局	やまがた避難者支援協働ネットワーク「全体意見交換会」:心のケアと孤立防止	渡部育子 松田聡一郎	10月30日	山形県村山総合支庁			
5		福島県県中保健福祉事務所	健康支援サロン	田崎美和 渡部千景	9月19日	大槻東地域公民館		1	1
6		福島精神保健福祉協会	自殺対策関係者研修	山下和彦	1月23日	県北保健福祉事務所		1	46
7		日本作業療法士協会	災害支援ボランティア登録者研修会	菅野寿洋	2月15日	日本作業療法士協会		1	15
8	会津方部センター	福島県会津保健福祉事務所	獨協医科大学地域保健実習&福島保護観察所職員研修	会津方部センター	10月14日	会津方部センター	医学部学生1名&社会復帰調整官1名		2
9	相馬方部センター	早稲田大学人間科学部健康福祉科学科	「災害時におけるコミュニティソーシャルワークの役割」に関する研究協力						
10		高知県立大学看護学部	被災家族への看護支援モデルの構築と活用に関する研究						
11	いわき方部センター	福島県相双保健福祉事務所	相双地域あそびの教室	植田由紀子	5月26日	いわき市総合保健福祉センター	発達の遅れの疑いがあり経過観察が必要とされた幼児とその保護者		
12					6月23日				
13					7月28日				
14					8月25日				
15					9月29日				
16					10月27日				
17					11月17日				
18					12月22日				
19					1月26日				
20					2月23日				

チラシ、パンフレット等の作成等印刷

種　　類	テーマ	規格;作成部数	作成年度	備考
パンフレット	うつ病･自殺予防パンフレット	1,600	2014	
	うつ病･うつ状態について	1,000	2014	
	からだとこころの状態にすこし目をむけてみませんか?	215,000	2014	
	緊急事態から「脳･こころ･身体」が回復するしくみ	1,000	2014	
	被災者相談ダイヤル（増刷）	A4判:600部	2014	
	認知症を支える家族へ	500枚	2014	
ポスター	「笑いと健康」高座&講座･･笑顔で「心」について考えよう	50	2014	
チラシ	「笑いと健康」高座&講座･･笑顔で「心」について考えよう	1,000	2014	
機関誌発行	ふくここ（5月、7月、9月、11月、1月、3月）	各月70～100枚	2014	

運営委員会

	実施日	内容	出席者	場所	人数
1	7月31日	ふくしま心のケアセンター事業報告、事業計画他	運営委員12名他	福島県精神保健福祉センター	28
2	2月26日	事業中間報告、地域アルコール対応力強化事業、事業計画			23

方部連絡調整会議

	方部別	実施日	内容	出席者	場所	人数	備考
1	県北	2月19日	活動報告、意見交換会	福島市医師会他	福島県精神保健福祉センター	27	
2	県中	10月21日	活動報告、グループワーク等	郡山市保健所他	郡山市ミューカルがくと館	32	
3	県南	3月6日	活動概要及び今後の展望、活動報告、27年度活動予定、管内各機関の被災者支援状況報告、グループワークなど	白河市他	白河市立図書館	31	
4	会津	10月2日	活動報告、グループ討議等	会津若松市他	生涯学習センター	34	
5	相馬	3月5日	活動報告、グループワークによる情報交換会	相馬市保健センター他	福島県南相馬合同庁舎	20	
6	いわき	1月29日	活動報告、講義「福島の精神保健に関する現状と課題:特にいわき地域での支援活動について」	いわき市保健所他	いわき産業創造館	33	

アルコールプロジェクトミーティング

		実施日	内容	出席者	場所	人数	備考
1	第2回	4月11日	研修会の進め方他	所長、副所長、障がい福祉課、担当他	福島県精神保健福祉センター	9	
2	第3回	5月8日	研修会及び市民公開講座他	リーダー、副所長、障がい福祉課、担当他	福島県精神保健福祉センター	7	
参考	第1回	3月14日	久里浜病院との協力体制他	前田先生、大川先生、副所長、東北厚生局、障がい福祉課他	福島県精神保健福祉センター	9	

職員定例研修

	実施日	研修名	内容	講演者	場所	対象	人数
1	4月1～3日	初任者職員研修	ふくしま心のケアセンターの活動等	畑哲信先生、渡路子先生他	福島県精神保健福祉センター	心のケアセンター職員	13
2	5月9日	職員研修	疾病の見落とし	加治佐哲也先生、岩井圭司先生	福島県精神保健福祉センター	心のケアセンター職員他	35
3			復興4年目にむけた福島の課題とセンターの目標について	前田正治先生	福島県精神保健福祉センター	心のケアセンター職員他	25
4	6月21日	職員研修	アルコール問題の現状と対策	杠岳文先生、石丸正吾先生	福島県立医科大学	心のケアセンター職員他	29
5	8月8日	職員研修	グリーフケア	前田正治先生	福島テルサ	心のケアセンター職員他	31
6	10月10日	職員研修	認知症について	川勝忍先生	福島テルサ	心のケアセンター職員他	41
7	11月11日	初任者職員研修	ミーティング「半年間の振り返り」	宮原俊也、松島輝明	県中方部センター	心のケアセンター職員他	8
8	11月18日	職員研修	講義及び演習「スタッフと信頼関係を育てるコミュニケーション」	遠藤律先生	県中方部センター	心のケアセンター職員	8
9	12月4日	職員研修（地域アルコール対応力強化事業）	アルコール関連問題を抱えた対象者及び家族への訪問支援及びケース検討	宮脇真一郎先生（看護師）、中込吉宏先生（精神保健福祉士）	相馬広域こころのケアセンターなごみ相馬事務所	心のケアセンター職員	27
10	12月5日	職員研修	講演「心のケアセンターの将来像」 ふくしま心のケアセンター活動報告会	加藤寛先生	県中方部センター	心のケアセンター職員	36
11	1月7日	初任者職員研修	福島県の現状と復興期の支援等	宮原俊也、松島輝明	いわき方部センター	心のケアセンター職員	1
12	1月22日	初任者職員研修	ミーティング「新任だから見えること」	渡部育子、宮原俊也、松島輝明	県中方部センター	心のケアセンター職員	5
13	3月20日	初任者職員研修	事例検討会の持ち方	宮原俊也、松島輝明	県中方部センター	心のケアセンター職員	6

職能別研修

	実施日	対象	内容	講師	場所	人数
1	11月20日	看護職	脳を身体として考えてみよう	前田正治先生（福島県立医科大学）	県中方部センター	9
2	1月14日	看護職	心のケアセンターにおける看護職～その役割や苦労について～	—	県中方部センター	10
3	3月18日	看護職	看護職としての心のケアをテーマに今年の活動をグループワークで振り返る	—	県中方部センター	5
4	3月16日	作業療法士	南相馬市における支援活動と子どもの現状	清山真琴	福島県精神保健福祉センター	4

スーパーバイズ研修

	実施日	研修名	内容	講演者	場所	対象	人数
1	4月15日	スーパーバイズ	事例検討会	前田正治先生	いわき方部センター	ケアセンター職員	8
2	6月11日	スーパーバイズ	ファシリテーション及び個別ケースに関するスーパーバイズ	飯尾弥生先生	県中方部センター	県中方部センター職員	11
3	6月16日	スーパーバイズ	事例検討会	前田正治先生	いわき方部センター	ケアセンター職員	3
4	7月18日	スーパーバイズ	相談記録の書き方に関する講義、事例に基づくロールプレイとグループでの記録作成と発表	八木亜紀子先生	県中方部センター	県中方部センター職員	10
5	7月23日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	いわき市方部センター	市町村保健師、ケアセンター職員	4
6	8月4日	支援者のためのミニ勉強会「もしかして、DV?」	研修会後に事例検討会を実施	小西聖子先生	いわき市文化センター	市町村保健師、ケアセンター職員	3
7	8月11日	スーパーバイズ	事例検討会	大江美佐里先生	いわき方部センター	市町村保健師、ケアセンター職員	6
8	8月22日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	いわき方部センター	ケアセンター職員	5
9	8月27日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	17
10	9月10日	アルコール問題の現状とブリーフインターベンションの基礎	研修会後に事例検討会を実施	武藤岳夫先生 大坪万理沙先生	いわき生涯学習プラザ	市町村保健師、ケアセンター職員	4
11	9月24日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	24
12	12月15日	スーパーバイズ	事例検討会	前田正治先生	いわき方部センター	市町村保健師、ケアセンター職員	10
13	1月7日	事例検討会	事例検討会	袰岩弘起	いわき市役所	いわき市内のケアマネージャー	6
14	1月30日	スーパーバイズ	支援者支援に関する勉強会	秋山剛先生 前田正治先生	いわき方部センター	ケアセンター職員	8
15	2月5日	事例検討会	事例検討会	川端直人先生	いわき方部センター	市町村保健師、ケアセンター職員	10
16	3月11日	スーパーバイズ	事例検討会	前田正治先生	いわき方部センター	ケアセンター職員	5
17	3月24日	スーパーバイズ	ファシリテーション及び個別ケースに関するスーパーバイズ	飯尾弥生先生	県中方部センター	県中方部センター職員	11

方部間研修

	日時	事業内容	参加者	会場	参加者	主管
1	5月29日	県中・いわき方部間研修	県中方部:渡部・後藤・安藤・相良・恵美子・松田・山下・千景・田崎・松島・岩沢 いわき方部:本田・東條・鈴木・谷口・西山・袰岩・石塚	県中方部センター	17	県中・いわき方部センター
2	8月28日	県中・いわき方部間研修	基幹:昼田・内山 県中方部:安藤・恵美子・山下・千景・田崎・松島・岩沢 いわき方部:本田・真鍋・東條・鈴木・谷口・西山・袰岩・石塚・植田	平田村保健センター	19	
3	10月15日	楢葉町職員向けサロン支援	渡部、相良、岩沢	楢葉町会津美里出張所	4	会津方部センター
4	12月17日	県中・いわき方部間研修	県中方部:後藤、岩沢、菅野 いわき方部:本田・東條・鈴木・谷口・西山・石塚・植田	いわき方部センター	10	県中・いわき方部センター
5	1月22日	富岡町社協職員メンタルヘルス事業打ち合わせ	県中方部:松田	いわき方部センター	3	
6	3月10日	今年度の振り返りと次年度に向けて	基幹:宮原　いわき方部:真鍋・鈴木・西山・山内 県中方部:渡部・後藤・安藤・相良・恵美子・松田・山下・千景・田崎・岩沢・岩沢	県中方部センター	16	

各種研修・イベント等の主催研修

	実施日	研修名	内容	共催団体	後援団体	開催場所	対象	人数	備考
1	6月21日	アルコール事業研修会	アルコール問題の現状と対策（杠岳文先生、石丸正吾先生）	福島県立医科大学災害こころの医学講座、相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会		福島県立医科大学	保健福祉医療関係者	55	地域アルコール対応力強化事業
2	7月3日	地域アルコール対応力強化事業研修会	アルコール問題に対する家族を含めての対応の実際（世良守行先生）	福島県立医科大学災害こころの医学講座、相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会		コラッセふくしま	保健福祉医療関係者	69	地域アルコール対応力強化事業
3	8月4日	虐待に関する研修	もしかしてDVDVの基本的理解と私たちにできること（小西聖子先生）			いわき市文化センター	いわき市内で対人支援に関わる専門職	27	いわき方部
4	9月3日	学びとつながりづくりの交流会	ストレスケアと笑いの効果（菅野寿洋専門員）			白河市立図書館	保健福祉医療関係者	11	県南方部
			アサーティブなコミュニケーション（大川貴子先生）						
5	9月7日	自殺予防セミナー「心の健康講座」	「福島県の自殺の現状と対策」県中保健福祉事務所・小田島主任保健技師、「色を使った心のマッサージ～色で癒やしを体験してみよう」カラーセラピスト・萩原佳代子氏	郡山市 福島県県中保健福祉事務所		郡山市労働福祉会館	一般市民	26	県中方部
6	9月10日	アルコールに関する研修	アルコール問題の現状とブリーフインターベンションの基礎（武藤岳夫先生、大坪万里先生）			いわき市生涯学習プラザ	いわき市内で対人支援に関わる専門職	38	いわき方部
7	9月17日	学びとつながりづくりの交流会	宮城県における被災者のアルコール関連問題の現状と支援（福地成先生）			白河市立図書館	保健福祉医療関係者	15	県南方部
			アサーティブなコミュニケーション（大川貴子先生）						
8	9月23日	アルコールに関する講演会およびシンポジウム	基調講演「福島県におけるアルコール問題に対する支援のあり方」（大島直和先生）シンポジウム「被災地におけるアルコール問題への取り組みについて考える」	福島県精神保健福祉センター		福島県立医科大学	保健福祉医療関係者	80	地域アルコール対応力強化事業
9	10月10日	ふくしま心のケアセンター研修会	認知症について（川勝忍先生）			福島テルサ	心のケアセンター職員他	41	
10	10月25日	「笑いと健康」高座&講座‥笑顔で「心」について考えよう	講演「笑いと健康」（大平哲也先生）落語（桂三金氏:よしもとクリエーティブ・エージェンシー）	福島県立医科大学県民健康管理センター	いわき市、福島県相双保健福祉事務所	いわき市労働福祉会館	一般住民	55	いわき方部
11	11月1日	アルコールに関する市民公開講座	講演「お酒との上手なつきあい方」（熊谷雅之先生）ミニコンサート（福島県立医科大学管弦楽部）	福島県、郡山市、相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会	福島県立医科大学、福島県医師会、福島県看護協会、福島県断酒しゃくなげ会	福島県看護会館みらい	一般住民および支援者	81	地域アルコール対応力強化事業
12	11月5日	アルコールTV会議研修会	杠岳文先生他			いわき方部センター（TV会議）	市町村保健師、精神科病院関係者など	5	いわき方部

	実施日	研修名	内容	共催団体	後援団体	開催場所	対象	人数	備考
13	11月6日～7日	サイコロジカル・リカバリー・スキル研修会	研修（大澤智子先生）	いわき市保健所、福島県相双保健福祉事務所		いわき労働福祉会館	メンタルヘルスに関する業務従事者など	40	いわき方部
14	11月21日	心うつくしまフォーラム	特別講演・シンポジウム	福島県精神保健福祉協会	福島県、白河市他	白河市文化センター	一般県民	126	県全体
15	11月28日	職員のストレスケア研修会	働く人のストレスケア（重村淳先生）			川内村役場	川内村・川内村社会福祉協議会職員	19	県中方部
16	11月29日	第2回市民くらしの健康講座	講演「認知症のある方とその方々を支える地域づくりについて（森川すいめい先生）	郡山市、福島県県中保健福祉事務所		郡山市総合福祉センター	認知症に関心のある方等	33	県中方部
			「認知症のある方」とその方々を支える「地域づくり」について、多職種・多機関での連携やネットワークづくりのための具体的方法や手順、ポイントなどを学ぶ（森川すいめい先生）				社協・地域包括センターなどの職員	18	県中方部
17	12月3日	地域アルコール対応力強化事業研修会	「ブリーフィンターベンションの基礎」肥前医療センター:杠岳文先生他			いわき方部センター（TV会議）	市町村保健師、精神科病院関係者など	6	いわき方部
18	12月4日	第1回アルコール依存症についての勉強会	アルコール依存症患者とその家族への対応について:宮脇真一郎先生（看護師）、中込吉宏先生（精神保健福祉士）			雲雀ヶ丘病院	医療保健従事者	47	地域アルコール対応力強化事業
19	1月7日	地域アルコール対応力強化事業研修会	「減酒支援の実際」琉球病院 福田貴博先生			いわき方部センター（TV会議）	市町村保健師、精神科病院関係者など	5	いわき方部
20	2月4日	地域アルコール対応力強化事業研修会	杠岳文先生他			いわき方部センター（TV会議）	市町村保健師、精神科病院関係者など	5	いわき方部
21	2月13日	ふくしま心のケアセンター研修会	「福島での母親と子どもへの支援を考える」～原発事故後の母親の支援と支援方法（後藤あや先生）、児童虐待とその対応について（箭内哲男氏）			福島テルサ	医療保健福祉従事者	71	
22	3月3日	復興支援者のための研修会	分科会・全体ミーティング	福島県県中保健福祉事務所	日本トラウマティック・ストレス学会	ミューカルがくと館	市町村職員及び応急仮設住宅の支援者等	33	県中方部
23	3月4日	地域アルコール対応力強化事業研修会	杠岳文先生他			いわき方部センター（TV会議）	市町村保健師、精神科病院関係者など	5	いわき方部

顧問の活動等

	実施日	研修名	内容	顧問名	開催場所	対象	人数	備考
1	5月28日	スーパーバイズ	ケース検討会	大川貴子先生	県中方部センター	—	—	県中方部センター
2	7月23日	スーパーバイズ	ケース検討会 ※	大川貴子先生	いわき方部センター	市市町村保健師、ケアセンター職員	4	※いわき方部センター
3	7月30日	スーパーバイズ	ケース検討会	大川貴子先生	県中方部センター	—	—	県中方部センター
4	8月4日	虐待に関する研修	もしかしてDVDVの基本的理解と私たちにできること※	小西聖子先生	いわき市文化センター	職員	27	※いわき方部センター
5	8月4日	支援者のためのミニ勉強会 「もしかして、DV?」	研修会後に小西聖子先生によるスーパーバイズ ※	小西聖子先生	いわき市文化センター	市町村保健師、ケアセンター職員	3	※いわき方部センター
6	8月11日	スーパーバイズ	事例検討会 ※	大江美佐里先生	いわき方部センター	市町村保健師、ケアセンター職員	6	※いわき方部センター
7	8月22日	スーパーバイズ	事例検討会 ※	大川貴子先生	いわき方部センター	職員	5	※いわき方部センター
8	8月27日	スーパーバイズ	事例検討会 ※	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	20	※県中方部センター
9	9月3日	学びとつながりづくりの交流会	支援者のためのアサーティブなコミュニケーションワークショップ	大川貴子先生	県南方部センター	医療福祉行政機関およびボランティア関係者等	11	※県南方部センター
10	9月17日			大川貴子先生	県南方部センター		15	※県南方部センター
11	9月24日	スーパーバイズ	事例検討会 ※	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	20	※県中方部センター
12	1月21日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	20	※県中方部センター
13	2月4日	スーパーバイズ	事例検討会	大川貴子先生	県中方部センター	市町村職員等	20	※県中方部センター

※再掲

各種研修・イベント等の共催・名義後援等の協力

	実施日	研修名	内容	支援団体	共催・後援の別	開催場所	対象	人数
1	通年	震災遺族の支援事業	震災で大切な人を亡くした方の心のケア	自殺対策支援センターライフリンク	後援	県内各地	震災で大切な人を亡くした方	-
2	通年	親子ふれあい遊び	親子ふれあい教室	福島県臨床心理士会	共催	県中方部（須賀川市、田村市、平田村、三春町、葛尾村）	未就学児及びその母親	-
3	5月24日	チャイルドラインこおりやま子ども支援フォーラム	今、私たちにできること	チャイルドラインこおりやま	共催	ミューカルがくと館	一般市民他	200
4	5月24･31日、6月8･14･28日	チャイルドラインふくしま第四期受け手ボランティア養成講座	子どもの権利条約等	チャイルドライン福島	後援	佐平ビル、チェンバおおまち	一般･学生	
5	7月4日	援助職のためのストレスケア	マインドフルネスをベースにした種々の技法とストレスケアの考え方	ちるさぽ☆FUKUSHIMA	共催	いわき生涯学習プラザ	医療･保健･福祉･ボランティア団体等の援助職･援助活動に携わる方	50
6	9月20日	自殺予防週間街頭キャンペーン	ボランティアによるアトラクション、啓発ちらし等の配布等	福島県県北保健福祉事務所	共催	JR福島駅	一般市民他	
7	9月27日	ふくしま啓発フォーラム	子ども達は今	チャイルドラインふくしま	後援	S－PAL福島店　5階ネクストホール	一般市民他	
8	9月29日	自殺防止セミナー	福島県の自殺の現状（福島県精神保健福祉センター･自殺対策専門員）講演「笑う門には健康来る!笑いを生かした健康づくり～誰でも笑える方法とは?!」大平哲也先生	福島県県北保健福祉事務所	共催	二本松市安達公民館	一般市民他	100
9	10月18日	大規模災害復興期の支援者のメンタルヘルスー東日本大震災の経験から	支援者の現状と課題　被災3県における支援の現場から　各職域での健康調査結果と支援	厚生科研　研究代表者松岡洋夫（東北大学大学院精神神経学分野･予防精神医学寄附講座）	後援	TKPガーデンシティ仙台	一般市民他	
10	10月18日、11月1･8･15･29日	チャイルドラインふくしま第五期受け手ボランティア養成講座	子どもを取り巻く現状等	チャイルドライン福島	後援	佐平ビル	一般･学生	20
11	11月8～9日	被災地3団体交流企画「ここ･から･なごみ」	被災地の長期支援を考えるーアルコール問題への全生活支援	心の架け橋いわて	後援	TKPガーデンシティ仙台ホール	一般市民他	
12	11月22日	あいまいな喪失	事例検討･グループワーク	JDGSプロジェクト	共催	福島大学	東日本大震災の被災者支援を行う専門家	
13	11月22日	PTSDに関する講演会	見つめよう見直そうこころのバランスと健康（蟻塚亮二先生）	相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会	共催	南相馬市労働福祉会館	一般市民他	100
14	12月1日	こころのケア国際シンポジウム	報告（兵庫県こころのケアセンター10年を振り返って）講演（東日本大震災被災地の現状、災害時の心理的援助の方法）パネルディスカッション「こころのケアの連携を巡って」	心のケア国際シンポジウム実行委員会（兵庫県こころのケアセンター）	後援	神戸国際会議場	一般市民他	
15	12月4日	アディクションフォーラム	どうしてクスリを使わなければならなかったのか（大石雅之先生）	福島県精神保健福祉センター	共催	ミューカルがくと館	一般県民･関係機関の方々他	105

	実施日	研修名	内容	支援団体	共催・後援の別	開催場所	対象	人数
16	2月7日	アルコール講演会	「アルコール依存者と家族」(野田哲朗先生)	相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会	後援	道の駅　南相馬観光交流館	一般県民・関係機関の方々他	
17	2月7日	こころの防災市民フォーラム	第3回国連防災世界会議に向けて他	東北大学災害科学国際研究所	後援	せんだいメディアテーク	一般市民他	200
18	2月11日	依存症を知るセミナー～東北キャラバン～	依存症についての専門家による講演(佐久間寛之先生)依存症から脱却した当事者による体験談発表など	セレニティパークジャパン	後援	福島テルサ	一般県民・関係機関の方々他	
19	2月11～12日	サイコロジカルリカバリースキル研修会	研修(大澤智子先生)	NPO法人みんなのとなり組　日本国際ボランティアセンター(JVC)	後援	南相馬市原町区福祉会館	保健福祉医療関係者	30
20	3月14日	国際防災世界会議パブリックフォーラム「大規模災害被災地への長期メンタルヘルス支援」	教育講演「災害復興における個人のレジリエンスと地域のレジリエンス」東北被災3県アウトリーチチームによる合同シンポジウム「長期メンタルヘルス支援と新しいネットワーキング」	NPO法人心の架け橋いわて	後援	TKPガーデンシティ仙台勾当台	関係機関	160

メディア等を活用した情報発信

	掲載・放送日	メディア名	内容	対応者
1	5月18日	福島民報	被災者の心のケア情報交換	袰岩弘起
2	5月18日	福島民友	避難者の心理症例紹介	袰岩弘起
3	5月25日	福島放送	こころのケア	内山清一、半澤利一、山下和彦
4	5月27日	福島民報	原発事故関連死座談会	米倉一磨
5	6月6日	福島民報	原発事故関連死78歯止め－支援の現場から	米倉一磨
6	6月10日	福島民報	原発事故関連死79歯止め－支援の現場から	伏見香代
7	6月10日	福島民報	原発事故関連死80歯止め－支援の現場から	伏見香代
8	7月25日	朝日新聞	患者を生きる　つながって　心の悲鳴4	米倉一磨
9	7月26日	朝日新聞	患者を生きる　つながって　心の悲鳴5	米倉一磨
10	8月27日	東京新聞	原発に生きがい奪われ	内山清一
11	9月15日	日刊スポーツ	長寿時代の医療と介護71	米倉一磨
12	9月17日	日刊スポーツ	長寿時代の医療と介護72	米倉一磨
13	9月18日	日刊スポーツ	長寿時代の医療と介護73	米倉一磨
14	9月20日	日刊スポーツ	年会費3000円でできる心の支援	米倉一磨
15	10月23日	ふくしまFM	地域アルコール対応力強化事業・市民公開講座PR	宮原俊也
16	1月23日	NHK	クローズアップ東北「自治体職員への対応」	内山清一、植田由紀子、袰岩弘起
17	2月1日	「ふくしまからはじめよう ゆめだより・2015.2月号	心配ごと話して心の元気にチャレンジー!	安藤純子
18	3月3日	NHK	支援者同士で情報共有　相馬のNPO震災後の取り組み報告	米倉一磨
19	3月4日	毎日新聞	支援者同士で情報共有　相馬のNPO震災後の取り組み報告	米倉一磨
20	3月23日	朝日新聞	長期避難者多い相馬地方　心のケア正念場	米倉一磨

論文	1	山下和彦、渡部育子、後藤弓子他「東日本大震災後の福島県内復興支援者のニーズ変化と現状ーふくしま心のケアセンター県中方部センターの支援者支援研修会の取り組みからー」トラウマティック・ストレス2014,Vol.12,No.1
	2	米倉一磨　産業ストレス研究第21巻4号

寄稿	3	内山清一「精神保健福祉瓦版ニュースNo182（福島県精神保健福祉センター）」（2014.7）
	4	内山清一「Be!116原発事故後のアルコール問題に取り組む」（2014.8）
	5	「心のケアセンター特集」地域支え合い情報（2015.1.20）
	6	米倉一磨　精神看護出版　「精神科看護白書」　第5章　災害と看護

学会発表	7	山下和彦、重村淳「東日本大震災後の福島県内復興支援者のニーズ変化と現状」 第13回日本トラウマティック・ストレス学会ポスターセッション（5月17-18日福島）
	8	袰岩弘起、植田由紀子、石塚幸作、昼田源四郎、前田正治「福島県沿岸部自治体職員に対するメンタルヘルス調査結果」（同上）
	9	米倉一磨「4年目を迎えた福島県相双地区の現状とこれから」 第13回日本トラウマティック・ストレス学会シンポジウム（同上）
	10	植田由紀子「被災地におけるアウトリーチ・サービス～その前にあるもの、先にあるもの」(同上)
	11	岩沢裕樹、渡部育子、後藤弓子、安藤純子、相良サク子、松田聡一郎、山下和彦、田崎美和、宮原俊也、松島輝明、前田正治「被災市町村における行政職員のメンタルヘルス問題に対する支援のあり方と今後の課題」(同上)
	12	松島輝明、植田由紀子、塩田義人、佐藤初美「ふくしま心のケアセンターと他機関との連携における精神保健福祉士の役割」 日本精神保健福祉士学会（6月19-21埼玉）
	13	米倉一磨　第21回関西アルコール関連問題学会シンポジスト（1月24日和歌山）
	14	米倉一磨　第20回日本集団災害医学会総会学術集会　「被災者生活支援」シンポジウム（2月28日東京）

【編集後記】

今回も、前回に増して内容の検討、見直しを重ね、ようやく発刊の運びとなりました。執筆者のみなさまをはじめ、職員全員に素晴らしい原稿をいただき、今後も残る“福島の記録”として誇れる内容であると思います。

最近の状況としては、2015年3月1日常磐自動車道全線開通、2015年9月5日に楢葉町全域で避難指示解除準備区域を解除。南相馬市小高区、川俣町山木屋地区、葛尾村で「ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊」が2015年8月31日から11月30日まで行われます。また、川内村東部の避難指示区域でも2015年11月1日から2016年1月31日まで行われる予定です。

東京電力福島第一原発関係では原子炉建屋周辺の井戸から地下水をくみ上げるサブドレン計画、遮水壁に着手するなど汚染水対策は少しずつ進んでおりますが燃料デブリ（溶融燃料）の取り出しまではほど遠い状況です。

また、職員のメンタルヘルスも問題が山積しているので心配しております。

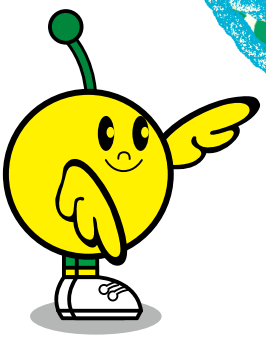
被災から5年目に入ったら、引き続き県民の心のケアに寄与できればと考えております。

編集後記は最後になります。いろいろとお世話になりました。

（高橋）

ふくしま心のケアセンター活動記録誌
2014（平成26）年度
第3号

表紙写真：尾瀬（畑哲信：福島県精神保健福祉センター所長）

発 行 日：2016（平成28）年2月1日
編集発行：一般社団法人　福島県精神保健福祉協会
ふくしま心のケアセンター
Fukushima Center for Disaster Mental Health
〒960-8012　福島市御山町8－30　県保健合同庁舎5階
TEL（024）535－8639　　FAX（024）534－9917
被災者相談ダイヤル（ふくここライン）（024）531－6522
http://kokoro-fukushima.org/
印 刷 所：株式会社 第一印刷

福が満開、
福のしま。